

国指定史跡「久留倍官衙遺跡」史跡整備事業に伴うエントランス地区発掘調査報告

久留倍遺跡 6

2013年（平成25年）

四日市市教育委員会



第11次調査区東半（西上空から）



SR578西半木製品出土状況（東から）



SD1533・1535（東から）

例言

- [illegible]

本文目次

I	前言	1
1.	調査に至る経緯	1
2.	調査の経過	1
3.	調査区名、地区割り、遺構・遺物番号	2
II	遺構	9
1.	弥生時代中期	9
2.	弥生時代後期から古墳時代初頭（弥生時代終末期）	9
3.	谷および付属施設	10
4.	古墳時代後期	10
5.	古代	11
6.	中世	12
7.	時期不明	14
III	遺物	14
1.	土器・土製品	14
(1)	弥生時代中期から古墳時代初頭	14
(2)	古墳時代後期	17
(3)	古代	18
(4)	中世	19
2.	石製品	20
3.	木製品	21
IV	科学分析	24
V	まとめ	27

挿表

表1	久留倍遺跡発掘調査一覧表	表8	P i t 観察表
表2	竪穴住居観察表	表9	土坑観察表
表3	谷・付属施設観察表	表10	溝観察表
表4	方形周溝墓観察表	表11	土器・土製品観察表
表5	古墳観察表	表12	石製品観察表
表6	火葬墓観察表	表13	木製品観察表
表7	掘立柱建物観察表		

挿図版

図1	地区割図	図31	S X 1520、S D 1510・1514、S K 1516・1518、Pit、 S H 1569、表土
図2	久留倍遺跡調査区位置図	図32	S X 991・1567、S D 1557
図3	土層図	図33	S Z 1507（1）
図4	エントランス地区遺構実測図	図34	S Z 1507（2）・1508
図5	主要遺構配置図	図35	S Z 1509・1515・1545
図6	S H 998・1582平面・断面・土層断面・遺物出土状況 図	図36	S R 578Ⅱ-b層（1）
図7	S X 1552平面・断面図	図37	S R 578Ⅱ-b層（2）
図8	S X 1552土層断面・遺物出土状況図	図38	S R 578Ⅱ-b層（3）
図9	S H 1569・1577・1584、S K 1587平面・断面・土層断 面・遺物出土状況図	図39	S R 578Ⅱ-b層（4）
図10	S X 1500平面・断面・土層断面・遺物出土状況図	図40	S R 578Ⅱ-b層（5）
図11	S X 1520平面・断面・土層断面図	図41	S R 578Ⅱ-b層（6）
図12	S R 578平面・土層断面図	図42	S R 578Ⅱ-a層（1）
図13	S R 578木製品出土状況図1	図43	S R 578Ⅱ-a層（2）
図14	S R 578木製品出土状況図2	図44	S R 578Ⅱ-a層（3）
図15	S Z 1507・1508平面・断面・土層断面図	図45	S R 578Ⅱ-a層（4）
図16	S Z 1509・1515・1545平面・断面・土層断面・遺物出 土状況図	図46	S R 578Ⅱ-a層（5）
図17	S X 991平面・断面・土層断面・遺物出土状況図	図47	S R 578Ⅱ-a層（6）
図18	S X 1567、S D 1557平面・断面・土層断面・遺物出土 状況図	図48	S R 578Ⅱ-a層（7）
図19	S B 1578・1579平面・土層断面図	図49	S R 578Ⅱ-a層（8）
図20	S D 1525、S K 1539平面・土層断面・遺物出土状況 図	図50	S R 578Ⅱ-a層（9）
図21	S D 952・1502・1505・1548・1583、S E 1503平面・ 土層断面図	図51	S R 578Ⅱ-a層（10）
図22	S D 1533・1535、S E 1542平面・断面・土層断面図	図52	S R 578Ⅱ-a層（11）
図23	S B 1591・1592・1593・1594・1595・1596・1597・1598・ 1599平面・断面図	図53	S R 578Ⅰ-c層（1）
図24	S B 1591・1593・1594、他Pit遺物出土状況図	図54	S R 578Ⅰ-c層（2）・Ⅰ-b層
図25	S K 1523・1570・1572・1574平面・断面・土層断面 図	図55	S B 1579、S E 1503、S K 1501・1512・1530・1539・ 1574、S D 1502・1525・1532
図26	S Z 1513、S E 1566平面・断面・土層断面図	図56	S D 1533・1536・1548、Pit、包含層
図27	S K 1581、S X 1537・1538、S B 1600・1601平面・断 面・土層断面図	図57	S B 1591・1593・1594・1596・1598・1599
図28	S H 998、S X 1552（1）	図58	S K 1523・1524・1526・1529・1572・1573、S E 1542・ 1566、S D 952・1505・1511
図29	S X 1552（2）・1500	図59	S D 1521・1535・1546・1563・1580、Pit、包含層
図30	S H 1577	図60	S H 1577、S X 1552、S Z 1507、S X 991
		図61	S D 1525・1580、S E 1542、S D 1565、Pit、包含層
		図62	S R 578（1）
		図63	S R 578（2）
		図64	S R 578（3）
		図65	S Z 1507（1）
		図66	S Z 1507（2）

図67 S Z 1509・1515

図68 S R 578 (1)

図69 S R 578 (2)

図70 S R 578 (3)

図71 S R 578 (4)

図72 S R 578 (5)

図73 S R 578 (6)

図74 S R 578 (7)

図75 S R 578 (8)

図76 S R 578 (9)

図77 S Z 1513、S D 1525・1535、S E 1542

図78 樹種顕微鏡写真 (1)

図79 樹種顕微鏡写真 (2)

図80 樹種顕微鏡写真 (3)

図81 樹種顕微鏡写真 (4)

図82 樹種顕微鏡写真 (5)

図83 樹種顕微鏡写真 (6)

図84 樹種顕微鏡写真 (7)

写真図版

巻頭カラー

第11次調査区東半 (西上空から)

S R 578西半木製品出土状況 (東から)

S D 1533・1535 (東から)

図版 1 第11次調査区東半 (北上空から)

第11次調査区西半 (北上空から)

第17次調査区全景 (南上空から)

図版 2 S H 998 (北から)

S H 998・1582、S D 1580 (南西から)

図版 3 S H 998・1582・1577 (南から)

S H 1577遺物出土状況 (南から)

S H 1582床面炉 (南から)

S H 1584、S K 1570・1572 (北から)

図版 4 S X 1522南周溝遺物出土状況 (南から)

S X 1522南周溝 (南東から)

S X 1522西周溝土層断面 (南西から)

S X 1522全景 (南東から)

図版 5 S X 1500 (北西から)

S X 1500遺物出土状況 (南から)

図版 6 S X 1520 (北から)

S X 1520 (南西から)

S X 1520 (直上から)

図版 7 S R 578西半完掘状況 (東から)

S R 578西半完掘状況 (西から)

図版 8 S R 578西半木製品出土状況 (東から)

S R 578西半木製品出土状況 (西から)

S R 578西半木製品出土状況 (東から)

S R 578西半木製品出土状況 (北から)

S R 578西半木製品出土状況 (南から)

図版 9 S R 578東半完掘状況 (東から)

S R 578東半完掘状況 (西から)

図版10 S R 578東半木製品出土状況 (西から)

S R 578木製品出土状況 (東から)

S R 578東半木製品出土状況 (南から)

S R 578東半木製品出土状況 (南から)

図版11 S Z 1507土層断面 (東から)

S Z 1507木製品出土状況 (北から)

図版12 S Z 1509木製品出土状況 (西から)

S Z 1515木製品出土状況 (西から)

図版13 S H 976 (南から)

S H 1569 (西から)

図版14 S X 991 (南から)

S X 991遺物出土状況 (東から)

図版15 S X 1567 (北西から)

S D 1577遺物出土状況 (東から)

図版16 S B 1578 (東から)

S B 1579 (南東から)

図版17 S E 1503 (北から)

S E 1503・1505 (北東から)

図版18 S D 1533・1535 (西から)

S D 1533・1535 (東から)

S D 1533・1535木組出土状況 (西から)

S D 1533・1535曲物出土状況 (東から)

図版19 S D 1525遺物出土状況 (北西から)

	S D1525東端部・S R578東半・S Z1103（北から）	図版39	6529・6530・6531・6533・6536・6538
図版20	第17次調査区掘立柱建物群（南から）	図版40	6555・6557・6569・6576・6584
	S B1591遺物出土状況（2W47P6）（東から）	図版41	6587・6613・6615・6627・6628・6639・6641・6643・ 6645
	S B1593遺物出土状況（2V48P5）上層（北から）	図版42	6648・6649・6650・6651・6653・6665・6674
	S B1593遺物出土状況（2V48P5）下層（北から）	図版43	6686・6690・6691・6702・6735・6756
	S B1594遺物出土状況（2W48P1）（北から）	図版44	6757・6759・6777・6778
	2S50P3遺物出土状況（東から）	図版45	(6801・6802・6803)・(6804・6805)・6806・(6824・ 6827・6828)・(6839・6840・6841)・(6842・6843・ 6844・6847)
図版21	S K1523（北西から）	図版46	(6832・6833・6834・6835・6836・6837・6838)・(6845・ 6846)・(6848・6849・6850・6851・6852)・(6853・ 6854・6855)・(6856・6857)
	S K1523完掘状況（北西から）	図版47	6900・6903・6904・6905
	S K1574完掘状況（東から）	図版48	6906・6907・6908・6920
	S K1581完掘状況（西から）	図版49	6923・6925・6926・6935・6936
	S E1566完掘状況（西から）	図版50	6937・6938・6939・6940・6941
図版22	S D1535土層断面（南から）	図版51	6942・6943・6944・6945・6946・6951・6953
	S D1535土層断面（東から）	図版52	6954・6955・6956
	S D1535土層断面（北から）	図版53	6957・6958・6960・6961
	S D1535・S E1542土層断面（西から）	図版54	6962・6963・6964・6965・6966・6968
	S E1542土層断面（北から）	図版55	6969・6970・6971・6972
	3H42P2出土状況（東から）	図版56	6979・6980・6981・6984・6986・6998
	S X1537炭化物出土状況（西から）	図版57	7001・7003・7004・7016・7017・7018
	S X1538完掘状況（西から）	図版58	7023・7025・7028・7034・7035
図版23	6000・6001・6007・6009・6028・6030		
図版24	6037・6048・6049・6053・6057・6060・6063		
図版25	6073・6096・6097・6100・6101・6102・6103・6107		
図版26	6106・6118・6120・6125・6126・6130・6131・6134・ 6137		
図版27	6136・(6158・6161)・6165・6179・6193・6195		
図版28	6217・6220・6225・6272・6314・6316		
図版29	(6273・6274・6275・6276・6277・6278・6279・6280・ 6281・6282・6283・6284)・(6298・6300・6301・6302・ 6303・6304・6305・6306・6307・6308・6309・6310・ 6311・6312)		
図版30	6328・6331・6338・6381・6382・6384		
図版31	6385・6386・6388・6389・6391・6393		
図版32	6394・6395・6398・6402・6403・6421		
図版33	6424・6425・6427・6429・6430・6431		
図版34	6432・6433・6435・6438・6450・6451		
図版35	6452・6453・6458・6459・6461		
図版36	(6462・6463・6464・6465・6466)・6467・6481・6483・ 6484・6485		
図版37	6486・6487・6488・6496・6499・6501		
図版38	6502・6503・6504・6505・6526・6528		

I 前言

1. 調査に至る経緯

久留倍官衙遺跡は、一般国道1号北勢バイパス建設に伴う久留倍遺跡の発掘調査で確認された、古代に関する箇所では史跡に指定された名称である。

バイパス建設に伴う本調査は平成11年度に始まり平成21年度まで実施した(表1)。その間の平成14・15年度の調査において、古代の官衙である政庁・正倉院・その他付随施設を明確に確認し、本遺跡が官衙の全体像や変遷を知ることができる全国的にも重要な遺跡であることが判明した。そのため、バイパス建設業務に関わる各機関による遺跡保存に向けた数度にわたる協議を行った。その結果、国土交通省を始めとした関係者の努力と理解により、平成16年度には北勢バイパスの構造変更が決定された。官衙遺構が広がる道路本線は高架で遺跡を跨ぐとともに、本線に伴う側道は東側に迂回させることとなり、政庁域・正倉院を中心とした範囲が保存されることになったのである。

このような状況を受け、四日市市は保存となった範囲を「久留倍官衙遺跡」の名称とし、また保存をより確固たるものにするため、平成18年2月に国史跡指定の申請を行い、同年7月28日付で国の史跡に指定されることとなった。

さらに四日市市教育委員会では、久留倍官衙遺跡の歴史的文化遺産としての保存並びに活用を図るため、平成19年3月に整備の基本的な方向性を定めた『久留倍官衙遺跡整備基本計画書』を策定した。またこの計画書を踏まえ、平成24年3月には『久留倍官衙遺跡保存整備基本設計書』を策定するに至っている(註1)。

その整備基本計画書のなかで、久留倍官衙遺跡の東側をエントランス地区とし、ガイダンス施設や調整池等を建設事業計画地とした。そこで、平成20・21年度の2ヶ年で対象面積約3,500㎡について、事前の発掘調査を行うこととなった。

なお、今回の調査以外にも、史跡整備事業に関連して、平成17・18・20・21年度に学術調査を、平成18年度に地下道建設に伴う調査を実施している。平成17年度は範囲確認調査(第7次)を行い、その成

果に基づき史跡指定申請範囲を決定している。平成18年度は前述した整備基本計画書策定のため、丘陵頂部平坦面の調査(第8次)を実施した。また同年、史跡地のスロープ建設工事に伴う調査(第9次)を実施している。平成20・21年度は、丘陵平坦面において掘立柱建物の変遷を確定するための調査(第12次・16次)を行っている。詳細については、既刊の各報告書を参照されたい(註2)。

また本報告書と同時刊行する、『一般国道1号北勢バイパス建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅱ久留倍遺跡5』2013も併せて参照されたい。

2. 調査の経過

【平成20年度】 第11次調査、M地区とする。対象面積は2,217㎡、調査期間は平成20年7月14日から平成21年1月23日までである。平成17年度に北勢バイパスの調査で行った第6次調査、G地区の東側となる。

事前に大量の排土が発生することが想定されていたが、調査を開始する時点で既に北勢バイパスの建設工事中であったため、調査地およびその周辺に排土置き場を確保することができなかった。そのため調査地を小分割して、排土の転地返しをしながらの調査となったために、様々な作業において余分に時間が必要となった。

調査では、G地区で既に確認していた弥生時代の谷の続きを検出し、弥生時代の土器・木製品・石製品が大量に出土した。とくに、谷の湧水点を利用して貯木施設と考えられる施設を設け、合せて木製の未成品が出土することからも、久留倍遺跡が木製品製作に携わっていた集落であることが判明した。また、新たに古墳時代初頭の方形周溝墓を検出し、墓域が南東まで広がっていたことを確認した。

平成20年12月21日には現地説明会を行い、200名の参加者を得た。

【平成21年度】 第17次調査、N地区とする。対象面積は1,326㎡、調査期間は平成21年12月14日から平成22年3月31日までである。前年度調査区の南側の続きで、平成17年度の北勢バイパスの調査で行っ

た第6次調査、H地区の東側となる。

調査では、本遺跡では最大規模を誇る弥生時代中期の方形周溝墓を確認した。過去の調査では、弥生時代後期から古墳時代初頭の方形周溝墓8基を検出していたが、弥生時代中期まで遡るものを検出できたことは、当時期の集落の形成過程を考える上で意義は大きい。また、H地区で検出していた古墳時代後期の円墳群が、東裾縁辺部にまで広がることが判明した。さらに中世の掘立柱建物が同位置に集中して見られた。

平成22年3月13日には現地説明会を行い、50名の参加者を得た。

3. 調査区名、地区割り、遺構・遺物番号

本遺跡の調査は複数年次にわたるなかで、同年次で調査地が離れているもの、調査原因の異なるもの（北勢バイパス建設事業、史跡整備事業など）があり、混乱を避けるため、便宜上、各調査地にA～Oの地区名を付与した（図2）。前述した調査経過における地区名はこれに対応する。

また、出土遺物の取り上げや遺構略測図の基準については、調査区に地区割りを設けた。旧国土座標第Ⅵ系（ $X = -109,332$ 、 $Y = 58,050$ ）、世界測量地系第Ⅵ系では（ $X = -109,018$ 、 $Y = 57,704$ ）の座標値を基点（1A・0）とし、一辺4mのグリッドを設けて、調査区全体を覆うよう設定した（図1）。各グリッドは北西隅を原点に、西から東へはアルファベット、北から南へは数字を付与し、この組み合わせを表示番号としている。

遺構番号については、1を初番とし、調査区や調査年次、調査原因である程度まとまりがあるようにしながら、本遺跡の調査全体で通し番号を順に付与している。またピット（P i t）については、各グリッドの中で通し番号を付けた。ただし、本報告を作成するにあたり、番号の付け替えなど整理を行ったので、遺構番号の変更が見られる。したがって、本報告書をもって正式番号とする。

遺物番号については、同時刊行する『久留倍遺跡5』において5000番台まで使用しているので、本報告書では土器・土製品など：6000～6795、石製品：6800～6858、木製品：6900～7036の番号を与えた。

ただし、報告書の作成過程で欠番としたものがある。
（清水）

註

（1）四日市市教育委員会発行

・『久留倍官衙遺跡整備基本計画書』2007

・『久留倍官衙遺跡保存整備基本設計書』～みんなで集い
学び いこう公園 こどもたちに 古代の歴史を～ 2012。
また、基本設計書を策定するにあたり、市教委のホームページ上に、『国指定史跡 久留倍官衙遺跡－伊勢国朝明郡の役所－』2011 を掲載している

（2）四日市市教育委員会発行

・『久留倍遺跡 範囲確認発掘調査報告書』2006（平成18）

・『久留倍遺跡2』2007（平成19）

・『久留倍遺跡3』2008（平成20）

・『久留倍遺跡4』2010（平成22）



谷（SR578）完掘状況

表1 久留倍遺跡発掘調査一覧表

年度	調査次	調査区	調査面積(㎡)	調査原因	調査種類	調査期間	場 所	検出した遺構	☆官衙関係トピック	現地調査担当者	既刊概報・報告書
H10	第1次	A地区	261	北勢バイパス建設	一次調査	19990201 ～19990208	遺跡全体			泉雄二・清水政宏	北勢バイパス『埋蔵文化財発掘調査概報Ⅲ』1999.3
			663	北勢バイパス建設	一次調査	19991108 ～19991124	遺跡全体			泉雄二・清水政宏	北勢バイパス『埋蔵文化財発掘調査概報Ⅳ』2000.3
H11	第2次	B地区	270		本調査	19991116 ～19991124	遺跡の南端部分 (丘陵斜面)	【弥生】竪穴住居		泉雄二・清水政宏	北勢バイパス『埋蔵文化財発掘調査概報Ⅳ』2000.3
			2,300		本調査	20010828 ～20011218	遺跡の北東隅部分 (丘陵裾部)	【古墳】竪穴住居・方形周溝墓 ☆官衙建物群の調査	【奈良】掘立柱建物	赤松一秀・萩良樹・加藤淳次	北勢バイパス『埋蔵文化財発掘調査概報Ⅵ』2002.3
H13			120	北勢バイパス建設	一次調査	20020207	遺跡丘陵南側裾部			赤松一秀・萩良樹・加藤淳次	
H14	第3次	C地区	6,000		本調査	20020430 ～20030117	B地区の南西側 (丘陵斜面)	【弥生】竪穴住居・方形周溝墓 【古墳】竪穴住居・横穴式石室古墳・土塚墓 【奈良】掘立柱建物・区画溝 【中世】井戸・火葬墓 ☆正倉院、官衙建物群の調査		赤松一秀・角正芳浩・石毛彰子・城吉基・伊藤直孝・北角光津子・濱辺一機・三品典夫	北勢バイパス『埋蔵文化財発掘調査概報Ⅶ』2003.3
		D地区	6,600		本調査		遺跡南端の丘陵及び丘陵斜面				
H15	第4次	E地区	4,800		本調査		C地区とD地区の間 (丘陵斜面)				
		F地区	8,890(検出)	北勢バイパス建設	一次調査	20030506 ～20040206	E地区の西側 (丘陵頂部平坦面)	【古墳】竪穴住居 【奈良】掘立柱建物・区画溝(政庁・正倉院) ☆政庁域、正倉院の調査		赤松一秀・角正芳浩・石毛彰子・城吉基・伊藤直孝・北角光津子・濱辺一機・三品典夫	北勢バイパス『埋蔵文化財発掘調査概報Ⅶ』2004.3
		G地区	1,810(検出)		一次調査		E地区の東側 (丘陵裾部)				
H16	第5次	G地区	1,200	北勢バイパス建設	本調査	20050106 ～20050325	E地区の東側 (丘陵裾部)	【弥生】竪穴住居 【古墳】円墳 【平安】井戸		服部芳人・城吉基・清水政宏・濱辺一機	
H17	第6次	E G H地区	3,010		本調査		E地区の東側 (丘陵裾部)				
		I地区	1,050		本調査	20050509 ～20060224	B地区とC地区の間 (丘陵裾部)	【弥生】竪穴住居・土器梅墓 【古墳】円墳・竪穴住居 【奈良】掘立柱建物・		服部芳人・城吉基・清水政宏・濱辺一機	北勢バイパス『埋蔵文化財発掘調査概報Ⅷ』2006.3
		J地区	1,200	北勢バイパス建設	本調査		遺跡の最高所 (丘陵頂部)	井戸 【中世】区画墓・火葬墓・井戸 【昭和】防空壕			
		E地区(橋脚)	600		本調査		E地区の中央部 (丘陵斜面)				
H18	第7次	トレンチ	600	学術調査	範囲確認調査	20050822 ～20050930	F地区の北側 (丘陵尾根・谷部)	【弥生】竪穴住居 【古墳】方墳? 【奈良】掘立柱建物		服部芳人	【久留倍遺跡】範囲確認発掘調査報告書2006.3
	第8次	F地区	2,150	学術調査	確認調査	20060704 ～20060726	E地区の西側 (丘陵頂部平坦面)	【奈良】掘立柱建物・区画溝 ☆政庁域の調査		服部芳人・濱辺一機	【久留倍遺跡2】2007.3
	第9次	K地区	226	史跡整備事業	本調査	20061106 ～20061226	E地区とG地区の間 (丘陵裾部)	【弥生】竪穴住居 【奈良】掘立柱建物 【中世】井戸		葛山拓也・五十榎孝子	【久留倍遺跡3】2008.3
	第10次	L地区	13	北勢バイパス建設	本調査	20080414 ～20080423	I地区の南西側 (丘陵裾部)	【奈良】掘立柱建物		服部芳人・濱辺一機	
H20	第11次	M地区	2,217	エントランス建設	本調査	20080714 ～20090123	H地区の北東側 (丘陵裾部)	【弥生】谷・井戸・貯木施設・方形周溝墓		服部芳人・清水政宏	
	第12次	F地区	1,380	学術調査	確認調査	20081014 ～20090202	E地区の西側 (丘陵頂部平坦面)	【奈良】掘立柱建物 ☆政庁域の調査		赤松一秀・濱辺一機	【久留倍遺跡4】2010.3
	第13次	H地区	233		本調査	20090511 ～20090607	H地区の中 (丘陵裾部)	【弥生】竪穴住居 【古墳】竪穴住居・掘立柱建物		濱辺一機	
	第14次	I地区	250	北勢バイパス建設	本調査	20090617 ～20090710	I地区の西側 (丘陵裾部)	【奈良】掘立柱建物 【中世】鍛冶遺構 【昭和】防空壕		濱辺一機	北勢バイパス『埋蔵文化財発掘調査概報Ⅹ』2010.3
H21	第15次	O地区	512		本調査	20090727 ～20091029	丘陵裾部	【弥生】谷、貯木施設 【奈良】ピット 【中世】井戸		清水政宏	
	第16次	F地区	571	学術調査	確認調査	20090615 ～20091022	E地区の西側 (丘陵頂部平坦面)	【奈良】掘立柱建物 ☆政庁域の調査		服部芳人・濱辺一機	【久留倍遺跡4】2010.3
	第17次	N地区	1,326	エントランス建設	本調査	20091214 ～20100331	丘陵裾部	【弥生】竪穴住居・方形周溝墓 【古墳】円墳		葛山拓也・熊田朝美	
H23										【国指定史跡久留倍官衙遺跡】2011.11 市H.P.にて公開	

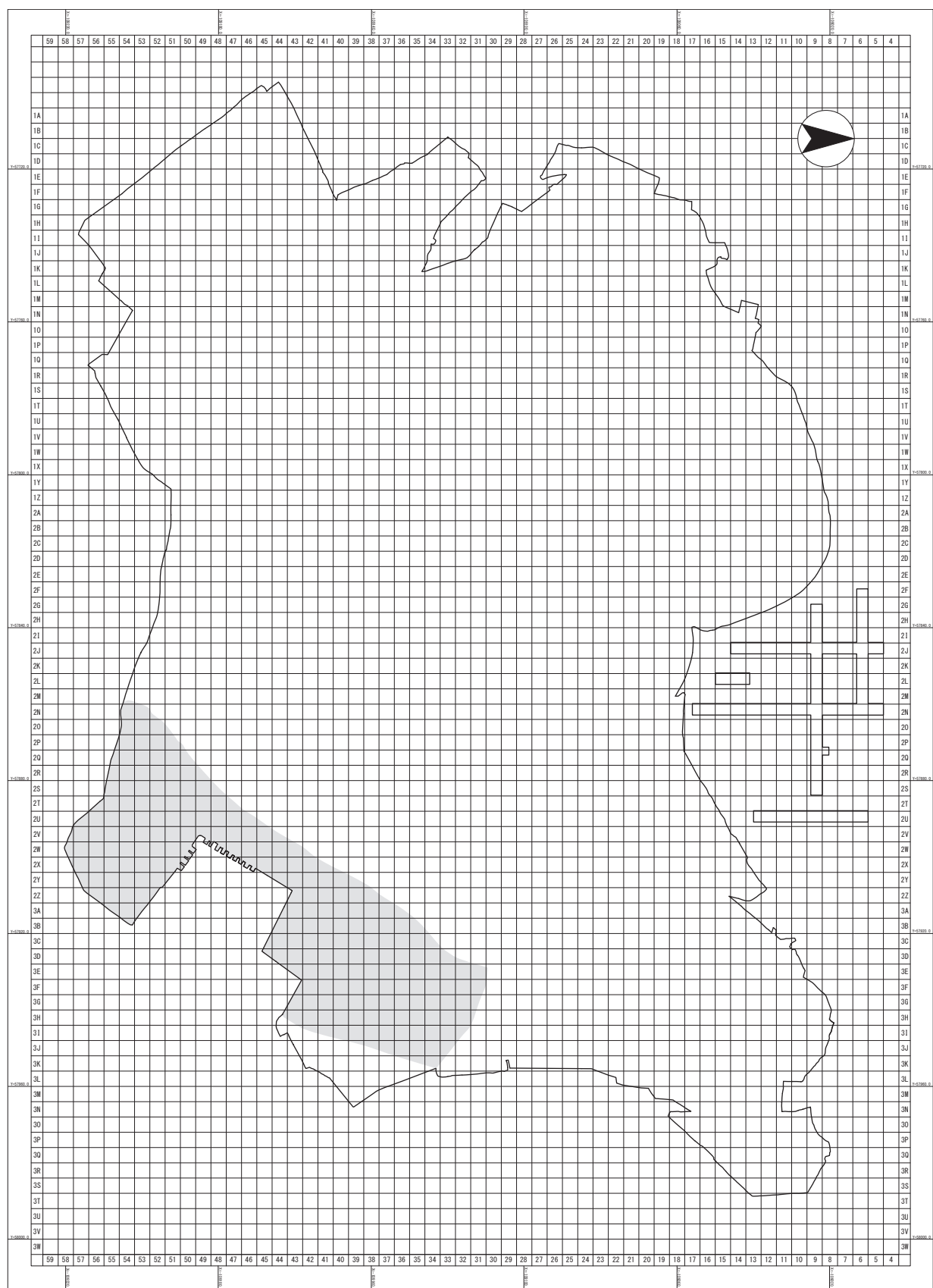


図1 地区割図（1：1,500）

の部分がエントランス地区の発掘調査区

0 50m

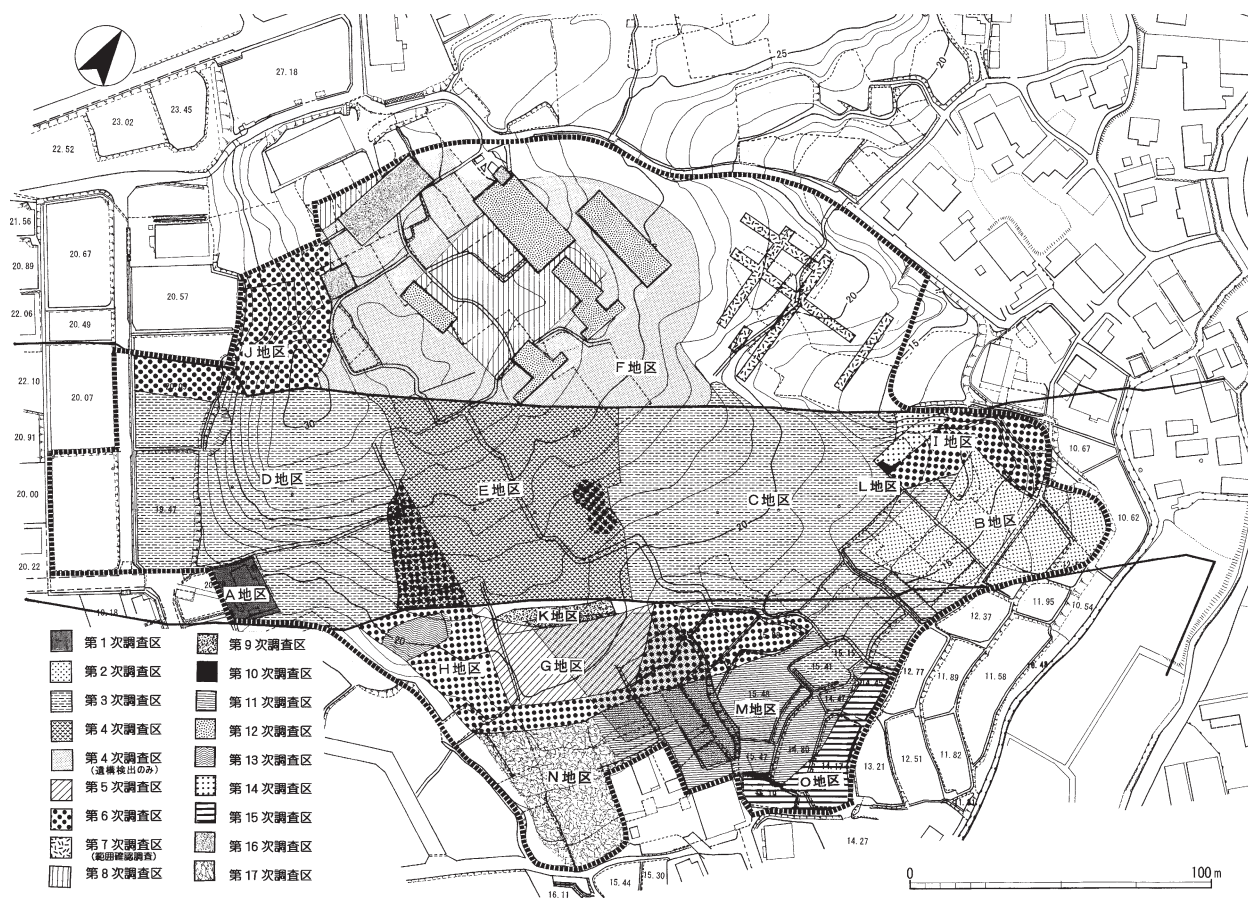


図2 久留倍遺跡調査区位置図 (1:2,500)

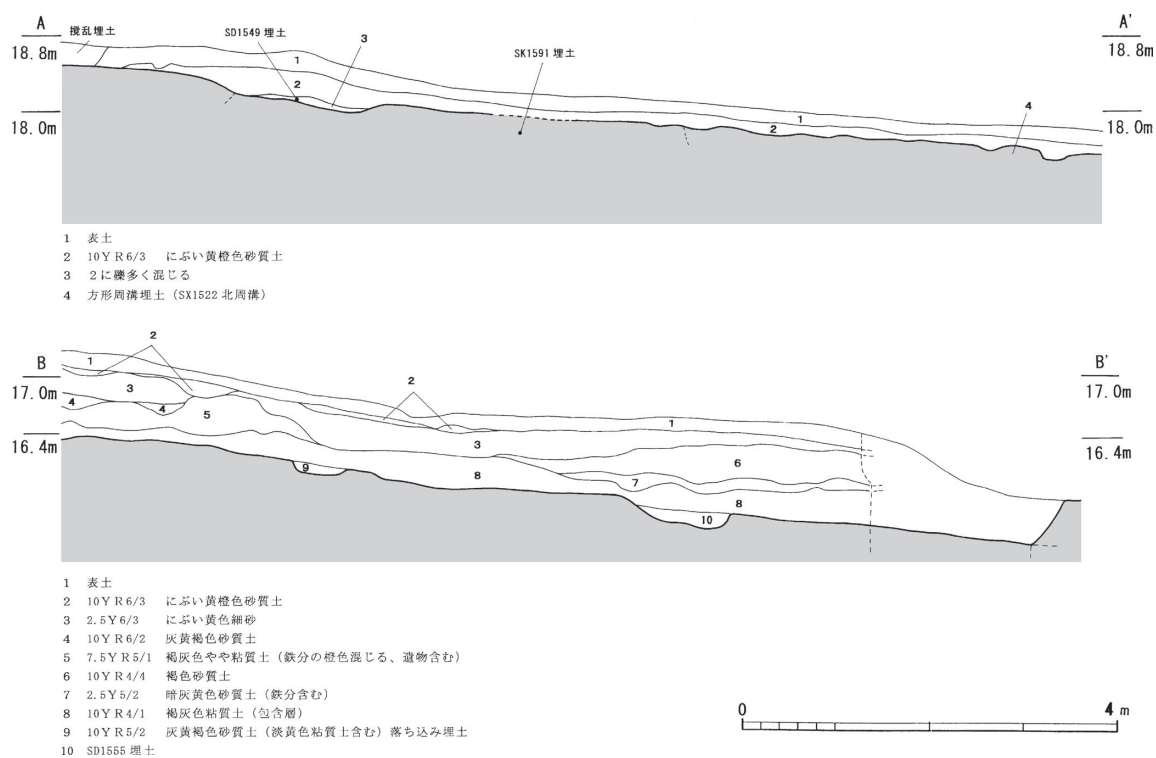


図3 土層図 (1:40) (A-A'、B-B' は図4に対応)



- 凡例
- 弥生時代中期
 - 弥生時代後期
 - 古墳時代初頭
 - 古墳時代前期～中期
 - 古墳時代後期
 - 古代
 - 中世以降

図5 主要遺構配置図（1：1,000）
 （番号記載のない遺構については付図1：300を参照。時期はその遺構の最終時期を示す）

Ⅱ 遺構

今回の調査地は、丘陵東裾部の中央および南東側にあたり、調査区の南西が標高19.5mを最高に、北東側と東側に向かって緩やかな斜面となっている。北勢バイパスに伴う第6次調査の東側の続きであり、調査の結果、弥生時代中期の竪穴住居・方形周溝墓、弥生時代中期～古墳時代初頭の谷、古墳時代初頭の方形周溝墓群、古墳時代後期の円墳群、古代の掘立柱建物、中世の掘立柱建物群などを確認した。以下、順に記述していく。

なお、位置と環境、久留倍遺跡の地形や基本層序は『久留倍遺跡5』を参照されたい。

また、北勢バイパスに伴う発掘調査において続きを確認している遺構があり、以降、北勢バイパスに伴う調査は「北バイ調査」、本報告書の調査は「エントランス地区調査」と略称を用いる。

1. 弥生時代中期

a. 竪穴住居

SH998 (図6) 北バイ調査で北側を確認していたもので、今回の調査では南側を検出した。後述するSH1582の上層で確認し、SH1582より新しいことが分かった。ただし、住居大半は古墳SX991に破壊され残りは悪い。一辺4.5mの隅丸方形になると推定され、壁周溝の北・西隅、および西辺の一部を確認した。南側には排水溝と思われる溝があり、住居南隅から接続すると考えられる。西隅の壁周溝内からは、細頸壺が横倒しの状態で出土し、横に台石が置かれていた。出土状況から壺と台石がセットになって使われたと考えられる。ほかに、袋状口縁細頸壺や高杯などが出土した。

SH1582 (図6) SH998の下層で検出した住居で、SH998より古い。東西7.0m、南北4.7mで東西に長い長方形となる。壁周溝は北西・南東側がSX991およびSH1577により削平されるが、それ以外は四方に廻る。また、住居中央に幅0.4mの床面を仕切る溝があり、2区画に分かれている。炉は、1区画に1基ずつ確認した。遺物は高杯の小片のみである。

b. 方形周溝墓

SX1552 (図7・8) 調査区南東で検出した。本遺跡で確認した方形周溝墓の中で、最大規模を誇る。墳丘は削平されていたが、墳丘基底部において東西11.4m、南北14.0mの長方形となる。周溝は四周全てを確認したが、東周溝は後世の溝により上半が削平されていて底部しか残存していない。南周溝は幅2.4m、深さ0.6mで南側に緩やかに広がっている。西周溝は幅1.9m、深さ0.9mで断面U字形、北周溝は幅2.3m、深さ0.6mで断面U字形である。埋土は大きく2層に分かれ、上層が暗褐色系粘質土、下層が明褐色系粘質土である。遺物は、多くが上層から出土し、下層からはまとまって出土していない。南周溝の西隅から集中して出土し、細頸壺、甕、高杯などが見られるほか、磨製石斧などの石製品が見られる。

2. 弥生時代後期から古墳時代初頭 (弥生時代終末期)

a. 竪穴住居

SH1577 (図9) SH1582の東側で重複する。東西辺5.6m、南北辺7.1mの方形となり、壁周溝は南東側が古墳SX1567に削平されるが、それ以外は四方に廻る。主柱穴は4箇所確認し、直径0.4～0.6mの円形で、柱痕を2箇所検出した。また、東辺にあるSK1587は貯蔵穴、住居外で南へ延びているSD1564は排水溝と考えられる。遺物は、住居の北西隅付近から弥生時代後期の甕、壺、高杯や蓋などが出土した。

SH1584 (図9) SH1577の北東に位置する。中世の土坑であるSK1570・1572に北・東側の大半が削平されているが、一辺3.8mの方形になると推定される。また南隅から延びる浅い溝があり、排水溝と考えられる。遺物は、弥生時代後期の土器片のみが出土している。

b. 方形周溝墓

SX1500 (図10) 調査区のほぼ中央で検出した。墳丘は削平されていたが、墳丘基底部において東西

12.1m、南北5.3m以上の方形となり、北側は削平されている。周溝は東・南・西側を確認した。東周溝は幅1.6m、深さ0.2m、西周溝は幅1.3m、深さ0.2mである。また、南周溝は中央やや東寄りに幅1.0mの陸橋部をもち、周溝幅は陸橋部で最大となり2.5m、深さ0.2mで、外側に膨らむ。遺物は南周溝陸橋部の東側に集中し、古墳時代初頭の壺や高杯などが出土した。

S X 1520 (図11) S X 1500の南西で検出した。墳丘は削平されていたが、墳丘基底部において東西7.8m、南北8.0mのほぼ正方形となる。周溝は四周全てを確認している。東周溝は幅1.5m、深さ0.2mで、一部を中世のS K 1526により削平されている。西周溝は幅1.3m、深さ0.15m、北周溝は幅2.1m、深さ0.2mである。また南周溝は、中央やや西寄りに幅1.2mの陸橋部をもち、周溝幅は陸橋部で最大となり、幅1.4m、深さ0.15mである。遺物は、古墳時代初頭のS字甕、高杯や手焙形土器などが出土した。

3. 谷および付属施設

S R 578 (図12～14) 遺跡の東斜面の中央に位置し、裾部に向かって西から東へ縦断する谷で、エントランス地区および北バイ調査で検出した全長は東西110m以上である。エントランス地区の調査では、谷の下流部にあたる37m分を調査した。幅と深さは場所によって一定していないが、幅6～17m、検出面からの深さ2.5～4.0m程度となっている。また兩岸の肩部には、貯木施設または井戸と考えられる谷の湧水を利用した付属施設が設けられる。

土層の観察から、上層(Ⅰ層)・下層(Ⅱ層)・最下層(Ⅲ層)に大きく区分して層位名を付し、さらにⅠ-a・b・c層、Ⅱ-a・b層と細分した。詳細については、北バイ報告書を参照されたい。土層と対応する出土遺物は概ね、Ⅱ-b層は弥生時代中期後葉の土器を中心に、各種木製品、石製品が出土、底面では縄文中期後葉から後期や、晩期の土器が数点見られた。Ⅱ-a層では弥生時代後期から古墳時代初頭を中心に、一部木製品が見られた。Ⅰ-c層は古墳時代後期の須恵器を中心とする。また、Ⅰ-b層は古代から中世初頭の須恵器、灰釉陶器、山茶碗などが若干出土する。

S Z 1507 (図15) S R 578南岸の中段肩で検出した。東西3.8m、南北5.2m、深さ1.4mの半楕円形状で、北側がS R 578の中央に向かって延びていたかは不明である。S R 578の肩を大きく挟み、土層観察からⅡ-b層を掘り込んでいることが分かる。谷の方向に平行して、丸太を含む木材が積み重なって出土した。また、二連式の泥除未成品や狭鋤が見られる。ほかに弥生時代中期後葉の甕、壺や高杯などが多く出土し、敲石や緑色岩の原石もある。おそらく原材や未成品を水漬けしておく貯木施設であったと考えられる。

S Z 1508 (図15) S R 578北岸の中段肩で検出した。東西2.7m、南北5.6m、深さ1.1mの長楕円形状で、長軸が谷に対して直交し、土層観察から、Ⅱ-a層を掘り込んでいることが分かる。遺物は弥生時代後期の甕、壺、高杯などが出土した。木製品が見られなかったため、貯木施設かは不明である。

S Z 1509 (図16) S R 578の南岸の中段肩で検出した。直径1.3m、深さ1.0mの楕円形状で、S R 578のⅡ-a層から掘り込まれていて、一部がS Z 1507と重複する。遺物は泥除未成品などの木製品のほか、弥生時代後期の高杯・壺・甕・台付甕・高杯、S Z 1507のものと考えられる弥生時代中期後葉の土器が出土した。形状から井戸もしくは貯木施設と考えられる。

S Z 1515 (図16) S R 578の南岸の中段肩で検出した。直径1.3m、深さは0.9mの円形状である。底面近くから、曲柄鋤未成品、竪杵未成品などの木製品のほか、弥生時代中期後葉の甕、受口太頸壺や高杯などが出土した。形状から井戸もしくは貯木施設と考えられる。

S Z 1545 (図16) S R 578北岸の上段肩で検出した。東西2.4m、南北6.0m、深さ0.2mの長楕円形状で、長軸が谷に対して直交する。遺物は、古墳時代初頭の甕や高杯などが出土した。

4. 古墳時代後期

a. 竪穴住居

S H 1569 (図9) 東半分は流失しているが、一辺4.5mの方形になると推定される。壁周溝は、西辺と北西・南東隅を確認した。主柱穴は、中世のピットの

重複が多く不明である。遺物は、埋土中から7世紀前半代の須恵器杯身が出土した。

b. 古墳

S X 991 (図17) 西側半分は北バイ調査である。墳丘は削平されていたが、墳丘基底部において東西9.2m、南北8.7mの円墳となる。周溝は最大幅2.6m、深さ0.45mで、播鉢状の断面形をなし、埋土は上層が暗赤褐色砂質土、下層が黒褐色砂質土であった。西側周溝の底では、直径約0.8mの浅い土坑の中に須恵器杯身5個体が据え置かれて出土した。同じく南側周溝底では、土師器高杯3個体が置かれ、土ごと取り上げ精査した結果、白玉16個を確認した。またその隣では、焼土片の上に須恵器杯身・杯蓋が組み合わさったまま置かれた状態で出土した。いずれも5世紀末のもので、築造時期を示すものであり、また古墳の葬送儀礼に関わるものと考えられる。ほかに6世紀前半から後半にかけての須恵器杯身・杯蓋のほか、土師器甕などが出土した。

S X 1567 (図18) S X 991の東に位置する。南半分が流失し、墳丘は削平されていたが、墳丘基底部において東西12.6m、南北7.0m以上の円墳となる。周溝は西側で幅2.75m、深さ0.5m、東側で幅1.85m、深さ0.2mで、播鉢状の断面形をなし、埋土はにぶい黄褐色ないし黒褐色砂質土であった。遺物は、須恵器杯身・杯蓋、壺、甕などのほか、土師器高杯があり、7世紀前半代を中心に5世紀末のものが見られる。

S D 1557 (図18) S X 1567の東側で検出した溝である。後世に大半が削平されているため平面形状は不明であるが、遺物の出土状況などから古墳周溝の一部と考えられる。現存規模は東西長さ5.8m、南北幅0.9~1.9m、深さ0.3mで、レンズ状の断面形をなし、埋土は暗褐色ないし黒褐色粘質土であった。遺物は、7世紀前半代の須恵器杯身・杯蓋、高杯のほか、土師器碗が出土した。

5. 古代

a. 掘立柱建物

S B 1578 (図19) 調査区の南端で検出した。桁行3間、梁行3間の東西棟側柱建物である。棟方向はN10°Eである。建物規模は桁行4.2m、梁行4.0mで、

平面積16.80㎡である。北側の桁柱間寸法は東から1.5+1.2+1.5m、南側の桁柱間寸法は1.4m等間、梁柱間寸法は北から1.5+1.0+1.5mである。柱掘方は直径0.4~0.7mの円形で、柱痕は直径0.2mである。遺物の出土はないが、S B 1579との位置関係や柱掘方の状況などから平安時代と推定される。

S B 1579 (図19) S B 1578の北西に位置する。桁行3間、梁行3間の東西棟側柱建物であるが、西梁柱列は2間となる。棟方向はN30°Eである。建物規模は桁行6.3m、梁行4.95mで、平面積は31.19㎡である。桁柱間寸法は2.1m等間、梁柱間寸法は東側1.65m等間・西側2.48m等間である。柱掘方は直径0.5mの円形で、柱痕は直径0.2mである。灰釉陶器碗・皿が出土した。

b. 井戸・土坑

S E 1503 (図21) 調査区中央で検出、北側は後世の掘削で削平されている。長軸4.2m以上、短軸3.4m、深さ1.9mで不定形の井戸と考えられる。北東側の下面はS D 1502に、上面はS D 1505につながっていると推定される。土層断面を観察すると、井戸枠痕や井戸枠の裏込めと見られる立ち上がりがあり、現存しないが井戸枠があった可能性がある。遺物は最下層から灰釉陶器碗が出土したほか、土師器碗、清郷型鍋、土錘などが見られる。

S K 1539 (図20) 調査区北東端で検出した土坑である。長軸2.4m、短軸1.5m、深さ0.8mで、長楕円形となる。9世紀初頭の須恵器杯、甕が出土した。

S K 1574 (図25) S X 991を削平する方形土坑である。平面規模は長軸1.3m、短軸1.1mで、深さは0.13mである。遺物は9世紀初頭の須恵器がある。

c. 溝

S D 1502 (図21) S E 1503の下面から南東へ延びる溝である。長さ9.0m、幅1.3m、深さ0.1mで、北側の肩は削平されており、残りは悪い。遺物は須恵器、灰釉陶器、山茶碗などが見られる。

S D 1505 (図21) S E 1503の上面から南東へ延びる溝である。長さ19.8m、幅1.6~2.1m、深さ0.15~1.3mで、東端は後世の攪乱によって削平されている。遺物は土師器杯、灰釉陶器などが見られる。

SD1525 (図20) 既に埋設していたSR578を南北に横断したと考えられる溝で、長さ43.7m、幅1.3~2.4m、深さ0.5~1.0mである。埋土内には、枝などの自然木や腐敗葉が多く含まれていた。溝は直線的に延びるが、北側で東へ直角に屈曲し、途中で長さ2mほどの自然木が数本、溝に直交して置いてあったが、そのまま8m延びた後、二股に分かれ、1本はそのまま東側へ延び、もう一本はさらに屈曲して南側へ延びる。その南側へ延びる溝では、途中で長さ2mほどの自然木が数本、溝に直交して置いてあり、水溜めの跡とも考えられる。遺物は、土師器杯・甕、須恵器杯・高杯、灰釉陶器碗・皿、砥石などが出土した。灰釉陶器には墨書を施したものが見られる。

後述のSD1583とは、位置関係から一連の区画溝であった可能性も考えられる。

SD1533 (図22) 東へ蛇行しながら延びる東西溝で、長さ10.7m、幅0.3~1.2m、深さ0.5~1.2mである。下流部の東端は北東へ分岐し、SD1100となる。中流部の上面は、SD1525に削平される。また、上流部の西端はSD1535と重複すると考えられる。遺物は土師器杯、須恵器杯・杯蓋などがあり、土師器には「種□」、須恵器には「藪」と墨書を施したものが見られる。

SD1548 (図21) SD952の下層で確認した溝で、長さ36m以上、幅0.4~0.8m、深さ0.1~0.5mである。遺物は灰釉陶器、ロクロ土師器がある。

SD1583 (図21) SD1505の2m南側にある東西溝で、規模は長さ18.0m、幅1.2~1.6m、深さ0.38mである。その西端は北側に曲がっており、SE1503の西側に回り込んでいる。東端は浅くなって消滅している。時期は、埋土の状況から古代以降の可能性がある。

この溝を東へ延長すると、SD1525の南端にほぼ直角に当たる。これらの溝が一連のものであったとした場合、溝に区画された東西約38m、南北35m以上の方形区画を想定することも可能であろう。

6. 中世

a. 掘立柱建物

SB1591 (図23・24) 桁行3間、梁行2間の東西棟側柱建物である。棟方向はN19°Eである。建物

規模は桁行6.6m、梁行4.0mで、桁柱間寸法は西から1.9+1.9+2.8m、梁柱間寸法は北から1.8+2.2mである。柱掘方は直径0.2~0.65mの円形または楕円形である。遺物は、山茶碗、山皿、常滑焼甕がある。

SB1592 (図23) 桁行3間、梁行2間の東西棟側柱建物である。棟方向はN21°Eである。建物規模は桁行6.7m、梁行3.45mで、桁柱間寸法は西から2.1+2.5+2.1m、梁柱間寸法は北から1.8+1.65mである。柱掘方は直径0.2~0.6mの円形または楕円形である。遺物は、土師器、陶器捏鉢がある。

SB1593 (図23・24) 桁行3間、梁行2間の東西棟側柱建物で、西側の妻柱柱穴は削平されている。棟方向はN23°Eである。建物規模は桁行6.6m、梁行3.9mで、桁柱間寸法は2.2m等間、梁柱間寸法は1.95m等間である。柱掘方は直径0.25~0.5mの円形である。遺物は、土師器、陶器捏鉢、山茶碗、山皿、土錘が出土した。山茶碗の1つには、炭化物の塊が入っていた。

SB1594 (図23・24) 桁行4間、梁行2間の南北棟側柱建物であり、東柱列の南側2穴はSK1570・1572により削平されている。棟方向はN21°Eである。建物規模は桁行6.6m、梁行3.6mで、桁柱間寸法は北から西側1.5+1.2+2.1+1.8m、東側は1.65m等間、梁柱間寸法は1.8m等間である。柱掘方は直径0.3~0.7mの円形または不整円形である。遺物は、山茶碗が出土した。

SB1595 (図23) 桁行2間、梁行2間の東西棟側柱建物である。棟方向はN23°Eである。建物規模は桁行5.1m、梁行2.8mで、桁柱間寸法は2.55m等間、梁柱間寸法は北から1.6+1.2mである。柱掘方は直径0.2~0.3mの円形である。時期の分かる遺物はないが、建物方位や柱掘方の状況から、周辺の掘立柱建物と同じ中世前期の建物と推定される。

SB1596 (図23) 桁行3間以上、梁行2間の東西棟側柱建物で、東側は調査区外となる。棟方向はN24°Eである。建物規模は桁行6.6m以上、梁行4.4mで、桁柱間寸法は北側で2.2m等間、梁柱間寸法は北から2.4+2.0mである。柱掘方は直径0.2~0.5mの円形である。遺物は、山茶碗がある。

SB1597 (図23) 桁行4間、梁行2間の東西棟側柱建物である。棟方向はN22°Eである。建物規模は桁行8.2m、梁行3.5mで、桁柱間寸法は西から1.5

+2.2+2.1+2.4m、梁柱間寸法は1.75m等間である。柱掘方は直径0.3~0.6mの円形である。遺物は、山茶碗がある。

S B1598 (図23) 桁行4間、梁行2間の東西棟側柱建物である。棟方向はN24°Eである。建物規模は桁行7.95m、梁行3.5mで、桁柱間寸法は西から2.4+1.8+2.4+1.35m、梁柱間寸法は1.75m等間である。柱掘方は直径0.2~0.4mの円形である。遺物は土師器皿、山茶碗がある。S B1597とは柱穴の重複部分がないため、前後関係は不明である。しかし、双方が東西柱筋を一致させ、規模をほぼそのままとして東西方向に約2.4mずれた位置にあることから、いずれかがもう片方の建替えであると考えられる。

S B1599 (図23) 桁行3間、梁行2間以上の南北棟側柱建物であり、東柱列は近代の溝S D1592により削平されている。棟方向はN35°Eである。建物規模は桁行6.3m、梁行2.1m以上で、桁柱間寸法は2.1m等間、梁柱間寸法は2.1mである。柱掘方は直径0.4~0.6mの円形または不整円形である。遺物は、土師器、山茶碗がある。

b. 井戸・土坑

S Z1513 (図26) S R578南岸肩で検出した直径0.75m、深さ0.25mの円形の井戸と考えられる。遺物は木製の棒が見られるのみで、時期は明確でないが、おそらく中世のものであろう。

S K1523 (図25) S X1520を削平する方形土坑である。平面規模は長軸2.2m、短軸2.0mで、深さは0.33mである。東端の底面で焼土・炭化物が集中して見られる。遺物は山茶碗がある。

S E1542 (図22) S D1535の下層で検出した井戸と考えられるもので、形状はS D1535と重複するため不明である。土層観察から東西3.2m、南北の長さは不明、深さは1.5mとなる。また埋土中において、竹筒が垂直に突き刺してあり、その上に常滑焼の片口鉢口縁片で蓋をしてあるものを確認した。井戸の廃絶儀礼に伴うものと想定され、埋め戻しの際に、井戸神の息抜きのために設置したと考えられる。その他の遺物は土師器皿、山茶碗がある。

S E1566 (図26) S X1552を削平する円形の井戸である。北側半分が調査区外となり、底部も完掘

していない。平面規模は東西5.1m、南北3.3m以上、深さは2.4m以上である。遺物は上層から常滑焼甕が、下層から山茶碗が出土している。

S K1570 (図25) S K1572と重複する不定形土坑である。平面規模は長軸3.7m、短軸2.1m以上で、深さは0.12mである。遺物は、土師器、山茶碗、常滑焼甕がある。

S K1572 (図25) S K1570の南側で重複する不定形土坑である。平面規模は長軸3.2m、短軸1.2m以上で、深さは0.2mである。遺物は山茶碗、常滑焼甕のほか、緑釉陶器などがある。

S K1581 (図27) 長軸1.3m、短軸1.1m、深さ0.1mの浅い方形土坑である。遺物は、土師器がある。

c. 溝

S D952 (図21) 北バイ調査において確認していた全長57.5mの東西溝で、エントランス地区調査でもこの内17.5m分を検出した。幅1.6~2.1m、深さ0.15~1.3mである。遺物は、山茶碗などが出土している。さらに、この溝の下部からは古代の溝S D1548を検出した。

S D1535 (図22) S E1542の上層において検出した東西溝である。土層観察からS E1542が埋め戻された後に掘削したものであることが分かる。溝の東側の一部は、S D1533の上層にも及んでいる。長さ8m以上、幅3.2m、深さ約1mで、東側を狭めて出口とし、その出口に直交するように長さ1.6mの丸太材を積み重ねて組んであった。水留めとしていたものと考えられる。また木組みから2m東には曲物が設置してあり、そこから南東に屈曲させたと考えられる。なお、曲物は井戸枠として使用したと考えられるが、溝の底面と同レベルに位置する浅い箇所であり、さらに溝の幅に曲物を押し込んだようにも見え、不明確である。また一部は東へ延び、S D1533と重複するものと思われる。遺物は、土師器杯・甕、山茶碗、山皿が出土した。

d. P i t

2S50Pit3 (図24) S K1574の南側で検出したピットである。長軸0.6m、短軸0.4m、深さ0.1mで、完形の山茶碗が1個体出土した。

3H42Pit2 (図24) S D1525の西側肩で検出した

ピットである。直径0.35m、深さ0.2mの円形で、西側がややオーバーハングする。信楽焼の茶壺と考えられる陶器が1個体出土した。

e. 火葬墓

S X1537 (図27) 直径約0.4mの円形で、深さは約0.1mである。東壁際に薄い焼土層が認められ、底面には炭化物が堆積していた。人骨等の出土はないが、状況から中世の火葬墓と推定される。

S X1538 (図27) S X1537の南約3mの位置で検出した。東西約0.4m、南北約0.9mの長楕円形で、深さは約0.1mである。検出面および底面に炭化物層が見られた。人骨等の出土はないが、状況から中世の火葬墓と推定される。

7. 時期不明

S B1600 (図27) 桁行2間、梁行3間の南北棟総柱建物である。棟方向はN26°Wである。建物規模は桁行3.9m、梁行3.7mで、桁柱間寸法は1.95m等間、梁柱間寸法は北から1.4+1.1+1.2mである。柱掘方は直径0.2~0.4mの円形である。遺物はなく、所属時期も不明である。

S B1601 (図27) 東西2間以上、南北2間の東西棟側柱建物で、東側が削平されており、全体の規模は不明である。棟方向はN24°Eである。建物規模は桁行4.0m以上、梁行3.5mで、桁柱間寸法は2.0m、梁柱間寸法は1.75m等間である。柱掘方は直径0.2~0.3mの円形である。遺物はなく、所属時期も不明である。

(清水・山本)

Ⅲ 遺物

1. 土器・土製品

(1) 弥生時代中期から古墳時代初頭

当該時期の土器については、土器分類を行って、その分類を基本に記述を進める(註1)。

1. 弥生時代中期

S H998 (6000~6007) 北バイ報告書土器65~67、石製品4437も参照されたい。

袋状口縁細頸壺(6000)、細頸壺体部(6001)、壺底部(6002・6003)、平底甕底部(6004)、台付甕台部(6005)、台付壺台部(6006)、高杯脚部(6007)が出土。6000は口縁部に凹線文と棒状浮文を、頸部から体部にかけて刺突文・直線文・扇状文・斜格子文を施文し、加飾性が強い。6001は胴部が鋭角に屈曲し強い張りをもつもので、体部外面には流水文、その下に沈線文間を刺突文で埋めた文様帯を施す。

S X1552 (6008~6031) く字形口縁タタキ系甕(6008)、く字形口縁ハケ系甕(6009・6010)、口唇沈線文系甕(6011)、平底甕底部(6012・6013・6018・6019)、台付甕台部(6014~6017)、壺体・底部(6020・

6023・6026)、三河系壺(6021・6025)、受口細頸壺A(6022・6024)、蓋(6027・6028)、受口太頸壺A(6029)、高杯脚部(6030)、土製丸玉(6031)が出土。6026は頸部隆帯列をもち、隆帯列間を竹管文で埋める。6027・6028は山形の蓋としたが、6028は器厚が厚く他の例とはやや異なる。蓋ではない可能性もある。6030は脚部が柱状気味で袖部がやや外に開くもので、円盤充填法を用い、外面はケズリ調整である。

2. 弥生時代後期から古墳時代初頭(弥生時代終末期)

S X1500 (6032~6040) 広口壺B1(6032)・C1(6033・6040)・F1(6034)、広口壺(6036)、壺底部(6035)、小型高杯B(6037)、台付甕台部(6038)、土製丸玉(6039)が出土。6036は口縁部外面に擬凹線文を施す。6037は口縁端部をやや外へ摘み出す。古墳初頭の所産と考えられる。

S X1520 (6069~6073) く字甕A2(6069)、S字

甕 A (6070)、壺体部 (6071)、高杯脚部 (6072)、手焙形土器 B (6073) が出土。6071は外面に結節縄文をもつ。6073は、鉢部が受口の口縁部に覆部を貼り付け、また体部最大径には刻み目突帯を貼り付ける。古墳初頭の所産と考えられる。

S H1577 (6041~6067) く字甕 A 2 (6041・6044・6045)・A 1 (6042・6043・6049)、受口甕 A (6046)・B 2 (6047)・C (6048)、広口壺 E 1 (6050)・B 1 (6053)、壺底部 (6051・6052)、有稜高杯 A 2 (6054~6057・6061・6062)、ワイングラス形高杯 A (6058~6060)、蓋 A (6063)、手焙形土器 A (6064)、ミニチュア甕 (6065~6067) が出土。この住居でく字甕 A 1 としたものは、口縁端部外面下端が少し張り出すのが特徴的である。6049は体部内面下半のケズリ調整が顕著である。6046は口縁端部に刻み目を施す。6048は袋状口縁になる。高杯は口縁部の外反が弱くなり、6057は外傾に近い。6062のように裾部がやや内湾することからも、弥生後期末の特徴を示す。6059はかなり扁平の杯部になる。6060は口縁部が上へ真っ直ぐ立ち上がる。6063はつまみをもつ蓋である。6064は鉢部の口縁部の延長上に覆部を付加し、鉢部下半に刻み目突帯をもつ。

S D1514 (6074・6075) 広口壺 F 1 (6074) と台付甕台部 (6075) が出土。6074は口縁部外面に刺突文を施す。

S K1516 (6076~6078) 受口壺 (6076)、く字甕 A 1 (6077)、台付壺台部 (6078) が出土。6078は台部に 4 方向の透かしをもつ。

S K1518 (6079) 台付甕台部である。

P i t (6080~6085) 6085が弥生後期、それ以外は弥生中期後葉の所産と考えられる。

3. 谷 (SR578) および付属施設 (SZ1507、SZ1508、SZ1509、SZ1515)

a. 付属施設

SZ1507 (6139~6173) 弥生中期後葉。甕は、く字形口縁タキ系甕 (6139~6144・6146)、く字形口縁ハケ系甕 (6145)、平底甕底部 (6148・6164)、台付甕台部 (6149~6151) がある。6141・6144・6146は器厚を薄く作っている。6145は体部外面に直線文と刺突文を施す。6152はミニチュア台付甕となり、台部には穿孔途中の孔が見られる。なお、6147

は体部調整が破片のため不明であるが、口縁部の形状からタキ系になると考えられる。

壺は、受口細頸壺 A (6153・6154)、受口太頸壺 A (6155~6157)、凹線文系広口壺 (6158・6159)、壺体・底部 (6160~6163・6165~6167) がある。6158は口縁部内面に羽状文と扇状文を施す。6159は胎土から三河系の可能性がある。6160は外面に扇状文をもつ。6162は頸部隆帯列をもつ。6165は算盤球状の体部で、外面上位はタテ方向、下位はヨコ方向のミガキを施す。

高杯は、水平縁高杯 A (6168)、水平縁高杯 (6169・6170)、椀形高杯 A (6171・6172)、高杯脚部 (6173) がある。6168は水平縁にタテ方向のミガキを施す。

SZ1508 (6174~6192) 弥生後期後葉から古墳初頭。受口甕 B 2 (6174・6177・6179)、く字甕 A 2 (6175・6178)、台付甕台部 (6176)、広口壺 B 2 (6180)・B 1 (6181)、壺体底部 (6182・6183)、有稜高杯 A 2 (6187・6188)・B 1 (6189)、小型台付壺 (鉢) (6184)、台付壺 (6185)、ミニチュア高杯 (6190)、高杯脚部 (6191)、土製丸玉 (6192) のほか、弥生中期後葉の三河系壺 (6186) が出土。6180は擬凹線文と羽状文を施し、パレス壺またはパレス壺を志向する壺である。6184は口縁部・体部内外面にミガキを施した台付壺 (鉢) で、精製土器である。小型内湾壺の範疇である。6190は外面に赤彩を施す。

SZ1509 (6193~6202) 弥生後期。ワイングラス形高杯 B (6193)、壺底部 (6194)、短頸壺 (6195) が出土。6193は杯部内外面にミガキ調整をする。6195は短い口縁部に、どっしりとした体部をもつ。ほかに、弥生中期後葉の土器 (6196~6202) があり、SR578II-b層のものと考えられる。

SZ1515 (6203~6209) 弥生中期後葉。く字形口縁タキ系甕 (6203・6204)、平底甕底部 (6205)、受口太頸壺 A (6206)、椀形高杯 A (6207・6208)、台付壺台部 (6209) が出土。6206は口縁部内面の貼り付けをし、端部の拡張を行う。6208は口縁部外面の凹線文の後に羽状文を施す。なお、6364と同一個体の可能性がある。

SZ1545 (6210~6219) 古墳初頭。受口甕 B (6210・6211)、台付甕台部 (6212・6213・6215)、ミニチュア台付甕 (6214)、広口壺 C 1 (6216)、壺体部 (6217)、小型器台 C 1 (6218)、高杯脚部 (6219) が出土。

6217は外面に結節縄文をもつ。なお、小型器台(6218)は古墳前期前半のもので、混入であろう。

b. SR578

Ⅱ－b層 土層を大きくⅡ・Ⅰ層に分け、さらに細分して遺物の取り上げを行った。具体的には、下層から〈Ⅱ－b層〉(弥生時代中期後葉)、〈Ⅱ－a層〉(弥生時代後期から古墳時代初頭を中心)、〈Ⅰ－c層〉(古墳時代後期)、〈Ⅰ－b層〉(古代から中世)となる。本文では、この層ごとに区切って土器を図示し、記述を進める。

縄文土器 (6220) 縄文晩期前半の深鉢である。

甕 (6221～6269) く字形口縁タタキ系甕A (6221～6229・6233・6239・6240)・B (6231・6232)、口唇沈線文系甕 (6230・6234・6247)、く字形口縁ハケ系甕 (6235～6238・6241～6245)、ケズリ系甕 (6246)、受口甕 (6248)、受口甕A (6249)、平底甕底部 (6251～6256)、台付甕台部 (6257～6268) があり、その内6259・6261・6262はミニチュア土器と考えられる。ほかに把手 (6269) がある。6234は頸部に紐孔をもつ。6241・6242は頸部の直線文が顕著である。6244は体部内面ヘラケズリ調整である。6245は口縁部が長く、頸部から口縁部の外反が緩やかである。6246は内外面の調整をケズリのみで行う。6247は口唇部に波状文を施す。6248は頸部から口縁部までの長さがほとんどないため、受口甕Aとは別と判断した。短く立ち上がり、内傾する口縁部をもつ。6249は口唇部の列点文が顕著である。6255・6256・6263には底部穿孔があり、6267は下部からの穿孔が未貫通である。6269は甕の把手としたが、何らかの土製品の可能性もある。

鉢 (6270～6272) 台付有頸鉢 (6270)、台付鉢 (6271)、無頸有孔鉢 (6272) がある。6270は内面をケズリ調整する。6271は台部に円形透かしをもち、鉢部の底部は丸みを帯びる。

壺 (6273～6352) 広口壺は、凹線文系 (6273～6275)、櫛描文系 (6276～6280・6283)、沈線文系か (6284・6286) 三河系 (6298～6312) がある。凹線文系と櫛描文系の口縁部内面には、刺突文・扇状文・瘤状突起を施す共通性が見られる。6284・6286は破片のため沈線の有無は不明であるが、施文や調整から沈線文系の可能性はある。三河系については、6298は単純口縁を持つことと、体部片からはハウキ状の原体による施文してい

ることが分かる。なお、6299については三河系としたが、胎土が他のものとやや異なり、違う可能性がある。

受口太頸壺A (6313～6319)、受口細頸壺A (6320～6327・6331)、受口短頸壺 (6328)、袋状口縁壺 (6329・6330)、無頸壺 (6332・6333)、壺体・底部 (6334～6347)、台付壺台部 (6348～6352) がある。6319は口縁部の凹線文間を簾状文で埋める。6327は凹線文をもたず、無文と見られる。6328は直線文と押引刺突文を施す。6334は頸部に貝殻腹縁刺突文と円形浮文を施す。6338は流水文、6339は波状文・直線文をもつ。

なお、6287～6290・6292・6293・6296・6297は弥生中期後葉から後期初頭と思われ、6291・6294・6295は弥生後期の所産の壺と考えられる。

高杯 (6353～6371) 水平縁高杯A (6353・6357)・B (6354～6356・6358・6359)、椀形高杯A (6360～6367)、高杯脚部 (6368～6371) がある。6364は口縁部外面に凹線文と羽状文を施す折衷形となる。6366は凹線文と言うよりも、沈線に近い細いものになる。

その他 (6372) 土製丸玉がある。

Ⅱ－a層

甕 (6373～6415) く字甕A 1・A 2、受口甕B 1・B 2、S字甕O (6400～6403・6405)、台付甕台部がある。く字甕のうち、6382は体部の張りが弱く、長胴となる。6384も長胴となり、頸部外面に直線文と刺突文を施す。一方、6381・6385は体部が球形となり、6385の口縁端部には刻み目を施す。

受口甕では口縁部外面に刺突文、頸部外面に直線文と刺突文を施すものが多い。6391は体部外面に円弧状の線刻を施す。6394は体部最大径に波状文を施し、平底となる。6399は口縁端部外面に押引刺突文をもつ。

S字甕Oとしたものの胎土の色調は灰白や灰黄を呈す。6400は口縁端部にハケがあり、端部を外へ引き出すための指オサエが見られる。6402は体部外面にも押引刺突文をもつ。

壺 (6416～6473) 広口壺は、B 1・B 2・C 1・C 2・F 2・G 1がある。6418と6419は赤彩を施し、口縁部内面に文様帯をもつ。特に6419は口縁部を平坦に作り出し、多条沈線も加えている。同様の口縁部の作り出しは6420にも見られるが、こちらには施文をしない。6421には、口縁部内面に「鳥足文」を線刻する。6424は口縁部を折り返している。西遠江の影響によるもの

か。6425は口縁部外面に波状文、体部外面には直線文と、貝殻腹縁刺突による連続した波線文を施す。6427は体部上位に張りがある。ほかに、6438のように口縁部が小さく外反し、下膨れの体部をもつものがある。また6439は口縁端部を摘み出して面を作り、口縁部外面下端に刺突文、頸部に小さな突帯を貼り付け、直線文・波状文を施すなど、ほかの広口壺とは形状や施文方法が異なるものが見られる。

内湾口縁壺（6449～6453）はBを中心として、小型内湾壺A（6452）や、6453のようにやや直線的な口縁部がある。ただし、6456は脚部が外反し、口縁部が内湾しない可能性もある。

無頸壺（6457～6459）は紐孔をもつもの（6457・6459）ともたないもの（6458）に分かれる。

6460は広口壺B 3の破片と考えられるもので、東遠江からの影響が考えられる。また6461～6466は結節縄文をもつものであり、とくに6461は底径が大きく、さらに6467は有段状の複合口縁となり、いずれも東遠江から駿河の影響が想定される。6470も底部の形態が6461と類似し、同範疇の可能性もある。

ほかに台付壺台部（6416・6417）がある。

高杯（6474～6519） 盤形高杯（6474～6477）、有稜高杯A 1（6478）・A 2（6479～6483）・B 1（6484～6486・6488・6489）・B 2（6487・6490～6498）、碗形高杯C（6499）・B（6502）・A（6505）、小型盤形高杯（6504）、小型高杯A（6506）・B（6500・6501・6503）、高杯脚部（6507～6519）がある。6475・6507～6509には赤彩を施す。6503は杯部が扁平化し、また脚部は低脚化し大きく外へ広がるものである。6506は内外面全面にミガキを施す。6504は小型盤形高杯としたもので、脚部は広く外反せず、端部に面をもち古い様相をもつもの。弥生後期初頭と考えられる。6510は脚部上位に沈線を4条施し、胎土は緻密で灰白を呈す。

器台（6520～6525） 器台A（6520）・B（6521・6524・6525）がある。ほかに6522・6523があるが、口縁部の形態が異なり、壺の可能性もある。

鉢（6526～6536） く字鉢（6526・6527）、受口鉢B（6528・6529・6534）、有孔鉢（6532・6533）、小型無頸鉢A（6530・6531）、手焙形土器A（6535・6536）がある。6530は内外面ミガキ調整を行う精製土器である。

ミニチュア土器（6537～6550） 甕、壺、鉢などが

ある。6549は紐孔を表現している。

その他（6551～6553） II - b層相当と考えられる、弥生中期後葉の土器である。

I - c層（6554～6587） 6554～6573は、I - c層から出土したII - a層相当の土器である。6568・6569は広口壺B 3であり、6569の体部外面には口縁部と同じく縄文を施す。

6574以降は古墳後期の須恵器を中心に、一部古代の須恵器、灰釉陶器を含む。須恵器高杯（6576）は、杯部内面に朱痕がある。提瓶（6584）は、肩部にボタン状突起を付け、体部はカキ目調整をする。6585は灰釉陶器碗の素地である。灰釉陶器碗（6587）は底部外面に「□百田」の墨書を施す。

I - b層（6588～6608） 古代～中世の土器を中心に、一部古墳後期の須恵器を含む。6597は灰釉陶器碗の素地で、底部外面に墨書がある。6599は輪花の山茶碗である。6604・6605は伊勢型鍋、6606・6607は清郷型鍋となる。6601は白磁碗で玉縁口縁となり、大宰府分類によるIV類である（註2）。6608は断面長方形の棒状土製品である。

（清水）

（2）古墳時代後期

SH1569（6086・6087） 須恵器杯身（6086）があり、7世紀前半代のものと考えられる。また6087は土師質のミニチュア鍋の把手と推測される。

SD1510（6088・6089） 須恵器無蓋高杯（6088）、土師器甕（6089）が出土。6088は杯部下位外面に刺突文を施す。6089は口縁部に粘土を貼り付け肥厚させている。内面にはススが付着する。甕としたが、あまり類例を見ない形態である。

P i t（6090～6092） 須恵器杯身（6090）、高杯（6091）、提瓶（6092）である。

表土（6093～6095） 須恵器器台（6093）、杯身（6094・6095）である。6093は外面に波状文を施す。

SX991（6096～6116） 北バイ報告書土器2987～2999も参照されたい。

須恵器杯蓋・杯身（6096・6097）1セット、および土師器屈折脚高杯（6114～6116）3個体は、周溝底部に据え置いた状態で出土した。6096・6097は、組み合せて密封した状態であった。内容物を精査した結果、

流入した泥以外は確認できなかった。有機物などを内包していた可能性も考えられよう。5世紀末の時期が考えられる。一方、6114～6116は杯部を上にしての出土で、その周辺に白玉（6807～6822）を確認した。

ほかに周溝埋土中から、須恵器杯身・杯蓋（6098～6105）、短頸壺（6106）、土師器小型埴（6107）、甕・鍋（6108～6111）、屈折脚高杯（6115・6116）が出土し、5世紀末から7世紀前半までのものであり、時期幅が見られる。

S X1567 (6117～6129) 須恵器杯身・杯蓋（6117～6123）、壺（6124）、直口壺（6125）、甕（6126）、土師器甕（6127）、屈折脚高杯（6128・6129）が出土し、6125・6126は体部や口縁部などの形態から、時期が5世紀末、ほかは概ね7世紀前半代のものと考えられる。2時期が見られようか。6121については底部外面にヘラ記号「△」をもつ。

S D1557 (6130～6138) 須恵器杯蓋・杯身（6130・6131）、無蓋高杯（6132～6135）、壺（6136）、土師器杯（6137）などが出土。概ね7世紀前半代のものと考えられる。6136は底部外面にヘラ記号「×」をもつ。
(清水)

(3) 古代

a. 掘立柱建物

S B1579 (6609～6612) 6609・6610は灰釉陶器皿、6611・6612は灰釉陶器碗で、6610・6611がK-90号窯型式、6612がO-53号窯型式のものであろう（註3）。

b. 井戸

S E1503 (6613～6618) 6613は台付の土師器碗である。6614は灰釉陶器碗で、百代寺窯型式のものであろう。6616は須恵器杯蓋、6617は須恵器杯身で、共に7世紀代のものである。6615は清郷型鍋である。6618は土鍾である。

c. 土坑

S K1501 (6619・6620) 6619は灰釉陶器碗でO-53号窯型式のものであろう。6620はフイゴ羽口の先端部である。

S K1512 (6621～6624) 6621～6624は灰釉陶器碗で、6621がK-90号窯型式、6622～6624がH-72号窯型式のものであろう。

S K1530 (6626・6627) 6626は緑釉陶器碗で、白

色軟質の胎土に淡緑色の釉を施す。見込には四弁の陰刻花文が施される。6627は緑釉陶器唾壺で、灰白色軟質の胎土に淡緑色の釉を施す。いずれも9世紀後半のものである。

S K1539 (6628・6629) 6628は須恵器杯、6629は須恵器甕である。いずれも9世紀初頭のものである。

S K1574 (6630) 須恵器杯で、9世紀初頭のものである。

d. 溝

S D1502 (6631・6632) 6631は尾張型3型式の山茶碗である。6632は灰釉陶器長頸壺である。

S D1532 (6633) 灰釉陶器碗で、O-53号窯型式のものと考えられる。

S D1525 (6634～6646) 6634は灰釉陶器皿、6635～6641は灰釉陶器碗で、6634～6639がK-90号窯型式、6641がH-72号窯型式、6640が百代寺窯型式のものであろう。6639外底面には「亥」、6641外底面には「寅」と見られる墨書がある。6642は尾張型4型式の陶器山皿である。6643は土師器杯で、9世紀後半のものである。6644は土師器甕である。6645は須恵器杯で、8世紀後半のものである。口縁から内面にかけて油煙が付着する。6646は須恵器高杯である。

S D1533 (6647～6651) 6647・6648は須恵器杯蓋である。6649は土師器杯で、9世紀前半のものである。外底面に「種□」の墨書がある（註4）。6650は生焼けの須恵器杯で、9世紀前半のものである。外底面に「藪」の墨書があり、更にその上からドーマン状の刻書が見られる。6651は土師器鍋の把手である。

S D1536 (6652) 須恵器高杯である。

S D1548 (6653～6664) 6653は灰釉陶器皿、6654～6656・6658・6659は灰釉陶器碗、6661は灰釉陶器小碗である。6655がK-90号窯型式、6653・6654・6659がO-53号窯型式、6656・6658・6661が百代寺窯型式のものであろう。6657は尾張型3型式の陶器捏鉢、6660は尾張型3型式の山茶碗である。6662～6664はロクロ土師器碗で、11世紀前半のものである。

e. Pit、包含層

P i t (6665～6674) 6665・6666・6668・6673は灰釉陶器碗、6674は灰釉陶器皿である。いずれもO-53号窯型式のものであろう。6665外底面には、判読は出来ないが墨書がある。6667は土師器皿または

杯である。6669・6672は土師器台付皿である。6670は土師器杯で、10世紀前半のものである。

包含層出土遺物 (6675～6682) 6675は須恵器杯である。6676～6679は灰釉陶器皿・椀である。6676・6677はO-53号窯型式、6678・6679はK-90号窯型式と考えられる。6680は土師器杯で9世紀後半のもの、6681は内面が黒化される黒色土器杯で9世紀後半～10世紀前半のもの、6682は土師器皿で9世紀前半のものである。

(山本)

(4) 中世

a. 掘立柱建物

S B1591 (6683～6689) 6683～6685・6688は山茶碗、6686は山皿である(註5)。いずれも尾張型で、6683・6684・6688は6型式、6685・6686は8型式である。6686の外底面には花押の墨書がある。6687は片口鉢Ⅰ類の6a型式である。6689は常滑焼甕で中野2～3型式のものである。

S B1593 (6690～6697) 6690・6691・6696は山茶碗で、いずれも尾張型6型式のものである。6697は山皿である。尾張型7型式のものである。6690の中には炭化物塊が入っており、6691の外側面には墨書がある。6692は片口鉢Ⅰ類の5型式である。6693・6694は土師器皿、6695は土鍾である。

S B1594 (6698～6704) 6698～6704は山茶碗で、いずれも尾張型6型式のものである。

S B1596 (6705) 山茶碗で、尾張型6型式のものである。

S B1598 (6706～6708) 6706・6707は山茶碗で、いずれも尾張型7型式のものである。6708は土師器の小皿である。

S B1599 (6709) 山茶碗で、尾張型7型式のものである。

b. 土坑

SK1523 (6710) 尾張型3型式の山茶碗である。

SK1524 (6711) 山茶碗で、尾張型8～9型式のものであろう。

SK1526 (6712) 瀬戸系の鉢で、錆釉がかけられる。

SK1529 (6713～6715) 6713・6714は山茶碗である。尾張型5型式のものである。6715は南伊勢系土師器

鍋の第3段階のものである。

SK1572 (6716～6719) 6716は山茶碗で、尾張型6型式のものである。6717は緑釉陶器椀である。有段高台のもので、稜椀の可能性も有る。6718・6719は常滑焼甕で、中野7型式のものである。

SK1573 (6720) 山茶碗で、尾張型7型式のものである。

c. 井戸

SE1542 (6721～6723) 6721は山茶碗である。尾張型6型式のものである。6722は土師器皿で、中世前期のものであろう。6723は常滑焼片口鉢で、Ⅱ類6a型式のものである。

SE1566 (6724～6726) 6724・6725は常滑焼甕で、6724は中野11型式、6725は中野2～3型式のものである。6726は山茶碗で、尾張型5型式のものであろう。内面に炭化物が付着する。

d. 溝

SD952 (6727～6728) 6727は陶器小椀、6728は山茶碗で、いずれも尾張型3型式のものである。

SD1505 (6729～6735) 6729はロクロ土師器皿で、11世紀前半のものである。6730は尾張型5型式の山茶碗である。6731～6733は灰釉陶器椀である。6731は百代寺窯型式、6732はH-72号窯型式、6733はO-53号窯型式のものである。6734はロクロ土師器杯で、10世紀後半のものであろう。6735は土師器杯で10世紀前半のものである。

SD1511 (6736～6746) 6736～6738・6740は山茶碗である。6736は渥美型4型式、6737は尾張型4型式、6738は尾張型3型式、6740は尾張型5型式である。6739は灰釉陶器皿、6741は灰釉陶器椀で共にH-72号窯型式、6742・6745は灰釉陶器椀で百代寺窯型式のものである。6743・6744は陶器小椀で尾張型3型式である。6746は土師器台付皿で10世紀後半～11世紀前半のものである。

SD1521 (6747～6750) 6747～6749は山茶碗である。6747は尾張型6型式、6748は尾張型5～6型式、6749は尾張型7型式である。6750は常滑焼甕で、中野5型式のものである。

SD1535 (6751～6768) 6751・6752は土師器甕である。いずれも11世紀代のものである。6753～6755は土師器杯である。尾張型の山茶碗は6756・6757・

6760・6761が6型式、6758が9型式、6759が10型式のものである。6756の外底面には「二」、6757の外底面には「一」の墨書がある。6764は尾張型6型式、6766は尾張型7型式の山皿である。6765はH-72号窯型式の灰釉陶器碗、6767は百代寺窯型式の灰釉陶器小碗である。6768は須恵器杯である。

S D 1546 (6769～6772) 6769～6771は山茶碗である。6769は尾張型5型式、6770は尾張型7型式、6771は尾張型4型式である。6772はO-53号窯型式の灰釉陶器深碗である。

S D 1563 (6773) 尾張型6型式の山茶碗である。

S D 1580 (6774～6776) 6774・6775は尾張型3型式の山茶碗である。6776は白磁碗である。大宰府分類のIV-1類にあたる。

e. P i t、包含層

P i t (6777～6790) 6777は陶器茶壺である。6778・6781～6785・6788・6789は尾張型の山茶碗である。6781～6783は6型式、6778・6785・6788・6789は7型式、6784は8～9型式のものであろう。6778の底部外面には花押の墨書が、6785の外底面には広く墨痕が見られる。6786・6790は土師器小皿である。

6787は土錘である。

包含層 (6791～6795) 6791は陶器捏鉢である。尾張型4型式のものであろう。6792は陶器山皿である。尾張型6型式のもので、生焼けである。6793は土師器小皿である。6794は白磁碗で、見込を窪ませて段がつけてあり、大宰府分類のIV-1b類にあたる。この出土例は極めて少ないとされる。6795はフイゴ羽口で、先端部に鉄滓が付着する。

(山本)

註

(1) 一般国道1号北勢バイパス埋蔵文化財発掘調査報告Ⅱ『久留倍遺跡5』四日市市教育委員会2013

(2) 『大宰府条坊跡XV－陶磁器分類編－』太宰府市教育委員会2000

(3) 城ヶ谷和広「尾張における7世紀から9世紀半ばの須恵器～猿投窯とその周辺～」『古代の土器研究～律令的土器様式の西・東 2 須恵器』1993

(4) 三重県史編纂室 小林秀氏にご教示頂いた。

(5) 瀬戸美濃産陶磁器＝『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界～その生産と流通～ 資料集』瀬戸市埋蔵文化財センター 1996

2. 石製品

S H 1577 (6800) ハイアロクラスタイト製の磨製石斧の剥片で、研磨と敲打痕が見られる。破損品か。

S X 1552 (6801～6803) 6801・6802はハイアロクラスタイト製の磨製石斧である。6801は小型の扁平片刃石斧で、全面をよく研磨し表面と側縁部とが稜をもっている。6802は両刃石斧の敲打段階のものであり、表面の一部を研磨している。6803は平面が楕円形で表面が浅く窪み、石皿に類似するが使用痕は見られず不明品である。被熱する。石材は砂質凝灰岩である。

S Z 1507 (6804・6805) 6804は敲石であり、側縁に敲打痕がある。6805は緑色岩の原石と考えられる。

S X 991 (6806～6822) 6806は砂質凝灰岩製の砥石である。6807～6822は滑石製の白玉で、いずれも円柱状となるが、一部、片面が斜めに切り落とされたものが見られる。片面穿孔法を用いる。

S D 1525 (6823) 凝灰岩製の砥石片である。

S E 1542 (6824) ハイアロクラスタイト製の太型蛤刃石斧である。刃部はよく研磨するが、刃部以外は敲打痕を残す。基部は円柱状になる。

S D 1565 (6825) 泥岩の剥片である。

S D 1580 (6826・6827) 6826はチャートの石核である。6827はハイアロクラスタイト製で、形状から扁平片刃石斧の剥離段階と想定される。

P i t 出土 (6828・6829) 6828はハイアロクラスタイト製の太型蛤刃石斧である。刃部が欠損するが、欠損部を研磨した箇所が見られ、再加工しようとしたと想定される。側縁部には敲打痕が残る。6829はホルンフェルス製の持砥石である。

包含層出土 (6830・6831) 6830はホルンフェルス製の置砥石と考えられる。6831は凝灰質泥岩製の砥石であり、表面は砥面、側縁面には鋸痕と見られる

線状痕がある。

S R578 (6832～6858) 6832～6837はハイアロクラスタイト製の磨製石斧および未成品である。6832は扁平片刃石斧で、刃部表面はよく研磨するが、刃縁部は敲打痕がある。再利用しようとしたものか。また側縁部にも敲打痕が残る。6833は両刃石斧で、刃縁部に敲打痕が見られる。敲石に転用したものと考えられる。6834は剥離段階の未成品であり、側縁部に敲打痕が見られる。6835は太型蛤刃石斧で、刃部は研磨するが、それ以外は敲打痕が残る。6836は剥離段階であり、形状から扁平片刃石斧の未成品と考えられる。6837も剥離段階の未成品であるが、厚さが4.2cmと薄いため製作中の破損品かもしれない。

6838は蛇紋岩製の定角式磨製石斧である。風化が激しいが、側縁部の稜は明瞭である。被熱している。縄文時代後期のものと考えられよう。

6839～6841は打ち欠き石錘である6839・6840は両は片端を打ち欠き、一方は自然の凹みを利用している。6839は安山岩、6840・6841は凝灰質砂岩

である。

6842～6847は敲石である。6842は凝灰質砂岩製で、端を打ち欠き、縄の取掛かり部を設けている。6841上下面および側縁部に敲打痕があり全面を使っている。6846は安山岩製で、側縁部に敲打痕があり、持ちやすいように表裏中央に浅い窪みがある。他の6843・6845はアプライト製、6844・6847は砂岩製である。

6848～6856は砥石である。6851は表面中央に幅0.3cmの線状痕が残る。6853～6855には側縁部に敲打痕が見られ、敲石としても使用したようである。6856は途中で折れるが、長さ20cm以上の大型砥石であり、よく使いこまれている。石材は凝灰質砂岩もしくは砂質凝灰岩である。

6857は不明品である。上下の折れ面に叩き痕で加工してある。

6858は凝灰質砂岩製の大型剥片である。形状から大型直縁刃石器の素材剥片と考えられる。

(清水)

3. 木製品

成品・未成品を中心に、特徴のある加工、樹種などに加え、原材（木）や残材についても概述する。法量など詳細については、観察表を参照されたい。また器種名、部位名については、『木器集成図録 近畿原始篇』『木器集成図録 近畿古代篇』『六大A遺跡』『三重県史 集成 木製品』（註1）を参考にし、一部は便宜上、言葉を補完している。なお、木製品の器種同定や特徴については、様々な方々からご教示をいただいている。それを基に、本章の記述を進めたい（註2）。

1. 弥生時代中期から古墳時代初頭

a. S R578付属施設

S Z1507 (6900～6919) 6900～6904はアカガシ亜属製の農具類である。6900は柄が装着したまま出土したものである。舟形隆起のみが残存した鋤と考えたが、身の側縁部に欠損した痕跡がなく、おそらくツルハシ状の狭鋤であろう。身幅は6cmである（註

3）。柄を鋭角（67°）に装着している。

6901は農具片。6902は鋤の破損品と考えられるが、中央が盛り上がり、舟形隆起状になる可能性がある。6903は泥除未成品で、現状では二連式であるが、さらに続いていた可能性がある。中央が盛り上がる。6904は器厚が薄く、泥除もしくは横鋤の可能性があるのである。

6905はモミ属製で、小枝の節を利用したものである。下端の片側に削りを加えて尖らせている。形状と大きさから、小型石斧を装着する柄の可能性も考えられよう。6906はクスノキ製で、表面に楕円形の窓を設けて中を削り抜き、先端は平坦に仕上げている。青谷上寺地遺跡で出土している剝物の細長容器に類似するものか（註4）。6907はスギ製で、大型の槽を利用して、田下駄に転用したものと考えられる。4つの孔があるが、雑な加工による穿孔である。6908はアカガシ亜属製で、製材板の残材と思われる。6909は棒状製品で、両側の先端部を斜めに切る。6914は

スギ製で、断面多角形状の棒状製品である(註5)。

6911～6913は杭状製品としたもので、サカキ、アカガシ亜属製である。6910・6915～6919は角材・板材・丸太材(原材)としたもので、スギ、アカガシ亜属、モミ属製である。

S Z 1509 (6920～6922) 6920はアカガシ亜属製の泥除未成品である。頭部の両側部を切断し、表面中央を盛り上げる。6921はアカガシ亜属製の樹皮と考えられる。

S Z 1515 (6923～6934) 6923はアカガシ亜属製の曲柄鍬の未成品である。刃部および軸部の表裏面、側縁部に加工痕が残る。刃部の肩を明確に削り出し、刃縁部に向かって下膨れ状になる。また軸部は直線的で、先端付近には軸頭を作り出そうとしたのか、目やすのために刃傷を入れている。

6924はクリ製、6925はサカキ製の不明品で、どちらも加工痕が見られる。6926はアカガシ亜属製の堅杵の未成品である。搗部は平坦となる。6927～6929は板状製品で、先端部が炭化するものが見られる。6930～6934は棒状製品・棒としたもので、クリ、クスギ節、ケヤキ、アカガシ亜属を利用する。

b. S R 578

直柄鍬 (6935～6941) 鍬身はアカガシ亜属製で、6936・6941の柄はサカキ製である。6935は広鍬で、舟形隆起が明確でなく自然に盛り上がるもの。6936は前述した6900と同様の狭鍬であろう。柄を鋭角(56°)に装着する。6937は舟形隆起を明瞭に作り出した狭鍬。6938は破片資料。6939は先端部および側面部が欠損した舟形隆起と判断し、下に本体が続くと考えられる。舟形隆起が頭部となるタイプの鍬であろう。6940は狭鍬の破片。6941は柄を鈍角(120°)に装着する、身幅9.2cmの狭鍬である。なお、6940・6941のように側縁部にも刃部をもつ両刃鍬を草など払う「払い鍬」とし、6935もその可能性があると考えられる(註6)。

曲柄鍬 (6942～6949) いずれもアカガシ亜属製で、平鍬(6942・6943・6945・6946)と又鍬(6944)、平鍬(6947)・又鍬の破片か(6948・6949)がある。軸部を見ると、6942・6943は軸部後面側に明瞭な段を設ける。さらに刃部では、斜めに切り落とし

た肩部から平行のまま刃縁部にいたるもの(6942・6945・6946)、下膨れの形態となるもの(6943)、なで肩(6944)に分類が可能である(註7)。

泥除・横鍬 (6950～6952・6954) 6950・6952・6954はアカガシ亜属製で、6951はクスノキ製である。6950～6952は泥除。6954は泥除もしくは横鍬未成品と考えられるもので、平面形は長方形、身下半(刃部)に向かって薄くなっている。

鋤 (6955～6957) いずれもアカガシ亜属製である。6955は多又の組合せ鋤で、反転復元すると八又となる。身上半と下半である刃部との境には突帯状に段を設けている。軸部は軸頭を作り出し、また身中央の軸部下半を柄穴として溝を掘っていて、軸頭での紐かけによる緊縛および柄結合による着柄方法を取ったと考えられる。さらに特徴的なのが、丁寧に穿孔された直径5.1cmの孔をもつことで、おそらく両側にあったと推測される。この孔についても着柄の緊縛のためのものと想定されるが、緊縛するためには無駄に大きすぎるため定かではない。いずれにしても、土を対象とした耕起具としては強度的に弱いと見られ、草など軽いものを集めたり、払ったりしたものと想定される(註8)。

6956は鋤柄と考えられるもので、上部の把手が欠損する。6957は一本鋤の未成品で、柄が途中で欠損する。角肩で、身長は51cmを超える。

臼 (6958・6959) いずれも縦木取りで、6958はクリ製で、鉢形の小型臼である(註9)。6959はクスノキ製で、破片資料である。

鉄斧柄 (6960・6961) どちらも膝柄で、横斧の袋状鉄斧柄と考えられるものである。6960はサカキ製で、斧台後面が平坦でなく、斧台が先端に向かって窄まるが、斧台後面先端には段が2段あり、最先端部は欠損する。装着部の断面形は逆三角形となり、握り部は緩やかなS字状に屈曲し、先端部に加工痕が見られる。着柄角度は75～85°となる。6961はクスギ節製で、斧台の後面が平坦でなく、先端に向かって徐々に窄まる。斧台前面は船底状になる。また握り部は直線的である。着柄角度は55°となる。

弓 (6962) イヌガヤ製で、端部を鈍角に削り出して弭を形成している。弓幹は芯部を避けて形成する。

不明品 (6963・6964) 6963はアカガシ亜属製で、全面に加工痕が見られる。敲打する道具もしくは製材板の廃材と考えられる。6964はクスノキ製で、当初は容器を想定したが、不明である(註10)。

蓋 (6965・6966) スギ製で、平面形状から円形の蓋と考えられる。

不明品 (6967～6969) いずれもスギ製である。6967は片側縁部が有段状となり、先端に向かって有段部が細くなる。用途不明である。6968は両側先端部が凹状となる。組物の一部と考えられ、ジョイント具であろう。6969は断面形が、内面は方形、外面は丸底方形で、長方形の柄孔と考えられるものをもつ。形状から、板と板を組合すための結合具とも考えられ、束柱の可能性が想定される(註11)。建築部材と言えようか。

梯子 (6970) モミ属製で、心持材を利用した丸太梯子である。足掛部が残存するが先端部は欠損し、また全体に炭化する。

棒状製品 (6971～6973) 6971はサカキ製の有頭棒で、端部の全周を削り込んで、頭部を作り出している。6972はスギ製で、断面方形で孔があり、有孔棒の可能性もある。6973はスギ製で、先端部へ向かって細くなる。全体を丁寧に削り出している。紡茎など紡織具などの可能性も考えられるが、不明である。

杭状・棒状・丸太状製品 (6974～6987) 6974～6980は先端を削り出して杭状にする。イヌマキのほか、サカキ、クリ、アカガガシ亜属、クヌギ節などを利用する。6977はイヌマキ製で、先端の加工が丁寧であり、また加工部分が広い。(註12)。

6981はアスナロ属製で、長さ160cmを超え、断面多角形状になる(註13)。6982・6985はイヌガヤ製、6983はサクラ属製である。6984・6986は又状になるもので、6984はクリ製の三又、6986はマツ属製の二又となる。先端部には削り出した加工痕が見られる。又部を利用したと考えられるが、用途は不明である。6987はクスノキ製の丸太材にV字状に切り込みを入れ、さらにその切り込みの奥に、先端が細い台形状切り込みを入れている。用途不明である。

角材 (6988～6998) 断面方形のものを一括する。6988は先端部に加工痕が見られる。6992はスギ製

で、表面に連続した加工痕が残る。6997はアカガシ亜属製で、先端部に加工痕が残る。残材であろうか。6998はイヌマキ製で、側縁部に加工痕がある。

板状製品 (6999～7018) 板状製品を一括、建築部材なども含む。ほとんどがスギ製で、一部シイ属製がある。6999は先端部を斜めに切断する。転用と考えられるが、用途不明である。

7001～7004・7014は両側の厚みを均等に加工し、さらに両端部を面取りしている。壁などに使う建築部材と考えられ、面取りは柱に差し込むためのものであろう(註14)。7007・7008は薄板である。

7015～7018はスギ製の建築部材と考えられるものである。7016は片側縁部が有段状となり、戸板の床材か(註15)。7017は表面および側縁部を丁寧に加工し、側縁部に大きな抉りをもつ。7018も側縁部に大きな抉りをもち、反対側は一段下がっている。2/3以上が炭化する。

割材 (7019～7022) アスナロ属、シイ属、クリの割材である。

瓢箪 (7023) 製品ではないが、図示する。中には種子が詰まった状態であった。食糧や容器に利用可能かと思われる。

2.古代から中世

S Z 1513 (7024) サカキ製の棒である。

S D 1525 (7025) スギ製の板状製品ある。

S E 1542 (7026・7027) 7026はアスナロ属製の板状製品である。7027は竹筒である。井戸を埋める際に、「息抜き」として埋設されたと見られる。

S D 1535 (7028～7036) 7028はヒノキ属製の円形曲物で、井戸枠として使用されていた。身は2段1ヶ所、箍は1段2ヶ所の木皮綴じが見られる。また箍には、木釘および木釘孔が残存する。7029はシキミ製で割材か。7034～7036はマツ属、クワ属製の杭である。

(清水)

註

(1)『木器集成図録 近畿原始篇』奈良国立文化財研究所1993、『木器集成図録 近畿古代篇』奈良国立文化財研究所1984、『六大A遺跡発掘調査報告(木製品編)』三重県埋蔵文化財センター2000、清水政宏「第3章 弥生時代 集成

木製品」『三重県史 資料編 考古1』三重県2005

(2) 穂積裕昌氏(三重県埋蔵文化財センター)、飯塚武司氏(東京都埋蔵文化財センター)、山田昌久氏(首都大学東京)、出土木器研究会の方々

(3) 前出1『木器集成図録 近畿原始篇』の狭楯分類のⅢ式に類似するものである。なお、本文では身幅15cm以上を「広楯」、以下を「狭楯」とする。

(4) 『青谷上寺地遺跡出土品調査研究報告1 木製容器・かご』鳥取県埋蔵文化財センター2005

(5) 後述(12)と同じく、建築部材の可能性も考えられよう。

(6) 山田昌久氏、穂積裕昌氏のご教示による。

(7) 樋上昇「第I章 木製農耕具の研究」『木製品から考える地域社会－弥生から古墳へ』雄山閣2010を参考に

する。

(8) 飯塚武司氏、山田昌久氏のご教示による。

(9) 山田昌久氏のご教示による。小型の臼を、大きな臼の底部中央に嵌め込んで組み合わせて使用する方法があるとのことである。

(10) 出土木器研究会の方々からは、残材の可能性も指摘されている。

(11) 山田昌久氏のご教示による。

(12) 杭のほか網代などの可能性も考えられる。飯塚武司氏、山田昌久氏のご教示による。

(13) 棧などに使われた建築部材の可能性もある。穂積裕昌氏のご教示による。

(14) 山田昌久氏のご教示による。

(15) 飯塚武司氏のご教示による。

IV 科学分析

木製品の樹種同定は、(株)吉田生物研究所が行った。ここでは同定結果報告書を基に編集を行い、掲載した。以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。解剖学的特徴はすべて(株)吉田生物研究所の所見による。

なお、古代から中世の木製品樹種同定については、弥生時代から古墳時代に使用されている樹種以外のものを掲載した。

観察方法は、剃刀で木口(横断面)、柾目(放射断面)、板目(接線断面)の各切片を採取した後、永久プレパラートを作製し顕微鏡で観察して同定した(図78～84)。

1. 弥生時代から古墳時代

1. スギ科スギ属スギ(*Cryptomeria japonica* D.Don)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に1～3個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

2. ヒノキ科アスナロ属(*Thujaopsis* sp.)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は

緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在または接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で1分野に2～4個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ(ヒバ、アテ)とヒノキアスナロ(ヒバ)があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

3. マキ科マキ属イヌマキ(*Podocarpus macropyllus* Sweet)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はゆるやかであり、年輪界がやや不明瞭で均質な材である。樹脂細胞はほぼ平等に散在し数も多い。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1～2個ある。短冊型をした樹脂細胞が早材部、晩材部の別なく軸方向に連続(ストランド)をなして存在する。板目では放射組織はすべて単列であった。イヌマキは本州(中・南部)、四国、九州、琉球に分布する。

4. マツ科マツ属[二葉松類](*Pinus* sp.)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は急であった。大型の垂直樹脂道が細胞間隙としてみられる。柾目では放射組織の放射柔細胞の分野壁孔は窓型である。上下両端の放射仮道管内は内腔に向

かつて鋸歯状に著しくかつ不規則に突出している。板目では放射組織は単列で1～15細胞高のものと、水平樹脂道を含んだ紡錘形のものがある。マツ属[二葉松類]はクロマツ、アカマツがあり、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。

5. マツ科モミ属 (*Abies* sp.)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は比較的ゆるやかで晩材部の幅は狭い。柾目では放射組織の上下縁辺部に不規則な形状の放射柔細胞がみられる。放射柔細胞の壁は厚く、数珠状末端壁になっている。放射組織の分野壁孔はスギ型で1分野に1～4個ある。板目では放射組織は単列であった。モミ属はトドマツ、モミ、シラベがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

6. イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ (*Cephalotaxus Harringtonia* K. Koch f. *drupacea* Kitamura)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は漸進的で、晩材の幅は非常に狭く、年輪界がやや不明瞭で均質な材である。樹脂細胞はほぼ平等に散在し数も多い。柾目では放射組織の分野壁孔はトウヒ型で1分野に1～2個ある。仮道管内部には螺旋肥厚が見られる。短冊形をした樹脂細胞が早材部、晩材部の別なく軸方向に連続(ストランド)して存在する。板目では放射組織はほぼ単列であった。イヌガヤは本州(岩手以南)、四国、九州に分布する。

7. クスノキ科クスノキ属クスノキ (*Cinnamomum Camphora* Presl)

散孔材である。木口では中庸の道管(～200 μ m)が単独または2ないし数個が放射方向あるいは斜方向に連続して年輪内に平等に分布する。軸方向柔細胞は道管の周囲を厚く鞘状に取り囲んでおり、その中に一見小さな道管と見間違えるほどの油細胞(樟脳油貯蔵細胞)がある。柾目では道管は単穿孔と側壁に交互壁孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔はレンズ状の大型壁孔が階段状に並んでいる。板目では放射組織は1～3細胞列、高さ～800 μ mからなる。放射組織の直立細胞や軸方向柔細胞が油細胞に変化したものが多く見られる。クスノキは本州(関東以西)、四国、九州に分布する。

8. ツバキ科サカキ属サカキ (*Cleyera japonica* Thunberg pro parte emend. Sieb. et Zucc.)

散孔材である。木口では極めて小さい道管(～50 μ m)が単独ないし2～4個複合して平等に分布する。柾目では道管は階段穿孔と側壁に対列ないし階段壁孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏、方形、直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔は対列状ないし階段状壁孔が存在する。板目では放射組織は単列、高さ～1.5mmからなる。木繊維の壁には有縁壁孔が一行に多数並んでいるのが見られる。サカキは本州(茨城、石川以西)、四国、九州に分布する。

9. ブナ科シイ属 (*Castanopsis* sp.)

環孔性放射孔材である。木口では孔圏部の道管(～300 μ m)は単独でかつ大きい接線方向には連続していない。孔圏外に移るにしたがって大きさを減じ、放射方向に火炎状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型で柵状の壁孔がある。板目では多数の単列放射組織が見られる。シイ属にはツブラジイとスダジイがあるが、ツブラジイに見られる集合～複合放射組織の出現頻度が低い為区別は難しい。シイ属は本州(福島、佐渡以南)、四国、九州、琉球に分布する。

10. ブナ科コナラ属アカガシ亜属 (*Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis*)

放射孔材である。木口では年輪に関係なくまちまちの大きさの道管(～200 μ m)が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線方向に1～3細胞幅の独立帯状柔細胞をつくっている。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなり、時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管放射組織間壁孔は大型で柵状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と放射柔細胞の塊の間に道管以外の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の間となる型の広放射組織が見られる。アカガシ亜属はイチイガシ、アカガシ、シラカシ等があり、本州(宮城、新潟以南)、四国、九州、琉球に分布する。

11. ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* Endlicher sect. *Cerris*)

環孔材である。木口では大道管 ($\sim 430\mu\text{m}$) が年輪界にそって1～数列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、厚壁で円形の小道管が単独に放射方向に配列している。放射組織は単列放射組織と非常に幅の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。放射組織はすべて平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には柵状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と肉眼でも見られる典型的な複合型の広放射組織が見られる。クヌギ節はクヌギ、アベマキがあり、本州 (岩手、山形以南)、四国、九州、琉球に分布する。

12. ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節 (Sect. *Prinus* Loudon syn. *Diversipilosae*, *Dentatae*)

環孔材である。木口では大道管 ($\sim 380\mu\text{m}$) が年輪界にそって1～3列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、薄壁で角張っている小道管が単独あるいは2～3個複合して火炎状に配列している。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。放射組織は全て平伏細胞からなり同性である。道管放射組織間壁孔には大型の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と肉眼でも見られる典型的な複合型の広放射組織が見られる。コナラ節にはコナラ、ミズナラ、カシワ等があり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

13. ブナ科クリ属クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.)

環孔材である。木口では円形ないし楕円形で大体単独の大道管 ($\sim 500\mu\text{m}$) が年輪にそって幅のかなり広い孔圏部を形成している。孔圏外は急に大きさを減じ薄壁で角張った小道管が単独あるいは2～3個集まって火炎状に配列している。柾目では道管は単穿孔と多数の有縁壁孔を有する。放射組織は大体において平伏細胞からなり同性である。板目では多数の単列放射組織が見られ、軸方向要素として道管、それを取り囲む短冊型柔細胞の連なり (ストランド)、軸方向要素の大部分を占める木繊維が見られる。クリは北海道 (西南部)、本州、四国、九州に分布する。

14. ニレ科ケヤキ属ケヤキ (*Zelkova serrata* Makino)

環孔材である。木口ではおおむね円形で単独の大道管 ($\sim 270\mu\text{m}$) が1列で孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、多角形の小道管が多数集まって円形、接線状あるいは斜線状の集団管孔を形成している。軸方向柔細胞は孔圏部では道管を鞘状に取り囲み、さらに接線方向に連続している (イニシアル柔細胞)。放射組織は1～数列で多数の筋として見られる。柾目では大道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織は平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなり異性である。方形細胞はしばしば大型のものがある。板目では放射組織は少数の1～3列のものと大部分を占める6～7細胞列のほぼ大きさの様な紡錘形放射組織がある。紡錘形放射組織の上下端の細胞は、他の部分に比べ大型である。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。

15. バラ科サクラ属 (*Prunus* sp.)

散孔材である。木口ではやや小さい道管 ($\sim 100\mu\text{m}$) がほぼ一定の大きさで、単独あるいは放射方向ないし斜方向に連なり分布している。柾目では道管は単穿孔と側壁に交互壁孔及び螺旋肥厚を有する。道管内には着色物質が見られる。放射組織は同性ないし異性で中央部の平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなる。板目では放射組織は1～4細胞列、高さ $\sim 1\text{mm}$ からなる。サクラ属はサクラ、ヤマナシなどがあり、本州、四国、九州、琉球に分布する。

16. ツツジ科スノキ属シャシャンボ (*Vaccinium bracteatum* Thunberg)

散孔材である。木口ではきわめて小さい道管 ($\sim 50\mu\text{m}$) が、単独あるいは2～3個複合して散在する。柾目では道管は単穿孔、階段穿孔 (バー数1～10) と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。板目では放射組織は凸レンズ形を呈する直立細胞の単列のものと、5～8細胞列で高さがきわめて高い多列放射組織 ($\sim 2\text{mm}$ 以上) からなる。多列部には鞘細胞が見られる。シャシャンボは本州 (関東南部、東海、石川以西)、四国、九州に分布する。

17. ウリ科ユウガオ属 (*Lagenaria* sp.) の果皮

横断面では外側から厚壁細胞の厚壁組織、その内側の薄壁細胞の柔組織がみられる。柔断面では多面体の柔細胞がみられる。ユウガオ属のユウガオと

ヒョウタンの果実はともに熟成すると果皮が堅くなるので、容器をつくる材料として用いられている。

2. 古代から中世

18. ヒノキ科ヒノキ属 (*Chamaecyparis* sp.)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行が急であった。樹脂細胞は晩材部に偏在している。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で1分野に1～2個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。ヒノキ属はヒノキ、サワラがあり、本州（福島以南）、四国、九州に分布する。

19. クワ科クワ属 (*Morus* sp.)

環孔材である。木口では大道管（ $\sim 280\mu\text{m}$ ）が年輪界にそって1～5列並んで孔圏部を形成している。孔圏外では小道管が2～6個、斜線状ないし接線状、集合状に不規則に複合して散在している。柾目では道管は単穿孔と対列壁孔を有する。小道管には螺旋肥厚もある。放射組織は平伏と直立細胞からなり異性である。道管内には充填物（チロース）が

見られる。板目では放射組織は1～6細胞列、高さ $\sim 1.1\text{mm}$ からなる。単列放射組織はあまり見られない。クワ属はヤマグワ、ケグワ、マグワなどがあり、北海道、本州、四国、九州に分布する。

20. シキミ科シキミ属シキミ (*Illicium religiosum* Sieb. et Zucc.)

散孔材である。木口では小道管（ $\sim 40\mu\text{m}$ ）が単独または2～4個が接線状、放射状に複合して分布する。年輪界の始めて道管が年輪にそって環孔状に配列している。柾目では道管は階段穿孔、側壁に階段壁孔と螺旋肥厚を有する。放射組織は平伏と方形、直立細胞からなり異性である。道管放射組織間壁孔は対列状ないし階段状の壁孔がある。板目では放射組織は1～2細胞列、高さ $\sim 800\mu\text{m}$ からなる。シキミは本州（関東以西）、四国、九州に分布する。

21. イネ科タケ亜科 (Subfam. Bambusoideae)

横断面では維管束がみられる。放射断面、接線断面では厚壁繊維の組織やその他の基本組織の細胞が稈軸方向に配列している。タケ亜科は熱帯から暖帯、一部温帯に分布する。

V まとめ

今回の調査により、久留倍遺跡の裾部から縁辺部にかけて、多くの弥生時代から中世にかけての遺構を確認することができた。これは遺跡全体に集落の広がりがあったことを示唆するものである。また土器や木製品が大量に出土したことにより、貴重な歴史的財産を蓄積することとなった。これらの成果については『久留倍遺跡5』にて総括を行っているのので、そちらを参照されたい。

これから本格的に国指定史跡「久留倍官衙遺跡」の史跡整備を行っていく。今後は地域に根ざした歴史の掘り起こしを目指し、調査で得られた貴重な歴史的財産を公開する機会を設け、今まで以上に広く市民の方々の目に触れていただけるよう身近な遺跡公園として、また学習の場となるよう整備に努めていきたいと考えている。

（清水）

表2 竪穴住居観察表

遺構番号	時期	規模(m)				出土遺物	備考	小地区
		東西	南北	面積(m ²)	深さ			
SH998	弥生中期	4.5	4.5	20.25	0.2	弥生土器	・排水溝付随、SX991に北側削平。 ・SH1582→SH998。	2R48～50, 2S48/49
SH1569	古墳後期	4.5	2.6以上	11.7以上	0.1	須恵器、土師器	・東半分攪乱で削平。	2T48/49, 2U49
SH1577	弥生後期	5.6	7.1	39.76	0.2	弥生土器、石製品	・排水溝(SD1564)か。 ・貯蔵穴(SK1587)あり。	2S49～51, 2T49～51
SH1582	弥生中期	7.0	4.7	32.90	0.2	弥生土器片	・排水溝付随。・炉跡2つあり ・床区画溝あり。・SH1582→SH998。	2R49/50, 2S49/50, 2T49
SH1584	弥生後期か	3.8	1.8以上	6.84以上	0.2	弥生土器片	・排水溝あり。	2V49

表3 谷・付属施設観察表

遺構番号	時期	平面形	規模(m)			出土遺物	備考	小地区
			東西	南北	深さ			
SR578	弥生中期～中世	—	110以上	6.0～17	2.5～4.0	縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、灰釉陶器、山茶碗、白磁、土製丸玉、石斧、石錘、砥石等が多量に出土。特にⅡ-b層からは木製品が多く出土	・層位はⅠ-b層(古代～中世)、Ⅰ-c層(古墳後期)、Ⅱ-a層(弥生後期～古墳初頭)、Ⅱ-b層(弥生中期)、Ⅲ層(無遺物層)に分類。	2L32～3N39, 2O30～3N39
SZ1507	弥生中期	半楕円形	3.8	5.2	1.4	弥生土器、木製品、敲石	・SR578のⅡ-b層から掘り込む。	3B36/37, 3C36/37
SZ1508	弥生後期～古墳初頭	長楕円形	2.7	5.6	1.1	弥生土器、土製丸玉	・SR578のⅡ-a層から掘り込む。	3E35/36
SZ1509	弥生後期	楕円形	1.3	1.1	1.0	弥生土器、木製品	・埋土 黒灰色粘土。 ・SR578のⅡ-a層から掘り込む。	3B37
SZ1515	弥生中期	円形	1.2	1.3	0.9	弥生土器、木製品		3D37
SZ1545	古墳初頭	長楕円形	2.4	6.0	0.2	土師器		3G35/36

表4 方形周溝墓観察表

遺構番号	時期	墳丘規模(m)		外周規模(m)		出土遺物	備考	小地区
		東西	南北	東西	南北			
SX1500	古墳初頭	12.1	5.3以上	14.4	7.6以上	土師器	・南周溝の陸橋東側から多く出土。	3A41～3D43
SX1520	古墳初頭	7.8	8.0	10以上	11.4	土師器		2V44～47, 2W44～47 2X44～46
SX1552	弥生中期	11.4	14.0	14.3	18.8以上	弥生土器、磨製石斧	・土器が南周溝の西半に集中して出土。	2U52/53, 2V51～55, 2W50 ～2X55, 2Y52～54, 2Z52

※墳丘規模は、周溝内側の立ち上がりからの幅値を示す。また外周規模は、周溝外側からの最大値を示す。

表5 古墳観察表

遺構番号	時期	墳丘規模(m)		外周規模(m)		出土遺物	備考	小地区
		東西	南北	東西	南北			
SX991	古墳後期	9.2	8.7	12.5	11.7	須恵器、土師器、白玉、焼土片	・円墳。 ・2時期の遺物あり。	2Q48～2S51
SX1567	古墳後期	12.6	7.0以上	15.0	9.3以上	須恵器、土師器	・円墳。	2S51～53, 2T51/52 2U52～2V54
SD1557	古墳後期	5.8	0.9～1.9	深さ0.3		須恵器、土師器	・古墳の周溝の一部。	2X54～56, 2Y54/55

※墳丘規模は、周溝内側の立ち上がりからの幅値を示す。また外周規模は、周溝外側からの最大値を示す。

表6 火葬墓観察表

遺構番号	時期	規模(m)			出土遺物	備考	小地区
		東西	南北	深さ(m)			
SX1537	中世	0.4	0.4	深さ0.1	底面には炭化物が堆積	・円形火葬墓。	3H43
SX1538	中世	0.4	0.9	深さ0.1	遺構の検出面付近に炭化物層	・長楕円形火葬墓。	3H43

表7 掘立柱建物観察表

遺構 番号	時期	形態	建物 方位	棟 方向	間 数		規模(m)		面積 (㎡)	柱間寸法(m)		柱掘方 形状	柱掘方規 模(m)	出土遺物	小地区
					桁行	梁行	桁行	梁行		桁行	梁行				
SB1578	平安	側柱	N-10°-E	東西	3	3	4.20	4.00	16.80	東から 北側1.5+1.2+1.5 南側1.4等間	北から 1.5+1.0+1.5	円形	0.4~0.7 柱痕 0.2		2Q52/53 2R52/53 2S52/53
										東から(尺) 北側5+4+5 南側4.7等間	北から(尺) 5+3.3+5				
SB1579	平安	側柱	N-30°-E	東西	3	3 (西側) 2	6.30	4.95	31.19	2.10	1.65 (西側)2.48	円形	0.5 柱痕 0.2	灰釉陶器	2P50 2Q49~51 2R50/51
										(尺) 7	(尺) 5.5 (尺 西側) 8.25				
SB1591	中世	側柱	N-19°-E	東西	3	2	6.60	4.00	26.40	西から 1.9+1.9+2.8	北から 1.8+2.2	円形 楕円形	0.2~0.65	山茶碗、山皿、 常滑焼甕	2V47/48 2W47
SB1592	中世	側柱	N-21°-E	東西	3	2	6.70	3.45	23.12	西から 2.1+2.5+2.1	北から 1.8+1.65	円形 楕円形	0.2~0.6	土師器、陶器	2U47/48 2V47/48 2W47/48
SB1593	中世	側柱	N-23°-E	東西	3	2	6.60	3.90	25.74	2.20	1.95	円形	0.25~0.5	土師器、山茶碗、山 皿、土鉢。山茶碗の 一つに炭化物塊入る	2T47/48 2U47/48 2V48/49
SB1594	中世	側柱	N-21°-E	南北	4	2	6.60	3.60	23.76	北から 1.5+1.2+2.1+1.8 (東側) 1.65	1.80	円形 不整 円形	0.3~0.7	山茶碗	2U49 2V47~ 2V49 2W47/48
SB1595	中世	側柱	N-23°-E	東西	2	2	5.10	2.80	14.28	2.55	北から 1.6+1.2	円形	0.2~0.3		2T48/49 2U48/49
SB1596	中世	側柱	N-24°-E	東西	3 以上	2	6.6 以上	4.40	29.04 以上	2.20	北から 2.4+2.0	円形	0.2~0.5	山茶碗	2U47/48 2V47~49 2W48
SB1597	中世	側柱	N-22°-E	東西	4	2	8.20	3.50	28.70	西から 1.5+2.2+2.1+2.4	1.75	円形	0.3~0.6	山茶碗	2T47~49 2U48/49 2V48/49
SB1598	中世	側柱	N-24°-E	東西	4	2	7.95	3.50	27.83	西から 2.4+1.8+2.4+1.35	1.75	円形	0.2~0.4	土師器、山茶碗	2T48 2U48/49 2V48/49
SB1599	中世	側柱	N-35°-E	南北	3	2 以上	6.30	2.1 以上	13.23 以上	2.10	2.10	円形 不整 円形	0.4~0.6	土師器、山茶碗	2U49/50 2V49/50
SB1600	時期 不明	総柱	N-26°-W	南北	2	3	3.90	3.70	14.43	1.95	北から 1.4+1.1+1.2	円形	0.2~0.4		2Y42/43 2Z42
SB1601	時期 不明	側柱	N-24°-E	東西	2 以上	2	4.0 以上	3.50	14.0 以上	2.00	1.75	円形	0.2~0.3		3B42/43 3C42

表8 P i t 観察表

遺構 番号	時期	平面 形	規模(m)			出土遺物	小地区
			長さ	幅	深さ		
3H42P2	中世	円形	0.35	0.35	0.2	信楽焼の茶壺が1 個体出土	3H42
2S50P3	中世	楕円 形	0.6	0.4	0.1	山茶碗が1 個体出土	2S50

表9 土坑観察表

遺構番号	時期	平面形	規模(m)			出土遺物	備考	小地区
			長軸	短軸	深さ			
SK1501	古代	楕円形	2.0	1.5以上	0.29	フイゴ羽口、灰釉陶器		2Y41
SE1503	古代	不定形	4.2以上	3.4	1.90	須恵器、土師器、清郷型鍋、土鍾	・最下層で百代寺。	2Y39/40, 2Z38～40
SK1512	古代	不定形	2.2以上	1.5	0.10～0.17	灰釉陶器		3F35/36, 3G35/36
SZ1513	中世	円形	0.75	0.75	0.25	木製品	・SR578の南岸中段肩で検出。	3B36
SK1516	弥生後期～古墳初頭	円形	0.4	0.4	0.24	土器		3F34/35
SK1518	弥生後期	円形	0.6	0.5	0.14	弥生土器		3F35
SK1523	中世前期	方形	2.2	2.0	0.33	山茶碗		2W44/45
SK1524	中世	楕円形	0.9	0.4	0.24	山茶碗		2V47
SK1526	中世	楕円形	4.6	2.1以上	0.73	陶器		2X45/46, 2Y45
SK1529	中世	－	－	－	－	山茶碗	・掘削により消滅。	3G41/42
SK1530	古代	不定形	3.8	1.2以上	0.05～0.27	緑釉陶器		3G42/43
SK1539	古代	長楕円	2.4	1.5	0.80	須恵器		3K34/35
SE1542	中世	不明	3.2	不明	1.50	土師器、山茶碗、陶器、石製品、竹筒	・井戸埋め戻しの際に、竹を息抜きとして設置。	3F41, 3G41, 3H41
SK1562	弥生後期?	不定形	1.9	1.3	0.37		・SD1555を切る井戸か。	2Z54/55, 3A54/55
SE1566	中世以降	円形	5.1	3.3以上	2.4以上	山茶碗、常滑		2X51/52, 2Y51/52
SK1570	平安～中世前期	不定形	3.7	2.1以上	0.12	土師器、山茶碗、常滑		2V48, 2W48
SK1572	平安～中世前期	不定形	3.2	1.2以上	0.20	緑釉陶器、山茶碗、常滑		2V49, 2W49
SK1573	中世	不定形	2.2	0.5	0.14			2T48
SK1574	古代	方形	1.3	1.1	0.13	須恵器		2S50
SK1581	中世か	方形	1.3	1.1	0.10	土師器	・SH1582を削平。	2R50
SK1587	弥生後期	不定形	0.9以上	0.8	0.49		・SH1577の貯蔵穴。	2T51

表10 溝観察表

遺構番号	時期	規模(m)			出土遺物	備考	小地区
		長さ	幅	深さ			
SD952	中世	57.5	1.6～2.1	0.15～1.3	山茶碗 (北バイ)土師器、陶器、土鍾、平瓦など	・この溝の下部から古代の溝SD1548を検出。	2G45～2M49, 2G45～2K52
SD1502	古代	9.0	1.3	0.10	須恵器、灰釉陶器、山茶碗		3A40～3D41
SD1505	古代	19.8	1.6～2.1	0.15～1.3	土師器、灰釉陶器、山茶碗		2Z38～3D41
SD1510	－	－	－	－	須恵器	・掘削により消滅。	3D34, 3E34/35, 3F34/35 3G34/35
SD1511	中世	6.9	0.4～1.1	0.19～0.29	山茶碗		3F35, 3G35
SD1514	弥生後期～古墳初頭	3.6	1.0以上	0.10～0.50	土器		3G34
SD1521	中世前期	7.1	0.5～1.1	0.22			2U45～47
SD1525	古代	43.7	1.3～2.4	0.50～1.00	須恵器、土師器、灰釉陶器、砥石、自然木		3H43～3L36
SD1533	古代	10.7	0.3～1.2	0.5～1.2	須恵器、土師器、ロクロ土師器		3H40/41, 3I40/41, 3J40
SD1535	中世	8.0以上	3.2	0.98	土師器、山茶碗、山皿、木製品、曲物	・木組のある溝。	3F41, 3G41, 3H41
SD1536	－	－	－	－	灰釉陶器	・掘削により消滅。	3H43
SD1546	中世前期	2.4以上	3.4～4.5	0.17～0.22			2T54～2Z57 2U54～2X57
SD1548	古代	36.0以上	0.4～0.8	0.1～0.5	ロクロ土師器、灰釉陶器	・SD952の下層。	2N50～2V55
SD1555	弥生か	5.2以上	1.1	0.12			3A53/54
SD1556	弥生か	5.6以上	0.9以上	0.17			3A54/55, 3B54
SD1563	中世前期	11.4	0.5～0.7	0.04～0.14			2Q51～2T52
SD1564	弥生後期	4.3	0.7	0.20		・SH1577の排水溝か。	2T51/52
SD1580	中世前期	8.4以上	1.2～2.1	0.39	石製品	・SH998、SX991を削平。	2R48～50, 2S49/50
SD1583	古代以降	18.0以上	1.2～1.6	0.38		・SD1525と一連の区画溝となる可能性有り。	2Y39, 2Y40～3C41

表11 土器・土製品観察表

報告書 番号	出土位置 出土遺構	器 種	法量(cm)			調 整 技 法 の 特 徴	色 調	残存度 (%)	備 考
			口径	底径	器高				
6000	2R49 SH998 サブトレ	壺	9.0	—	—	外—棒状浮文、凹線文、刺突文、直線文、扇状文、斜格子文、縦線文 内—ヨコナデ、磨減	にぶい黄橙(10YR7/4)	口95	
6001	2R49 SH998 サブトレ	壺	—	—	—	外—流水文、沈線、刺突文、ヨコナデ 内—磨減	にぶい橙(7.5YR7/4)	体10	
6002	2R49 SH998	壺	—	7.4	—	外—タテハケ 内—磨減	浅黄橙(10YR8/4)	底100	黒斑
6003	2R49 SH998	壺	—	4.0	—	外—タテハケ 内—磨減	浅黄橙(10YR8/4)	底50	黒斑
6004	2S49 SH998 上層	甕	—	7.8	—	外内—磨減	にぶい黄橙(10YR7/3)	底15	黒斑
6005	2R49 SH998	台付甕	—	6.0	—	外内—磨減	淡赤橙(2.5YR7/4)	台70	黒斑
6006	2R49 SH998	台付壺	—	9.3	—	外内—磨減	にぶい黄橙(10YR7/4)	台100	
6007	2S49 SH998 床上	高杯	—	14.3	—	外—磨減 内—ヨコハケ	浅黄橙(10YR8/4)	底15	
6008	2V53 SX1552	甕	23.2	—	—	外—刻み目、ヨコナデ、タテハケ、タタキ 内—ヨコハケ、磨減	にぶい橙(7.5YR7/4)	口10	
6009	2V54 SX1552	甕	14.4	—	—	外—ヨコナデ、タテハケ、磨減 内—ヨコハケ、ケズリ	にぶい橙(7.5YR7/4)	口35	外面に炭化物付着
6010	2V53 SX1552	甕	14.6	—	—	外—ヨコナデ、タテハケ 内—ヨコナデ、タテハケ	にぶい黄橙(10YR7/4)	口15	周溝内土器群1 No.3
6011	2X50 SX1552	甕	18.2	—	—	外—ヨコナデ、ハケ 内—ヨコナデ、ヨコハケ、タテハケ	にぶい黄橙(10YR7/3)	口25	
6012	2V53 SX1552	甕	—	7.9	—	外—磨減、タテハケ、ナデ 内—ヘラケズリ	浅黄橙(10YR8/4)	底95	周溝内土器群1 No.5 黒斑
6013	2V53 SX1552	甕	—	6.6	—	外—タテハケ、ナデ 内—ヘラケズリ	にぶい橙(7.5YR7/4)	底30	周溝内土器群1 No.5 黒斑
6014	2V53 SX1552	台付甕	—	6.6	—	外—タテハケ(磨減)、磨減 内—磨減	橙(7.5YR7/6)	台60	周溝内土器群1 No.5 黒斑
6015	2V51 SX1552	台付甕	—	7.0	—	外—タテハケ、磨減 内—磨減	淡赤橙(2.5Y7/4)	底90	黒斑
6016	2V54 SX1552	台付甕	—	6.4	—	外—タテハケ、ヨコハケ 内—磨減	にぶい橙(7.5YR7/4)	底35	黒斑
6017	2X50 SX1552	台付甕	—	7.9	—	外—タテハケ 内—板ナデ、指ナデ	灰白(10YR8/2)	底40	黒斑
6018	2V54 SX1552	甕	—	5.8	—	外—タテハケ、磨減 内—磨減 底—焼成前穿孔	にぶい黄橙(10YR7/3)	底95	黒斑
6019	2X50 SX1552	甕	—	6.8	—	外—タテハケ、磨減 内—ヘラケズリ 底—焼成後穿孔	浅黄橙(10YR8/3)	底100	
6020	2V54 SX1552	壺	—	—	—	外—簾状文、直線文、タテハケ 内—磨減	にぶい黄橙(10YR7/4)	肩部5	
6021	2V53 SX1552	壺	—	—	—	外—波状文、縦線文 内—磨減	にぶい橙(7.5YR6/4)	肩部15	周溝内土器群1 No.3 三河系
6022	2W50 SX1552	壺	10.4	—	—	外—凹線文、ヨコナデ、タテハケ 内—ミガキ	浅黄橙(10YR8/3)	口35	
6023	2V53 SX1552	壺	—	5.5	—	外内—磨減	にぶい黄橙(10YR7/4)	底100	周溝内土器群1 No.3
6024	2V54 SX1552	壺	10.0	5.6	—	外—凹線文、タテハケ、ヨコハケ 内—磨減	浅黄橙(10YR8/3)	口35 底70	周溝内土器群2 No.2
6025	2W51 SX1552 黒褐	壺	—	—	—	外内—磨減	にぶい橙(7.5YR7/4)	小片	三河系 黒斑
6026	2V53 SX1552	壺	—	9.3	—	外—貼付突帯文、竹管文、直線文、波状文、タテハケ 内—ナデ、ハケ	浅黄橙(10YR8/3)	底80	周溝内土器群1 No.2 黒斑
6027	2W54 SX1552 下層	蓋	—	つまみ径 5.3	—	外—指ナデ、指オサエ、磨減 内—指ナデ、磨減	にぶい黄橙(10YR7/4)	つまみ50	
6028	2W51 SX1552	蓋	10.7	—	—	外—磨減 内—ヨコハケ	にぶい橙(7.5YR7/4)	口55	
6029	2X51 SX1552 下層	壺	27.0	—	—	外—凹線文 内—磨減	浅黄橙(10YR8/4)	口10	
6030	2V54 SX1552	高杯	—	脚部9.2	—	外—ヘラケズリ、ハケ 内—タテナデ、ヨコナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	底75	周溝内土器群2 No.1
6031	2W54 SX1552 上層	土製丸玉	直径—	孔径3.0	高さ2.1	ナデ	淡黄(2.5Y8/3)	—	黒斑 重さ15g
6032	3C43 SX1500 南周溝	壺	16.1	—	—	外—刻み目、ヨコナデ 内—ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	口10	I 層
6033	3C43 SX1500 南周溝	壺	14.6	—	—	外内—磨減	橙(7.5YR7/6)	口15	No.4
6034	3C43 SX1500 南周溝	壺	15.2	—	—	外—刺突文、磨減 内—ヨコナデ、磨減	橙(7.5YR7/6)	口20	No.4 内外面に黒斑
6035	3C43 SX1500 南周溝	壺	—	5.5	—	外—磨減 内—ヨコハケ	橙(7.5YR7/6)	底100	No.4 外面に黒斑
6036	3C43 SX1500 南周溝	壺	—	—	—	外—擬凹線文、ハケ 内—ヨコナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	小片	I 層
6037	SX1500 南周溝	高杯	15.2	—	—	外—磨減、ミガキ、直線文、3方スカシ 内—磨減	橙(7.5YR6/6)	口5	No.2
6038	SX1500 土器	台付甕	—	7.0	—	外—ハケメ、磨減 内—磨減	橙(7.5YR7/6)	台90	No.7 内外面に黒斑
6039	3C43 SX1500 南周溝	土製丸玉	直径3.0	孔径0.5	高さ3.0	ナデ	橙(5YR6/6)	完形	I 層 重さ22g
6040	SX1500 南周溝	壺	15.6	5.0	34.0	外—ミガキ 内—ヨコハケ	橙(7.5YR7/6)	底100 体25	No.2、No.6
6041	2S50 SH1577	甕	17.6	—	—	外内—磨減	浅黄橙(10YR8/3)	口10	
6042	2U50 SH1577 壁周溝	甕	22.6	—	—	外—ヨコナデ、タテハケ 内—ヨコナデ、ヨコハケ、タテハケ	にぶい橙(7.5YR7/4)	口25	
6043	2T50 SH1577	甕	17.6	—	—	外—ヨコナデ 内—ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	口10	外面に炭化物付着、黒斑
6044	2T50 SH1577	甕	16.5	—	—	外—ヨコナデ、ナメハケ 内—ヨコハケ、ナメハケ	にぶい黄橙(10YR7/3)	口15	外面に炭化物付着
6045	2T49 SH1577 床面	甕	15.6	—	—	外—ヨコナデ、タテハケ 内—ヨコハケ、ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	口60	No.6 外面に炭化物付着
6046	2T50 SH1577	甕	14.5	—	—	外—刻み目、刺突文、ヨコナデ 内—ヨコナデ、磨減	浅黄橙(10YR8/3)	口20	
6047	2T50 SH1577	甕	15.6	—	—	外—ヨコナデ、刺突文、ハケ、直線文 内—ヨコナデ、磨減	橙(5YR7/6)	口10	
6048	2S50 SH1577	甕	12.3	—	—	外—ナデ、タテハケ 内—ヨコハケ、ヨコナデ	浅黄橙(10YR8/3)	口20	
6049	2U50 SH1577 壁周溝	甕	12.6	4.8	15.7	外—ヨコナデ、タテハケ 内—ヨコハケ、ケズリ	黄灰(2.5Y5/1)	50	
6050	2T49 SH1577 床面	壺	11.8	—	—	外内—磨減	浅黄橙(10YR8/3)	口10	No.5
6051	2T49 SH1577 床面	壺	—	5.8	—	外—磨減 内—ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	底90	葉脈痕 No.5
6052	2T50 SH1577	壺	—	5.3	—	外—磨減、タテハケ 内—ナデ	にぶい橙(5YR6/4)	底95	
6053	2T49 SH1577 床面	壺	13.0	4.9	27.3	外—ヨコナデ、ハケ、直線文、刺突文、波状文、ミガキ、葉脈痕 内—刺突文、ヨコハケ、ナデ	浅黄橙(10YR8/4)	底100	黒斑
6054	2T50 SH1577	高杯	22.0	—	—	外—磨減、ミガキ 内—磨減、ミガキ	にぶい橙(7.5YR7/4)	杯屈曲部5	黒斑
6055	2T49 SH1577	高杯	—	—	—	外—ヨコナデ、ミガキ、磨減 内—ミガキ	浅黄橙(10YR8/3)	口15	
6056	2T49 SH1577 床面	高杯	25.6	—	—	外—磨減、直線文 内—磨減	浅黄橙(10YR8/3)	口15	
6057	2T49 SH1577 床面	高杯	22.6	—	—	外—磨減、ヨコハケ、ミガキ 内—ミガキ、磨減	にぶい黄橙(10YR7/3)	口60	黒斑
6058	2T49 SH1577	高杯	8.8	—	—	外—ヨコナデ 内—ヨコハケ	にぶい橙(7.5YR7/4)	口15	
6059	2T49 SH1577 床面	高杯	13.4	—	—	外—ヨコナデ、磨減、ヨコハケ、タテハケ 内—ヨコナデ、ヨコハケ	浅黄橙(10YR8/3)	口10	
6060	2T50 SH1577	高杯	13.0	—	—	外内—磨減	浅黄橙(10YR8/4)	口30	
6061	2T50P5 S H1577	高杯	—	—	—	外—ミガキ、直線文 内—磨減、ミガキ、シボリメ、杯部剥離	浅黄橙(10YR8/3)	脚50	
6062	2T49 SH1577 床面	高杯	—	12.7	—	外—磨減、3方スカシ、ハケ 内—磨減、シボリメ、ヨコハケ	浅黄橙(10YR8/3)	脚70	
6063	2S50 SH1577 トレンチN	蓋	14.4	つまみ径 3.0	5.2	外—タテハケ、ヨコナデ 内—ナデ	にぶい黄橙(10YR7/2)	口15	
6064	2T49 SH1577	手焙形土器	—	5.0	—	外—ヨコナデ、タテハケ、刻み目突帯、板ナデ、刻み目突帯 内—ヨコナデ、タテハケ、磨減	にぶい橙(7.5YR7/4)	底20	
6065	2T50 SH1577	ミナハツ甕	6.6	—	—	外内—ナデ	橙(5YR6/6)	口15	
6066	2T50 SH1577	ミナハツ甕	—	3.7	—	外—磨減、ナデ 内—ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	底60	
6067	2T52 SH1577排水溝	ミナハツ甕	7.4	3.4	—	外—ヨコハケ、タテハケ、磨減 内—ヨコナデ、ハケ	にぶい黄橙(10YR7/4)	底100	SD1564
6069	2V46 SX1520 西溝陸橋東	甕	—	—	—	外内—ヨコナデ	灰黄褐(10YR6/2)	小片	外面に炭化物付着
6070	2W47 SX1520 西溝	S字甕	14.0	—	—	外—押し刺突文、ヨコナデ、ヨコハケ、タテハケ 内—磨減	浅黄橙(10YR8/3)	口30	
6071	2V44 SX1520 北溝	壺	—	—	—	外—ハケ、結節縄文 内—ハケ	にぶい橙(7.5YR6/4)	小片	
6072	2W47 SX1520 南周溝 陸橋西	高杯	—	—	—	外—ミガキ、直線文 内—シボリメ	にぶい黄橙(10YR6/4)	小片	
6073	2X46 SX1520 南周溝	手焙形土器	16.0	5.0	—	外—タテハケ、ヨコナデ、貼付突帯、刻み目 内—磨減、ヨコハケ	にぶい橙(7.5YR6/4)	口10 底75	黒斑
6074	3C34 SD1514	壺	16.8	—	—	外—刺突文、磨減 内—ヨコナデ	灰白(10YR8/2)	口25	

報告書 番号	出土位置 出土遺構	器 種	法量(cm)			調 整 技 法 の 特 徴	色 調	残存度 (%)	備 考
			口径	底径	器高				
6075	3G34 SD1514	台付甕	-	7.5	-	外-タテハケ 内-ヨコハケ、タテハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	台20	
6076	3F34 SK1516	壺	12.6	-	-	外-ヨコナデ、刺突文、タテハケ、直線文 内-ヨコナデ、ヨコハケ	にぶい黄橙(10YR7/4)	口25	
6077	3F34 SK1516	甕	19.0	-	-	外-ヨコナデ、タテハケ 内-磨減、ヨコハケ	にぶい橙(7.5YR7/4)	口15	
6078	3F34 SK1516	台付壺	-	台部12.5	-	外-磨減、4方スカシ 内-磨減	灰黄(2.5Y7/2)	台70	
6079	3F35 SK1518	台付甕	-	6.6	-	外内-磨減	にぶい橙(7.5YR7/4)	台30	
6080	2X45 P1	台付壺	-	4.2	-	外-ミガキ、ナデ 内-磨減、ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	台80	
6081	2V53 P10黒色	壺	12.0	-	-	外-凹線文、磨減 内-磨減	灰白(10YR8/2)	口10	
6082	2V53 P10黒色	甕	-	4.9	-	外内-磨減	浅黄橙(10YR8/4)	底55	黒斑
6083	2U46 P1	台付甕	-	6.5	-	外-タテハケ、磨減 内-ヘラケズリ	橙(5YR7/6)	台40	
6084	2U46 P1	台付甕	-	7.4	-	外内-磨減	にぶい橙(5YR7/4)	台90	
6085	2U46 P1	台付壺	-	台部13.8	-	外-タテハケ 内-ヨコナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	台25	裾部に炭化物付着
6086	2U48 SH1569	須恵器杯身	-	-	-	外内-ロクロナデ	灰(N7/1)	体10	
6087	2U48 SH1569	ミナ7鍋	-	-	-	外内-ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	小片	
6088	3E35 SD1510	須恵器高杯	13.3	-	-	外-ロクロナデ、沈線、刺突文 内-ロクロナデ	灰白(2.5Y8/1)	口10	
6089	3E24 SD1510	土師器 甕	25.7	-	-	外-磨減 内-磨減、ヨコハケ	浅黄橙(10YR8/3)	口10	内面に炭化物付着
6090	2V44 P1	須恵器杯身	11.3	-	-	外内-ロクロナデ	灰(7.5Y6/1)	口10	
6091	2V54 P7	須恵器高杯	-	7.2	-	外-ロクロナデ、スカシ 内-ロクロナデ	灰(N6/0)	底25	
6092	2Q50 P11 柱痕	須恵器埴瓶 か平瓶	6.7	-	-	外-ロクロナデ、沈線 内-ロクロナデ	灰(N6/0)	口30	
6093	表土	須恵器器台	-	-	-	外-ロクロナデ、波状文、沈線、スカシ 内-ロクロナデ	灰(N6/0)	体10	
6094	表土	須恵器杯身	10.5	7.4	3.8	外-ロクロナデ、ロクロケズリ、ヘラ切り 内-ロクロナデ	灰白(N7/0)	底20 口10	
6095	表土	須恵器杯身	12.0	5.8	3.8	外-ロクロナデ、ロクロケズリ、ロクロナデ 内-ロクロナデ	灰白(N7/0)	底20 口5	
6096	2Q51 SX991	須恵器杯蓋	12.0	径12.0	4.4	外-ロクロケズリ、ロクロナデ 内-ロクロナデ	灰(5Y6/1)	完形	土器1
6097	2Q51 SX991	須恵器杯身	10.3	3.8	4.7	外-ロクロナデ、ロクロケズリ 内-ロクロナデ	灰(5Y6/1)	完形	土器1
6098	2S50 SX991	須恵器杯身	9.8	-	-	外内-ロクロナデ	灰白(2.5Y8/1)	口15	
6099	2S50 SX991	須恵器杯身	-	-	-	外-ロクロナデ、ロクロケズリ 内-ロクロナデ	灰(N7/0)	体25	
6100	2Q50 SX991	須恵器杯身	10.2	-	4.6	外-ロクロナデ、ロクロケズリ 内-ロクロナデ	灰(N6/0)	口40	
6101	2S50 SX991 上層	須恵高杯蓋	12.1	つまみ径 2.4	4.7	外-ロクロナデ、ロクロケズリ 内-ロクロナデ	灰(N5/0)	口30	
6102	2S49 SX991 アゼ	須恵器杯蓋	12.0	径12.4	4.7	外-ロクロケズリ、ロクロナデ 内-ロクロナデ	灰(N6/0)	天井完形	著しく歪む
6103	2S49 SX991	須恵器杯蓋	13.0	-	4.1	外-ヘラ切り、ロクロケズリ、ロクロナデ 内-ロクロナデ	灰(N6/0)	口55 天井100	
6104	2S50 SX991	須恵器杯身	10.7	4.4	3.7	外-ヘラ切り、ロクロナデ 内-ロクロナデ	灰白(7.5Y7/1)	口20	
6105	2S50 SX991	須恵器杯身	-	4.2	3.5	外-ロクロナデ、ヘラ切り 内-ロクロナデ、一定方向ナデ	灰白(10Y7/1)	底25	
6106	2S50 SX991	須恵器 短頸壺	11.7	-	5.7	外-ロクロナデ、ロクロケズリ 内-ロクロナデ	黄灰(2.5Y6/1)	50 底50	
6107	2S49 SX991	土師器 小型埴	7.4	1.0	7.7	外-磨減、ヨコナデ 内-ヨコナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	95	
6108	2S50 SX991	土師器 鍋把手	幅17 厚1.5			ナデ、磨減	にぶい橙(5YR6/4)	把手のみ	外面に炭化物付着
6109	2S50 SX991	土師器 甕	15.6	-	-	外-磨減 内-ヨコナデ、ヨコハケ、磨減	灰白(10YR8/2)	口20	
6110	2S50 SX991	土師器 甕	17.6	-	-	外-磨減 内-磨減、ヨコハケ	浅黄橙(10YR8/3)	口15	
6111	2S50 SX991	土師器 甕	15.8	-	-	外-ヨコハケ、ヨコナデ、タテハケ 内-磨減	灰白(10YR8/2)	口10	
6112	2S50 SX991	土師器高杯	-	-	-	外-ナデ 内-ヨコナデ、シボリメ	にぶい橙(7.5YR7/4)	脚40	
6113	2S50 SX991	土師器高杯	-	-	-	外-磨減、ヨコナデ 内-ヘラナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	脚50	
6114	2Q51 SX991	土師器高杯	-	-	-	外内-磨減	橙(5YR6/8)	底50	土器2
6115	2Q51 SX991	土師器高杯	-	-	-	外内-磨減	橙(5YR6/6)	小片	土器2
6116	2Q51 SX991	土師器高杯	-	-	-	外-磨減 内-磨減、シボリメ	橙(5YR6/8)	脚50	土器2
6117	2T51 SX1567 サブトレ①	須恵器杯蓋	10.6	-	-	外内-ロクロナデ	灰(N5/0)	口10	
6118	2T51 SX1567 サブトレ②	須恵器杯蓋	12.0	-	3.9	外-ヘラ切りナデ、ロクロナデ 内-ロクロナデ	灰白(N7/0)	口10	
6119	2T50 SX1567 SNアゼ	須恵器杯身	8.6	-	-	外内-ロクロナデ	灰(N6/0)	口10	
6120	2T51 SX1567	須恵器杯身	11.7	8.2	3.2	外-ロクロナデ、ロクロケズリ? 内-ロクロナデ	灰白(5Y7/1)	口20	
6121	2U51 SX1567	須恵器杯身	-	5.4	-	外-ロクロナデ 内-ロクロナデ 全体的に磨減	灰白(10Y8/1)	底100	ヘラ記号「△」
6122	2U51 SX1567	須恵器杯身	10.5	-	-	外-ロクロナデ 内-ロクロナデ	灰(5Y6/1)	口10	
6123	2U51 SX1567 上層	須恵器杯身	-	-	-	外内-ロクロナデ	灰白(N7/0)	体10	
6124	2U51 SX1567	須恵器 壺	-	5.4	-	外-ロクロナデ、ロクロケズリ 内-ロクロナデ	灰(5Y6/1)	底95	
6125	2V54 SX1567 (SX1552)	須恵器 直口壺	8.2	-	-	外-ロクロナデ、タタキ 内-ロクロナデ、指オサエ、ヨコハケ、ヨコナデ	灰(5Y6/1)	口35 体30	内外面に自然軸
6126	2T50 SX1567	須恵器 甕	18.3	-	-	外-ロクロナデ、平行タタキ 内-ロクロナデ、当て具	灰白(N7/0)	口85	SH1577への混入
6127	2T51 SX1567 アゼ	土師器 甕	16.5	-	-	外-ヨコナデ 内-ヨコハケ、磨減	灰白(10YR8/2)	口30	内面に炭化物付着
6128	2T51 SX1567	土師器高杯	-	-	-	外-板ナデ 内-シボリメ、ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	脚50	
6129	2T50 SX1567	土師器高杯	-	-	-	外-ナデ 内-タテナデ、ヨコナデ	にぶい橙(7.5YR6/4)	脚30	
6130	2X55 SD1557	須恵器杯蓋	11.6	3.5	9.2	外-磨減、ロクロケズリ、ロクロナデ 内-ロクロナデ	灰白(5Y8/1)	口10	E
6131	2X55 SD1557	須恵器杯身	11.0	4.7	3.7	外-ロクロナデ、ロクロケズリ 内-ロクロナデ	灰(5/0)	50	D・G
6132	2X55 SD1557	須恵器高杯	-	-	-	外-ロクロナデ、スカシ長方形・双方向 内-ロクロナデ	黄灰(2.5Y6/1)	杯30	内外面に自然軸 C
6133	2X55 SD1557	須恵器高杯	-	-	-	外-ロクロナデ、ロクロケズリ 内-ロクロナデ	灰白(5Y7/1)	杯20	
6134	2X55 SD1557	須恵器高杯	14.2	脚10.6	13.0	外-ロクロナデ、ロクロケズリ、スカシ長方形・双方向、沈線 内-ロクロナデ	黄灰(2.5Y6/1)	50	B
6135	2X55 SD1557	須恵器高杯	14.2	-	-	外-ロクロナデ、ロクロケズリ 内-ロクロナデ	灰(N5/0)	口15	
6136	2X55 SD1557	須恵器 壺	-	2.3	-	外-ロクロナデ、刺突文、沈線、ロクロケズリ 内-ロクロナデ	灰白(2.5Y7/1)	体50	底部にヘラ記号「×」 A
6137	2X55 SD1557	土師器 碗	11.4	3.7	4.6	外内-磨減	灰白(10YR8/2)	口50	G
6138	2X55 SD1557	土師器高杯	-	-	-	磨減	浅黄橙(10YR8/3)	小片	
6139	3C37 SZ1507	甕	27.0	-	-	外-タタキ、タテハケ 内-ハケメ、磨減	にぶい黄橙(7.5YR6/4)	口10	
6140	3C37 SZ1507	甕	32.0	-	-	外-ヨコナデ、タタキ、タテハケ 内-ヨコハケ、ハケ	浅黄(2.5Y7/3)	頸10	
6141	3C37 SZ1507 II-b層	甕	17.2	-	-	外-刺突文、タテハケ、タタキ 内-ヨコハケ、磨減	にぶい黄橙(10YR6/3)	口15	外面に炭化物付着
6142	3C37 SZ1507 II-b層	甕	21.8	-	-	外-刻み目、ヨコナデ、タタキ、タテハケ 内-ヨコハケ、タテハケ、磨減	にぶい黄橙(10YR6/3)	口10	
6143	3C37 SZ1507 II-b層	甕	12.2	-	-	外-刻み目、タテハケ、タタキ、刺突文 内-ヨコハケ、磨減、タテハケ	灰黄褐(10YR6/2)	口35	外面に炭化物付着
6144	3C37 SZ1507	甕	17.0	-	-	外-ヨコナデ、タタキ、ハケメ 内-ハケメ	灰黄(2.5Y7/2)	口15	外面に炭化物付着
6145	3C37 SZ1507 II-b層	甕	13.2	-	-	外-刺突文、ナデ、直線文 内-ナデ	にぶい黄橙(10YR7/2)	口10	

報告書 番号	出土位置 出土遺構	器 種	量 法 (cm)			調 整 技 法 の 特 徴	色 調	残存度 (%)	備 考
			口径	底 径	器 高				
6146	3C37 SZ1507 II-b層	甕	15.0	—	—	外-刻み目、ヨコナデ、タタキ、タテハケ 内-ヨコハケ、タテハケ	灰黄褐(10YR4/2)	口10	内外面に炭化物付着
6147	3C37 SZ1507 II-a層	甕	33.2	—	—	外内-ハケ	にぶい黄橙(10YR7/3)	口5	
6148	3C37 SZ1507 II-b層	甕	—	7.8	—	外-ヨコハケ、タテハケ、ナデ 内-ナデ	オリブ黒(5Y3/1)	台50	
6149	3C37 SZ1507 II-b層	台付甕	—	6.2	—	外-タテハケ 内-ヘラケズリ、磨減 底-焼成前穿孔	にぶい黄橙(10YR7/2)	台25	黒斑
6150	3C37 SZ1507 II-b層	台付甕	—	7.7	—	外-ハケメ 内-ナデ	灰黄(2.5Y6/2)	台60	黒斑
6151	3C37 SZ1507 II-b層	台付甕	—	6.4	—	外-ヨコハケ、タテハケ 内-磨減、指オサエ、ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	台40	黒斑
6152	3C37 SZ1507	ミナブ 台付甕	—	4.1	—	外-タテハケ 内-ナデ 底-穿孔途中	暗灰黄(2.5Y5/2)	台25	外面炭化物付着
6153	3C37 SZ1507 II-a層	壺	9.4	—	—	外-凹線文、ヨコナデ、ミガキ 内-ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	口10	
6154	3D37 SZ1507 II-b層	壺	9.2	—	—	外-凹線文、ハケメ、ナデ 内-ナデ	褐灰(10YR6/2)	口5	黒斑
6155	3C37 SZ1507 II-b層	壺	16.4	—	—	外-凹線文、磨減 内-ヨコナデ、磨減	浅黄(2.5Y7/3)	口10	
6156	3C37 SZ1507 II-b層	壺	17.6	—	—	外-凹線文、ハケ 内-ヨコナデ、磨減	にぶい黄橙(10YR7/2)	口5	
6157	3C37 SZ1507 II-b層	壺	24.0	—	—	外-凹線文、磨減 内-磨減	浅黄(2.5Y7/3)	口10	
6158	3C37 SZ1507 II-b層	壺	26.4	—	—	外-凹線文、縦線文、ヨコナデ、ハケ 内-羽状文、扇状文	浅黄橙(7.5YR8/3)	口5	
6159	3C37 SZ1507 II-b層	壺	—	—	—	外-凹線文、ナデ 内-刺突文	にぶい褐(7.5YR5/4)	小片	三河系?
6160	3C37 SZ1507 II-b層	壺	—	—	—	外-ハケ、直線文、扇状文、波状文 内-ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	小片	
6161	3C37 SZ1507 II-b層	壺	—	—	—	外-直線文、刺突文 内-磨減ハケの痕跡)	にぶい黄橙(10YR7/3)	小片	
6162	3C37 SZ1507 II-b層	壺	—	—	—	外-ヨコナデ、貼り付け突帯、刻み目 内-ハケ	にぶい黄橙(10YR6/3)	小片	
6163	3D37 SZ1507 II-b層	壺	—	—	—	外-ナデ、直線文、籐状文 内-ハケメ、ナデ	灰黄褐(10YR6/2)	小片	
6164	3C37 SZ1507 II-b層	甕	—	8.0	—	外-ハケメ、ナデ 内-ケズリ	灰黄(2.5Y6/2)	底完形	黒斑
6165	3C37 SZ1507 II-b層	壺	—	—	—	外-ミガキ、ナデ 内-指ナデ、指オサエ	暗灰黄(2.5Y5/2)	体50	黒斑
6166	3C37 SZ1507 II-b層	壺	—	8.0	—	外-磨減 内-ハケメ	にぶい黄(2.5YR6/3)	底完形	黒斑
6167	3C37 SZ1507 II-b層	壺	—	8.0	—	外-直線文、波状文、タテハケ 内-オサエ、ナデ、タテハケ	にぶい黄橙(10YR6/3)	底40	黒斑
6168	3C37 SZ1507 II-a層	高杯	23.2	—	—	外-凹線文、ヨコナデ 内-ミガキ	灰黄(2.5Y6/2)	口10	
6169	3C37 SZ1507 II-b層	高杯	—	—	—	外-ヨコナデ、ケズリ 内-ヨコナデ、磨減	灰黄(2.5Y7/2)	口10	
6170	3C37 SZ1507 II-a層	高杯	22.2	—	—	外-ヨコナデ、ミガキ 内-ヨコナデ、ミガキ	黄灰(2.5Y4/1)	口5	
6171	3D37 SZ1507 II-b層	高杯	25.9	—	—	外-凹線文 内-ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	口5	
6172	3C37 SZ1507 II-b層	高杯	—	—	—	外-凹線文、タテハケ 内-ヨコナデ、タテハケ	にぶい黄橙(10YR7/3)	小片	
6173	3C37 SZ1507 II-b層	高杯	—	—	—	外-ミガキ 内-ミガキ、板ナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	小片	
6174	3E36 SZ1508 II-a層	甕	15.2	—	—	外-押引刺突文、磨減 内-磨減	浅黄橙(10YR8/3)	口40	
6175	3E36 SZ1508 II-a層	甕	15.6	—	—	外-刻み目、ヨコナデ、直線文、刺突文、タテハケ 内-磨減、ヘラケズリ	灰黄褐(10YR5/2)	口10	
6176	3E36 SZ1508 II-a層	台付甕	—	8.6	—	外-磨減 内-磨減	赤橙((10R6/6)	裾45	
6177	3E36 SZ1508 II-a層	甕	15.8	—	—	外-ヨコナデ、刺突文、直線文、刺突文 内-ハケメほぼ磨減単位不明	にぶい褐(7.5YR6/3)	口30	外面に炭化物付着
6178	3E36 SZ1508 II-a層	甕	20.8	—	—	外-刻み目、刺突文、磨減、ハケ 内-磨減	にぶい橙(7.5YR7/4)	口20	
6179	3E36 SZ1508 II-a層	台付甕	18.2	7.4	27.7	外-ハケ 内-ヨコナデ、磨減	灰黄褐(10YR6/2)	口20 台80	外面に炭化物付着
6180	3E36 SZ1508 II-a層	壺	19.6	—	—	外-擬凹線文、ナデ 内-羽状文、磨減	浅黄橙(10YR8/3)	口5	
6181	3E36 SZ1508 II-a層	壺	13.2	—	—	外-ナデ、円形浮文、ミガキ 内-磨減	にぶい黄橙(10YR7/3)	口10	
6182	3E36 SZ1508 II-a層	壺	—	4.8	—	外-磨減、ミガキ 内-ミガキ、オサエ、ヨコナデ、ヨコハケ	にぶい黄橙(10YR7/2)	底100	
6183	3E36 SZ1508 II-a層	壺	—	6.0	—	外-直線文、磨減 内-磨減	灰黄褐(10YR6/2)	底86	黒斑
6184	3E36 SZ1508 II-a層	台付壺(鉢)	—	—	—	外-ミガキ、直線文、スカシカ所残る 内-ミガキ	にぶい黄橙(10YR6/3)	体60	
6185	3E36 SZ1508 II-a層	台付壺	—	—	—	外-磨減 内-ヨコナデ	灰白(10YR8/2)	体30	
6186	3E36 SZ1508 II-b層	壺	—	—	—	外-直線文 内-磨減	オリブ黒(5Y3/1)	小片	三河系
6187	3E36 SZ1508 II-a層	高杯	22.4	—	—	外-磨減、ミガキ 内-磨減	灰黄褐(10YR5/2)	口15	
6188	3E36 SZ1508 II-a層	高杯	30.4	—	—	外-磨減、ミガキ 内-磨減	にぶい黄橙(10YR6/3)	口10	
6189	3E36 SZ1508 II-a層	高杯	23.5	—	—	外内-磨減	にぶい橙(7.5YR7/3)	口5	
6190	3E36 SZ1508 II-a層	ミナブ 高杯	—	8.7	—	外-ミガキ磨減、直線文、3方スカシ 内-ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	裾10	外面に赤彩
6191	3E36 SZ1508 II-a層	高杯	—	—	—	外-磨減、直線文、3方スカシ 内-磨減、シボリメ	浅黄橙(7.5YR8/3)	頸100	
6192	3E36 SZ1508 II-a層	土製丸玉	径5.3	—	高さ4.9	ナデ	灰白(10YR8/2)	完形	孔径0.6cm、重さ132g
6193	3C37 SZ1509	高杯	11.1	—	—	外-ミガキ、タテハケ、スカシカ所残る 内-ヨコナデ、ミガキ	灰黄(2.5Y6/2)	口30	No.2
6194	3C37 SZ1509	壺	—	7.0	—	外内-磨減	灰白(10YR8/2)	底35	No.1
6195	3B37 SZ1509	壺	9.3	6.6	22.0	外-ヨコナデ、タテハケ、磨減 内-ヨコハケ	灰白(10YR8/2)	底50 口30	黒斑
6196	3C37 SZ1509 II層	壺	—	—	—	外-羽状文、ヨコナデ、タテハケ 内-ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR7/2)	小片	
6197	3C37 SZ1509	壺	20.0	—	—	外-波状文、凹線文、磨減 内-扇状文、瘤状突起、磨減	淡橙(5YR8/4)	口10	
6198	3B37 SZ1509	壺	—	—	—	外-刺突文、直線文、波状文 内-ナデ	にぶい黄橙(10YR7/2)	小片	
6199	3C37 SZ1509	壺	—	8.0	—	外-タテハケ、磨減 内-ナデ	にぶい橙(7.5YR7/3)	底20	
6200	3C37 SZ1509	壺	—	—	—	外-直線文 内-磨減	オリブ黒(5Y3/1)	小片	三河系
6201	3C37 SZ1509	台付甕	—	5.6	—	外-ナデ、磨減 内-磨減、オサエ、ナデ	黄灰(2.5Y4/1)	頸70 台5	
6202	3C37 SZ1509	甕	—	5.6	—	外-タテハケ 内-ヘラケズリ	灰白(10YR8/2)	底50	黒斑
6203	3D37 SZ1515	甕	32.8	—	—	外-オサエ、タタキ、タテハケ 内-ヨコハケ、ヨコナデ、タテハケ	にぶい黄橙(10YR7/2)	口10	外面に炭化物付着
6204	3D37 SZ1515	甕	16.6	—	—	外-磨減、タタキ、タテハケ 内-ヨコハケ	灰黄(2.5Y7/2)	口10	
6205	3D37 SZ1515	甕	—	7.8	—	外-ヨコハケ、磨減 内-ヘラケズリ	灰黄褐(10YR5/2)	底10	内外面に黒斑
6206	3D37 SZ1515	壺	30.2	—	—	外-ヨコナデ、凹線文、縦線文 内-ヨコナデ	灰黄(2.5Y6/2)	口5	
6207	3D37 SZ1515	高杯	31.0	—	—	外-凹線文、磨減 内-磨減	灰白(10YR8/2)	口10	No.2
6208	3D37 SZ1515	高杯	—	—	—	外-凹線文、羽状文 内-磨減	にぶい黄橙(7.5YR7/3)	小片	
6209	3D37 SZ1515	台付壺	—	7.0	—	外-タテハケ、ヨコナデ 内-指オサエ、指ナデ、ヨコナデ	灰黄(2.5Y6/2)	台10	
6210	3G36 SZ1545①	甕	13.8	—	—	外-ヨコナデ、刺突文、タテハケ 内-磨減、ヨコハケ	にぶい黄橙(10YR7/2)	口10	
6211	3G36 SZ1545①	甕	18.8	—	—	外-ヨコナデ、刺突文、磨減 内-磨減	灰黄褐(10YR6/2)	口30	
6212	3G36 SZ1545①	台付甕	—	6.1	—	外-ナデ 内-磨減	浅黄橙(10YR8/3)	台40	
6213	SZ1545①	台付甕	—	7.5	—	外内-磨減	にぶい黄橙(10YR7/3)	台50	
6214	3G36 SZ1545	ミナブ 台付甕	—	3.3	—	外内-磨減	浅黄橙(10YR8/3)	台95	
6215	3G36 SZ1545①	台付甕	—	8.2	—	外-ナデ 内-ハケ、ヨコナデ	灰黄(2.5Y7/2)	台90	黒斑
6216	3G36 SZ1545①	壺	13.8	—	—	外-磨減、ミガキ 内-磨減、ミガキ	にぶい黄橙(10YR7/2)	口10	
6217	3G36 SZ1545①	壺	—	—	—	外-ヨコハケ、結節縄文 内-ハケ、オサエ	浅黄橙(10YR8/3)	小片	
6218	3G36 SZ1545①	小型器台	9.4	—	—	外-磨減、ミガキ 内-磨減	にぶい黄橙(10YR7/4)	口80	
6219	3G36 SZ1545①	高杯	—	—	—	外-ミガキ、直線文、スカシ 内-シボリメ、ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	脚40	

報告書 番号	出土位置 出土遺構	器 種	法量(cm)			調 整 技 法 の 特 徴	色 調	残存度 (%)	備 考
			口径	底径	器高				
6220	3E36 SR578 II-Ⅱ層	縄文土器 深鉢	16.8	—	—	外—指オサエ、ケズリ 内—指オサエ、ナデ	黒褐(25Y3/1)	小片	縄文晩期前半
6221	3I38 SR578 II-Ⅱ層	甕	16.9	—	—	外—刻み目、タタキ、タテハケ 内—タテハケ、ナデ	灰黄褐(10YR6/2)	□22	外面に炭化物付着
6222	3F38 SR578 II-Ⅱ層	甕	16.4	—	—	外—刻み目、タタキ、タテハケ、ナメハケ 内—ヨコハケ、ヨコナデ、タテハケ	にぶい黄(25Y6/3)	□10	外面に炭化物付着
6223	3E36 SR578 II-Ⅱ層	甕	17.8	—	—	外—ヨコナデ、タテハケ、タタキ、焼成後穿孔 内—タテハケ、ヨコナデ	灰黄(25Y7/2)	□15	黒斑
6224	3E37 SR578 II-Ⅱ層	甕	22.6	—	—	外—刻み目、タテハケ、タタキ 内—ヨコハケ、磨減	にぶい褐(7.5YR6/3)	□8	No.2 外面に炭化物付着
6225	3D37 SR578 II-Ⅱ層	甕	20.8	6.2	25.1	外—刻み目、ヨコナデ、タテハケ、タタキ 内—ヨコハケ、タテハケ、ヘラケズリ	灰黄(25Y7/2)	□25	外面に炭化物付着
6226	3G37 SR578 II-Ⅱ層	甕	19.0	—	—	外—刺突文、タタキ、タテハケ 内—ヨコハケ、タテハケ	灰黄褐(10YR6/2)	□15	外面に炭化物付着
6227	3I38 SR578 II-Ⅱ層	甕	24.0	—	—	外—刻み目、ハケメ、タタキ 内—ハケメ	にぶい黄橙(10YR7/3)	□10	外面に炭化物付着
6228	3D37 SR578 II-Ⅱ層	甕	28.2	—	—	外—タタキ、タテハケ 内—ヨコハケ、ナメハケ	にぶい黄橙(10YR7/3)	□5	
6229	3H38 SR578 II-Ⅱ層	甕	27.2	—	—	外—刻み目、タテハケ、タタキ 内—ヨコハケ、ナメハケ	にぶい黄橙(10YR6/3)	□10	
6230	3E37 SR578 II-Ⅱ層	甕	14.3	—	—	外—沈線、刻み目、タテハケ、タタキ、刺突文 内—ヨコナデ、タテハケ	にぶい黄橙(10YR7/2)	□5	外面に炭化物付着
6231	3C35 SR578 II-Ⅱ層	甕	22.0	—	—	外—沈線、タタキ、タテハケ 内—ヨコナデ、ナメハケ、ヨコハケ	灰黄(25Y7/2)	□10	外面に炭化物付着
6232	3G37 SR578 II-Ⅱ層	甕	20.0	—	—	外—沈線、タタキ、タテハケ 内—ヨコナデ、ナメハケ、ヨコハケ	にぶい黄橙(10YR6/3)	□25	外面に炭化物付着
6233	3H38 SR578 II-Ⅱ層	甕	20.2	—	—	外—ヨコナデ、タタキ、タテハケ 内—磨減	浅黄(25Y7/3)	□10	
6234	3I38 SR578 II-Ⅱ層	甕	16.0	—	—	外—沈線、ヨコナデ、タタキ、タテハケ 内—ヨコナデ、タテハケ	暗灰黄(25Y5/2)	□5	紐孔
6235	3E36 SR578 II-Ⅱ層	甕	17.0	—	—	外—ヨコナデ、ヨコハケ、タテハケ 内—ヨコハケ、タテハケ	褐灰(10YR5/1)	□20	内外面に炭化物付着
6236	3C35 SR578 II-Ⅱ層	甕	20.0	—	—	外—刺突文、ヨコナデ 内—ヨコナデ、ヨコハケ	浅黄(25Y7/3)	□35	
6237	3G37 SR578 II-Ⅱ層	甕	28.6	—	—	外—刻み目、ヨコハケ、タテハケ、ヨコナデ 内—ヨコハケ、タテハケ、ナデ	灰白(25Y8/2)	□10	黒斑
6238	3C36 SR578 II-Ⅱ層	甕	21.1	—	—	外—ナデ、刻み目、ハケメ 内—ハケメ	灰白(10YR8/2)	□10	外面炭化物付着
6239	3G37 SR578 II-Ⅱ層	甕	27.8	—	—	外—タタキ、タテハケ 内—ヨコハケ、タテハケ	明褐灰(7.5YR7/2)	□10	外面に炭化物付着
6240	3E37 SR578 II-Ⅱ層	甕	28.4	—	—	外—タタキ 内—ヨコハケ、磨減	にぶい黄橙(10YR7/3)	□10	No.5
6241	3E37 SR578 II-Ⅱ層	甕	19.0	—	—	外—ヨコナデ、直線文、磨減 内—ヨコハケ、タテハケ	にぶい黄橙(10YR7/2)	□5	No.20木製品
6242	3E37・3J37 SR578 II-Ⅱ層	甕	18.8	—	—	外—刻み目、直線文、タテハケ 内—ヨコハケ、磨減	にぶい黄橙(10YR7/2)	□40	外面に炭化物付着
6244	3H38 SR578 II-Ⅱ層	甕	17.8	—	—	外—刻み目、ヨコナデ、タテハケ 内—ヨコハケ、ヘラケズリ	褐灰(10YR4/1)	□15	外面に炭化物付着
6245	3F37 SR578 II-Ⅱ層	甕	18.8	—	—	外—刻み目、タテハケ、直線文 内—ヨコナデ、磨減	灰黄褐(10YR5/2)	□10	
6246	3E37 SR578 II-Ⅱ層	甕	20.6	—	—	外—ナデ、ヘラケズリ、沈線 内—ナデ、ヘラケズリ	灰黄(25Y7/2)	□10	
6247	3E36 SR578 II-Ⅱ層	甕	14.8	—	—	外—沈線、波状文、ヨコナデ 内—ヨコナデ、ヨコハケ	灰黄褐(10YR6/2)	□20	外面に炭化物付着
6248	3D37 SR578 II-Ⅱ層	甕	14.2	—	—	外—ヨコナデ、刻み目 内—ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	□15	外面に炭化物付着
6249	3B36・3G37 SR578 II-Ⅱ層	甕	18.4	—	—	外—ヨコナデ、直線文、列点文 内—ヨコナデ、ヨコハケ	にぶい黄橙(10YR7/2)	□20	外面に炭化物付着
6251	3G37 SR578 II-Ⅱ層	甕	—	8.0	—	外—タテハケ、ナデ 内—ヘラケズリ	灰黄(25Y7/2)	底50	外面に炭化物付着
6252	3D37 SR578 II-Ⅱ層	甕	—	4.9	—	外—タテハケ、ナデ 内—ヘラケズリ	浅黄橙(10YR8/3)	底完形	外面に炭化物付着
6253	3C36 SR578 II-Ⅱ層	甕	—	8.0	—	外—タタキ、タテハケ 内—磨減	黄灰(25Y4/1)	底80	黒斑
6254	3H38 SR578 II-Ⅱ層	甕	—	5.2	—	外—タテハケ、ハケ 内—ヘラケズリ	灰黄(25Y6/2)	底完形	黒斑
6255	3H38 SR578 II-Ⅱ層	甕	—	4.8	—	外—タテハケ、磨減 内—ヘラケズリ、磨減 底—焼成後穿孔	灰黄(25Y7/2)	底完形	黒斑
6256	3E37 SR578 II-Ⅱ層	甕	—	6.0	—	外—タテハケ 内—磨減 底—焼成後穿孔	灰黄褐(10YR5/2)	底30	黒斑
6257	3E37 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	—	4.6	—	外—タテハケ 内—ケズリ、指ナデ	灰黄(25Y6/2)	台100	外面に炭化物付着
6258	3H38 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	—	7.4	—	外—タテハケ 内—ヘラケズリ、ナデ	灰黄(25Y6/2)	台完形	黒斑
6259	3E37 SR578 II-Ⅱ層	ミナハ 台付甕	—	3.8	—	外内—磨減	暗灰黄(25Y5/2)	台40	黒斑
6260	3E37 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	—	7.9	—	外—タテハケ、磨減 内—磨減	灰黄(25Y7/3)	台35	黒斑
6261	3D37 SR578 II-Ⅱ層	ミナハ 台付甕	—	4.0	—	外—磨減 内—指オサエ	灰黄(25Y6/2)	台85	黒斑
6262	3C35 SR578 II-Ⅱ層	ミナハ 台付甕	4.8	—	—	外—ハケ 内—オサエ、ナデ	灰黄(25Y6/2)	裾80	
6263	3H38 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	—	6.6	—	外—タテハケ 内—指オサエ 底—焼成後穿孔	灰黄(25Y7/2)	台50	黒斑
6264	3C35 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	—	5.7	—	外—タテハケ 内—ヨコナデ	灰黄(25Y6/2)	台85	外面に炭化物付着
6265	3D37 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	—	7.0	—	外—タテハケ 内—磨減、ヨコハケ	灰黄(25Y6/2)	台完形	黒斑
6266	3D37 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	—	6.9	—	外—タテハケ、内—ナデ、指オサエ	灰黄(25Y6/2)	台完形	
6267	3E37 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	—	6.8	—	外—タテハケ、内—ヘラケズリ、ナデ 底—焼成後穿孔途中	灰黄褐(10YR6/2)	台45	外面に炭化物付着
6268	3E37 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	—	6.4	—	外—タテハケ 内—ヘラケズリ、ナデ	灰白(25Y8/2)	台完形	
6269	3F38 SR578 II-Ⅱ層	把手	—	—	—	磨減	灰白(25Y8/2)	小片	
6270	3E37 SR578 II-Ⅱ層	台付鉢	16.4	—	—	外—ヨコナデ、指オサエ、タテハケ(板ナデ) 内—ヘラケズリ	灰黄褐(10YR4/2)	□10	No.36
6271	3H37 SR578 II-Ⅱ層	台付鉢	—	—	—	外—タテハケ、スカシ残存2個(方向数不明) 内—ナデ、充填	灰白(25Y8/2)	不明 10	黒斑
6272	3E36 SR578 II-Ⅱ層	鉢	18.8	5.0	14.9	外—タタキ、タテハケ、ナデ、磨減 内—ヨコハケ、ナデ 底—焼成前穿孔	褐灰(10YR5/1)	70	
6273	3G38 SR578 II-Ⅱ層	壺	23.8	—	—	外—凹線文、ヨコナデ 内—刺突文、扇状文、瘤状突起	浅黄橙(10YR8/3)	□10	
6274	3D37 SR578 II-Ⅱ層	壺	24.6	—	—	外—凹線文、刺突文、指オサエ、タテハケ 内—扇状文、瘤状突起、羽状文	にぶい黄橙(10YR7/3)	□15	
6275	3G37 SR578 II-Ⅱ層	壺	23.6	—	—	外—凹線文、ヨコナデ、磨減 内—刺突文、扇状文	にぶい黄橙(7.5YR7/4)	□5	
6276	3I38 SR578 II-Ⅱ層	壺	22.0	—	—	外—波状文、磨減 内—羽状文、瘤状突起、ナデ	褐灰(10YR6/3)	□15	
6277	3J37 SR578 II-Ⅱ層	壺	26.6	—	—	外—波状文、ヨコナデ、タテハケ 内—羽状文、ヨコナデ、ヨコハ ケ	にぶい褐(7.5YR5/3)	□10	
6278	3E37 SR578 II-Ⅱ層	壺	29.2	—	—	外—斜格子文、ヨコナデ 内—羽状文、瘤状突起、扇状文	灰黄(25Y6/2)	□10	
6279	3G37 SR578 II-Ⅱ層	壺	22.0	—	—	外—斜格子文、ヨコナデ 内—籬状文、扇状文、ヨコナデ	灰白(25Y8/2)	□10	
6280	3C36 SR578 II-Ⅱ層	壺	23.8	—	—	外—ヨコナデ、斜格子文 内—ヨコナデ、羽状文	にぶい黄橙(10YR7/3)	□10	
6281	3J37 SR578 II-Ⅱ層	壺	—	—	—	外—ヨコナデ、板ナデ、波状文 内—扇状文、瘤状突起(残存2個)、ヨコハケ、タテハケ	にぶい黄橙(10YR7/2)	□10	
6282	3J37 SR578 II-Ⅱ層	壺	—	—	—	外—磨減 内—刺突文、扇状文、磨減	灰白(10YR8/2)	□10	
6283	3H37 SR578 II-Ⅱ層	壺	13.8	—	—	外—波状文、ヨコナデ 内—扇状文、ヨコナデ	灰黄褐(10YR6/2)	□10	
6284	3I38 SR578 II-Ⅱ層	壺	10.6	—	—	外—刻み目、タテハケ 内—ヨコハケ、円形浮文、竹管文	灰黄(25Y6/2)	□5	
6285	3G37 SR578 II-Ⅱ層	壺	11.6	—	—	外—磨減、タテハケ、直線文 内—ヨコナデ	灰黄(25Y7/2)	□25	
6286	3D37 SR578 II-Ⅱ層	壺	14.8	—	—	外—ヨコナデ、刻み目、磨減 内—ヨコナデ、指ナデ、磨減	にぶい黄橙(10YR7/3)	□20	
6287	3C36 SR578 II-Ⅱ層	壺	18.0	—	—	外—ヨコナデ、ハケメ 内—ヨコナデ、ハケメ	にぶい黄橙(10YR7/2)	□20	
6288	3D37 SR578 II-Ⅱ層	壺	16.6	—	—	外—沈線、刻み目、タテハケ 内—ヨコハケ	にぶい黄橙(10YR7/3)	□15	

報告書 番号	出土位置 出土遺構	器 種	法量 (cm)			調 整 技 法 の 特 徴	色 調	残存度 (%)	備 考
			口径	底径	器高				
6289	3C36・3F40 SR578 II-6層	壺	14.3	—	—	外-沈線、ヨコナデ、タテハケ 内-ヨコハケ、ミガキ	にぶい黄橙(10YR7/3)	□20	
6290	3C35 SR578 II-6層	壺	16.0	—	—	外-沈線、ヨコナデ、タテハケ 内-ヨコナデ	灰黄褐(10YR5/2)	□20	
6291	3C35 SR578 II-6層	壺	17.2	—	—	外-磨減、直線文、ヨコナデ、ミガキ、貼付突帯、ヨコハケ 内-ミガキ、ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	□45	
6292	3B36 SR578 II-6層	壺	19.4	—	—	外-ヨコナデ、刺突文、ミガキ 内-ヨコナデ、ミガキ	にぶい黄橙(10YR7/2)	□15	外面に炭化物付着
6293	3C35 SR578 II-6層	壺	16.0	—	—	外-ヨコナデ、羽状文、ミガキ 内-ヨコナデ、ミガキ	灰褐(7.5YR6/2)	□20	
6294	3B36 SR578 II-6層	壺	15.6	—	—	外-刺突文、ヨコナデ 内-ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	□10	
6295	3E37 SR578 II-6層	壺	13.0	—	—	外-ナデ、直線文、ミガキ 内-ミガキ	浅黄橙(7.5YR8/3)	□10	
6296	3D37 SR578 II-6層	壺	—	—	—	外-羽状文、直線文、扇状文、ミガキ 内-ナデ	灰黄(2.5Y6/2)	小片	
6297	3C35 SR578 II-6層	壺	12.6	—	—	外-ヨコナデ、ミガキ 内-ヨコナデ、指オサエ	浅黄橙(10YR8/3)	□70	
6298	3B36 SR578 II-6層	壺	18.4	—	—	外-刻み目、ヨコナデ、タテハケ、直線文、波状文 内-ヨコナデ、磨減	黒褐(2.5Y3/1)	□5	三河系
6299	3B36 SR578 II-6層	壺	—	—	—	外-磨減、直線文、タテハケ、ナデ 内-磨減、タテハケ	灰黄(2.5Y6/2)	頭部のみ	三河系?
6300	3E37 SR578 II-6層	壺	—	—	—	外-タテハケ、直線文 内-ヨコナデ	灰黄褐(10YR5/2)	小片	三河系?
6301	3C37 SR578 II-6層	壺	—	—	—	外-直線文、波状文 内-剥離	黒(7.5Y2/1)	頭部のみ	三河系
6302	3I38 SR578 II-6層	壺	—	—	—	外-直線文、波状文 内-磨減	オリーブ黒(5Y3/1)	小片	三河系
6303	3F38 SR578 II-6層	壺	—	—	—	外-波状文、直線文 内-指ナデ、指オサエ	黄灰(2.5Y4/1)	小片	三河系
6304	3C36 SR578 II-6層	壺	—	—	—	外-直線文、ナデ 内-磨減	黒褐(2.5Y3/1)	小片	三河系
6305	3F38 SR578 II-6層	壺	—	—	—	外-直線文 内-指オサエ	黄灰(2.5Y4/1)	小片	三河系
6306	3B36 SR578 II-6層	壺	—	—	—	外-格子文 内-指オサエ	暗灰(N3/0)	小片	三河系
6307	3G37 SR578 II-6層	壺	—	—	—	外-直線文、ナデ 内-ナデ	灰(N4/1)	小片	三河系
6308	3E37 SR578 II-6層	壺	—	—	—	外-ナデ、格子文 内-ナデ	黒褐(2.5Y3/1)	小片	三河系
6309	3D37 SR578 II-6層	壺	—	—	—	外-波状文、格子文 内-ナデ	暗灰(N3/0)	小片	三河系
6310	3H38 SR578 II-6層	壺	—	—	—	外-刺突文、斜格子文、ナデ 内-磨減	黄灰(2.5Y4/1)	小片	三河系
6311	3C36 SR578 II-6層	壺	—	—	—	外-斜格子文、磨減 内-磨減	暗灰黄(2.5Y5/2)	小片	三河系
6312	3D37 SR578 II-6層	壺	—	—	—	外-直線文、ナデ 内-ヨコナデ	暗灰黄(2.5Y5/2)	小片	三河系
6313	3I38 SR578 II-6層	壺	17.0	—	—	外-凹線文、縦線文、ナデ 内-ナデ、磨減	浅黄橙(10YR8/3)	□10	
6314	3D37 SR578 II-6層	壺	15.0	—	—	外-凹線文、ヨコナデ、タテハケ、刺突文、直線文、波状文 内-ヨコナデ、指ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	□10	黒斑
6315	3H38 SR578 II-6層	壺	17.8	—	—	外-凹線文、ヨコナデ、タテハケ 内-ヨコナデ、指ナデ	灰黄(2.5Y6/2)	□20	
6316	3B36 SR578 II-6層	壺	19.0	—	—	外-凹線文、ヨコナデ、縦線文、タテハケ、直線文、刺突文 内-ヨコナデ、磨減	浅黄橙(7.5YR8/3)	□90	
6317	3E37 SR578 II-6層	壺	23.0	—	—	外-凹線文、ヨコナデ、ハケ、磨減 内-ヨコナデ、磨減	浅黄橙(10YR8/3)	□15	
6318	3B36 SR578 II-6層	壺	30.2	—	—	外-凹線文、ヨコハケ、ナデ 内-ヨコナデ、ヨコハケ	浅黄橙(10YR8/4)	□5	黒斑
6319	3G37 SR578 II-6層	壺	23.6	—	—	外-凹線文、簾状文、ヨコナデ、タテハケ 内-ヨコナデ、ヨコハケ	浅黄橙(10YR8/3)	□10	
6320	3I37 SR578 II-6層	壺	8.1	—	—	外-凹線文、ヨコナデ、直線文 内-ヨコナデ	灰黄(2.5Y6/2)	□15	
6321	3D37 SR578 II-6層	壺	11.0	—	—	外-凹線文、ヨコナデ、沈線 内-ヨコナデ、磨減	にぶい黄橙(10YR7/3)	□30	
6322	3B36 SR578 II-6層	壺	9.0	—	—	外-凹線文、ヨコナデ、タテハケ、磨減 内-ヨコナデ、磨減、タテハケ	にぶい黄橙(10YR7/2)	□35	
6323	3G38 SR578 II-6層	壺	12.0	—	—	外-凹線文、ヨコハケ、タテハケ 内-ヨコナデ、磨減	灰黄(2.5Y6/2)	□20	
6324	3E37 SR578 II-6層	壺	9.8	—	—	外-凹線文、ヨコナデ、ハケメ 内-ヨコナデ、指ナデ	灰黄褐(10YR6/2)	□5	No6
6325	3J38 SR578 II-6層	壺	10.4	—	—	外-凹線文、ヨコナデ、タテハケ 内-ヨコナデ、磨減	灰黄(2.5Y7/2)	□15	
6326	3E37 SR578 II-6層	壺	10.0	—	—	外-凹線文、ヨコナデ、刺突文 内-ヨコナデ	灰黄(2.5Y7/2)	□10	
6327	3B36 SR578 II-6層	壺	10.4	—	—	外内-磨減	浅黄橙(10YR8/3)	□15	
6328	3G38 SR578 II-6層	壺	6.0	—	—	外-直線文、押し刺突文、タテハケ、ヨコナデ 内-ヨコナデ、ヨコハケ、オサエ	にぶい黄橙(10YR7/2)	□10	
6329	3H38 SR578 II-6層	壺	7.2	—	—	外-凹線文、羽状文 内-ヨコナデ	灰黄褐(10YR5/2)	□15	
6330	3I38 SR578 II-6層	壺	7.0	4.8	16.4	外-凹線文、刺突文、磨減、直線文、波状文 内-磨減、指オサエ	浅黄橙(10YR8/3)	□15	
6331	3G37 SR578 II-6層	壺	11.4	6.8	35.3	外-凹線文、ヨコナデ、タテハケ、ヨコハケ 内-ナデ、オサエ、タテハケ	灰黄(2.5Y6/2)	□75	
6332	3J38 SR578 II-6層	壺	15.8	—	—	外-ヨコナデ、磨減 内-磨減	浅黄橙(10YR8/3)	□10	紐孔
6333	3G37 SR578 II-6層	壺	13.6	—	—	外-刺突文、直線文、波状文 内-磨減	にぶい黄橙(10YR7/3)	□15	
6334	3C36 SR578 II-6層	壺	—	—	—	外-タテハケ、直線文、貝殻刺突文、円形浮文、竹管文、縦線文、 波状文 内-ハケ	にぶい黄橙(10YR7/2)	頭15	
6335	3G37 SR578 II-6層	壺	—	—	—	外-直線文 内-タテハケ、ナデ	灰黄(2.5Y6/2)	小片	
6336	3E37 SR578 II-6層	壺	—	—	—	外-直線文、タテハケ 内-指ナデ、オサエ、ハケ	灰黄(2.5Y6/2)	25	No.24
6337	3D37 SR578 II-6層	壺	—	—	—	外-直線文、タテハケ 内-磨減	灰黄(2.5Y7/2)	小片	
6338	3B36 SR578 II-6層	壺	—	—	—	外-流水文、直線文 内-ハケ	にぶい黄橙(10YR7/3)	小片	
6339	3E37 SR578 II-6層	壺	—	—	—	外-波状文、直線文 内-ハケ	にぶい黄橙(10YR6/3)	小片	
6340	3E37 SR578 II-6層	壺	—	3.0	—	外-直線文、波状文、磨減 内-磨減、タテハケ	褐灰(10YR4/1)	体完形	No.7
6341	3C36 SR578 II-6層	壺	—	—	—	外-ハケメ、直線文、波状文 内-ハケ、ツメ痕アリ、指ナデ	にぶい黄橙(10YR7/2)	体30	
6342	3D37 SR578 II-6層	壺	—	5.4	—	外-タテハケ、ナデ 内-ヨコハケ	灰黄(2.5Y7/2)	底完形	黒斑
6343	3H38 SR578 II-6層	壺	—	6.9	—	外-タテハケ、ヨコハケ、ナデ 内-ハケ	浅黄(2.5Y7/3)	底完形	黒斑
6344	3B36 SR578 II-6層	壺	—	6.9	—	外-タテハケ 内-タテハケ	浅黄橙(10YR8/3)	底100	外面に黒斑
6345	3F38 SR578 II-6層	壺	—	6.8	—	外-タテハケ 内-ハケ(スリ)	浅黄(2.5Y7/3)	底40	
6346	3H38 SR578 II-6層	壺	—	6.6	—	外-タテハケ、ヨコハケ、磨減 内-ヨコハケ、指ナデ、オサエ	にぶい黄橙(10YR7/2)	底58	黒斑
6347	3G37 SR578 II-6層	壺	—	7.2	—	外-磨減 内-ナナメハケ、指オサエ、板ナデ	橙(2.5YR6/6)	底95	
6348	3I38 SR578 II-6層	台付壺	—	6.2	—	外-タテハケ、ヨコナデ 内-ヨコナデ	灰黄褐(10YR6/2)	台35	
6349	3I38 SR578 II-6層	台付壺	—	6.6	—	外-ミガキ 内-ヨコナデ	灰黄(2.5Y6/2)	台100	
6350	3E37 SR578 II-6層	台付壺	—	8.2	—	外-ヨコナデ、板ナデ 内-タテハケ、ヨコナデ	灰黄褐(10YR6/2)	台30	
6351	3C36 SR578 II-6層	台付壺	—	7.8	—	外-タテハケ、凹線文、ヨコナデ 内-磨減、ヨコナデ	灰黄褐(10YR6/2)	裾80	黒斑
6352	3B36 SR578 II-6層	台付壺	—	8.9	—	外-磨減、ヨコナデ 内-ヨコハケ、ヨコナデ	灰白(10YR8/2)	台70	
6353	3E37 SR578 II-6層	高杯	20.4	—	—	外-凹線文、ヨコナデ 内-ヨコナデ、ミガキ	にぶい黄橙(10YR7/3)	□10	
6354	3D37 SR578 II-6層	高杯	19.6	—	—	外-ヨコナデ、ミガキ 内-ミガキ	にぶい黄橙(10YR6/3)	□20	
6355	3C35 SR578 II-6層	高杯	26.0	—	—	外-ヨコナデ、ナナメハケ、タテハケ、爪痕 内-ヨコナデ、ヨコハケ	灰黄(2.5Y7/2)	□5	
6356	3I37 SR578 II-6層	高杯	16.3	—	—	外内-ヨコナデ、磨減	にぶい橙(7.5YR7/3)	□10	
6357	3H38 SR578 II-6層	高杯	22.4	—	—	外-凹線文、磨減 内-ヨコナデ、磨減	にぶい橙(7.5YR7/4)	□15	
6358	3I38 SR578 II-6層	高杯	14.0	—	—	外内-磨減	灰黄褐(10YR6/2)	□5	
6359	3D37 SR578 II-a層	高杯	21.0	—	—	外-ヨコナデ、ミガキ 内-ヨコナデ、磨減、ミガキ	浅黄(2.5Y7/3)	□20	

報告書 番号	出土位置 出土遺構	器 種	法量 (cm)			調 整 技 法 の 特 徴	色 調	残存度 (%)	備 考
			口径	底径	器高				
6360	3D37 SR578 II-Ⅱ層	高杯	23.8	—	—	外—凹線文、磨減 内—磨減	灰黄(25Y7/2)	□10	黒斑
6361	3C35・3H37 SR578 II-Ⅱ層	高杯	28.6	—	—	外—凹線文、ヨコナデ、ミガキ 内—磨減	灰白(25Y8/2)	□10	黒斑
6363	3D37 SR578 II-Ⅱ層	高杯	29.2	—	—	外—凹線文、ヨコナデ、ミガキ 内—ヨコナデ、ミガキ、ヨコハケ	にぶい黄橙(10YR7/3)	□	
6364	3G37 SR578 II-Ⅱ層	高杯	22.2	—	—	外—凹線文、羽状文、ヨコハケ 内—ヨコナデ、ヨコハケ	灰黄褐(10YR6/2)	□15	
6365	3D36 SR578 II-Ⅱ層	高杯	30.2	—	—	外—凹線文、ヨコナデ、タテハケ、ミガキ 内—ヨコナデ、ミガキ	にぶい黄(25YR6/3)	□7	
6366	3I38 SR578 II-Ⅱ層	高杯	26.4	—	—	外—凹線文(沈線)、ヨコナデ、磨減 内—磨減	橙(25YR7/6)	□15	
6367	3B36 SR578 II-Ⅱ層	高杯	29.2	—	—	外—凹線文、ヨコナデ、ミガキ、ナナメハケ、板ナデ 内—ヨコナデ、ヨコハケ、ナナメハケ、ミガキ	灰黄(25Y7/2)	□10	
6368	3H38 SR578 II-Ⅱ層	高杯	—	—	—	外—磨減、直線文 内—磨減	灰黄(25Y7/2)	小片	
6369	3E37 SR578 II-Ⅱ層	高杯	—	—	—	外—ハケメ 内—ハケメ、ヨコナデ、シボリメ	にぶい黄橙(10YR7/2)	小片	
6370	3H38 SR578 II-Ⅱ層	高杯	—	11.8	—	外—タテハケ 内—タテハケ、ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	脚45	
6371	3C36 SR578 II-Ⅱ層	高杯	—	11.8	—	外—凹線文、磨減、ヨコナデ 内—磨減	にぶい黄橙(10YR7/3)	裾40	
6372	3G37 SR578 II-Ⅱ層	土製丸玉	直径36	孔径0.6	高さ3.3	ナデ	灰黄(25Y7/2)	60	黒斑 重さ28g
6373	3E36 SR578 II-Ⅱ層	甕	—	—	—	外—ヨコナデ、タテハケ 内—ヨコハケ、ヨコナデ	にぶい橙(7.5YR7/3)	小片	
6374	3D37 SR578 II-Ⅱ層	甕	14.4	—	—	外—刺突文、ヨコナデ、磨減 内—磨減	にぶい黄橙(10YR7/3)	□25	
6375	3E36 SR578 II-Ⅱ層	甕	16.8	—	—	外—ヨコナデ、刺突文? 内—磨減	橙(5YR6/6)	□35	外面に炭化物付着
6376	3C37 SR578 II-Ⅱ層	甕	22.4	—	—	外—ヨコナデ、ヨコハケ 内—ヨコハケ	灰黄(25Y7/2)	□50	
6379	3D37 SR578 II-Ⅱ層	甕	23.0	—	—	外—ヨコナデ、ヨコハケ 内—ヨコナデ、ナナメハケ	にぶい黄橙(10YR7/3)	□15	
6380	3C36 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	11.1	—	—	外—磨減、タテハケ 内—磨減	にぶい橙(7.5YR7/4)	□35	
6381	3D37 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	—	8.0	—	外—磨減、タテハケ 内—磨減、タテハケ	にぶい褐(7.5YR5/4)	裾30	外面に炭化物付着
6382	3D37 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	17.0	8.4	36.9	外—タテハケ、磨減 内—ヨコハケ、ナデ、磨減	にぶい橙(7.5YR7/4)	□20 台95	
6383	3C37 SR578 II-Ⅱ層	甕	15.7	—	—	外—ヨコナデ、タテハケ 内—磨減	橙(5YR7/6)	□10	外面に炭化物付着
6384	3D37 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	22.4	8.1	38.9	外—ヨコナデ、直線文、刺突文、タテハケ 内—ヨコナデ、ヨコハケ、オサエ	にぶい黄橙(10YR7/4)	□15 台75	外面に炭化物付着
6385	3D37 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	20.8	8.2	29.7	外—刺突文、タテハケ、ヨコナデ、刻み目 内—ヨコハケ、タテハケ	にぶい黄(25Y6/3)	台65	外面に炭化物付着
6386	3B36 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	12.7	5.8	17.3	外—ヨコナデ、タテハケ、板ナデ 内—ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	□155 台85	外面に炭化物付着
6387	3E36 SR578 II-Ⅱ層	甕	22.4	—	—	外—ヨコナデ、ヨコハケ、磨減 内—ヨコナデ、ヨコハケ、磨減、板ナデ	灰白(25Y8/2)	□10	
6388	3D37 SR578 II-Ⅱ層	甕	18.2	—	—	外—ヨコハケ、タテハケ、ヨコナデ 内—ヨコナデ、ヨコハケ	にぶい黄橙(10YR7/3)	□40	外面に炭化物付着
6389	3C36 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	16.5	9.0	32.6	外—ヨコナデ、タテハケ 内—ヨコナデ、ヨコハケ、ヘラケズリ	橙(7.5YR7/6)	□45	外面に炭化物付着
6390	3C37 SR578 II-Ⅱ層	甕	18.0	—	—	外—刺突文、タテハケ、直線文 内—磨減	にぶい橙(7.5YR6/4)	□35	
6391	3C36 SR578 II-Ⅱ層	甕	16.8	—	—	外—刺突文、ヨコナデ、直線文、タテハケ 内—ヨコナデ、板ナデ	灰黄(25Y6/2)	□15	線刻
6392	3E37 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	9.3	5.6	14.8	外—ヨコナデ、刺突文、直線文、波状文 内—ヨコナデ、ヨコハケ	にぶい橙(7.5YR7/3)	70	
6393	3C37 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	18.7	7.0	27.0	外—刺突文、タテハケ、ヨコハケ、ヨコナデ 内—ヨコナデ、タテハケ	灰黄褐(10YR5/2)	□25 台95	外面に炭化物付着 内面に炭化物付着
6394	3D37 SR578 II-Ⅱ層	甕	16.9	4.5	26.1	外—刺突文、直線文、タテハケ、波状文、ナデ 内—ヨコナデ、タテハケ	浅黄(25Y8/3)	□20 台定形	外面に炭化物付着
6395	3C37・3D37 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	18.5	9.9	—	外—刺突文、ヨコナデ、タテハケ、直線文 内—ヨコナデ、ヨコハケ	にぶい黄橙(10YR7/3)	□10 台100	
6396	3D37 SR578 II-Ⅱ層	甕	13.8	—	—	外—ヨコナデ、刺突文、タテハケ、直線文 内—ヨコナデ、ヨコハケ	にぶい黄橙(10YR7/2)	□10	
6397	3C35 SR578 II-Ⅱ層	甕	20.8	—	—	外—ヨコナデ、刺突文、タテハケ 内—ヨコナデ、磨減	灰黄(25Y7/2)	□20	
6398	3E36 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	19.8	8.0	30.9	外—ヨコナデ、刺突文、直線文、タテハケ 内—磨減	にぶい橙(7.5YR7/4)	台100	外面に炭化物付着
6399	3B36 SR578 II-Ⅱ層	甕	16.2	—	—	外—押引刺突文、ヨコナデ、直線文、タテハケ 内—ヨコナデ、磨減	にぶい黄橙(10YR7/3)	□7	外面に炭化物付着
6400	3B36 SR578 II-Ⅱ層	S字甕	15.8	—	—	外—押引刺突文、ヨコハケ、刺突文、タテハケ 内—指オサエ、ヨコナデ、ヨコハケ、タテハケ	灰白(25Y8/2)	□45	
6401	3D37 SR578 II-Ⅱ層	S字甕	19.0	—	—	外—ヨコナデ、押引刺突文、ヨコハケ、タテハケ 内—ヨコナデ、ヨコハケ	浅黄橙(10YR8/3)	□90	
6402	3C35 SR578 II-Ⅱ層	S字甕	16.8	8.4	28.0	外—ヨコナデ、押引刺突文、ヨコハケ、タテハケ 内—ヨコナデ、ヨコハケ	灰黄(25Y7/2)	□30	外面に炭化物付着
6403	3B35 SR578 II-Ⅱ層	S字甕	18.4	8.2	—	外—ヨコナデ、刺突文、タテハケ、ヨコハケ 内—ヨコナデ、ヨコハケ、磨減、磨減ハケ)、砂粒貼付	灰褐(7.5YR5/2)	□15 台部40	外面に炭化物付着
6404	3D36 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	—	7.4	—	外—直線文、刺突文、タテハケ 内—タテハケ、ヨコハケ	にぶい橙(7.5YR7/4)	台定形	
6405	3D37 SR578 II-Ⅱ層	S字甕	—	8.9	—	外—タテハケ、ナデ 内—タテハケ、ナデ、指オサエ、端部折返し	灰黄褐(10YR6/2)	台定形	底部砂充填 内面に炭化物付着
6406	3C37 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	—	7.6	—	外—タテハケ、ヨコナデ 内—タテハケ、ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	裾40	外面に炭化物付着
6407	3D37 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	—	7.3	—	外—タテハケ、ナデ 内—タテハケ	橙(2.5YR6/6)	台100	内面に炭化物付着
6408	3B36 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	—	8.7	—	外—タテハケ、ヨコナデ 内—タテハケ、指ナデ	にぶい黄橙(10YR7/2)	台25	
6409	3B37 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	—	8.5	—	外—タテハケ、ナナメハケ 内—ヨコハケ、ヨコナデ、指ナデ	灰黄(25Y7/2)	台70	黒斑
6410	3C37 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	—	7.4	—	外—タテハケ、ナデ 内—ハケ、ナデ	灰黄褐(10YR5/2)	台定形	黒斑
6411	3E37 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	—	7.0	—	外—タテハケ、ナデ 内—ナデ	灰黄(25Y7/2)	台90	黒斑
6412	3E37 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	—	7.6	—	外—タテハケ 内—ナナメハケ	灰黄(25Y7/2)	台95	
6413	3B37 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	—	7.3	—	外—タテハケ、磨減 内—磨減、ナナメハケ	にぶい橙(5YR 7/4)	台80	外面に炭化物付着
6414	3C35 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	—	7.8	—	外—オサエ、タテハケ、ヨコナデ 内—ナデ、オサエ、ハケ	にぶい黄橙(10YR7/2)	台80	
6415	3C37 SR578 II-Ⅱ層	台付甕	—	8.7	—	外—ハケ、タテハケ 内—ハケ、ケズリ、ナデ	にぶい黄褐(10YR5/3)	台95	外面に炭化物付着
6416	3C37 SR578 II-Ⅱ層	台付壺	—	8.8	—	外—タテハケ 内—磨減	にぶい黄橙(10YR6/4)	台定形	
6417	3B35 SR578 II-Ⅱ層	台付壺	—	11.8	—	外—オサエ、磨減、ヨコナデ 内—ナデ、オサエ、磨減	にぶい橙(7.5YR7/4)	台定形	黒斑
6418	3F38 SR578 II-Ⅱ層	壺	15.8	—	—	外—ヨコナデ、円形浮文、竹管文、タテハケ 内—羽状文、磨減	浅黄橙(7.5YR8/4)	□40	内外面赤彩
6419	3H37 SR578 II-Ⅱ層	壺	17.6	—	—	外—ヨコナデ、磨減 内—羽状文、多条沈線、ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	□10	内面赤彩
6420	3H37 SR578 II-Ⅱ層	壺	17.6	—	—	外内—ヨコナデ	浅黄(25Y7/3)	□25	
6421	3E36 SR578 II-Ⅱ層	壺	15.6	—	—	外—ヨコナデ、刺突文、ミガキ、磨減 内—ミガキ、ナデ	灰黄(25Y7/2)	□100	線刻「鳥足文」
6422	3C35 SR578 II-Ⅱ層	壺	16.7	—	—	外—刺突文、ヨコナデ、タテハケ、刺突文 内—ミガキ、磨減	にぶい黄橙(10YR7/3)	□25	
6423	3D37 SR578 II-Ⅱ層	壺	15.2	—	—	外—擬凹線文、タテハケ、ヨコナデ 内—ヨコナデ、磨減	浅黄橙(10YR8/3)	□80	
6424	3D36 SR578 II-Ⅱ層	壺	13.6	—	—	外—ナデ、ミガキ?、口縁部折り返し 内—ミガキ?	にぶい黄橙(10YR7/3)	□15	
6425	3C37 SR578 II-Ⅱ層	壺	21.1	—	—	外—波状文、ミガキ、貼付突帯、波線文(貝殻)、直線文 内—ヨコナデ、指オサエ、磨減	橙(5YR7/8)	□100	
6426	3C37 SR578 II-Ⅱ層	壺	15.0	—	—	外—ヨコナデ、タテハケ 内—ヨコナデ、ヨコハケ	浅黄橙(10YR8/3)	□80	
6427	3E36 SR578 II-Ⅱ層	壺	14.6	7.1	26.6	外—磨減、ミガキ、タテハケ、ヨコナデ 内—ミガキ、ヨコナデ、指オサエ、ヨコハケ、タテハケ	浅黄(25Y7/3)	30 □155	
6428	3C37 SR578 II-Ⅱ層	壺	14.1	—	—	外—タテハケ、磨減、ミガキ 内—磨減	橙(5YR7/6)	□85	

報告書 番号	出土位置 出土遺構	器 種	法量 (cm)			調 整 技 法 の 特 徴	色 調	残存度 (%)	備 考
			口径	底径	器高				
6429	3D37 SR578 II-a層	壺	129	6.5	23.3	外-直線文、刺突文、磨減 内-磨減、ナデ	橙(5YR7/6)	口底 ほぼ完形	
6430	3D37 SR578 II-a層	壺	13.0	5.9	24.2	外-刺突文、ヨコナデ、タテハケ、直線文、ミガキ 内-指ナデ、指オサエ	にぶい黄橙(10YR7/3)	口85 底完形	
6431	3D37 SR578 II-a層	壺	12.3	4.3	26.5	外-タテハケ、ミガキ、磨減 内-タテハケ	にぶい黄橙(10YR6/3)	口45 底95	黒斑
6432	3E36 SR578 II-a層	壺	13.7	4.4	-	外-ヨコナデ、タテハケ、ヨコハケ、タテハケ 内-ヨコハケ、ヨコナデ、オサエ	淡黄(2.5Y8/3)	60	外面に黒斑
6433	3E36 SR578 II-a層	壺	12.5	6.3	23.3	外-ヨコナデ、タテハケ、ミガキ、ヘラケズリ 内-ヨコハケ、ヨコナデ、オサエ、板ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	90	
6434	3E37 SR578 II-a層	壺	11.4	-	-	外-磨減、ハケ 内-磨減、指ナデ	橙(5YR7/6)	口5	
6435	3E36 SR578 II-a層	壺	10.1	5.3	-	外-ヨコナデ、タテハケ 内-ヨコハケ、ナデ、オサエ、ヘラケズリ	にぶい黄橙(10YR7/4)	口95 底40	黒斑
6436	3C37 SR578 II-a層	壺	13.8	5.7	-	外-ヨコナデ、ハケ、ミガキ、磨減 内-タテハケ、ヨコナデ、磨減	浅黄橙(10YR8/3)	口80 底90	
6437	3C37 SR578 II-a層	壺	-	6.0	-	外-ヨコナデ、磨減 内-磨減	にぶい橙(7.5YR7/4)	底95 頸95	黒斑
6438	3C37 SR578 II-a層	壺	14.2	4.7	21.3	外-刺突文、磨減、タテハケ、ヨコハケ 内-ヨコナデ、ヨコハケ、磨減	橙(5YR7/6)	口10 底完形	
6439	3E35 SR578 II-a層	壺	14.3	-	-	外-ヨコナデ、刺突文、タテハケ、貼付突帯、直線文、波状文 内-磨減、ヨコハケ、オサエ	にぶい橙(7.5YR7/4)	口10	
6440	3E37 SR578 II-a層	壺	13.5	-	-	外-ヨコナデ、磨減 内-波状文、磨減	淡黄(2.5Y8/3)	口20	
6441	3I37 SR578 II-a層	壺	14.0	-	-	外-ヨコナデ、タテハケ 内-ヨコナデ、ヨコハケ	浅黄橙(7.5YR8/4)	口20	
6442	3I36 SR578 II-a層	壺	13.4	-	-	外-円形浮文、竹筥文残存3個、推定4方向)、磨減内-磨減	にぶい黄橙(10YR7/2)	口25	
6443	3E36 SR578 II-a層	壺	14.2	-	-	外-ヨコナデ、刺突文、タテハケ 内-ヨコナデ、磨減	灰白(10Y8/1)	口30	
6444	3C37 SR578 II-a層	壺	14.6	-	-	外-ヨコナデ、タテハケ、ミガキ 内-ヨコナデ、ヨコハケ	にぶい黄橙(10YR7/3)	口35	
6445	3D37 SR578 II-a層	壺	15.0	-	-	外-ミガキ、ヨコナデ 内-ミガキ	灰黄褐(10YR4/2)	口10	
6446	3D36 SR578 II-a層	壺	15.8	-	-	外-ヨコナデ、刺突文、ハケ 内-ミガキ	にぶい黄橙(10YR7/3)	口10	
6447	3E36 SR578 II-a層	壺	-	4.0	-	外-ミガキ、磨減 内-ミガキ、磨減、指ナデ	浅黄(2.5Y7/4)	体-底 100	
6448	3D37 SR578 II-a層	壺	-	5.0	-	外-ミガキ、磨減、ナデ 内-磨減、オサエ、ヨコナデ	灰黄褐(10YR6/2)	底90	黒斑
6449	3E36 SR578 II-a層	壺	10.2	3.8	-	外-磨減、ミガキ、ナデ 内-オサエ、ヨコナデ、ハケ	にぶい橙(7.5YR7/4)	口50	黒斑
6450	3E36 SR578 II-a層	壺	13.4	2.9	21.0	外-ヨコナデ、ミガキ、磨減 内-ミガキ、磨減、ナデ、オサエ	橙(5YR7/6)	口85	
6451	3E36 SR578 II-a層	台付壺	13.9	-	-	外-磨減、3方スカシ 内-磨減、ヨコナデ、ヘラケズリ、シボリメ	浅黄橙(10YR8/3)	70 口40	
6452	3E36 SR578 II-a層	台付壺	9.6	8.5	14.4	外-ミガキ、直線文、3方スカシ 内-ミガキ、磨減、ハケ	にぶい黄橙(10YR6/3)	口30 底30	
6453	3E36 SR578 II-a層	台付壺	10.6	10.6	24.5	磨減、3方スカシ	橙(5YR7/6)	口50	
6454	3C37 SR578 II-a層	台付壺	-	-	-	外-ミガキ、ヨコナデ、ハケ 内-ミガキ、指ナデ、ハケ	淡橙(5YR8/4)	頸70	
6455	3E36 SR578 II-a層	台付壺	-	-	-	外-ミガキ、直線文、3方スカシ 内-磨減、オサエ、板ナデ、シボリ目	にぶい黄橙(10YR7/3)	体完形	外面に炭化物付着
6456	3C37 SR578 II-a層	台付壺	-	10.1	-	外-4方スカシ、磨減 内-指ナデ、オサエ、ヨコハケ、磨減	橙(5YR7/6)	脚裾50	
6457	3C37 SR578 II-a層	壺	9.8	-	-	外-タテハケ、ヨコハケ 内-磨減、板ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	口10	紐孔
6458	3D37 SR578 II-a層	壺	10.0	4.5	14.2	外-ヨコナデ、ミガキ、ハケ 内-ミガキ、ヨコナデ、オサエ	にぶい黄橙(10YR7/4)	完形	黒斑
6459	3E36 SR578 II-a層	壺	9.8	3.0	16.4	外-ハケ、ナデ、磨減 内-ハケ、指ナデ	にぶい黄橙(10YR6/4)	口20 底完形	紐孔2個1対 黒斑
6460	3D37 SR578 II-a層	壺	-	-	-	外-山型文 内-縄文	灰黄(2.5Y6/2)	小片	
6461	3D37 SR578 II-a層	壺	-	9.2	-	外-磨減、結節縄文、ミガキ、ナデ、羽状文 内-磨減、ハケ、ナデ	灰黄(2.5Y6/2)	底完形	黒斑
6462	3C36 SR578 II-a層	壺	-	-	-	外-結節縄文、ハケ 内-ハケ	にぶい黄橙(10YR7/2)	小片	
6463	3E36 SR578 II-a層	壺	-	-	-	外-結節縄文 内-磨減	灰黄(2.5Y7/2)	小片	
6464	3E36 SR578 II-a層	壺	-	-	-	外-結節縄文 内-指オサエ、ナデ	浅黄(2.5Y7/3)	小片	
6465	3E37 SR578 II-a層	壺	-	-	-	外-結節縄文 内-ハケ	灰黄(2.5Y7/2)	小片	
6466	3C36 SR578 II-a層	壺	-	-	-	外-結節縄文、ハケ 内-ナデ	浅黄(2.5Y7/3)	小片	
6467	3H36・3H37 SR578 II-a層	壺	17.8	-	-	外-磨減、刺突文、ヨコナデ、貼付突帯 内-磨減	浅黄橙(10YR8/3)	口40	
6468	3E36 SR578 II-a層	壺	-	-	-	外-刺突文、ミガキ 内-ナデ	灰白(2.5Y8/2)	小片	
6469	3C35 SR578 II-a層	壺	-	3.8	-	外-磨減 内-タテハケ	にぶい黄橙(10YR7/3)	底完形	
6470	3E36 SR578 II-a層	壺	-	7.6	-	外-磨減、ミガキ、葉脈痕 内-ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	底15	
6471	3C37 SR578 II-a層	壺	-	4.8	-	外-磨減 内-磨減	浅黄(2.5Y7/3)	底90	黒斑
6472	3C36 SR578 II-a層	壺	-	4.4	-	外-ハケ 内-ヨコナデ、ユビオサエ、ハケ	浅黄(2.5Y7/3)	底100	
6473	3C37 SR578 II-a層	壺	-	7.6	-	外-刺突文、直線文、ヨコハケ、オサエ、ナデ 内-磨減、ヨコハケ	にぶい黄褐(10YR5/4)	底60	黒斑
6474	3I36 SR578 II-a層	高杯	20.0	-	-	外内-磨減	灰白(10YR8/2)	口10	
6475	3H38 SR578 II-a層	高杯	16.8	-	-	外-ヨコナデ、ヨコハケ、磨減 内-ヨコナデ、タテハケ、磨減	灰白(10YR8/2)	口10	外面赤彩
6476	3H38 SR578 II-a層	高杯	19.4	-	-	外内-磨減	浅黄橙(7.5YR8/3)	口10	
6477	3C35 SR578 II-b層	高杯	21.8	-	-	外-ヨコナデ、ミガキ、タテハケ 内-ミガキ	灰黄(2.5Y6/2)	口5	
6478	3D36 SR578 II-a層	高杯	21.2	-	-	外-ヨコナデ、波状文、磨減 内-磨減	灰白(2.5Y8/2)	口15	
6479	3C37 SR578 II-a層	高杯	30.8	-	-	外内-磨減	橙(5YR7/6)	口10	黒斑
6480	3D37 SR578 II-a層	高杯	24.8	-	-	外-磨減 内-磨減、ミガキ	灰黄(2.5Y7/2)	口10	
6481	3D37 SR578 II-a層	高杯	28.2	-	-	外-ミガキ、タテハケ 内-ミガキ、シボリメ	にぶい黄橙(10YR7/3)	口75	
6482	3E36 SR578 II-a層	高杯	22.1	-	-	外-ヨコナデ、ミガキ、磨減 内-ミガキ、磨減	にぶい黄橙(10YR7/3)	口10	
6483	3C37 SR578 II-a層	高杯	-	14.3	22.0	外-磨減、3方スカシ 内-磨減、シボリメ	橙(5YR6/6)	脚40	
6484	3E35 SR578 II-a層	高杯	20.3	14.2	23.0	外-磨減、直線文、3方スカシ、ミガキ 内-ミガキ、磨減、シボリメ	にぶい黄橙(10YR7/2)	脚50	
6485	3C36 SR578 II-a層	高杯	24.0	14.6	25.5	外-ミガキ、3方スカシ 内-磨減、ハケ、シボリメ	にぶい黄橙(10YR7/3)	脚30	
6486	3C36 SR578 II-a層	高杯	22.9	15.6	26.3	外-磨減、ミガキ、3方スカシ 内-磨減、ヨコハケ	橙(5YR6/6)	口20 底60	
6487	3D37 SR578 II-a層	高杯	23.4	12.2	21.6~ 23.1	外-ミガキ、磨減、直線文、3方スカシ 内-ミガキ、ヨコハケ	にぶい黄橙(10YR7/3)	口30	
6488	3E36 SR578 II-a層	高杯	23.7	-	-	外-磨減、1方スカシ、3方スカシ、直線文 内-磨減、シボリメ	にぶい橙(7.5YR7/4)	口30	
6489	3C37 SR578 II-a層	高杯	23.0	-	-	外内-ミガキ	にぶい橙(7.5YR7/4)	口5	
6490	3D37 SR578 II-a層	高杯	20.0	-	-	外-磨減、ミガキ、3方スカシ、直線文 内-ミガキ、磨減、シボリメ	にぶい橙(7.5YR7/4)	口17	
6491	3D37 SR578 II-a層	高杯	21.3	-	-	外-ミガキ、磨減、直線文、3方スカシ 内-磨減、シボリメ	にぶい黄橙(10YR7/2)	頸100	
6492	3D37 SR578 II-a層	高杯	21.0	12.8	-	外-ミガキ、スカシ1ヵ所のみ残存 内-ミガキ、ヨコハケ	にぶい黄橙(10YR7/3)	口25 裾17	黒斑
6493	3D37 SR578 II-a層	高杯	18.7	-	-	外内-ミガキ	にぶい橙(7.5YR7/4)	口5以下	
6494	3D37 SR578 II-a層	高杯	19.8	-	-	外-ヨコナデ、ハケメ、ミガキ 内-ハケメ、ミガキ、磨減	にぶい黄橙(10YR6/3)	口55	
6495	3D37 SR578 II-a層	高杯	23.0	-	-	外-ヨコナデ、ミガキ 内-ミガキ	黒褐(2.5Y3/2)	口60	黒斑
6496	3C36 SR578 II-a層	高杯	22.7	13.9	25.2	外-ヨコナデ、ミガキ、直線文、3方スカシ 内-ミガキ、磨減	にぶい黄橙(10YR7/4)	口10 脚80	
6497	3E36 SR578 II-a層	高杯	22.3	-	-	外内-磨減	にぶい黄橙(10YR6/4)	口30	

報告書 番号	出土位置 出土遺構	器 種	法量(cm)			調 整 技 法 の 特 徴	色 調	残存度 (%)	備 考
			口径	底径	器高				
6498	3C37 SR578 II-a層	高杯	23.3	—	—	外内-磨減	橙(5YR7/6)	口25	
6499	3E36 SR578 II-a層	高杯	21.0	14.0	22.3	外-ミガキ、1方スカシ、3方スカシ、直線文 内-ミガキ、ヨコハケ	橙(5YR6/6)	口60 底95	
6500	3C37 SR578 II-a層	高杯	14.1	—	—	外-ミガキ、直線文 内-ミガキ、シボリメ	浅黄(2.5Y7/3)	口40	
6501	3C37 SR578 II-a層	高杯	16.6	—	—	外-ヨコナデ、ミガキ、磨減、直線文、スカシ 内-ミガキ、磨減	橙(5YR6/6)	口45	
6502	3D37 SR578 II-a層	高杯	17.7	13.3	19.9	外-ミガキ、直線文、3方スカシ 内-ミガキ、ヨコナデ、シボリメ	浅黄(2.5Y7/3)	口35 底60	黒斑
6503	3E36 SR578 II-a層	高杯	15.8	13.2	12.1	外-ヨコナデ、沈線、直線文、3方スカシ、ハケ 内-ヨコナデ、板ナデ	灰白(10YR8/2)	口40	
6504	3H37 SR578 II-a層	高杯	14.0	7.3	10.7	外内-磨減	浅黄橙(10YR8/3)	85	
6505	3B36 SR578 II-a層	高杯	18.6	—	—	外-ヨコナデ、ミガキ、磨減、直線文、3方スカシ 内-ヨコナデ、ヨコハケ、ミガキ、シボリメ	にぶい橙(5YR6/4)	杯部 25	
6506	3B36 SR578 II-a層	高杯	13.0	—	—	外-ヨコナデ、ミガキ 内-ミガキ	にぶい黄橙(10YR6/3)	口80	
6507	3B36 SR578 II-a層	高杯	—	—	—	外-タテハケ、ミガキ、スカシ2カ所残る(推定6方向) 内-ナデ、ヨコハケ	にぶい黄橙(10YR7/3)	脚10	内外面赤彩
6508	3B36 SR578 II-a層	高杯	—	—	—	外-ミガキ、直線文、磨減、3方スカシ 内-シボリメ、ハケ	にぶい黄橙(10YR7/3)	小片	内外面赤彩
6509	3C36 SR578 II-a層	高杯	—	11.6	—	外-スカシ(1カ所残存方向数不明)、タテハケ、ミガキ、沈線?凹 線?ヨコナデ 内-タテハケ	にぶい橙(2.5YR6/4)	底5	内外面赤彩
6510	3B36 SR578 II-a層	高杯	—	—	—	外-ミガキ、沈線、4方スカシ、スカシ(1カ所残存方向数不明) 内-指ナデ	灰白(2.5Y8/2)	脚25	
6511	3D37 SR578 II-a層	高杯	—	13.9	—	外-ミガキ、タテハケ、3方スカシ、磨減 内-ミガキ、磨減、シボリメ	にぶい黄橙(10YR7/2)	頸100	
6512	3B36 SR578 II-a層	高杯	—	—	—	外-直線文、ミガキ、磨減、3方スカシ 内-ナデ、シボリ目	にぶい黄橙(10YR6/3)	小片	
6513	3C35 SR578 II-b層	高杯か 台付壺	—	9.0	—	外-ミガキ、3方スカシ 内-ヨコナデ、磨減	にぶい黄橙(10YR7/2)	脚50	
6514	3D37 SR578 II-a層	高杯	—	13.0	—	外-タテハケ、直線文、4方スカシ、ミガキ 内-ミガキ、ヨコナデ、シボリメ	にぶい黄橙(10YR7/3)	脚40	
6515	3D36 SR578 II-a層	高杯	—	14.9	—	外-ミガキ、磨減、スカシ 内-磨減	橙(5YR7/6)	底10	
6516	3B35 SR578 II-a層	高杯	—	11.8	—	外-ミガキ、直線文、3方スカシ、ヨコナデ 内-ミガキ、シボリメ、ハケメ、ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR6/3)	裾5	
6517	3D36 SR578 II-a層	高杯	—	11.0	—	外-ミガキ、磨減、3方スカシ 内-ヨコナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	脚突形	
6518	3D37 SR578 II-a層	高杯	—	11.5	—	外-ミガキ、磨減、直線文、3方スカシ 内-ミガキ、ヨコハケ、シボリメ	浅黄橙(10YR8/3)	裾20	
6519	3C35 SR578 II-a層	高杯	—	11.2	—	外-直線文、ミガキ、3方スカシ 内-ミガキ、ヨコナデ	灰黄(2.5Y7/2)	裾30	
6520	3B37 SR578 II-a層	器台	—	—	—	外内-磨減、4方スカシ	灰白(2.5Y8/2)	脚60	
6521	3C35 SR578 II-a層	器台	20.8	—	—	外-棒状浮文2個1対、ミガキ 内-ミガキ	にぶい橙(7.5YR7/4)	口15	
6522	3H38 SR578 II-a層	器台か壺	15.2	—	—	外内-磨減	浅黄(2.5Y7/3)	口10	
6523	3I37 SR578 II-a層	器台か壺	16.8	—	—	外-ヨコナデ、磨減 内-ミガキ	にぶい橙(7.5YR7/4)	口10	
6524	3D37 SR578 II-a層	器台	—	—	—	外-ミガキ、直線文、3方スカシ 内-ミガキ、ハケ	浅黄橙(7.5YR8/3)	脚50	
6525	3E36 SR578 II-a層	器台	—	—	—	外-ミガキ、直線文、3方スカシ2段、磨減 内-磨減、ナデ、ヨコハケ	浅黄橙(10YR8/3)	脚60	
6526	3B37 SR578 II-a層	鉢	15.1	4.5	12.5	外内-ヨコナデ、磨減	灰黄(2.5Y7/2)	口55 底完形	黒斑
6527	3D36 SR578 II-a層	鉢	14.0	—	—	外-刺突文、ヨコナデ、板ナデ 内-ヨコナデ、板ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	口40	外面に炭化物付着
6528	3C37 SR578 II-a層	鉢	12.4	3.3	10.1	外-ヨコナデ、タテハケ 内-ヨコハケ、板ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	口45 底完形	
6529	3E36 SR578 II-a層	鉢	16.9	3.1	—	外-ヨコナデ、刺突文、直線文、磨減 内-ヨコナデ、磨減	灰白(2.5Y8/1)	口80	
6530	3B36 SR578 II-a層	鉢	9.6	4.4	5.7	外内-ミガキ	灰黄(2.5Y6/2)	95	黒斑
6531	3B36 SR578 II-a層	鉢	12.2	3.8	7.1	外-板ナデ、磨減 内-板ナデ	灰白(2.5Y8/2)	80	外面に黒斑
6532	3C36 SR578 II-a層	鉢	18.8	—	14.1	外内-磨減、焼成前穿孔	外-橙(2.5YR6/6)	口90	
6533	3C36 SR578 II-a層	鉢	19.3	6.5	—	外-タテハケ、ヨコナデ 内-ナメハケ、ヨコナデ、焼成前穿孔	にぶい黄橙(10YR7/3)	口50 底100	黒斑
6534	3E37 SR578 II-a層	鉢	19.8	—	—	外-ヨコナデ、刺突文、タテハケ 内-ヨコハケ、タテハケ	灰白(5YR7/1)	口5 頸20	外面に炭化物付着
6535	3F37 SR578 II-a層	手焙形土器	—	—	—	外-タテハケ、ナデ 内-タテハケ	にぶい黄橙(10YR7/2)	小片	
6536	3D37 SR578 II-a層	手焙形土器	16.8	—	—	外-タテハケ、突帯貼付、刺突文、ヨコハケ 内-ナデ、オサエ、ハケ	にぶい黄橙(10YR7/3)	50	
6537	3C37 SR578 II-a層	ミナ7甕	9.2	—	—	外-ヨコナデ、ハケ 内-磨減	にぶい黄橙(10YR6/3)	口15	外面に炭化物付着
6538	3C37 SR578 II-a層	ミナ7 台付甕	10.0	4.1	10.9	外-タテハケ 内-ナメハケ、磨減	橙(5YR6/6)	底完形 口20	
6539	3C37 SR578 II-a層	ミナ7 台付壺	5.5	3.6	8.1	外-タテハケ、ナデ 内-磨減、ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	底完形	
6540	3E36 SR578 II-a層	ミナ7 台付甕	6.3	3.9	10.6	外-ナデ、磨減 内-ナデ、ハケ	にぶい黄橙(10YR6/3)	底20	
6541	3C37 SR578 II-a層	ミナ7壺	4.8	—	4.8	外内-磨減、ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	口36	
6542	3C36 SR578 II-a層	ミナ7壺	6.2	—	—	外内-磨減	灰黄(2.5Y7/2)	口15	
6543	3B37 SR578 II-a層	ミナ7壺	—	4.5	—	外-刻み目、沈線、刺突文、ミガキ、竹管文1個 内-ミガキ、指オサエ、ヨコハケ、ナデ	浅黄(2.5Y7/3)	体80	黒斑
6544	3H38 SR578 II-a層	ミナ7壺	3.4	2.7	6.4	外内-オサエ、ナデ、磨減	灰白(2.5Y8/1)	底完形	
6545	3H37 SR578 II-a層	ミナ7壺	—	3.2	—	外内-磨減	にぶい黄橙(10YR7/2)	底80	
6546	3D37 SR578 II-a層	ミナ7壺	—	4.0	—	外-磨減、ハケ 内-ハケ、ナデ、オサエ	にぶい黄橙(10YR7/3)	底完形	黒斑
6547	3D36 SR578 II-a層	ミナ7壺	—	2.4	—	外-ミガキ、ナデ 内-指ナデ	黒(7.5Y2/1)	底完形	
6548	3C36 SR578 II-a層	ミナ7壺	—	4.7	—	外-ハケ、ナデ、オサエ 内-ハケ、ヨコナデ、指オサエ、指ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	底80	
6549	3E36 SR578 II-a層	ミナ7鉢	6.6	3.6	3.9	外-ナデ 内-オサエ、ナデ	にぶい黄橙(10YR7/2)	80	紐孔 黒斑
6550	3I37 SR578 II-a層	ミナ7鉢	6.6	2.8	4.9	外内-磨減	淡橙(5YR8/4)	60 底完形	
6551	3C36 SR578 II-a層	壺	—	—	—	外-貼付突帯、ナデ、刻み目、直線文、山形文 内-ヨコハケ、タテハケ	灰白(10YR8/2)	頸17	黒斑
6552	3D37 SR578 II-a層	高杯	23.0	—	—	外-竹管文、凹線文、刺突文、ハケ 内-磨減	にぶい黄橙(10YR6/3)	口10	
6553	3B36 SR578 II-a層	鉢	35.6	—	—	外-ヨコナデ、凹線文、刺突文、ミガキ 内-ミガキ	灰白(2.5Y8/1)	口10	黒斑
6554	3E38 SR578 I-c層	甕	23.8	—	—	外-、ヨコハケ、タテハケ、刺突文、磨減 内-ヨコハケ、磨減	にぶい黄橙(10YR 7/3)	口15	
6555	3C36 SR578 I-c層	台付甕	16.6	7.8	—	外内-磨減	にぶい黄橙(10YR7/2)	口25 台100	
6556	3C36 SR578 I-c層	甕	13.8	—	—	外-ヨコナデ、刺突文、磨減 内-ヨコナデ	灰黄(2.5Y7/2)	口10	
6557	3E36 SR578 I-c層	台付甕	18.8	7.9	—	外-刺突文、直線文、ヨコハケ、タテハケ 内-ヨコナデ、磨減、ナメハケ、ヨコハケ	橙(5YR6/6)	口35 底50	
6558	3E36 SR578 I-c層	台付甕	13.6	—	—	外-ハケ、直線文、刺突文、磨減 内-タテハケ、磨減	橙(2.5YR6/8)	口25	
6559	3B35 SR578 I-c層	ミナ7甕	7.4	—	—	外-磨減、オサエ、タテハケ 内-磨減、指ナデ、指オサエ	浅黄橙(7.5YR8/4)	口15	
6560	3E37 SR578 I-c層	壺	8.1	—	—	外-ミガキ、磨減 内-ミガキ、指ナデ	にぶい橙(7.5YR 7/4)	口30	
6561	3E35 SR578 I-c層	壺	16.5	—	—	外-棒状浮文3本4方向、貼付突帯、直線文、刺突文、磨減 内-ミガキ、ヨコハケ	にぶい橙(7.5YR 7/4)	口90	

報告書 番号	出土位置 出土遺構	器 種	法量 (cm)			調 整 技 法 の 特 徴	色 調	残存度 (%)	備 考
			口径	底径	器高				
6562	3B35 SR578 I c層	壺	16.0	—	—	外—磨減、ミガキ、ヨコナデ 内—磨減	にぶい黄橙(10YR7/4)	口50	
6563	3B35 SR578 I c層	壺	15.2	—	—	外—磨減、直線文 内—磨減	浅黄橙(7.5YR8/4)	口完形	
6564	3D36 SR578 I c層	壺	17.6	—	—	外—竹管文、円形浮文、ヨコナデ、ミガキ 内—羽状文	にぶい黄橙(10YR7/3)	口50	
6565	3B37 SR578 I c層	壺	—	—	—	外—直線文、ナデ 内—波状文	にぶい黄橙(10YR7/3)	小片	
6566	3C35 SR578 I c層	壺か器台	16.2	—	—	外—直線文、磨減 内—刺突文、磨減	灰白(10YR8/2)	口10	
6567	3E36 SR578 I c層	壺か器台	15.0	—	—	外内—刺突文、磨減	にぶい橙(7.5YR7/4)	口10	
6568	3E36 SR578 I c層	壺	16.8	—	—	外—山形文、指頭圧痕、ヨコナデ 内—縄文、磨減	灰黄(2.5Y7/2)	口15	
6569	3B35 SR578 I c層	壺	15.7	—	—	外—刺突文、指頭圧痕、ヨコナデ、タテハケ、縄文 内—縄文、ミガキ、指ナデ	にぶい黄橙(10YR7/4)	口完形	
6570	3E36 SR578 I c層	高杯	24.0	—	—	外内—磨減	灰白(2.5Y8/2)	口40	内外黒斑
6571	3E36 SR578 I c層	器台	19.8	—	—	外—直線文、円形浮文、棒状浮文、磨減 内—磨減	浅黄(2.5Y7/3)	口40	
6572	3E37 SR578 I c層	高杯	—	—	—	外内—磨減	灰黄(2.5Y7/2)	小片	
6573	3D36 SR578 I c層	高杯	—	8.1	—	外—直線文、タテハケ、2方スカシ+2方スカシ 内—磨減、ヨコハケ	浅黄橙(10YR8/3)	脚80	
6574	3E38 SR578 I c層	須恵器杯蓋	11.6	—	—	外—ロクロズリ(不明瞭)、ロクロナデ 内—ロクロナデ	灰白(N7/0)	口25	
6575	3A36 SR578 I c層	須恵器杯身	9.5	—	3.5	外—ロクロナデ、ヘラ切り 内—ロクロナデ	灰(N6/0)	口10	
6576	3E36 SR578 I c層	須恵器高杯	12.0	8.8	7.6	外—ロクロナデ、ロクロズリ 内—ロクロナデ	灰白(N7/0)	60	内面に赤色顔料
6577	3I37 SR578 I c層	須恵器 甕	—	—	—	外—注口穿孔Φ1.5cm、ロクロナデ、ロクロズリ 内—ロクロナデ	灰白(N7/0)	体100	
6578	3E36 SR578 I c層	須恵器 台付壺	—	—	—	外—ロクロナデ 内—ロクロナデ	灰(N5/0)	台30	
6579	3H36 SR578 I c層	須恵器 鉢	7.4	—	—	外内—ロクロナデ	灰白(N7/0)	口5	
6580	3D37 SR578 I c層	須恵器 鉢	6.6	—	—	外—ロクロナデ、カキ目 内—ロクロナデ	灰白(N7/0)	口25	
6581	3I37 SR578 I c層	須恵器 壺	12.7	—	—	外—ロクロナデ、タタキ 内—ロクロナデ、当て具痕(同心円)	灰(5Y6/1)	口25	
6582	3H38 SR578 I c層	須恵器 甕	19.1	—	—	外—ロクロナデ、タタキ、カキ目 内—ロクロナデ、当て具痕(同心円)	灰(N5/0)	口20	
6583	3I37 SR578 I c層	須恵器 甕把手	—	—	—	外—指ナデ 内—ロクロナデ	灰(N6/0)	小片	
6584	3J38・3H38 SR578 I c層	須恵器提瓶	—	—	—	外—タタキ、カキ目、ロクロズリ、ボタン状突起 内—ロクロズリ	灰(N6/0)	体75	
6585	3C35 SR578 I c層	灰釉陶器碗	15.8	6.6	5.8	外—ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内—ロクロナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)	口30	素地
6586	3I37 SR578 I c層	須恵器 杯	—	8.2	—	外—ロクロナデ、糸切り、貼付高台 内—ロクロナデ	灰白(N7/0)	底15	
6587	3H36 SR578 I c層	灰釉陶器碗	—	7.6	—	外—貼付高台、糸切り、ロクロナデ 内—ロクロナデ	灰白(2.5Y8/1)	底20	底部外面墨書「□百田」 内面に使用痕
6588	3B35 SR578 I b層	須恵器杯蓋	12.6	—	—	外—ロクロズリ、ロクロナデ 内—ロクロナデ	灰白(N7/0)	口5	
6589	SR578 I b層	須恵器杯身	11.9	3.2	3.6	外—ロクロナデ、ヘラ切り 内—ロクロナデ	灰(N6/0)	底50	
6590	3H36 SR581 I b層	須恵器杯蓋	9.8	—	3.6	外—ヘラ切り、ロクロナデ 内—ロクロナデ	灰白(N7/0)	天井40	
6591	SR578 I b層	須恵器杯蓋	—	つまみ径 2.2	—	外—ロクロナデ 内—ロクロナデ	灰白(N8/0)	天井15	
6592	2B35 SR578検出	須恵器杯身	9.4	—	—	外内—ロクロナデ	灰(N6/0)	口10	
6593	3B35 SR578 I b層	須恵器 杯	—	9.1	—	外—ロクロズリ、貼付高台 内—ロクロナデ	黄灰(2.5Y6/1)	底70	
6594	3C35 SR578 I b層	須恵器 杯	—	10.7	—	外—ロクロナデ、貼付高台、ロクロズリ 内—ロクロナデ	灰白(10YR7/1)	底15	
6595	3C36 SR580 I b層	灰釉陶器碗	—	6.9	—	外—ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内—磨減	浅黄橙(10YR8/3)	底完形	素地
6596	SR578 I b層	灰釉陶器碗	—	6.9	—	外—ロクロナデ、糸切り、貼付高台 内—ロクロナデ	灰白(2.5Y7/1)	高台30	高台に粉殻痕 内面に使用痕
6597	3B36 SR578 I b層	灰釉陶器碗	—	6.0	—	外—ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内—ロクロナデ	灰(N8/0)	底70	素地 底部外面に墨書
6598	3C36 SR579 I b層	陶器山茶碗	—	7.0	—	外—ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内—ロクロナデ	灰白(N8/0)	底完形	内面に使用痕
6599	3C36 SR578 I b層	陶器山茶碗	15.1	6.9	5.7	外—輪花4方向、ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内—ロクロナデ	灰白(N8/0)	口60	内面に使用痕 外面に墨痕?
6600	SR578 I b層	山茶碗	15.8	7.5	5.5	外—ロクロナデ、糸切り痕、貼付高台 内—ロクロナデ	灰白(N7/0)	底95	内面に使用痕
6601	SR578 I b層	白磁 碗	14.6	—	—	外—ロクロズリ、ロクロナデ 内—ロクロナデ	灰白(2.5Y8/2)	口5	施釉・貫入 大宰府Ⅳ類
6602	3H36 SR578 I b層	土師器 皿	13.8	—	2.9	外内—磨減	灰白(2.5Y8/2)	口5	
6603	SR578 I b層	土師器 皿	14.0	—	—	外—ヨコナデ、磨減 内—ヨコナデ	灰白(2.5Y8/2)	口15	
6604	SR578 I b層	土師器 鍋	—	—	—	外内—磨減、ヨコナデ	灰白(2.5Y8/2)	小片	伊勢型鍋
6605	3H36 SR578 I b層	土師器 鍋	20.8	—	—	外内—磨減	橙(5YR6/6)	口20	伊勢型鍋
6606	3H36 SR578 I b層	土師器 鍋	23.2	—	—	外内—磨減	灰黄褐(10YR5/2)	頸10	清郷型鍋
6607	SR578 I b層	土師器 鍋	24.0	—	—	外内—磨減	赤褐(2.5YR4/6)	口10	清郷型鍋
6608	3B37 SR578 I b層	土製品	—	—	—	外内—磨減	にぶい黄橙(10YR7/4)	小片	
6609	SB1579 2R50・P4	灰釉陶器皿	—	7.0	—	外—ロクロナデ、貼付高台 内—ロクロナデ	灰白(2.5Y8/1)	底10	内面に使用痕
6610	SB1579 2R50・P4	灰釉陶器皿	—	7.0	—	外—ロクロナデ、貼付高台 内—ロクロナデ	灰白(2.5Y8/1)	底10	内面に使用痕 K-90
6611	SB1579 2R50・P15	灰釉陶器碗	—	7.4	—	外—ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内—ロクロナデ	灰白(2.5Y7/1)	底25	K-90
6612	SB1579 2Q51・P1	灰釉陶器碗	—	7.8	—	外—ロクロナデ、貼付高台 内—ロクロナデ	灰白(N8/0)	底25	O-53
6613	SE1503 Ⅲ層	土師器 碗	15.4	7.2	4.7	外—磨減、貼付高台 内—磨減	浅黄橙(10YR8/3)	口20	
6614	SE1503 Ⅳ層	灰釉陶器碗	—	7.6	—	外—ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内—ロクロナデ	灰白(N8/0)	底40	内面に使用痕 百代寺
6615	2Z39 SE1503	土師器 鍋	23.8	—	—	外—指オサエ、磨減 内—指オサエ、磨減	橙(5YR6/6)	口30	清郷型鍋
6616	2Z39 SE1503 Ⅱ層	須恵器杯蓋	9.1	—	4.2	外—ヘラズリ、ロクロナデ 内—ロクロナデ、一定方向ナデ	灰白(7.5Y7/1)	口20	
6617	SE1503 Ⅲ層	須恵器杯身	11.2	—	—	ナデ	灰白(N7/0)	口20	
6618	2Z39 SE1503	土鉢	直径2.5	孔径0.9	長さ5.1	ナデ	灰黄(2.5Y7/2)	ほぼ完形	黒斑 重量28g
6619	2Y41 SK1501	灰釉陶器碗	—	6.4	—	外—貼付高台、糸切り痕 内—ロクロナデ	灰白(5Y8/1)	底25	O-53
6620	2Y41 SK1501	フイゴ羽口	—	—	—	外内—磨減	にぶい橙(7.5YR7/4)	小片	
6621	3F35 SK1512	灰釉陶器碗	—	6.8	—	外—ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内—ロクロナデ	灰白(2.5Y8/1)	底25	内面に使用痕 K-90
6622	3F35 SK1512	灰釉陶器碗	—	6.6	—	外—ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内—ロクロナデ	灰白(N8/0)	底25	内面に使用痕 H-72
6623	3C35 SK1512	灰釉陶器碗	—	7.0	—	外—貼付高台、糸切り痕 内—ロクロナデ	灰白(N8/0)	底35	H-72
6624	3F35 SK1512	灰釉陶器碗	—	推定6.6	—	外—ロクロナデ、貼付高台、欠損、糸切り痕 内—ロクロナデ	灰白(2.5Y8/1)	底25	自然釉 重ね焼痕跡 H-72
6626	3G42 SK1530	緑釉陶器碗	—	—	—	外内—ロクロナデ	素地—灰白(5Y8/1) 釉—灰白(10Y8/2)	底30	西弁花文陰刻 内外面緑釉
6627	3G43 SK1530	緑釉陶器 唾壺	—	6.8	—	外—磨減表面施緑釉、削り出し高台 内—磨減表面施緑釉	素地—灰白(5Y8/1) 釉—灰白(10Y7/2)	底75	内外面に施緑釉
6628	3K35 SK1539	須恵器 杯	12.2	6.9	3.75	外—ロクロナデ、ロクロズリ、糸切り痕 内—ロクロナデ	灰(N6/0)	底70	
6629	3K35 SK1539	須恵器 甕	24.6	—	—	外内—ロクロナデ	灰白(N7/0)	口20	内外面に自然釉
6630	2S50 SK1574	須恵器 杯	—	6.4	—	外—ロクロナデ、ロクロズリ 内—ロクロナデ	にぶい橙(5YR6/3)	底35	

報告書 番号	出土位置 出土遺構	器 種	法量(cm)			調 整 技 法 の 特 徴	色 調	残存度 (%)	備 考
			口径	底径	器高				
6631	3B40 SD1502	陶器山茶碗	－	8.2	－	外－ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕、指オサエ 内－ロクロナデ	灰白(25Y7/1)	底95	底部焼成時砂付着 尾張型3型式
6632	3B41・3C40 SD1502・SD1505	灰釉陶器 長頸壺	－	－	－	外内－ロクロナデ	灰白(5Y8/1)	頸40	内外面に自然釉
6633	3H40 SD1532	灰釉陶器碗	－	6.8	－	外－ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕、ロクロナデ 内－ロクロナデ	灰白(N7/0)	底35	内面に自然釉 O-53
6634	3H42 SD1525	灰釉陶器皿	14.6	6.7	3.2	外－ロクロナデ、貼付高台 内－ロクロナデ	灰白(N8/0)	口20 底20	K-90
6635	3H42 SD1525	灰釉陶器碗	－	6.6	－	外－ロクロナデ、貼付高台 内－ロクロナデ	灰白(25Y7/1)	底5	K-90
6636	3H43 SD1525	灰釉陶器碗	－	8.3	－	外－ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕、ロクロナデ 内－ロクロナデ	灰白(N8/0)	底50	内面に使用痕 K-90
6637	3H42 SD1525	灰釉陶器碗	－	6.2	－	外－ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕、ロクロナデ 内－ロクロナデ	灰白(N8/0)	底30	内面に使用痕 K-90
6638	3H42 SD1525	灰釉陶器碗	13.8	－	－	外内－ロクロナデ	灰白(5Y8/1)	口15	K-90
6639	3H42 SD1525	灰釉陶器碗	－	6.4	－	外－ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕、ロクロナデ 内－ロクロナデ	灰白(N8/0)	底55	内面に使用痕 墨書「アリ」? K-90
6640	3H41 SD1525	灰釉陶器碗	－	－	－	外－ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内－ロクロナデ	灰白(25Y8/1)	底30	重ね焼痕、使用痕 百代寺
6641	3H42 SD1525	灰釉陶器碗	－	7.1	－	外－ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕、ロクロナデ 内－ロクロナデ	灰白(N8/0)	底95	内面に使用痕 墨書「實」 H-72
6642	3H42 SD1525	陶器 山皿	－	4.1	－	外－ロクロナデ、貼付高台 内－ロクロナデ	灰白(5Y8/1)	底20	内面に自然釉 尾張型4型式
6643	3H42 SD1525	土師器 杯	13.6	7.0	3.3	外－ヨコナデ、ナデ・オサエ 内－ヨコナデ、磨減	灰白(25Y8/2)	口30	
6644	3H42 SD1525	土師器 甕	15.0	－	－	外－ヨコナデ、粗目タテハケ、ヨコナデ、粗目タテハケ 内－ヨコナデ	灰白(10YR8/1)	口10	
6645	3L35 SD1525	須恵器 杯	11.2	7.1	3.6	外－ロクロナデ、ロクロケズリ 内－ロクロナデ	黄灰(25Y7/2)	全体の70	口縁に油煙付着
6646	3K35 SD1525	須恵器高杯	－	－	－	外内－ロクロナデ	灰白(N8/0)	脚40程度	
6647	3I40 SD1533	須恵器杯蓋	－	つまみ径 2.8	－	外内－ロクロナデ	灰(N5/0)	つまみ部100	
6648	3I40 SD1533	須恵器杯蓋	14.0	－	2.7	外－ロクロケズリ(磨減)、ロクロナデ 内－ロクロナデ	灰白(25Y8/2)	口5 天井部95	
6649	3H40 SD1533	土師器 杯	13.7	10.8	3.3	外－ヨコナデ、指ナデ・指オサエ 内－ヨコナデ、指オサエ、指ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	口95 ほぼ完形	墨書「種口」
6650	3H40 SD1533	須恵器 杯	12.0	4.7	4.4	外－ロクロナデ、糸切り痕 内－ロクロナデ	浅黄橙(10YR8/3)	100	焼成不良 墨書「載」 ドーマン刻書
6651	3I40 SD1533	土師器 鍋	－	－	－	外－指オサエ、指オサエ・指ナデ 内－ハケ	浅黄橙(10YR8/3)	把手のみ	
6652	3H43 SD1536	須恵器高杯	－	脚部底径 15.2	－	外内－ロクロナデ	褐灰(7.5YR5/2)	底20	
6653	2S53 SD1548	灰釉陶器皿	13.0	6.6	2.75	外－ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内－ロクロナデ	灰白(25Y8/1)	口10 底25	内面に使用痕 O-53
6654	2S53・2T53 SD1548	灰釉陶器碗	－	7.5	－	外－ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内－ロクロナデ	灰白(25Y8/1)	底100	内面に焼ぶくれ O-53
6655	2R52 SD1548	灰釉陶器碗	－	6.8	－	外－貼付高台、糸切り痕 内－ロクロナデ	灰白(N8/1)	底20	K-90
6656	2R52 SD1548	灰釉陶器碗	－	7.1	－	外－ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内－ロクロナデ	灰白(5Y8/1)	底10	百代寺
6657	2S53 SD1548	陶器 捏鉢	－	8.8	－	外－ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕、指ナデ 内－ロクロナデ	灰白(N8/1)	底80	重ね焼痕 尾張型3型式
6658	2R52 SD1548	灰釉陶器碗	－	6.5	－	外－ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内－ロクロナデ	灰白(25Y8/1)	底80	内面に重ね焼痕 百代寺
6659	2T53 SD1548	灰釉陶器碗	－	6.2	－	外－ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内－ロクロナデ	灰白(25Y8/1)	底80	O-53
6660	2R52 SD1548	陶器山茶碗	－	7.1	－	外－ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内－ロクロナデ	灰白(25Y7/1)	底45	尾張型3型式
6661	2R52 SD1548	灰釉陶器 小碗	－	4.2	－	外－ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内－ロクロナデ	灰白(25Y8/1)	底100	外面に自然釉 百代寺
6662	2R52 SD1548	土師器 碗	－	5.7	－	外内－磨減	浅黄橙(10YR8/3)	底40	クロロ土師器
6663	2S53 SD1548	土師器 碗	－	6.3	－	外－ロクロナデ、糸切り痕 内－磨減	にぶい橙(2.5YR6/4)	底20	クロロ土師器
6664	2R52 SD1548	土師器 碗	－	5.2	－	外－磨減 内－ロクロナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)	底70	クロロ土師器
6665	2Q50 P9	灰釉陶器鉢	13.7	7.0	4.4	外－ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内－ロクロナデ	灰白(N7/0)	底55	内面に使用痕 墨書 O-53
6666	2Q50 P9	灰釉陶器碗	－	7.2	－	外－ロクロナデ、ロクロケズリ、貼付高台 内－ロクロナデ	灰白(25Y8/1)	底75	内面に重ね焼痕 O-53
6667	2Q50 P9	土師器 皿か杯	－	－	－	外内－ヨコナデ	浅黄橙(10YR8/3)	小片	
6668	2Q50 P9	灰釉陶器碗	－	8.6	－	外－ロクロナデ、貼付高台 内－ロクロナデ	灰白(25Y7/1)	底20	O-53
6669	2Q50 P9	土師器 台付皿	15.8	7.6	推定3.8	外－磨減、貼付高台 内－磨減	浅黄橙(10YR8/3)	高台15	クロロ土師器
6670	2Q50 P9	土師器 杯	13.8	－	－	外－ヨコナデ、ナデ 内－ヨコナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)	口10	
6671	2Q50 P9	土師器 皿	16.8	－	－	外－ヨコナデ 内－ヨコナデ	浅黄橙(10YR8/3)	口20	鉄製品?付着
6672	2Q50 P14	土師器 台付皿	－	9.0	－	外－貼付高台、ロクロナデ 内－ロクロナデ	浅黄橙(7.5YR8/4)	底40	クロロ土師器
6673	2U48 P11	灰釉陶器碗	15.8	－	－	外内－ロクロナデ	灰白(25Y7/1)	口10	内外面に自然釉 O-53
6674	2X51 P3	灰釉陶器皿	14.5	7.2	2.7	外－ロクロナデ、貼付高台 内－ロクロナデ	灰白(25Y8/1)	口30	O-53
6675	3G42 包含層	須恵器 杯	－	8.8	－	外－ロクロナデ、貼付高台 内－ロクロナデ	灰白(25Y7/1)	底20	
6676	3G42 包含層	灰釉陶器皿	13.9	6.8	3.1	外－ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕、ロクロナデ 内－ロクロナデ	灰白(N8/0)	底100	内外面に使用痕 O-53
6677	包含層	灰釉陶器皿	12.2	5.5	2.1	外－ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内－ロクロナデ	灰白(25Y7/1)	底30	施釉 内面に使用痕 O-53
6678	包含層	灰釉陶器皿	14.5	－	－	外内－ロクロナデ	灰白(25Y8/1)	口30	輪花1ヵ所残存 K-90
6679	3G42 包含層	灰釉陶器碗	－	7.0	－	外－ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕、ロクロナデ 内－ロクロナデ	灰白(N8/0)	底50	内面に自然釉 K-90
6680	3G42 包含層	土師器 杯	13.4	6.4	2.9	外－ヨコナデ、ナデ 内－ヨコナデ	浅黄橙(7.5YR8/3)	口10	
6681	3A38 包含層	黒色土器杯	13.2	7.6	3.3	外－ヨコナデ 内－ヨコナデ、ナデ・オサエ	淡黄(25Y8/3)	底30	内外面に黒斑
6682	包含層	土師器 皿	17.6	10.2	3.0	外－磨減 内－ヨコナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	口10	
6683	SB1591 2U47P5	陶器山茶碗	15.0	－	－	外内－ロクロナデ	灰白(25Y8/1)	口5	尾張型6型式
6684	SB1591 2U47P5	陶器山茶碗	－	7.3	－	外－ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内－ロクロナデ	灰白(25Y8/1)	底15	尾張型6型式
6685	SB1591 2W47P3	陶器山茶碗	13.6	－	－	外内－ロクロナデ	灰白(25Y8/1)	口10	尾張型8型式
6686	SB1591 2W47P6	陶器 山皿	8.0	5.3	1.9	外－ロクロナデ、糸切り痕 内－ロクロナデ、一定方向指ナデ	灰白(5Y8/1)	口90、 他は100	墨書花押 尾張型8型式
6687	SB1591 2V47P17	陶器片口鉢	31.0	－	－	外内－ロクロナデ	褐灰(10YR6/1)	口15	片口鉢I類6a型
6688	SB1591 2V47P17	陶器山茶碗	－	6.0	－	外－ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内－ロクロナデ、ロクロナデ、一定方向ナデアリ	灰白(25Y8/2)	底60	外面にモミガラ痕 尾張型6型式
6689	SB1591 2U48P3	陶器 甕	－	－	－	外－押印文、ナデ 内－粘土ひも接合部巻き上げ痕、ヘラ・ヨコナデ	灰黄(25Y7/2)	小片	常滑窯産 中野2～3型式
6690	SB1593 2V48P5	陶器山茶碗	14.4	5.0	4.8	外－ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内－ロクロナデ	灰白(25Y7/1) 炭化物:黒褐(10YR3/1)	ほぼ完形 高台75	炭化物 尾張型6型式

報告書 番号	出土位置 出土遺構	器 種	法量 (cm)			調 整 技 法 の 特 徴	色 調	残存度 (%)	備 考
			口径	底径	器高				
6691	SB1593 2V48P5	陶器山茶碗	14.1	6.2	5.0	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(2.5Y8/1)	25	墨書、自然釉 外面に粉痕 尾張型 6 型式
6692	SB1593 2V48P5	陶器片口鉢	24.2	-	-	外内-ロクロナデ	灰白(2.5Y8/1)	口10	片口鉢 I 類 5 型
6693	SB1593 2V48P5	土師器 皿	8.0	-	1.4	外-ヨコナデ、ナデ 内-ヨコナデ、ナデ	橙(2.5YR7/6)	60	
6694	SB1593 2V48P5	土師器 皿	8.5	-	1.5	外-ナデ 内-ヨコナデ、ナデ	にぶい橙(7.5YR7/4)	80	
6695	SB1593 2V48P5	土錘	直径3.0	孔径1.0	長さ7.4	ナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	ほぼ完形	黒斑 重量67g
6696	SB1593 2U47P1	陶器山茶碗	13.6	-	-	外内-ロクロナデ	灰白(5Y7/1)	口10	尾張型 6 型式
6697	SB1593 2T48P7	陶器 山皿	8.0	5.6	1.6	外-ロクロナデ、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(2.5Y7/1)	口40	尾張型 7 型式
6698	SB1594 2W48P1	陶器山茶碗	15.0	-	-	外内-ロクロナデ	灰白(5Y7/1)	口10	尾張型 6 型式
6699	SB1594 2W48P1	陶器山茶碗	13.7	-	-	外内-ロクロナデ	灰白(2.5Y7/1)	口10	尾張型 6 型式
6700	SB1594 2W48P1	陶器山茶碗	13.0	-	-	外内-ロクロナデ	灰白(2.5Y8/1)	口10	尾張型 6 型式
6701	SB1594 2V48P3-P4	陶器山茶碗	13.8	6.6	推定4.8	外内-ロクロナデ	灰白(2.5Y7/1)	口15	内面墨書 尾張型 6 型式
6702	SB1594 2W48P1	陶器山茶碗	14.8	7.0	4.8	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(2.5Y7/1)	口70 底90	内外面にスス付着 尾張型 6 型式
6703	SB1594 2W48P1	陶器山茶碗	-	6.4	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ、ロクロナデ、一定方向指ナデ	灰白(2.5Y8/1)	底30	自然釉 内面重ね焼痕 尾張型 6 型式
6704	SB1594 2W48P1	陶器山茶碗	-	5.8	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ、ロクロナデ、ナデ	灰白(5Y7/1)	底40	尾張型 6 型式
6705	SB1596 2V47P12	陶器山茶碗	14.6	-	-	外内-ロクロナデ	灰白(2.5Y7/1)	口10	尾張型 6 型式
6706	SB1598 2V49P8	陶器山茶碗	13.8	-	-	外内-ロクロナデ	灰白(2.5Y8/1)	口10	外面に自然釉 尾張型 7 型式
6707	SB1598 2V49P8	陶器山茶碗	-	5.7	-	外-ロクロナデ、貼付高台、ナデ 内-ロクロナデ、一定方向指ナデ	灰白(2.5Y7/1)	底65	尾張型 7 型式
6708	SB1598 2U49P10	土師器 皿	7.8	2.7	1.1	外-ヨコナデ、ナデ 内-ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	口20	
6709	SB1599 2V49P11	陶器山茶碗	-	6.6	-	外-ロクロナデ、高台剥離、糸切り痕 内-ロクロナデ、一定方向指ナデ	灰白(2.5Y7/1)	底30	内面に自然釉少量 尾張型 7 型式
6710	2W44 SK1523	陶器山茶碗	-	7.3	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(10YR8/1)	底75	重ね焼痕、使用痕、 尾張型 3 型式
6711	2V47 SK1524	陶器山茶碗	-	-	-	外内-ロクロナデ	灰白(2.5Y8/1)	小片	尾張型 8～9 型式
6712	2Y45 SK1526	陶器 鉢	27.8	-	-	外内-ロクロナデ	褐灰(7.5YR4/1)	口5	内外面に施釉アリ 瀬戸系
6713	3G42 SK1529	陶器山茶碗	-	6.4	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ、指オサエ	灰白(2.5Y8/1)	底25	自然釉、使用痕 外面粉痕 尾張型 5 型式
6714	3G42 SK1529	陶器山茶碗	-	5.9	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(N8/0)	底55	内面に自然釉 尾張型 5 型式
6715	3G42 SK1529	土師器 鍋	-	-	-	外内-磨減	にぶい黄橙(10YR7/4)	小片	外面にスス付着 南伊勢系 3 段階
6716	2V49 SK1572 上層	陶器山茶碗	-	7.4	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(2.5Y7/1)	底30	尾張型 6 型式
6717	2V49 SK1572 WE ト レ	緑釉陶器碗	-	-	-	外-ロクロナデ、削り出し高台か？ 内-ロクロナデ	素地-灰白(2.5Y7/1) 釉-灰白(10Y7/2) (近値)	小片	内外面に施釉 稜碗か
6718	2W49 SK1572	陶器 甕	44.3	-	-	外-ロクロケズリ、ロクロナデ、貼付高台 内-ロクロナデ	灰褐(7.5YR4/2)	口15	常滑窯産 中野 7 型式
6719	2W49 SK1572	陶器 甕	44.3	-	-	外-ロクロナデ、タテ方向板へラナデ、押印文、ナデ 内-指オサエ、ロクロナデ 板へラナデ	灰褐(7.5YR4/2)	口15	常滑窯産 中野 7 型式
6720	2T48 SK1573	陶器山茶碗	-	5.8	-	外-ロクロナデ、貼付高台剥離、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(2.5Y8/1)	底40	尾張型 7 型式
6721	3G41 SE1542	陶器山茶碗	-	6.1	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(5Y7/1)	底30	尾張型 6 型式
6722	3G41 SE1542	土師器 皿	13.2	-	-	外-ヨコナデ、ナデ・オサエ 内-ヨコナデ、ナデ	灰白(2.5Y8/2)	口30	
6723	3G41 SE1542	陶器片口鉢	29.8	-	-	外-ヨコナデ、ヨコナデ、タテ方向板ナデ 内-ヨコナデ、使用による磨減	灰褐(5YR5/2)	口10	常滑窯産 中野 II 類 6 a
6724	2Y52 SE1566 上層	陶器 甕	46.6	-	-	外内-ロクロナデ	橙(5YR7/6)	口5	常滑窯産 中野 11 型式
6725	2Y52 SE1566 下層	陶器 甕	-	17.0	-	外-へラナデ、ヨコナデ 内-ヨコナデ	にぶい黄橙(10YR7/3)	底15	常滑窯産 中野 2～3 型式
6726	2Y52 SE1566 下層	陶器山茶碗	-	6.4	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	黄灰(2.5Y6/1)	底30	内面炭化物付着 外面墨付着 尾張型 5 型式
6727	2Q52 SD952	陶器 小碗	-	5.0	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(N8/1)	底100	使用痕 重ね焼痕跡 尾張型 3 型式
6728	2Q51 SD952	陶器山茶碗	-	7.3	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(2.5Y7/1)	底100	使用痕 尾張型 3 型式
6729	3C40 SD1505 下層	土師器 皿	-	5.5	1.7	外-ロクロナデ、糸切り痕 内-ロクロナデ	浅黄橙(10YR8/3)	底100	糸切り痕 ロクロ土師器
6730	3B40 SD1505	陶器山茶碗	-	6.7	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-指オサエ、ロクロナデ	灰白(2.5Y7/1)	底90	外面粉痕 尾張型 5 型式
6731	3C40 SD1505	灰釉陶器碗	-	7.6	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(2.5Y8/1)	底25	百代寺
6732	3B40 SD1505	灰釉陶器碗	-	6.8	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(5Y7/1)	底15	H-72
6733	3C40 SD1505 下層	灰釉陶器碗	-	6.4	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(2.5Y8/2)	底95	重ね焼痕跡 O-53
6734	SD1505 下層	土師器 杯	-	5.2	-	外内-磨減	浅黄橙(10YR8/4)	底75	ロクロ土師器
6735	3C40 SD1505 下層	土師器 杯	13.0	6.0	2.6	外-オサエ・ナデ、ヨコナデ 内-ヨコナデ、ナデ	淡黄(2.5Y8/3)	底 50	内外面に黒斑
6736	3G36 SD1511	陶器山茶碗	15.0	-	-	外-ロクロナデ、ヨコナデ 内-ロクロナデ	灰白(N7/0)	口10	瀬美型 4 型式
6737	3G36 SD1511	陶器山茶碗	-	7.0	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(2.5Y8/1)	底35	内面に使用痕 尾張型 4 型式
6738	3G35 SD1511	陶器山茶碗	-	7.2	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(N8/0)	底25	内面に使用痕 尾張型 3 型式
6739	3G36 SD1511	灰釉陶器皿	-	6.4	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(2.5Y8/1)	底45	重ね焼痕・使用痕 H-72
6740	3G36 SD1511	陶器山茶碗	-	7.1	-	外-ロクロナデ、貼付高台 内-ロクロナデ	灰白(N8/0)	底20	外面に粉痕 尾張型 5 型式
6741	3G36 SD1511	灰釉陶器碗	-	推定7.0	-	外-ロクロナデ、貼付高台、欠損、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(2.5Y8/1)	底30	H-72
6742	3G36 SD1511	灰釉陶器碗	-	6.5	-	外-ロクロナデ、貼付高台 内-ロクロナデ	灰白(2.5Y8/1)	底15	百代寺
6743	3G35 SD1511	陶器 小碗	-	4.4	-	外-ロクロナデ、貼付高台 内-ロクロナデ	灰白(2.5Y7/1)	底15	尾張型 3 型式
6744	3G36 SD1511	陶器 小碗	-	4.8	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(5Y8/1)	底50	尾張型 3 型式
6745	3G35 SD1511 サブ ト レ	灰釉陶器碗	-	6.8	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(2.5Y8/1)	底10	内面に自然釉 百代寺
6746	3G36 SD1511	土師器 台付皿	-	6.8	-	外内-ヨコナデ	浅黄橙(10YR8/3)	台50	
6747	2U46 SD1521	陶器山茶碗	13.6	-	-	外内-ロクロナデ	灰白(2.5Y8/1)	口10	内面に自然釉 尾張型 6 型式
6748	2U46 SD1521	陶器山茶碗	13.2	-	-	外内-ロクロナデ	灰白(2.5Y8/1)	口15	尾張型 5～6 型式
6749	2U46 SD1521	陶器山茶碗	-	5.4	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ、一定方向指ナデ	灰白(2.5Y8/1)	底45	内面自然釉、外面粉痕 尾張型 7 型式
6750	2V46-3B43 SD1521-SK1519	陶器 甕	33.0	-	-	外内-ロクロナデ	にぶい赤褐(5YR5/3)	口10	常滑窯産 中野 5 型式 内外面に施釉(鉄釉)
6751	3G41 SD1535 Ⅲ層	土師器 甕	15.5	-	-	外-ヨコナデ 内-ヨコナデ、ハケ	灰白(2.5Y8/2)	口15	
6752	3G41 SD1535 Ⅲ層	土師器 甕	23.8	-	-	外内-ヨコナデ	灰白(10YR8/2)	口10	

報告書 番号	出土位置 出土遺構	器 種	法量(cm)			調 整 技 法 の 特 徴	色 調	残存度 (%)	備 考
			口径	底径	器高				
6753	3G41 SD1535 II層	土師器 杯	123	6.6	27	外-ヨコナデ、ナデ・オサエ -ヨコナデ	灰白(25Y7/2)	口10	
6754	3G41 SD1535 III層	土師器 杯	147	-	-	外-ヨコナデ、ナデ・オサエ -ヨコナデ	灰黄(25Y7/2)	口15	
6755	3G41 SD1535 II層	土師器 杯	156	-	3.1	外-ヨコナデ、オサエ・ナデ 内-ヨコナデ	灰黄(25Y7/2)	口10	
6756	3G41 SD1535 II層	陶器山茶碗	130	5.3	5.5	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ、一定方向ナデ	灰白(25Y8/1)	40 底95	墨書「ニ」 自然釉 尾張型6型式
6757	3G41 SD1535 I層	陶器山茶碗	-	6.2	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(25Y8/1)	底30	墨書「一」 尾張型6型式
6758	3G41 SD1535 III層	陶器山茶碗	136	-	-	外内-ロクロナデ	灰白(N8/0)	口35	尾張型9型式 歪み 自然釉
6759	3G41 SD1535 III層	陶器山茶碗	129	5.1	4.5	外-ロクロナデ、糸切り痕 内-ロクロナデ、一定方向ナデ	灰白(25Y8/1)	口35 底100	スス付着 尾張型10型式
6760	3G41 SD1535 III層	陶器山茶碗	-	6.2	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ、一定方向ナデ	灰白(25Y8/1)	底70	外面にモミガラ痕 尾張型6型式
6761	3G41 SD1535 III層	陶器山茶碗	-	5.8	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(25Y7/1)	底95	内外面に墨付着 外面粉痕 尾張型6型式
6762	3G41 SD1535 III層	陶器山茶碗	-	7.4	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(N8/0)	底50	外面にモミガラ痕 尾張型3型式
6763	3G41 SD1535 III層	陶器山茶碗	-	7.1	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(25Y7/1)	底35	内面に使用痕 尾張型3型式
6764	3F41 SD1535	陶器山茶碗	-	5.0	-	外-ロクロナデ、糸切り痕 内-ロクロナデ、ナデ	灰白(N8/0)	底100	尾張型6型式
6765	3G42 SD1535	灰釉陶器碗	-	6.0	-	外-貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(25Y8/1)	底30	内面に自然釉 H-72
6766	3G41 SD1535 I層	陶器 山皿	8.4	6.0	1.8	外-ロクロナデ、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(N 7/0)	10	尾張型7型式
6767	3G41 SD1535 III層	灰釉陶器 小碗	-	5.6	-	外-ロクロナデ、貼付高台 内-ロクロナデ	灰白(25Y7/1)	底30	百代寺
6768	3G41 SD1535 III層	須恵器 杯	-	7.0	-	外-ロクロナデ、ヘラ切り未調整か？ 内-ロクロナデ、一定方向ナデ	にぶい黄橙(25YR6/4)	底25	
6769	2X55 SD1546	陶器山茶碗	15.7	-	-	外内-ロクロナデ	灰白(25Y8/2)	口10	自然釉 尾張型5型式
6770	2W55 SD1546 上層	陶器山茶碗	-	5.5	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ、指ナデ	灰白(25Y8/1)	底50	外面にモミガラ痕 尾張型7型式
6771	2X55 SD1546	陶器山茶碗	-	8.2	-	外-貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(25Y8/2)	底30	内面に使用痕 尾張型4型式
6772	2X55 SD1546	灰釉陶器 深碗	-	8.3	-	外-ロクロケズリ、貼付高台 内-ロクロナデ	灰白(5Y7/1)	底25	内面に使用痕 O-53
6773	2S52 SD1563	陶器山茶碗	14.0	5.7	4.9	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ、一定方向ナデ	灰白(25Y8/1)	底45	尾張型6型式
6774	2S49 SD1580	陶器山茶碗	-	5.8	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(25Y7/1)	底45	使用痕 尾張型3型式
6775	2S49 SD1580	陶器山茶碗	-	7.8	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(25Y7/1)	底30	使用痕アリ 尾張型3型式
6776	2S49 SD1580	白磁 碗	-	-	-	外内-ロクロナデ	灰白(5Y8/1)	小片	施釉 大宰府IV-1類
6777	3H42 P2 柱痕	陶器 茶壺	4.8	5.2	8.9	外-ロクロナデ、ヘラケズリ、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰(N6/0)	60 底100	外面に施鉄釉、初期信楽？
6778	2S50 P3	陶器山茶碗	14.0	推定5.4	5.4	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ、一定方向指ナデ	灰白(25Y8/2)	95 口100	底部外面に花押の墨書 尾張型7型式
6779	2T48 P42	土師器 鍋	-	-	-	外内-磨減	浅黄橙(10YR8/3)	小片	外面にスス付着
6780	2U47 P1掘方	土師器 鍋	-	-	-	外内-磨減	にぶい黄橙(10YR7/2)	小片	外面にスス付着
6781	2U47 P4	陶器山茶碗	-	-	-	外内-ロクロナデ	灰白(25Y8/1)	小片	尾張型6型式
6782	2V47 P2	陶器山茶碗	-	5.8	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(5Y8/1)	底20	外面にモミガラ痕 尾張型6型式
6783	2V47 P10	陶器山茶碗	-	6.4	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ	灰白(25Y8/1)	底25	外面にモミガラ痕 尾張型6型式
6784	2W48 P3	陶器山茶碗	13.0	-	-	外内-ロクロナデ	灰白(25Y8/1)	口15	内面に使用痕アリ 尾張型8～9型式
6785	2W48 P3	陶器山茶碗	-	4.8	-	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ、一定方向指ナデ	灰白(25Y7/1)	底70	内面煤、底面墨痕 外面粉痕 尾張型7型式
6786	2W48 P3	土師器小皿	7.6	3.8	1.5	外内-ナデ	にぶい橙(5YR7/4)	口10	
6787	2U50 P14	土 鉢	直径11	-	長残3.7	ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	-	4g
6788	2U50 P14	陶器山茶碗	14.8	5.7	5.7	外-ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内-ロクロナデ、指ナデ	灰白(25Y8/1)	口25 底40	外面にモミガラ痕 尾張型7型式
6789	2V42 P18	陶器山茶碗	13.7	-	-	外内-ロクロナデ	灰白(25Y8/1)	口10	内外に自然釉 尾張型7型式
6790	2V47 P8	土師器小皿	7.6	-	-	外-ナデ 内-ヨコナデ、ナデ	浅黄橙(10YR8/3)	25	
6791	3G42 包含層	陶器 鉢鉢	33.2	-	-	外内-ロクロナデ	灰白(N8/0)	口5	内外面に自然釉 尾張型4型式
6792	2W47 包含層	陶器 山皿	7.7	5.1	1.8	外-ロクロナデ、糸切り痕、工具(ヘラ?)痕跡 内-ロクロナデ、一定方向指ナデ	灰白(25Y8/2)	底80	尾張型6型式
6793	2T50 包含層	土師器 小 皿	9.0	-	1.6	外-ヨコナデ、ナデ 内-磨減	浅黄橙(10YR8/3)	口45	
6794	2W51 包含層	白磁 碗	15.6	-	-	外-ロクロケズリ	灰白(10Y8/1)	口10	施釉 大宰府IV-1b類
6795	1Y25 包含層	フイゴ羽口	-	-	-	表面磨減	黒(5Y2/1)ガラス質 灰白(10YR8/1)	小片	

表12 石製品観察表

報告書 番号	出土位置 出土遺構	器種	石材	法量 (c m)				備考
				長さ	厚さ	幅	重量 (g)	
6800	2S51 SH1577	剥片	ハイアロクラスタイト	5.0	3.4	1.1	23.9	研磨と敲打痕
6801	2U53 SX1552	扁平片刃石斧	ハイアロクラスタイト	4.2	2.6	0.8	15.2	
6802	2U53 SX1552	磨製両刃石斧	ハイアロクラスタイト	6.3	4.8	2.5	92.9	刃部つぶれ
6803	2W51 SX1552	不明品	砂質凝灰岩	11.3	8.5	2.2	158.3	被熱
6804	3C37 SZ1507 II-b層	敲石	凝灰質砂岩	5.7	5.2	4.5	154.9	
6805	3C37 SZ1507 II-a層	原石	緑色岩	12.5	11.1	5.9	944.9	
6806	2V49 SX991	砥石	砂質凝灰岩	13.3	5.4	7.5	542.2	
6807	2Q51 SX991土器 2	白玉	滑石	径0.55	孔径0.15	0.25		片面穿孔
6808	2Q51 SX991土器 2	白玉	滑石	径0.55	孔径0.15	0.25		片面穿孔
6809	2Q51 SX991土器 2	白玉	滑石	径0.6	孔径0.15	0.25		片面穿孔
6810	2Q51 SX991土器 2	白玉	滑石	径0.6	孔径0.15	0.2		片面穿孔
6811	2Q51 SX991土器 2	白玉	滑石	径0.55	孔径0.15	0.28		片面穿孔
6812	2Q51 SX991土器 2	白玉	滑石	径0.55	孔径0.15	0.4		片面穿孔
6813	2Q51 SX991土器 2	白玉	滑石	径0.55	孔径0.15	0.18		片面穿孔
6814	2Q51 SX991土器 2	白玉	滑石	径0.55	孔径0.15	0.28		片面穿孔
6815	2Q51 SX991土器 2	白玉	滑石	径0.55	孔径0.15	0.45		片面穿孔
6816	2Q51 SX991土器 2	白玉	滑石	径0.55	孔径0.15/0.2	0.35		片面穿孔
6817	2Q51 SX991土器 2	白玉	滑石	径0.55	孔径0.15	0.35		片面穿孔
6818	2Q51 SX991土器 2	白玉	滑石	径0.55	孔径0.15	0.35		片面穿孔
6819	2Q51 SX991土器 2	白玉	滑石	径0.55	孔径0.15	0.4		片面穿孔
6820	2Q51 SX991土器 2	白玉	滑石	径0.55	孔径0.15	0.35		片面穿孔
6821	2Q51 SX991土器 2	白玉	滑石	径0.6	孔径0.15/0.18	0.35		片面穿孔
6822	2Q51 SX991土器 2	白玉	滑石	径0.55	孔径0.15	0.35		片面穿孔
6823	3L37 SD1525	砥石	凝灰岩	6.0	4.0	2.3	47.9	
6824	3G41 SE1542	太形蛤刃石斧	ハイアロクラスタイト	13.3	5.6	4.7	527.4	基部が円柱状。刃部欠損
6825	2T51 SD15657e	剥片	泥岩	6.3	2.2	1.6	19.3	
6826	2S49 SD1580セイサ	石核	チャート	4.0	3.5	1.6	18.3	裏面は節理面
6827	2S49 SD1580	扁平片刃石斧未成品	ハイアロクラスタイト	8.0	5.2	1.7	102.1	剥離段階
6828	2T48 P7	太形蛤刃石斧	ハイアロクラスタイト	12.7	7.1	5.3	778.2	刃部欠損の後、再生の研磨痕(磨き直し)
6829	2T48 P13	砥石	ホルンフェルス	12.5	4.6	3.8	277.4	
6830	3G42 包含層	砥石	ホルンフェルス	15.3	11.8	4.0	818	被熱資料
6831	包含層	砥石	凝灰質泥岩	6.1	3.7	1.5	52.3	右側面に鋸痕
6832	3D37 SR578 II-b層	扁平片刃石斧	ハイアロクラスタイト	8.2	5.7	1.6	146	刃部は平坦に研磨。刃縁敲打。再利用か
6833	3C36 SR578 I-b層	磨製両刃石斧	ハイアロクラスタイト	10.3	4.4	2.3	169.9	刃部はつぶれ(敲打)。転用
6834	3E37 SR578 II-b層	磨製石斧未成品	ハイアロクラスタイト	7.7	5.3	3.7	179	剥離段階
6835	3G37 SR578 II-b層	太形蛤刃石斧	ハイアロクラスタイト	11.8	6.1	4.5	502.1	刃部破損
6836	3B37 SR578 I-b層	磨製石斧未成品	ハイアロクラスタイト	5.1	5.4	1.8	66.1	剥離段階。扁平片刃石斧の未成品か
6837	3B36 SR578 I-b層	磨製石斧未成品	ハイアロクラスタイト	7.0	4.2	1.4	51.8	剥離段階。もしくは破損品(薄すぎるため)
6838	3J36 SR578 I-c層	磨製石斧	蛇紋岩	4.6	4.1	1.9	52.4	定角式磨製石斧。被熱。縄文中期～後期
6839	3F38 SR578 II-b層	打ち欠き石錘	安山岩	8.8	7.2	2.8	211.9	
6840	3F38 SR578 II-b層	打ち欠き石錘	凝灰質砂岩	8.2	7.8	2.5	185.6	
6841	3H37 SR578 II-b層	打ち欠き石錘	凝灰質砂岩	8.7	6.2	2.0	145.5	片側打ち欠き
6842	3D37 SR578 II-b層	敲石	凝灰質砂岩	9.5	4.4	3.6	220.2	全面に敲き痕
6843	3E37 SR578 II-b層	敲石	アブライト	4.8	7.6	2.9	138	
6844	3B36 SR578 II-b層	敲石	砂岩	9.1	5.4	3.9	276.5	
6845	3E37 SR578 II-b層	敲石	アブライト	4.5	5.1	3.7	120	
6846	3I36 SR578 I-c層	敲石	安山岩(長石、角閃石、黒雲母入り)	10.5	10.9	7.1	1117.4	
6847	3D36 SR578 II-b層	敲石	砂岩	8.2	6.1	5.7	353.8	
6848	3C37 SR578 II-a層	砥石	砂質凝灰岩	6.9	6.5	2.2	100.2	
6849	3D37 SR578 II-a層	砥石	凝灰質砂岩	5.3	4.4	2.8	71.6	
6850	3B36 SR578 II-b層	砥石	凝灰質砂岩	5.5	7.4	1.7	73.5	
6851	3E37 SR578 II-b層	砥石	砂質凝灰岩	6.0	9.0	2.4	132.1	被熱。幅0.3cmほどの線状痕
6852	3B36 SR578 II-b層	砥石	砂質凝灰岩	7.9	7.8	3.5	223.7	被熱
6853	3I38 SR578 I-c層	砥石	凝灰質砂岩	14.2	10.7	2.3	534.4	側面に叩き痕
6854	3B36 SR578 II-b層	砥石	凝灰質砂岩	5.9	4.8	2.1	87.6	側面に叩き痕
6855	3C35 SR578 II-b層	砥石	凝灰質砂岩	10.1	9.4	2.2	318.6	側面に叩き痕
6856	3C35 SR578 I-c層	砥石	凝灰質砂岩	20.6	6.2	5.3	706.4	
6857	3C37 SR578 II-a層	不明品	砂岩	11.9	10.2	10.5	2141.9	上下の折れ面を叩き痕で加工
6858	3H38 SR578 II層	剥片	凝灰質砂岩	10.5	18.1	2.8	519.8	大型の剥片。大型直縁刃石器の素材剥片か

表13 木製品観察表

報告書 番号	出土位置 出土遺構	器種	法量 (cm)			樹種	木取り等	備考
			全長	幅	厚さ			
6900	3C37 SZ1507	直柄鉄鍬	柄(36.0) 身(14.2)	柄の径3.5 身5.9	刃部1.1	身:ブナ科コナラ属アカガシ亜属 柄:ブナ科コナラ属コナラ節	身:榎目材 柄:芯持材	NO.9 樹皮が残る
6901	3C37 SZ1507 II -a層	農具片	(13.7)	(4.3)	(1.7)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	
6902	3C37 SZ1507 II -b層	鉄片	(20.6)	(8.8)	(2.5)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	
6903	3C37 SZ1507	泥除未成品(二連式)	18.4	54.3	4.2~0.3	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	NO.1
6904	3C37 SZ1507	泥除か横鍬	(11.0)	(20.2)	0.7	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	NO.3
6905	3C37 SZ1507	不明品(小型石斧柄?)	19.5	径1.2		マツ科モミ属	丸太材	
6906	3C37 SZ1507	容器	径(5.5)	高さ(16.7)		クスノキ科クスノキ属クスノキ	縦木取り	NO.11
6907	3C37 SZ1507	田下駄(槽転用)	(33.0)	(11.2)	4.9~1.1	スギ科スギ属スギ	横木取り	穿孔あり
6908	3C37 SZ1507	残材	(8.7)	10.0	3.9	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	NO.11
6909	3C37 SZ1507 II -b層	棒状製品	(18.7)	径1.9		マツ科モミ属	丸太材	
6910	3C37 SZ1507	角材	(10.7)	3.6	1.9	スギ科スギ属スギ	割材	NO.1
6911	3C37 SZ1507	杭状製品	(36.3)	径3.8		ツバキ科サカキ属サカキ	丸太材	NO.15
6912	3D37 SZ1507 II -b層	杭状製品	(9.8)	5.5	4.5	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	割材	
6913	3C37 SZ1507	杭状製品	(6.7)	径4.7~3.7		ブナ科コナラ属アカガシ亜属	丸太材	
6914	3C37 SZ1507 II -b層	棒状製品	(71.2)	2.9	3.1	スギ科スギ属スギ	板目材	断面多角形
6915	3C37 SZ1507	角材	(23.2)	(5.0)	(3.5)	スギ科スギ属スギ	割材	
6916	3C37 SZ1507 II -b層	板材	(17.3)	3.5	0.8	スギ科スギ属スギ	榎目材	
6917	3C37 SZ1507	角材	(17.5)	3.0	2.2	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	割材	NO.15
6918	3C37 SZ1507	角材	(35.7)	(9.2)	(5.4)	スギ科スギ属スギ	割材	NO.5 炭化
6919	3C37 SZ1507	丸太材(原材)	(165.2)	径(10.4)		マツ科モミ属	丸太材	NO.8
6920	3B37 SZ1509	泥除未成品	29.1	36.5	6.1	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	NO.7
6921	3B37 SZ1509	樹皮	(36.8)	(19.6)	(2.3)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	NO.5
6922	3B37 SZ1509	棒	(19.8)	径2.4		ツツジ科スノキ属シャシャンボ	丸太材	NO.6
6923	3D37 SZ1515	曲柄鉄未成品	45.2	(8.0)	1.4	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	NO.1
6924	3D37 SZ1515	不明品	(10.6)	(6.7)	2.1	ブナ科クリ属クリ	榎目材	NO.2
6925	3D37 SZ1515	不明品	(9.1)	(6.3)	3.8	ツバキ科サカキ属サカキ	榎目材	
6926	3D37 SZ1515	堅杵未成品	(29.9)	径8.7		ブナ科コナラ属アカガシ亜属	割材	NO.4
6927	3D37 SZ1515	板状製品	(8.5)	(3.8)	2.0	ブナ科シイ属	板目材	炭化
6928	3D37 SZ1515	板状製品	(8.4)	(4.7)	2.1	ブナ科コナラ属コナラ亜属クスギ節	割材	炭化
6929	3D37 SZ1515	板状製品	(13.1)	3.6	1.5	スギ科スギ属スギ	板目材	
6930	3D37 SZ1515	棒	(19.2)	2.7	2.7	ブナ科クリ属クリ	割材	NO.2炭化
6931	3D37 SZ1515	棒	(37.4)	(4.5)	(2.4)	ブナ科コナラ属コナラ亜属クスギ節	割材	NO.7
6932	3D37 SZ1515	棒状製品	(12.7)	2.4	2.1	ニレ科ケヤキ属ケヤキ	割材	
6933	3D37 SZ1515	棒	(41.1)	径(2.9)		ブナ科コナラ属アカガシ亜属	丸太材	NO.8
6934	3D37 SZ1515	棒	(68.4)	径3.4		ブナ科コナラ属アカガシ亜属	丸太材	NO.5
6935	3E37 SR578 II -b層	直柄広鍬	37.0	刃部18.2	刃部1.3	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	NO.1
6936	3I38 SR578 II -b層	直柄鉄鍬	柄(33.0) 身(15.7)	柄の径3.0 身(6.2)	身5.3	身:ブナ科コナラ属アカガシ亜属 柄:ツバキ科サカキ属サカキ	身:榎目材 柄:芯持材	炭化
6937	3E37 SR578 II -b層	直柄鉄鍬	(20.2)	(10.5)	3.9	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	
6938	3E37 SR578 II -b層	直柄鍬	(7.8)	(6.6)	(2.7)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	
6939	3E37 SR578 II -b層	直柄鍬	(18.7)	(5.5)	3.7	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	
6940	3G37 SR578 II -b層	直柄鍬(払い鍬)	(10.9)	(14.9)	2.5	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	
6941	3H37 SR578 II -b層	直柄鍬(払い鍬)	柄(52.5) 身(25.5)	柄の径2.0 身(9.2)	身2.3	身:ブナ科コナラ属アカガシ亜属 柄:ツバキ科サカキ属サカキ	身:榎目材 柄:割材	NO.34
6942	3E37 SR578 II -b層	曲柄鍬	41.9	(10.7)	1.5	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	
6943	3F37 SR578 II -b層	曲柄鍬	(36.1)	(4.5)	(1.6)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	
6944	3D37 SR578 II -b層	曲柄鍬(又鍬)	(38.6)	(4.5)	1.3	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	NO.18
6945	3E37 SR578 II -b層	曲柄鍬	(28.6)	10.0	(1.3)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	NO.12
6946	3F37 SR578 II -b層	曲柄鍬	(23.5)	(9.2)	1.4	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	NO.50
6947	3E37 SR578 II -b層	曲柄鍬	(29.3)	(7.5)	(2.0)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	NO.14
6948	3D37 SR578 II -b層	曲柄鍬(又鍬)?	(31.0)	(4.5)	1.0	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	NO.13
6949	3D37 SR578 II -b層	曲柄鍬(又鍬)?	(38.8)	(4.3)	1.7	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	
6950	3D37 SR578 II -b層	泥除	-	-	-	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	
6951	3D37 SR578 II -b層	泥除	(17.3)	(18.0)	0.9	クスノキ科クスノキ属クスノキ	榎目材	NO.11
6952	3H38 SR578 II -b層	泥除	(12.4)	(25.7)	1.1	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	
6954	3C36 SR578 II -b層	泥除か横鍬未成品	21.7	33.2	2.8	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	
6955	3E37 SR578 II -b層	組合せ多又鋤	(26.5)	(13.0)	2.1	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	NO.22 径5.1cmの穿孔あり
6956	3D36 SR578 II -b層	鋤柄	(17.0)	(4.3)	(2.7)	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	
6957	3E37 SR578 II -b層	一木鋤未成品	63.5	22.5	4.0	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	NO.2
6958	3E37 SR578 II -b層	小型臼	(8.2)	(13.3)	高さ7.4	ブナ科クリ属クリ	縦木取り	
6959	SR578 II -b層	臼	(29.5)	高さ(19.1)	(7.1)	クスノキ科クスノキ属クスノキ	縦木取り	
6960	3E37 SR578 II -b層	鉄斧柄	全40.7 柄37.0 斧台(8.5)	柄の径2.3 斧台3.1	斧台2.5	ツバキ科サカキ属サカキ	芯持材	NO.26 袋状鉄斧用
6961	3B36 SR578 II -b層	鉄斧柄	全(33.4) 柄(28.0) 斧台(10.0)	柄の径2.2 斧台4.5	斧台2.0	ブナ科コナラ属コナラ亜属クスギ節	芯持材	袋状鉄斧用
6962	3H37 SR578 II -b層	弓	(58.5)	1.7	2.4	イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ	割材	芯部分を避けて削る
6963	3B36 SR578 II -b層	不明品	(9.8)	(10.5)	2.7	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	榎目材	
6964	3I38 SR578 II -b層	不明品	(9.8)	(6.2)	(1.2)	クスノキ科クスノキ属クスノキ	縦木取り	
6965	3B36 SR578 II -b層	蓋	(14.3)	(11.3)	1.9	スギ科スギ属スギ	板目材	
6966	3F37 SR578 II -b層	蓋	径10.0		1.0	スギ科スギ属スギ	板目材	NO.33
6967	3E37 SR578 II -b層	不明品	(15.6)	(3.4)	1.7	スギ科スギ属スギ	板目材	NO.38
6968	3D37 SR578 II -b層	不明品(組物)	(22.8)	5.0	1.8	スギ科スギ属スギ	榎目材	NO.3
6969	3E37 SR578 II -b層	不明品(建築部材?)	(35.3)	(6.3)	高さ(7.0)	スギ科スギ属スギ	横木取り	NO.21
6970	3E37 SR578 II -b層	梯子	(36.7)	12.7	11.7	マツ科モミ属	心持材	NO.17 丸太梯子。炭化
6971	3E37 SR578 II -b層	有頭棒	(28.3)	径2.7		ツバキ科サカキ属サカキ	割材	NO.30
6972	3D37 SR578 II -b層	棒状製品(有孔?)	(20.1)	2.2	1.4	スギ科スギ属スギ	板目材	NO.9

報告書 番号	出土位置 出土遺構	器種	法量 (cm)			樹種	木取り等	備考
			全長	幅	厚さ			
6973	3E37 SR578 II-b層	棒状製品(紡織具?)	(38.3)	(1.8)	(1.7)	スギ科スギ属スギ	割材	NO.34
6974	3G37 SR578 II-b層	杭状製品	(20.6)	径3.7		ブナ科コナラ属アカガシ亜属	丸太材	
6975	3G37 SR578 II-b層	杭状製品	(21.3)	径2.9		ツバキ科サカキ属サカキ	丸太材	
6976	3G37 SR578 II-b層	杭状製品	(27.2)	径3.1		マキ科マキ属イヌマキ	丸太材	NO.36
6977	3G37 SR578 II-b層	杭状製品	(57.9)	径3.1		マキ科マキ属イヌマキ	丸太材	
6978	3C35 SR578 II-b層	杭状製品	(68.8)	径2.0		マキ科マキ属イヌマキ	丸太材	
6979	3H37 SR578 II-b層	杭状製品	(51.5)	径5.6		ブナ科クリ属クリ	丸太材	NO.11
6980	3F37 SR578 II-b層	杭状製品	(54.2)	径5.3		ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節	丸太材	NO.44
6981	3D37 SR578 II-b層	棒状製品	(160.3)	4.0	3.4	ヒノキ科アスナロ属	割材	NO.25
6982	3D37 SR578 II-b層	棒	(135.0)	径3.4		イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ	丸太材	NO.8
6983	3F37 SR578 II-b層	丸太材	(71.0)	4.0	3.7	バラ科サクラ属	丸太材	NO.52
6984	3H37 SR578 II-b層	丸太材(三又)	(104.0)	(26.8)	径7.4~3.0	ブナ科クリ属クリ	丸太材	NO.26
6985	3H37 SR578 II-b層	棒	(53.2)	径2.9		イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ		NO.27
6986	3H37 SR578 II-b層	丸太材(二又)	(49.0)	(22.0)	径5.7	マツ科マツ属(二葉松類)	丸太材	NO.12
6987	3D37 SR578 II-b層	丸太材	(25.6)	径9.6		クスノキ科クスノキ属クスノキ	丸太材	
6988	3B36 SR578 II-b層	角材	(10.9)	4.4	3.2	マキ科マキ属イヌマキ	芯持材	
6989	3F37 SR578 II-b層	角材	(49.9)	(4.8)	(3.8)	ブナ科クリ属クリ	割材	NO.46
6990	3F37 SR578 II-b層	角材	(64.0)	(2.1)	(2.1)	スギ科スギ属スギ	割材	NO.47
6991	3D37 SR578 II-b層	角材	(40.7)	3.4	1.8	スギ科スギ属スギ	割材	NO.19
6992	3B36 SR578 II-b層	角材	(27.2)	2.3	(1.8)	スギ科スギ属スギ	割材	
6993	3E37 SR578 II-b層	角材	(34.1)	(5.3)	4.1	スギ科スギ属スギ	割材	NO.10
6994	SR578 II-b層	角材	(32.1)	7.2	4.7	スギ科スギ属スギ	割材	
6995	3D37 SR578 II-b層	角材	(41.0)	6.9	5.4	ブナ科シイ属	芯持材	NO.10
6996	SR578 II-b層	角材	(67.0)	(13.6)	5.5	スギ科スギ属スギ	割材	
6997	3D37 SR578 II-b層	角材	(23.6)	(5.9)	3.7	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	割材	NO.20 炭化
6998	3E37 SR578 II-b層	角材	(47.0)	7.4	5.5	マキ科マキ属イヌマキ	割材	NO.24
6999	3E37 SR578	板状製品	(8.4)	(17.8)	(1.7)	スギ科スギ属スギ	柁目材	
7000	3F37 SR578 II-b層	板状製品	(45.6)	7.0	1.8	スギ科スギ属スギ	板目材	NO.48
7001	3F37 SR578 II-b層	板状製品(建築部材)	(81.2)	9.6	2.2	スギ科スギ属スギ	板目材	NO.40 左右の厚みを均等にする
7002	3H37 SR578 II-b層	板状製品(建築部材)	(94.6)	8.8	1.5	スギ科スギ属スギ	板目材	NO.24 左右の厚みを均等にする
7003	3F37 SR578 II-b層	板状製品(建築部材)	(96.0)	10.0	1.7	スギ科スギ属スギ	板目材	NO.41 左右の厚みを均等にする
7004	3E37 SR578 II-b層	板状製品(建築部材)	96.2	14.2	1.8	スギ科スギ属スギ	板目材	NO.38 左右の厚みを均等にする
7005	3I38 SR578 II-b層	板状製品	(59.5)	13.5	2.0	スギ科スギ属スギ	板目材	NO.8
7006	3D37 SR578 II-b層	板状製品	(27.7)	6.7	0.9	スギ科スギ属スギ	柁目材	NO.2
7007	3H37 SR578 II-b層	板状製品	(27.3)	2.1	0.25	スギ科スギ属スギ	板目材	NO.31
7008	3H37 SR578 II-b層	板状製品	(26.2)	1.4	0.35	スギ科スギ属スギ	板目材	NO.29
7009	3F37 SR578 II-b層	板状製品	(23.5)	(13.7)	(4.3)	ブナ科シイ属	柁目材	NO.43
7010	3D36 SR578 II-b層	板状製品	(12.0)	(15.3)	(2.8)	スギ科スギ属スギ	板目材	
7011	3H37 SR578 II-b層	板状製品	(23.2)	17.0	2.7	スギ科スギ属スギ	柁目材	NO.22
7012	3E37 SR578 II-b層	板状製品	(23.8)	24.5	3.3	スギ科スギ属スギ	柁目材	NO.3
7013	3D37 SR578 II-b層	板状製品	(27.1)	26.3	5.8	スギ科スギ属スギ	板目材	
7014	3I38 SR578 II-b層	板状製品(建築部材)	(77.0)	26.0	2.2	スギ科スギ属スギ	板目材	NO.1 左右の厚みを均等にする
7015	3I38 SR578 I-c層	板状製品(建築部材)	(126.2)	(19.5)	(1.7)	スギ科スギ属スギ	板目材	
7016	3E37 SR578 II-b層	板状製品(建築部材)	(105.4)	(15.6)	4.4~1.7	スギ科スギ属スギ	板目材	戸板の床材?
7017	3C35 SR578 II-b層	板状製品(建築部材)	(122.7)	(30.1)	3.2	スギ科スギ属スギ	板目材	左右の厚みを均等にする。挟りあり
7018	3E37 SR578 II-b層	板状製品(建築部材)	(141.2)	(35.6)	3.2	スギ科スギ属スギ	柁目材	大きな挟りあり。炭化
7019	3E37 SR578 II-b層	割材	(131.3)	9.8	4.0	ブナ科シイ属	割材	炭化
7020	3D37 SR578 II-b層	割材	(57.9)	(5.8)	3.5	ヒノキ科アスナロ属	割材	NO.19
7021	3E37 SR578 II-b層	割材	(56.3)	(6.3)	4.0	ブナ科シイ属	割材	NO.25
7022	3C35 SR578 II-b層	割材	(25.8)	5.0	2.8	ブナ科クリ属クリ	割材	
7023	3C36 SR578 II-a層	瓢箪	10.4	6.7		ウリ科ユウガオ属	—	
7024	3B36 SZ1513	棒	(22.0)	径3.3~2.9		ツバキ科サカキ属サカキ	丸太材	
7025	3K35 SD1525	板状製品	(72.6)	(16.2)	(2.2)	スギ科スギ属スギ	板目材	NO.1
7026	3G41 SE1542	板状製品	(16.7)	5.0	1.7	ヒノキ科アスナロ属	柁目材	NO.2
7027	3G41 SE1542	竹製棒	(37.7)	径2.6		イネ科タケ亜科		NO.5 井戸息抜き
7028	3H4 SD1535	円形曲物	直径47.2~45.0	高さ11.5	0.35~0.5	ヒノキ科ヒノキ属	本体・タガ:板目材、釘:柁目材	
7029	3G41 SD1535Ⅲ層	割材	(19.7)	5.7	4.1	シキミ科シキミ属シキミ	柁目材	
7030	3G41 SD1535	板材	(29.5)	9.0	0.8	—	板目材	NO.7
7031	3G41 SD1535Ⅲ層	角材	(19.2)	3.3	(2.3)	シキミ科シキミ属シキミ	割材	
7032	3G41 SD1535	板材	(35.6)	4.6	1.9	スギ科スギ属スギ	柁目材	NO.12
7033	3G41 SD1535	棒	(71.8)	(6.5)	(1.5)	マツ科マツ属(二葉松類)	板目材	NO.6
7034	3G41 SD1535	杭	(38.2)	径4.6		マツ科マツ属(二葉松類)	丸太材	NO.10
7035	3G41 SD1535	杭	(34.3)	径3.6		クワ科クワ属	丸太材	NO.13
7036	3G41 SD1535Ⅲ層	杭	(68.3)	径4.1		マツ科マツ属(二葉松類)	丸太材	

遺構・遺物図版

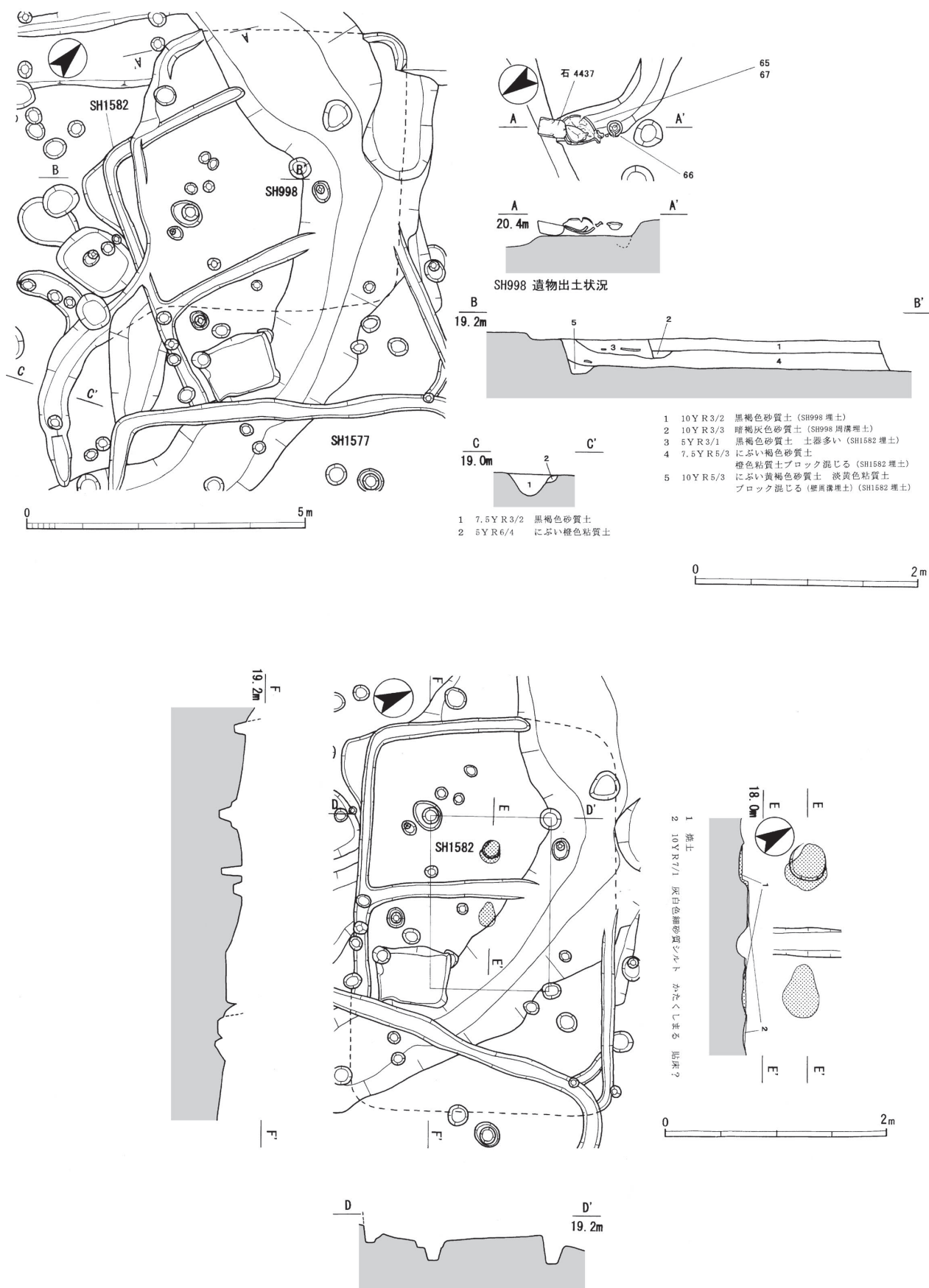


図6 SH998・1582平面・断面・土層断面・遺物出土状況図（1：100、土層断面・出土状況図・炉は1：50）



图7 SX1552平面·断面图 (1 : 100)

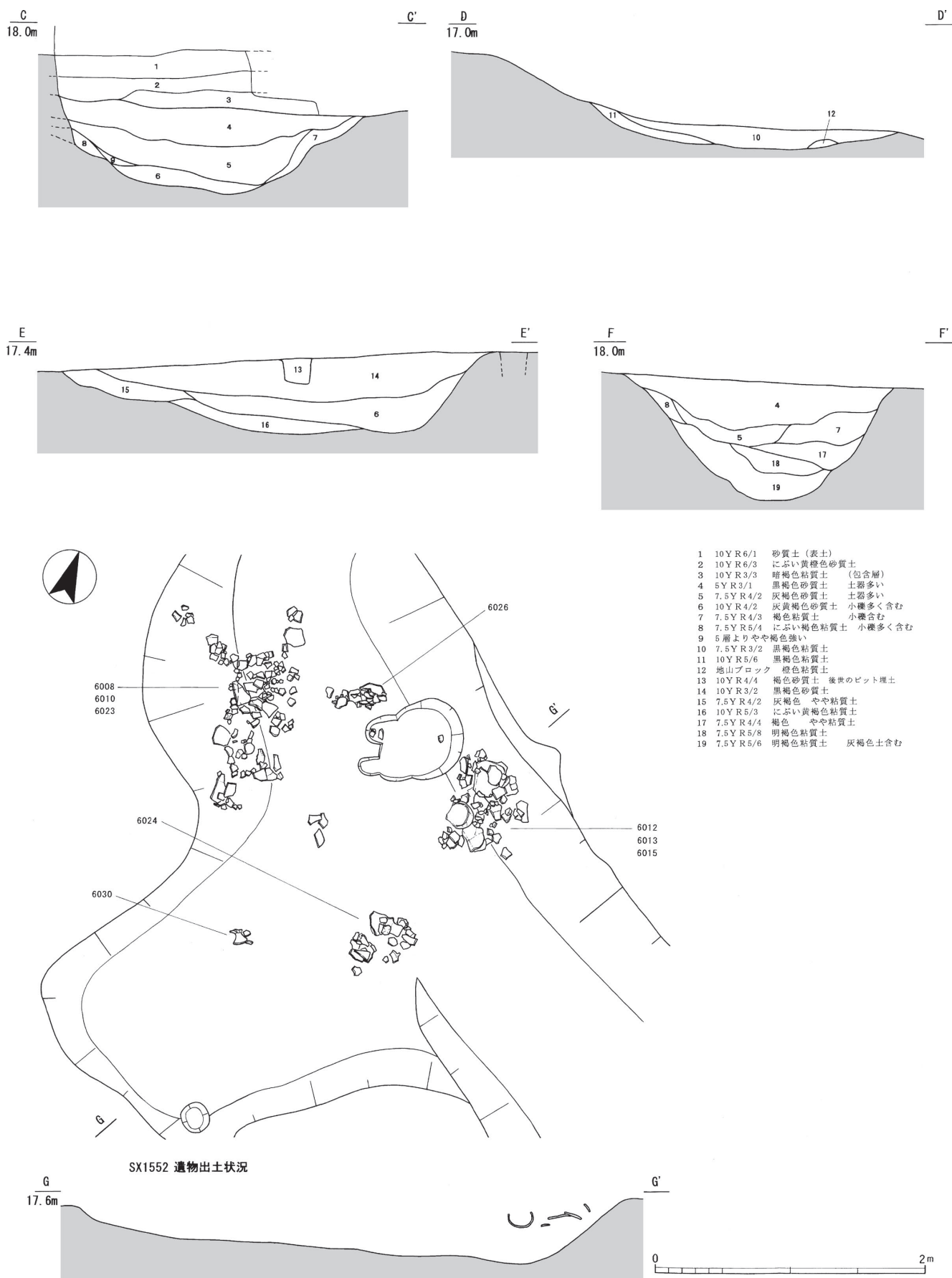


図8 SX1552土層断面・遺物出土状況図 (1 : 40)

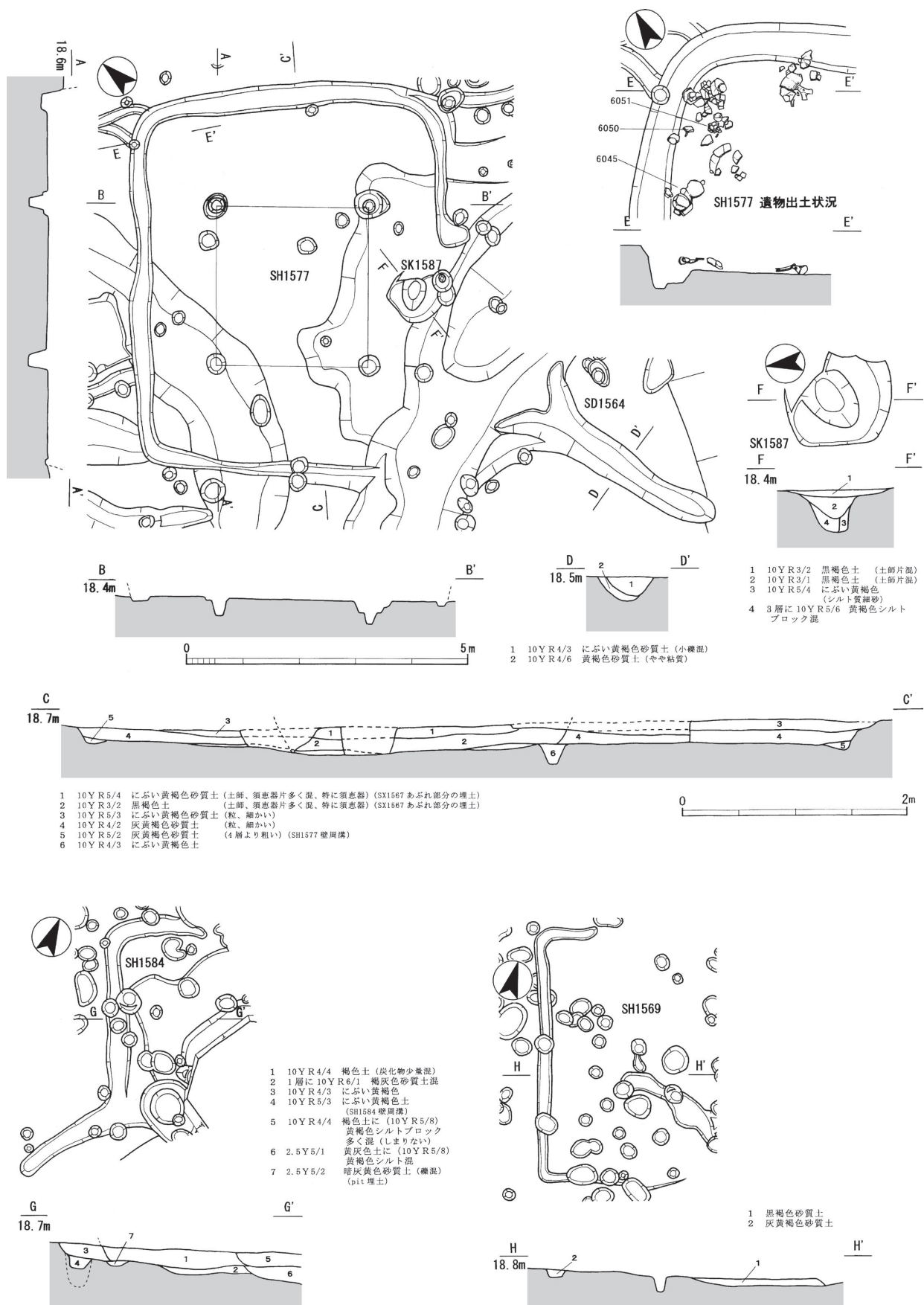


図9 SH1569・1577・1584、SK1587平面・断面・土層断面・遺物出土状況図 (1:100、土層断面・出土状況図・SK1587は1:50)

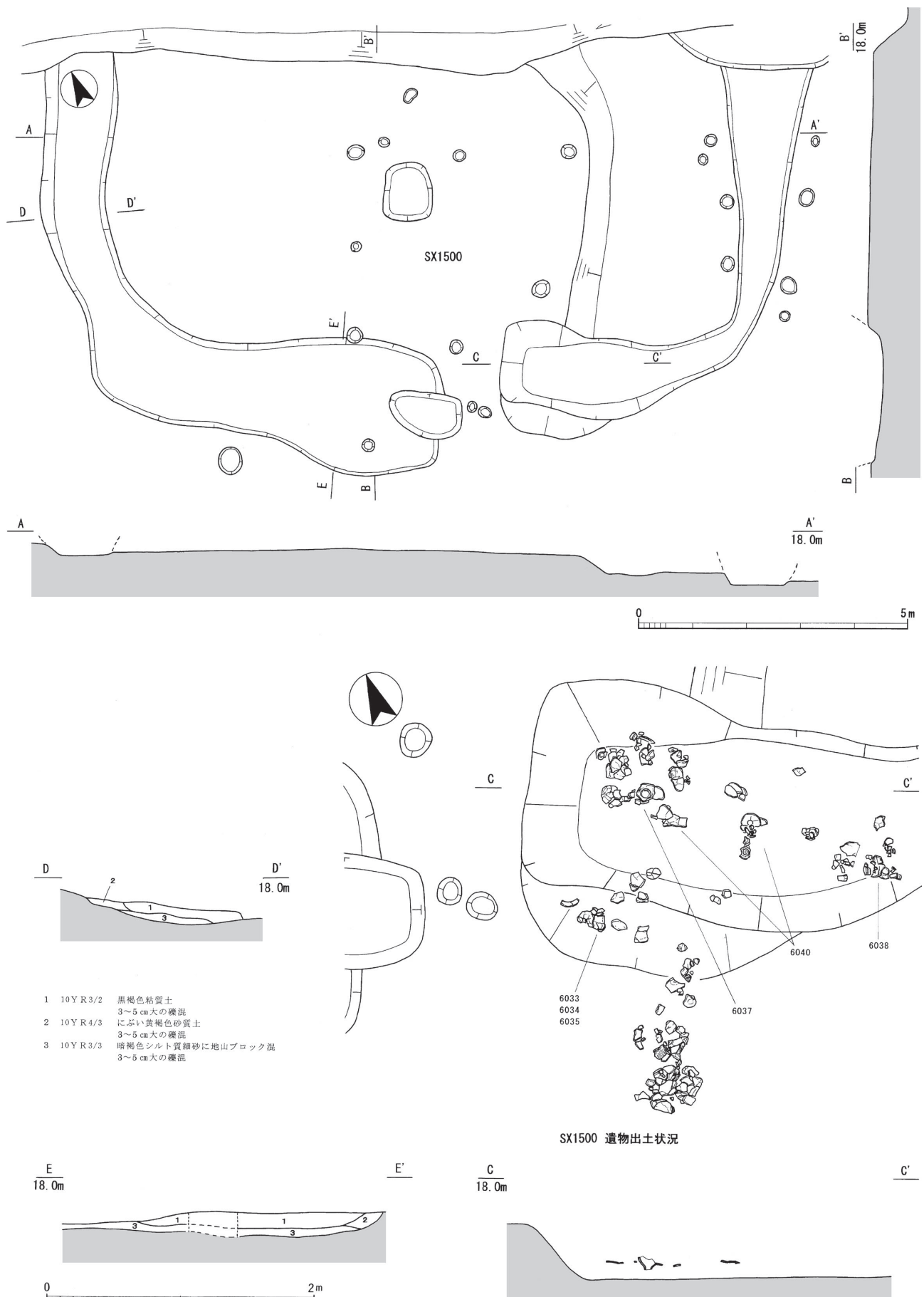


図10 SX1500平面・断面・土層断面・遺物出土状況図（1：100、土層断面・出土状況図は1：40）

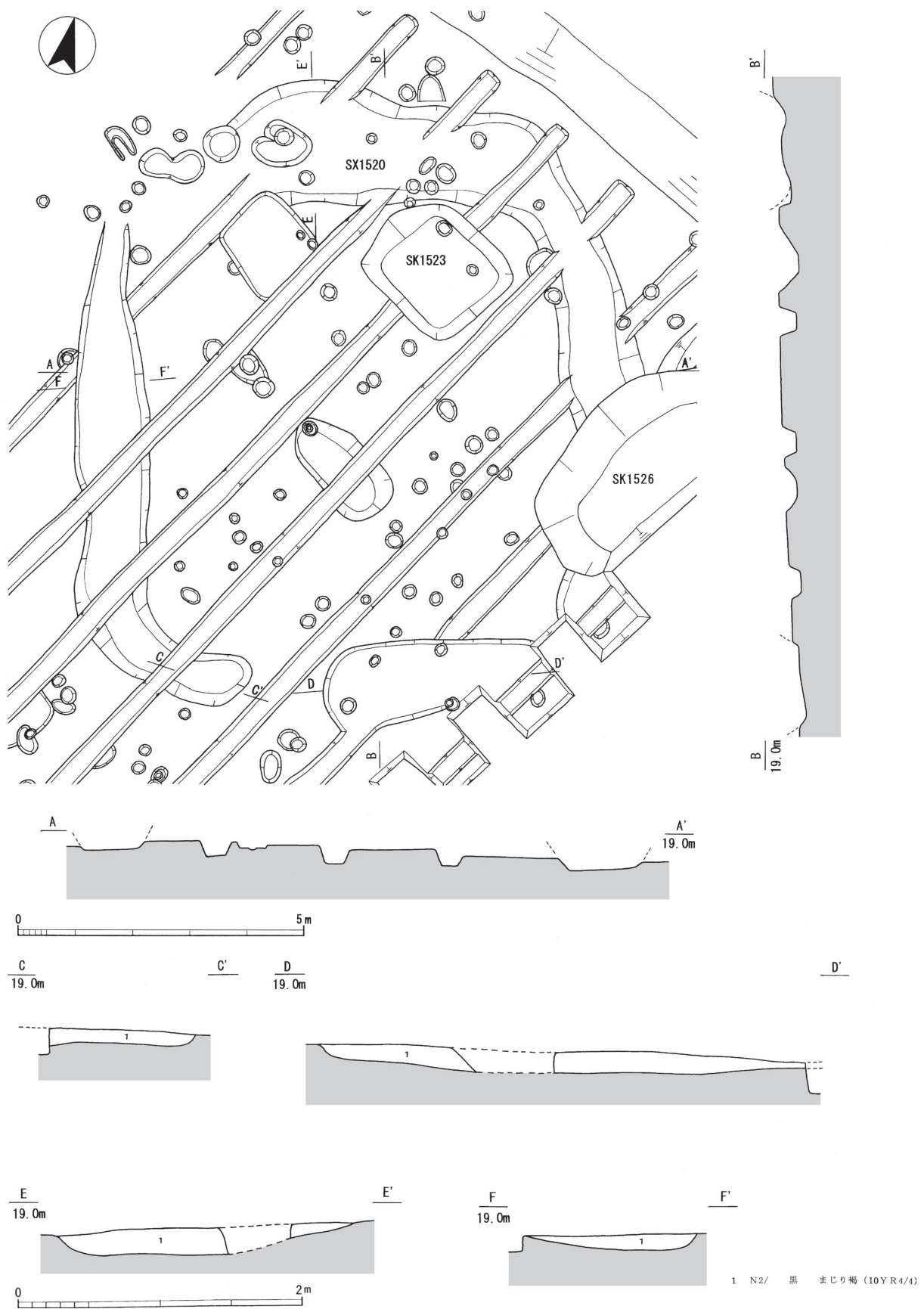


図11 SX1520平面・断面・土層断面図（1：100、土層断面図は1：40）

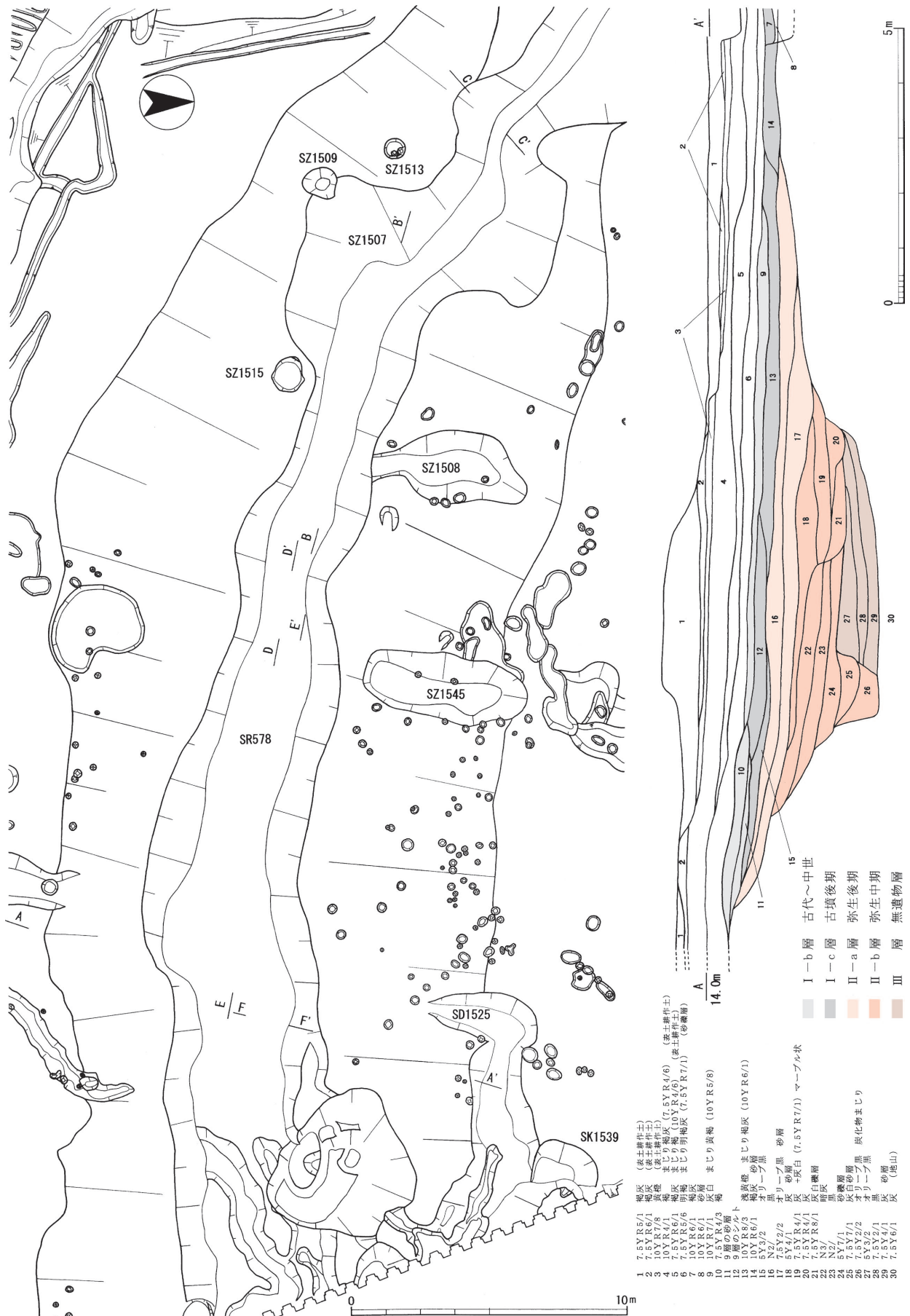


図12 SR578平面・土層断面図 (1 : 200、土層断面図は1 : 100)

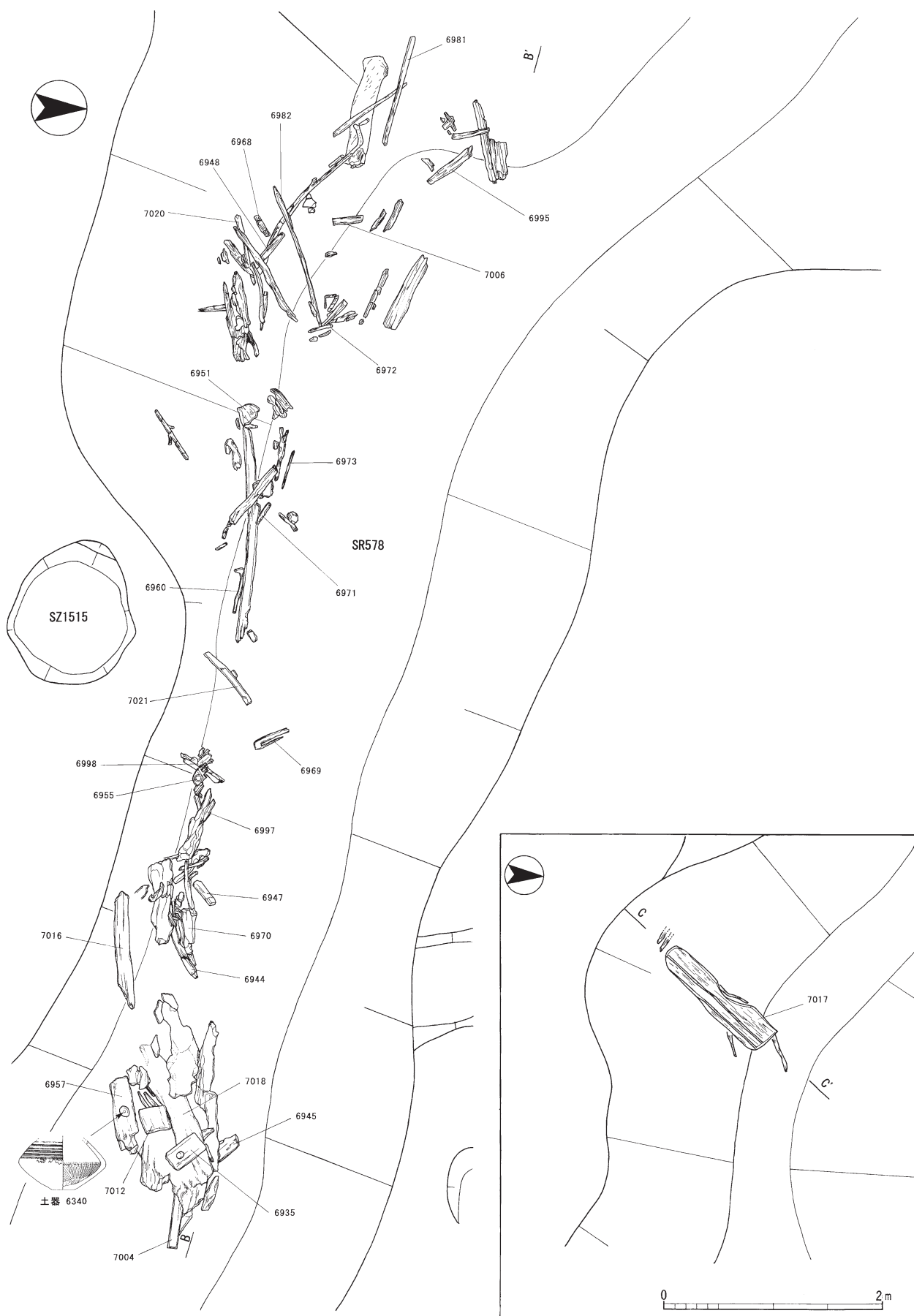


図13 SR578木製品出土状況図1 (1 : 50)

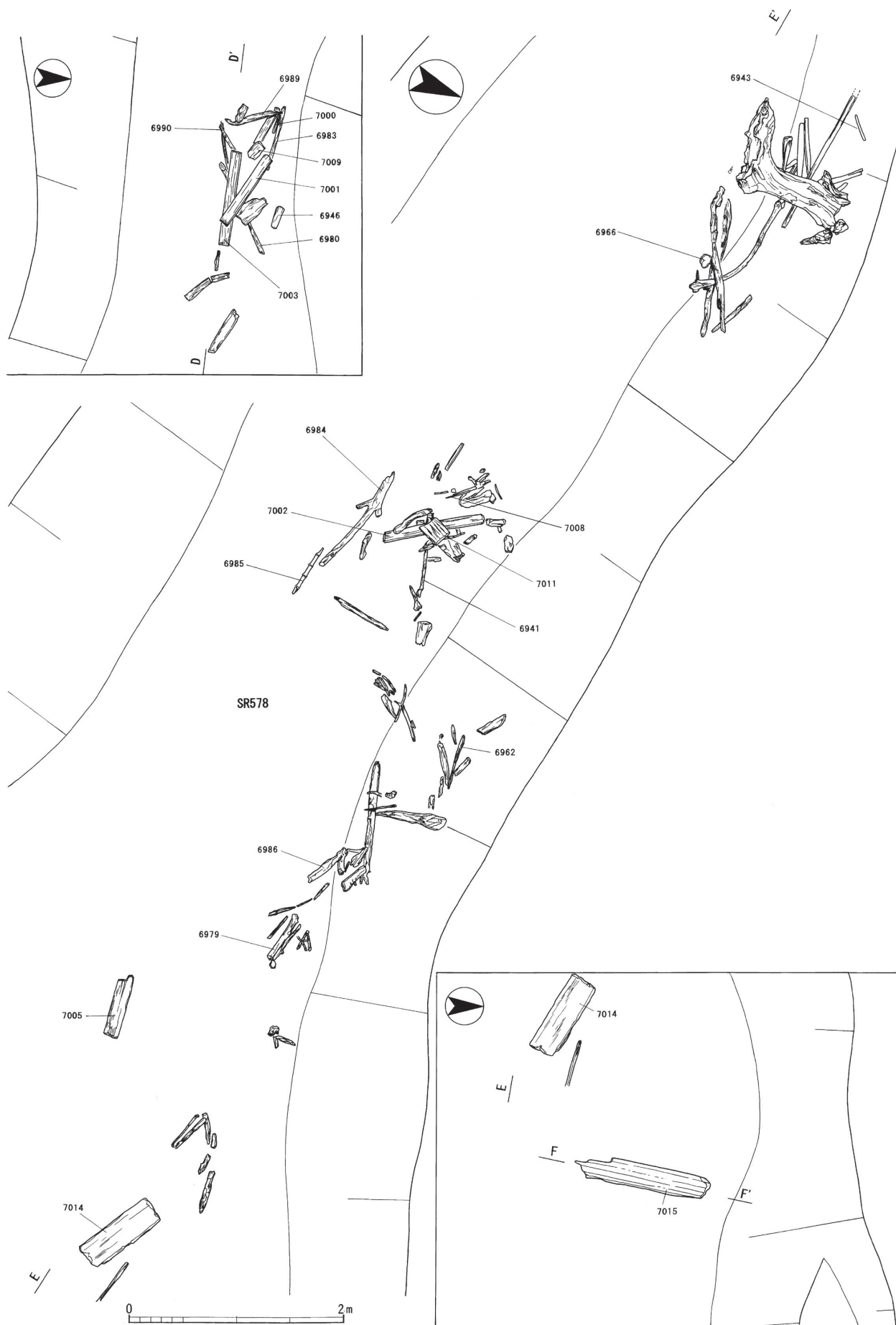


图14 SR578木製品出土状況図2 (1 : 50)

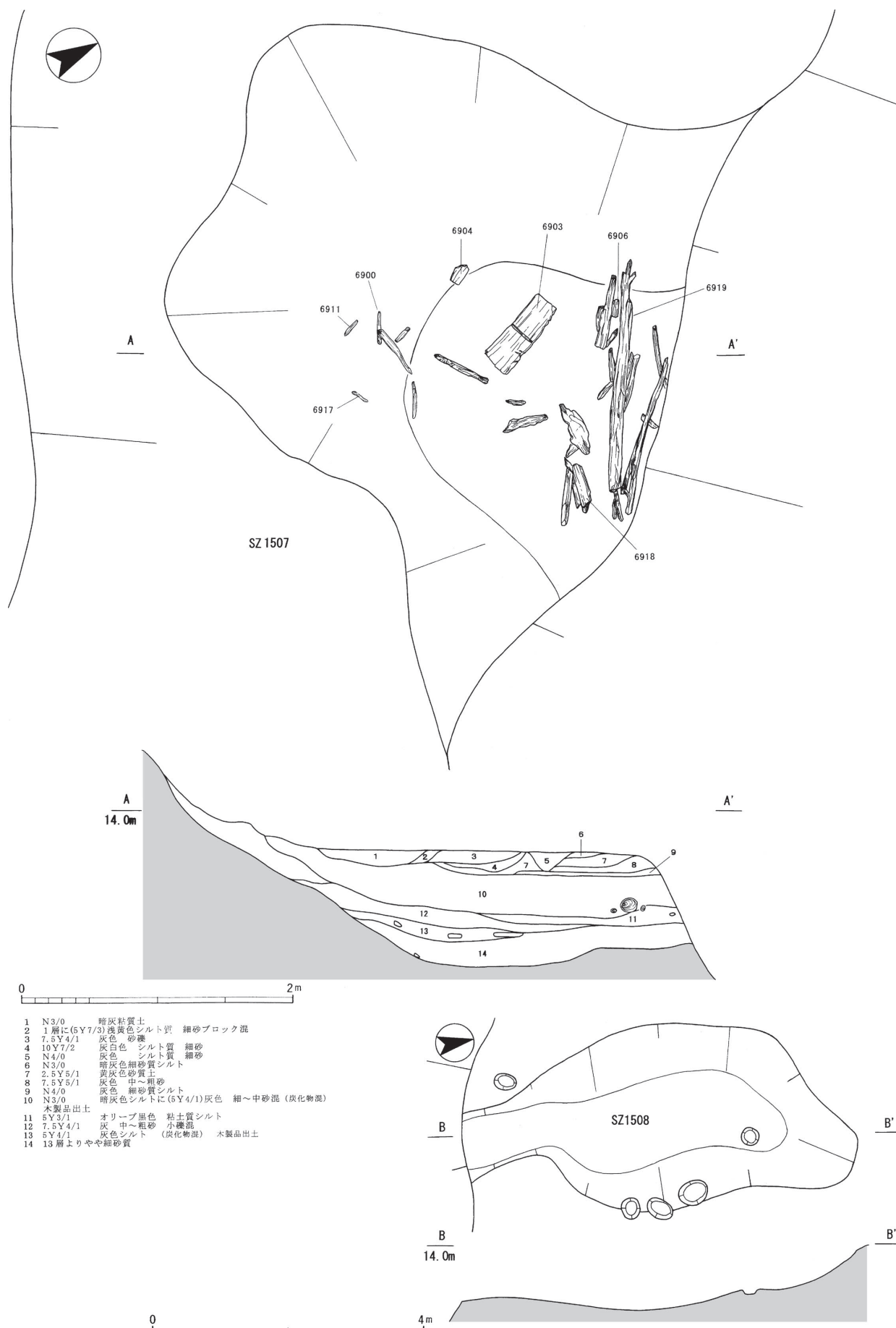


図15 SZ1507・1508平面・断面・土層断面図 (SZ1507は1:40、SZ1508は1:80)

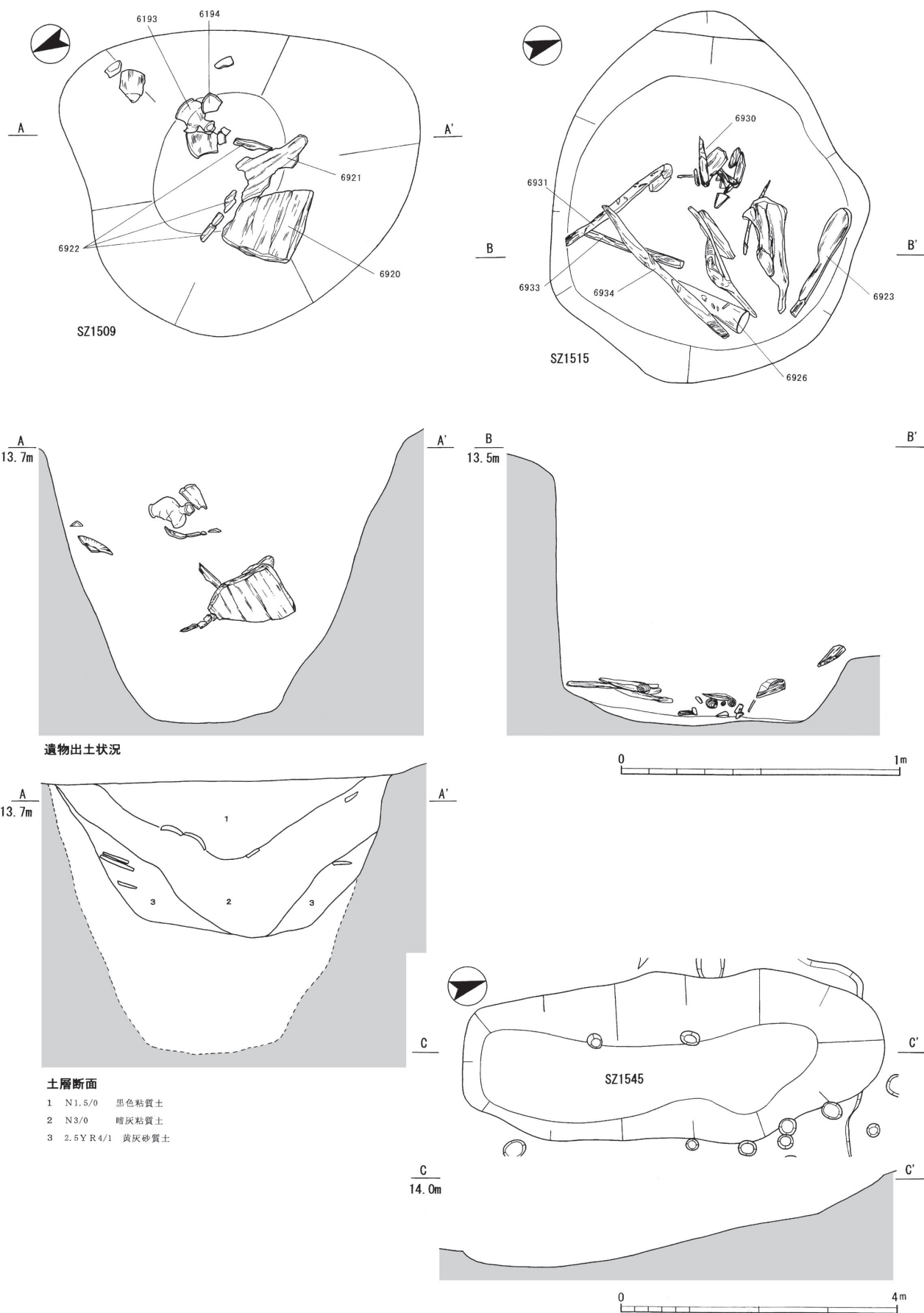


図16 S Z1509・1515・1545平面・断面・土層断面・遺物出土状況図（1：20、S Z1545は1：80）

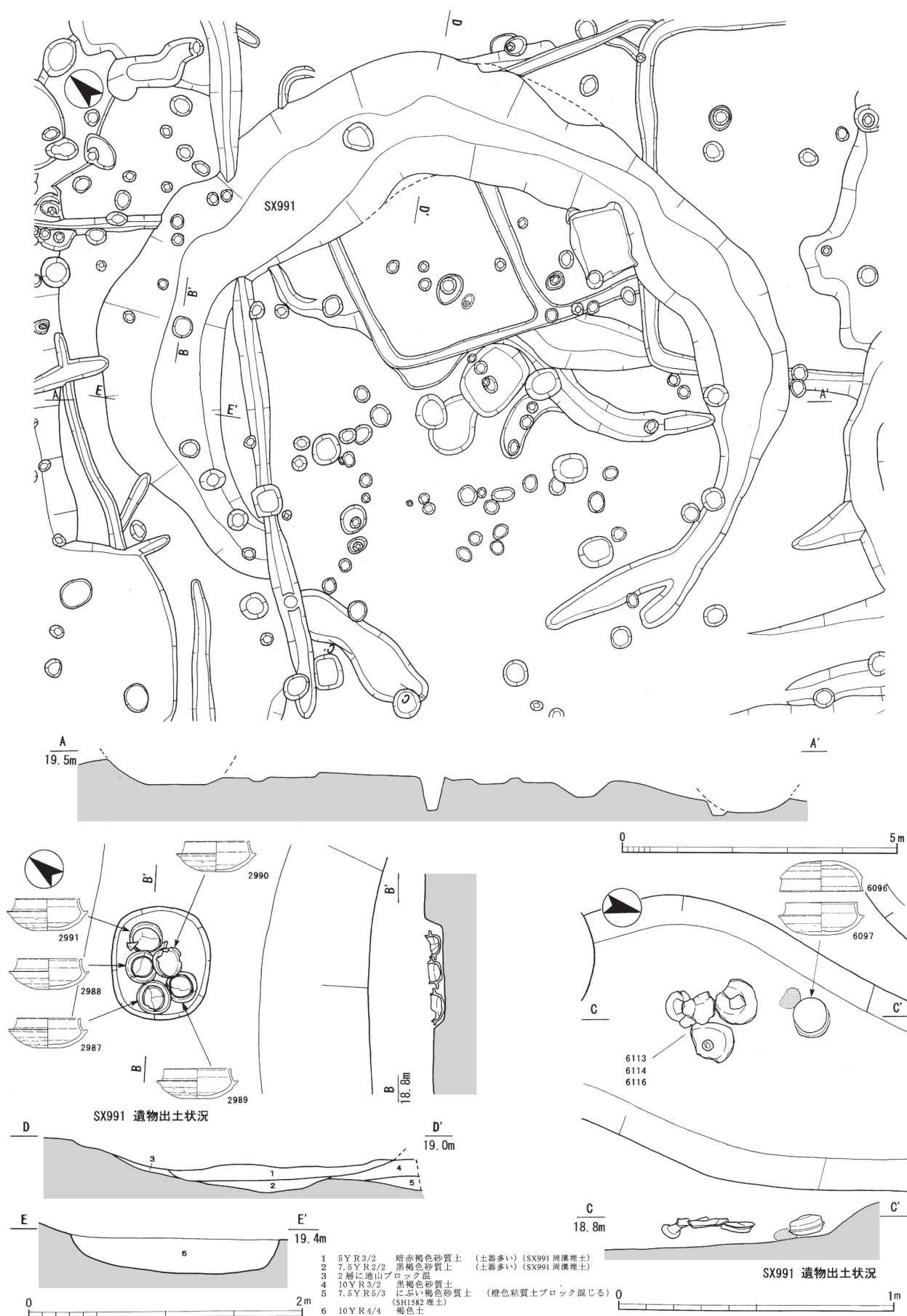


図17 SX991平面・断面・土層断面・遺物出土状況図（1：100、土層断面図1：40、出土状況図は1：20）

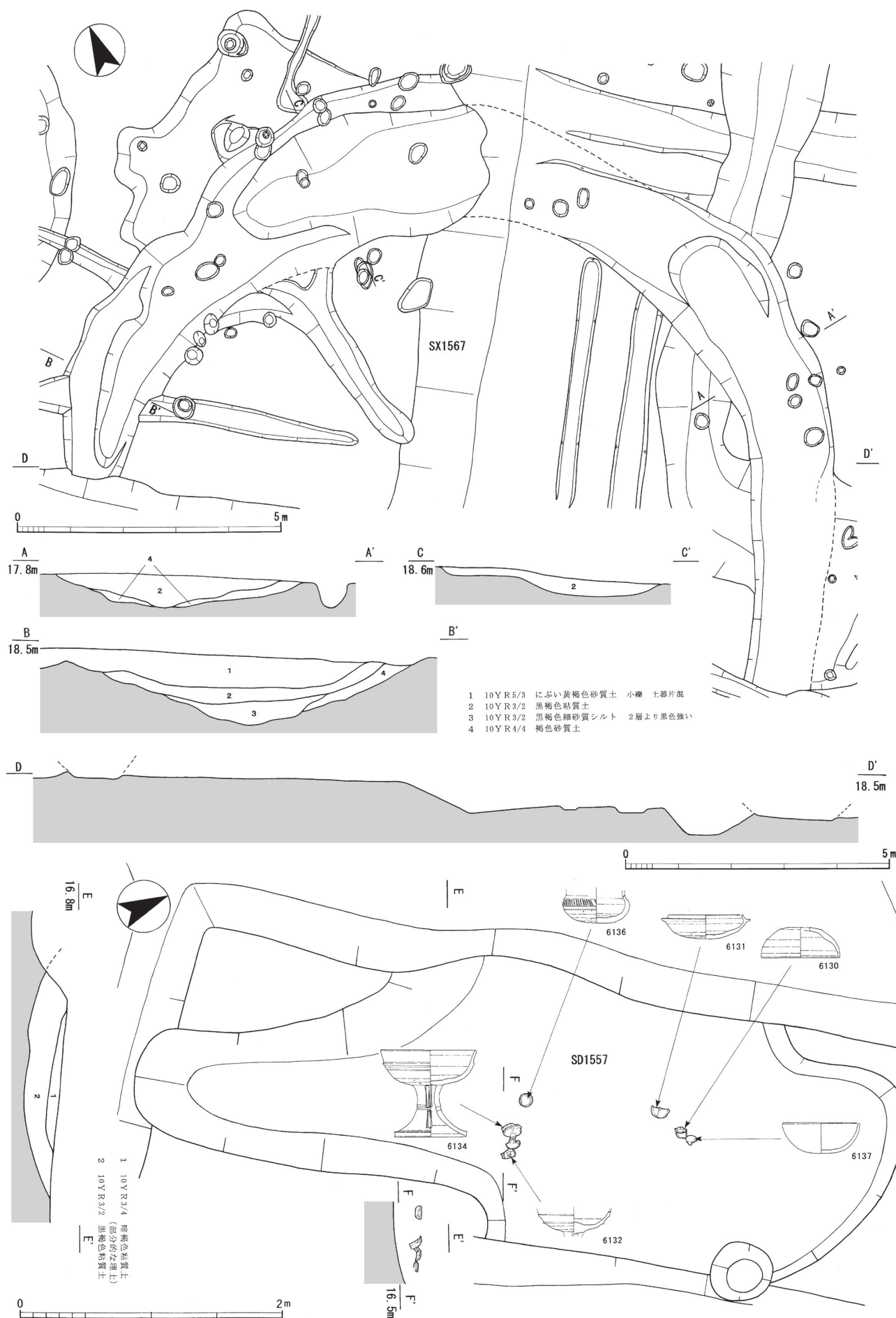


図18 SX1567、SD1557平面・断面・土層断面・遺物出土状況図（1：40、S X1567平面・断面図は1：100）

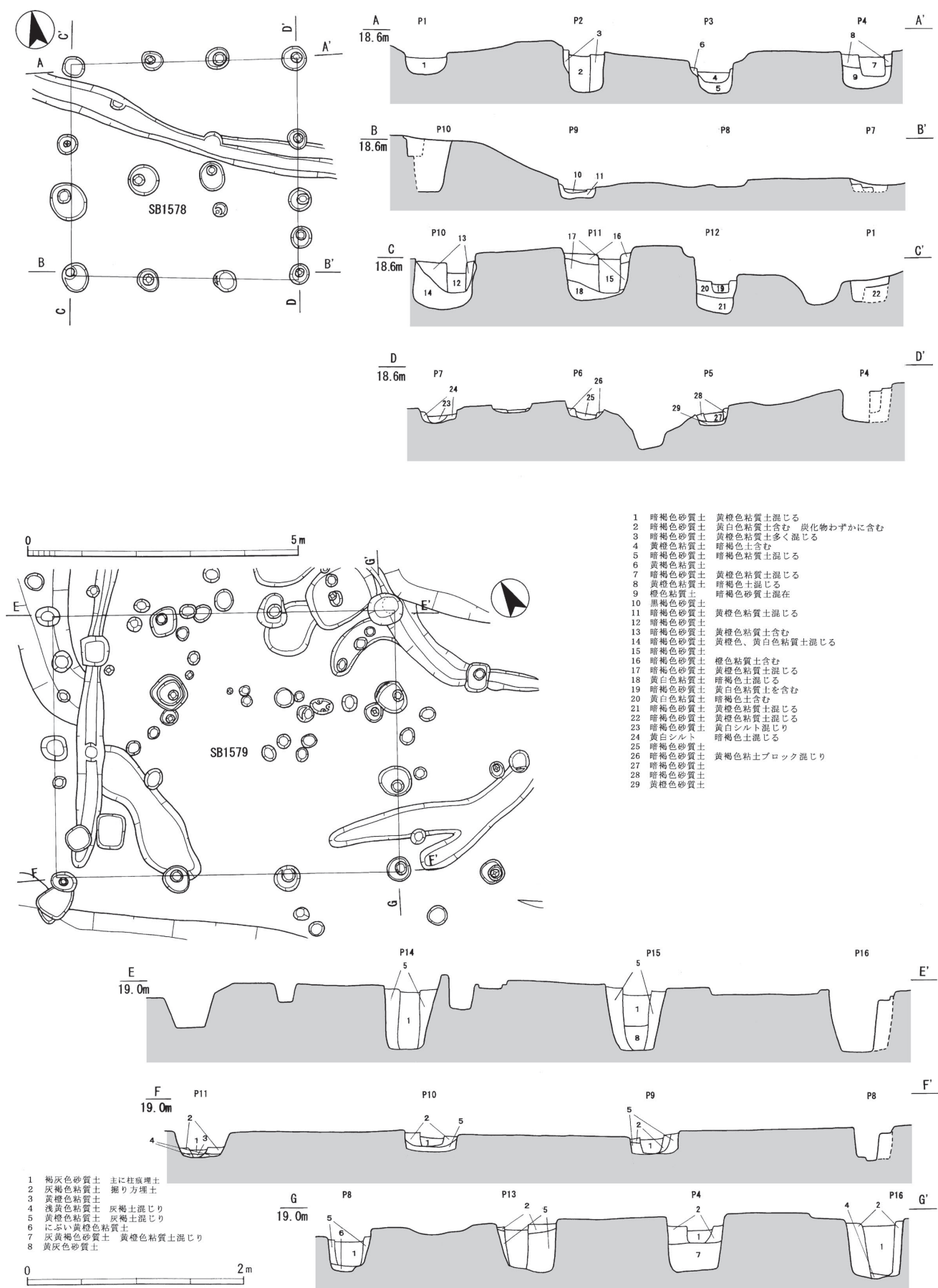


図19 SB1578・1579平面・土層断面図（1：100、土層断面図は1：50）

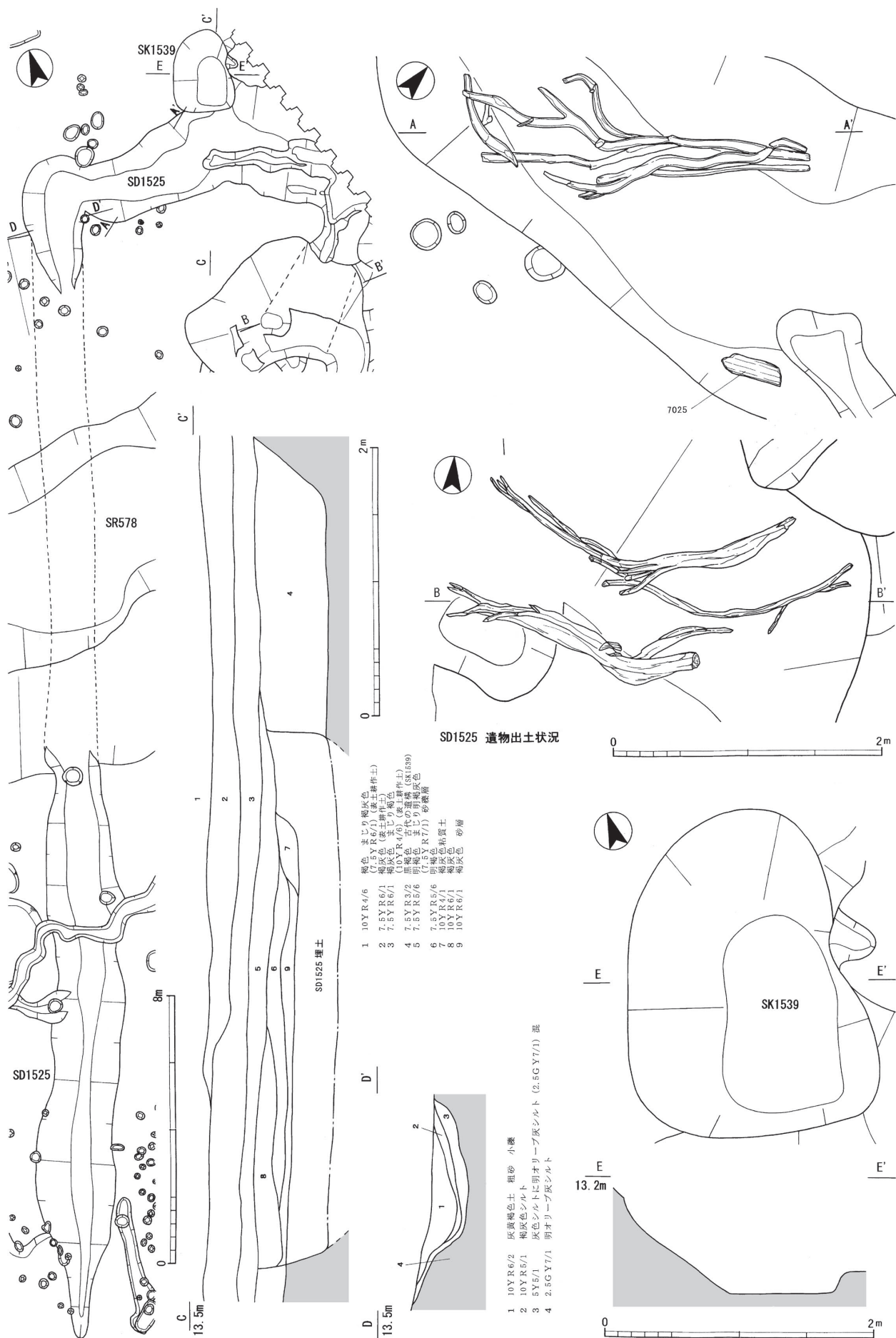


図20 SD1525、SK1539平面・土層断面・遺物出土状況図 (1 : 40、SD1525平面図は1 : 160)

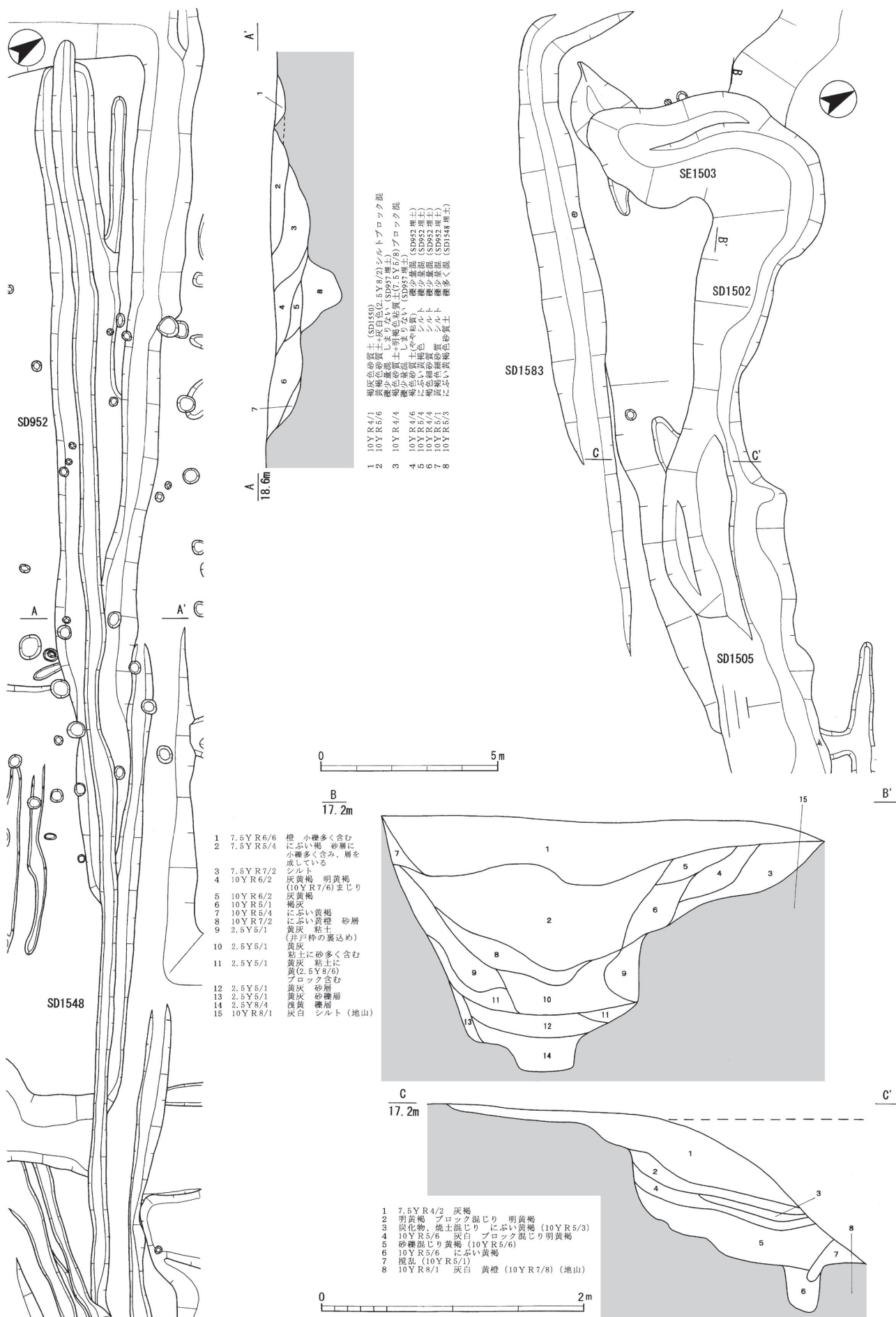


図21 SD952・1502・1505・1548・1583、SE1503平面・土層断面図 (1:150、土層断面図は1:40)

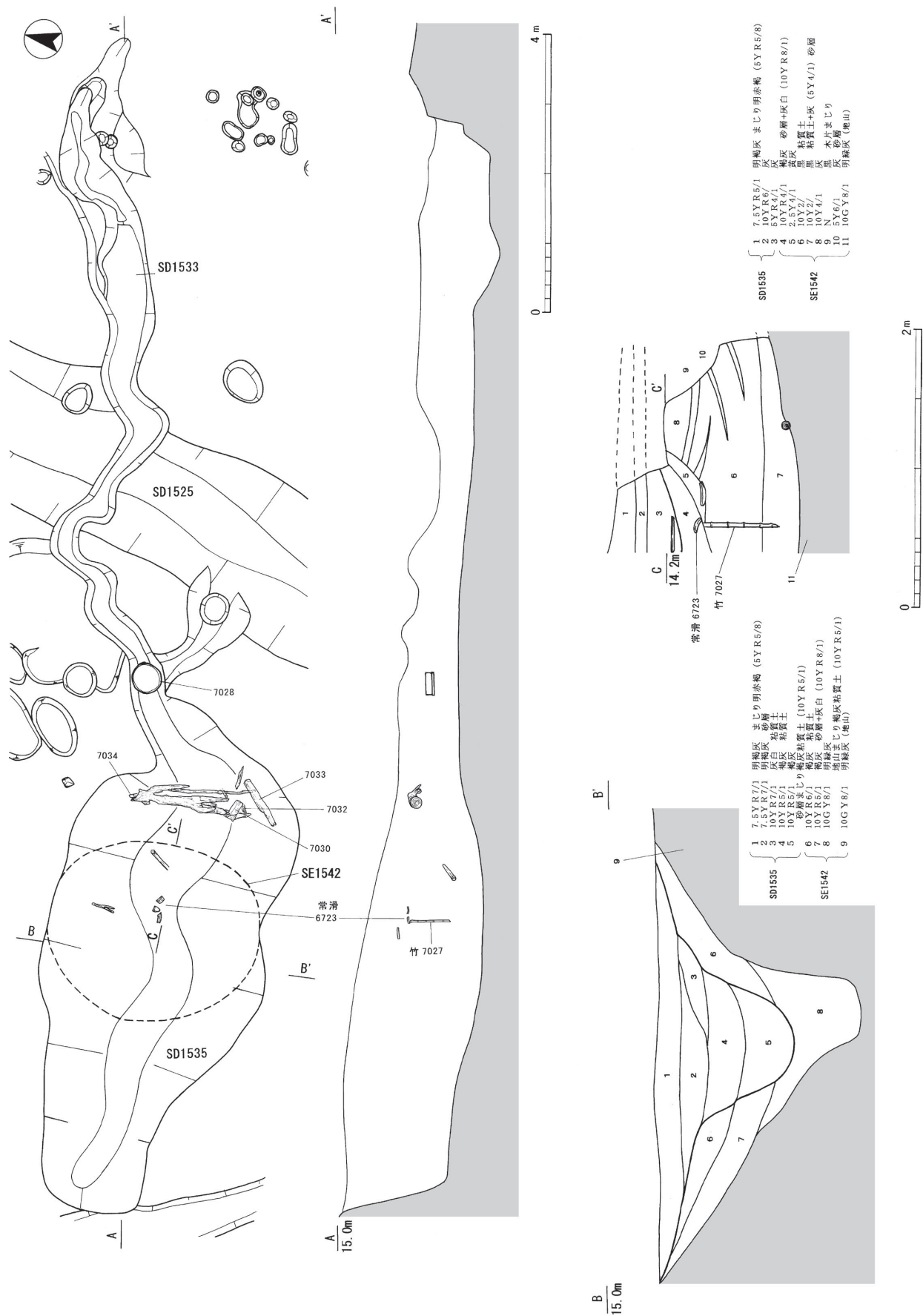


図22 SD1533・1535、SE1542平面・断面・土層断面図（1：80、土層断面図は1：40）

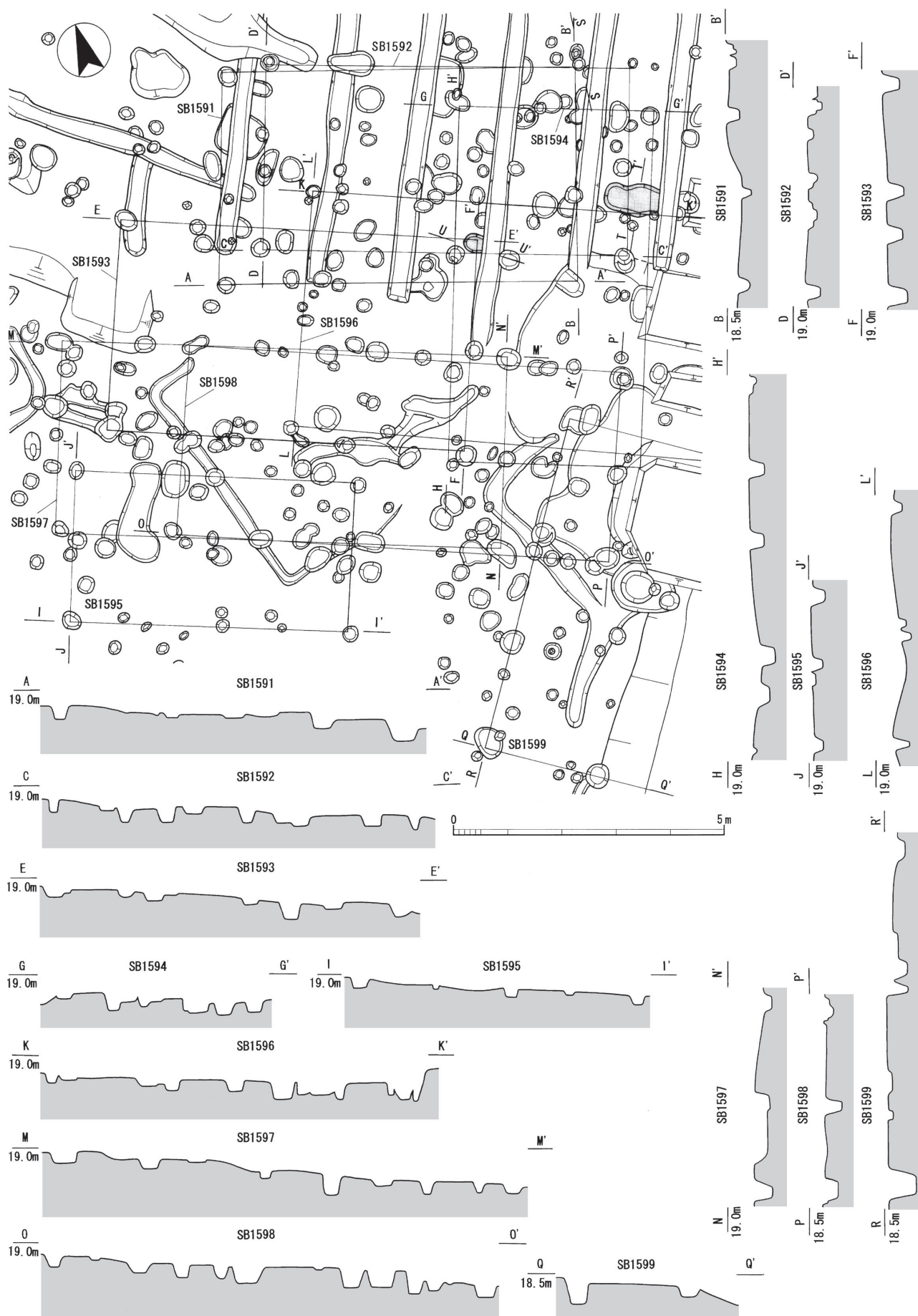
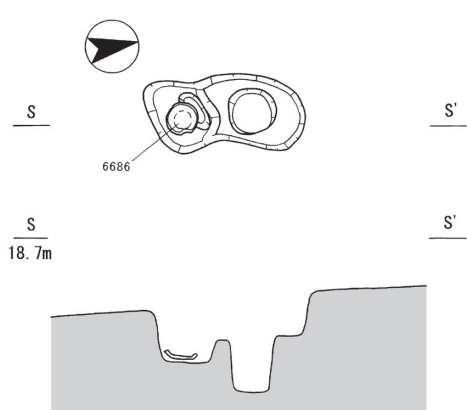
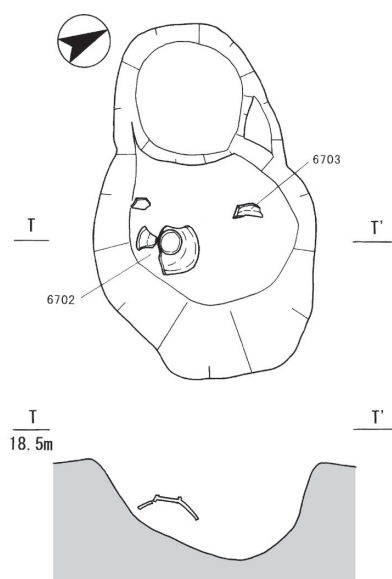


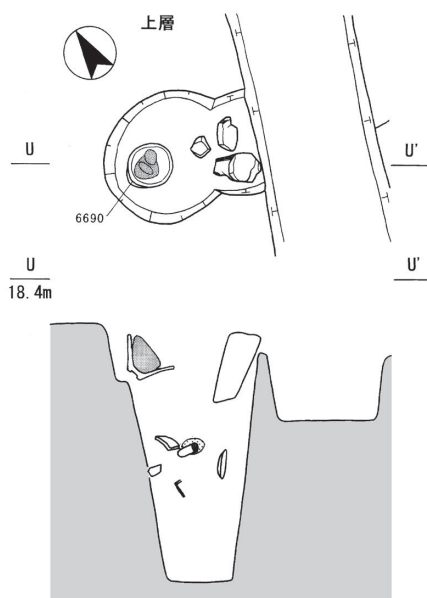
图23 SB1591 · 1592 · 1593 · 1594 · 1595 · 1596 · 1597 · 1598 · 1599平面 · 断面图 (1 : 100)



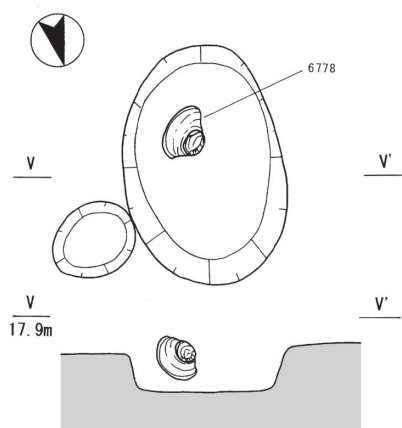
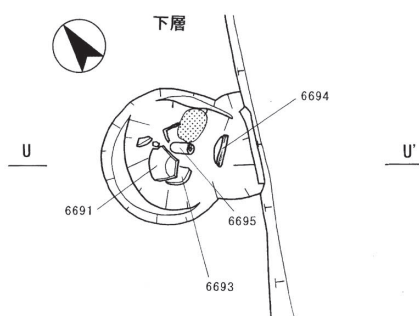
SB1591 遺物出土状況 (2W47P6)



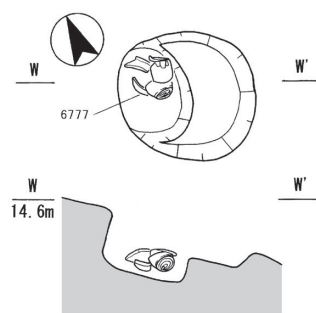
SB1594 遺物出土状況 (2W48P1)



SB1593 遺物出土状況 (2V48P5)



2S50P3 遺物出土状況



3H42P2 遺物出土状況



図24 S B1591・1593・1594、他Pit遺物出土状況図 (1 : 20)

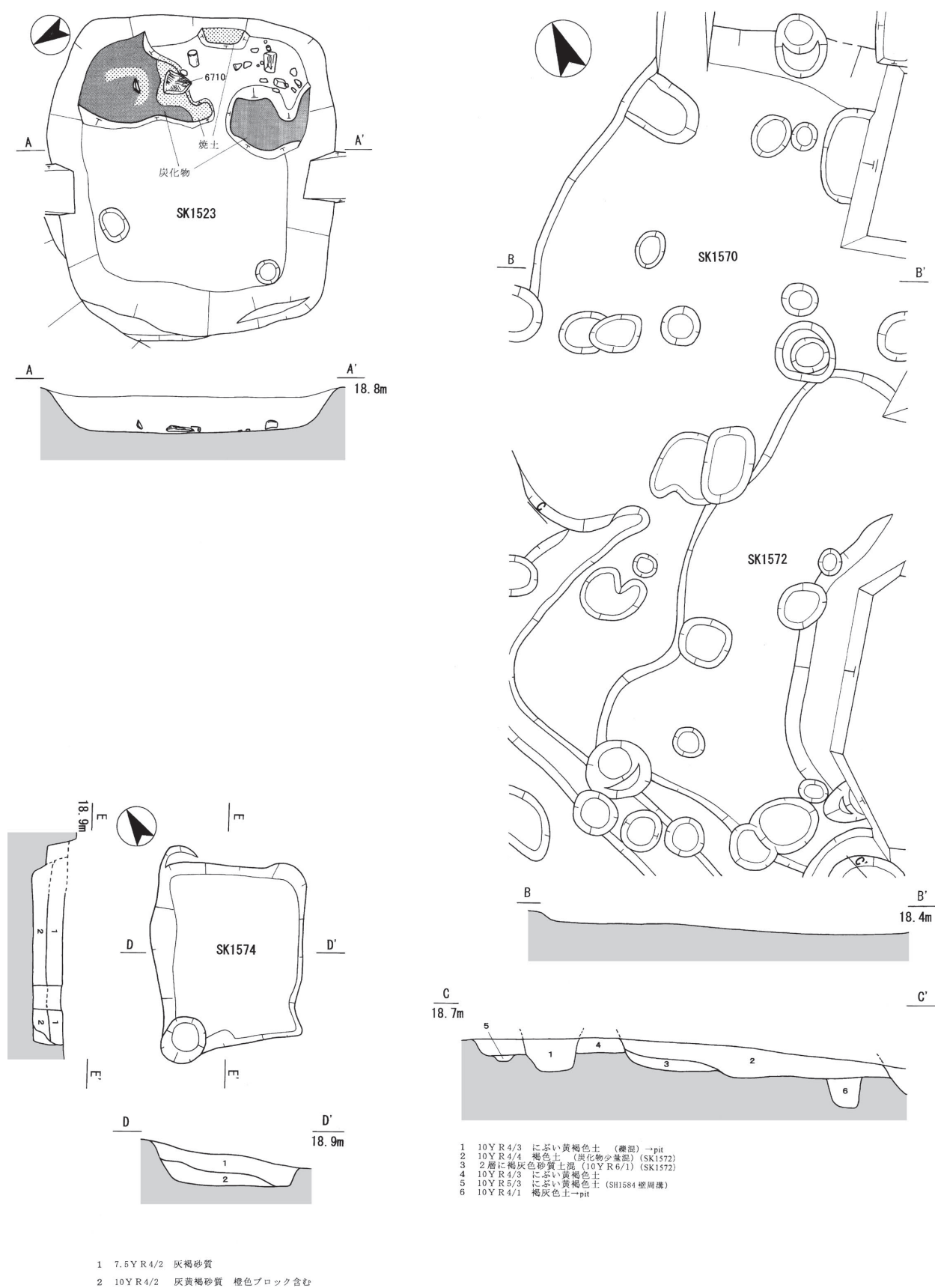


図25 SK1523・1570・1572・1574平面・断面・土層断面図 (1 : 40)

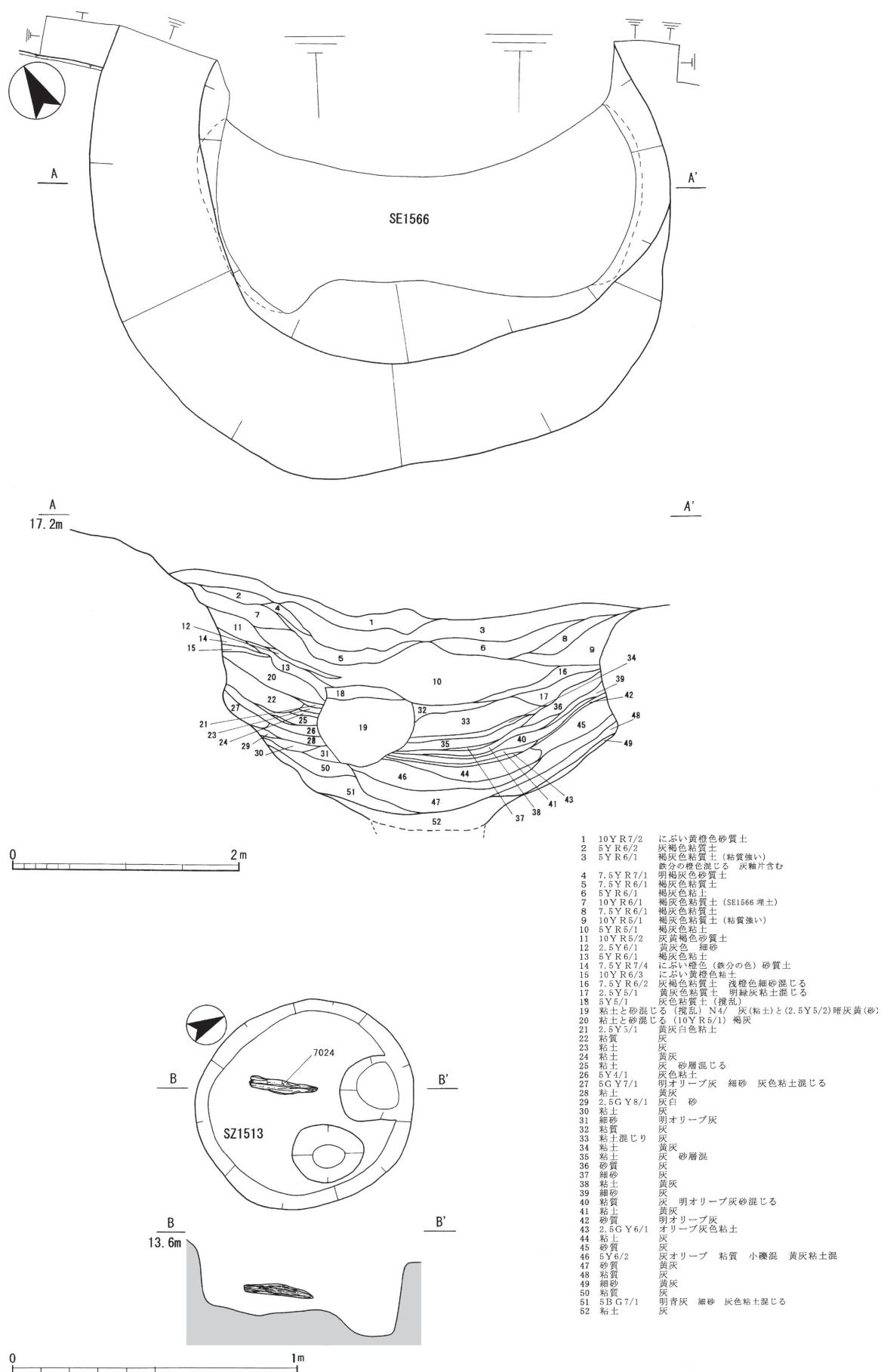


図26 SZ1513、SE1566平面・断面・土層断面図 (1:50、SZ1513は1:20)

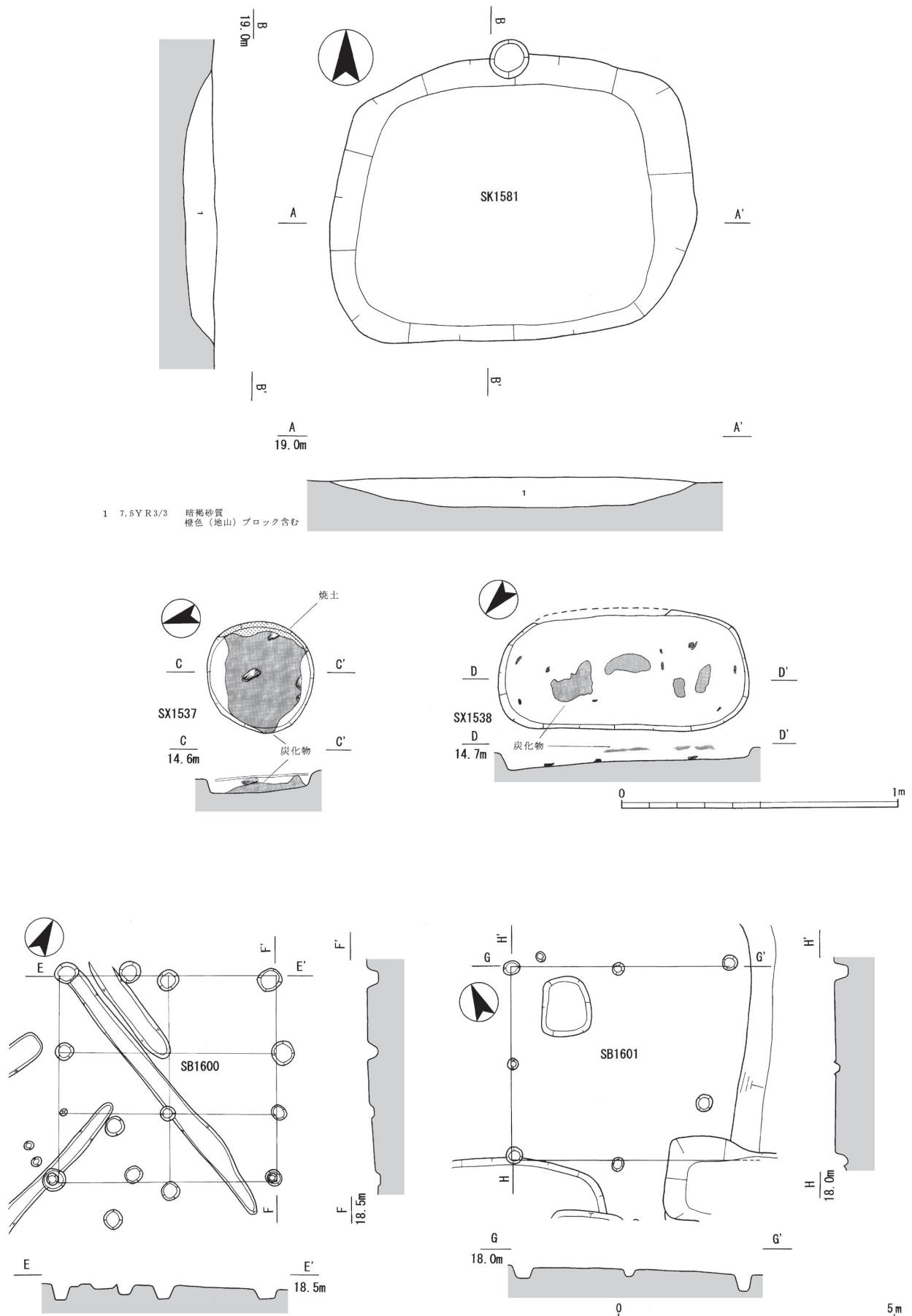
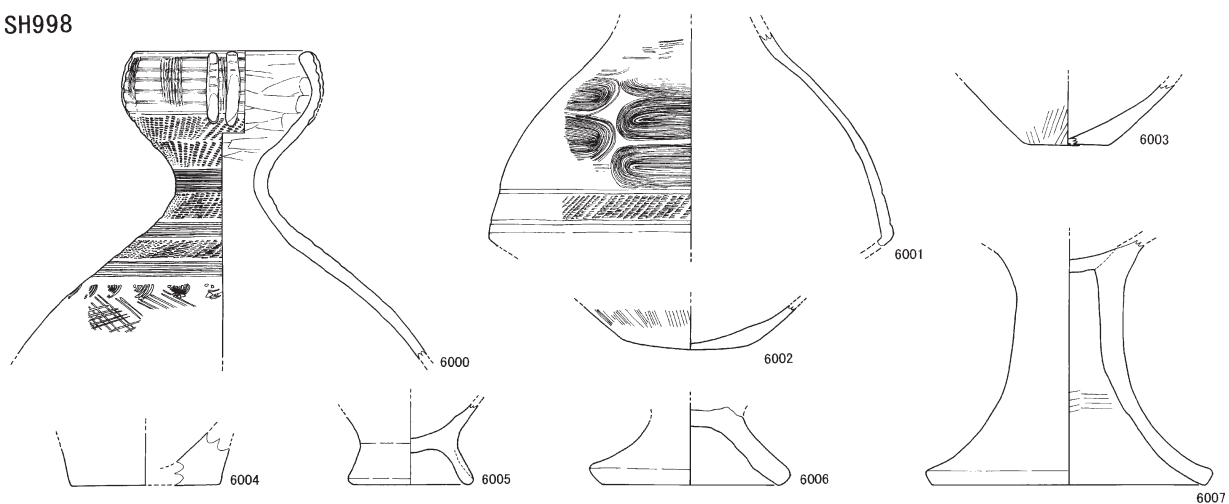


図27 SK1581、SX1537・1538、SB1600・1601平面・断面・土層断面図（1：20、SB1600・1601は1：100）

SH998



SX1552

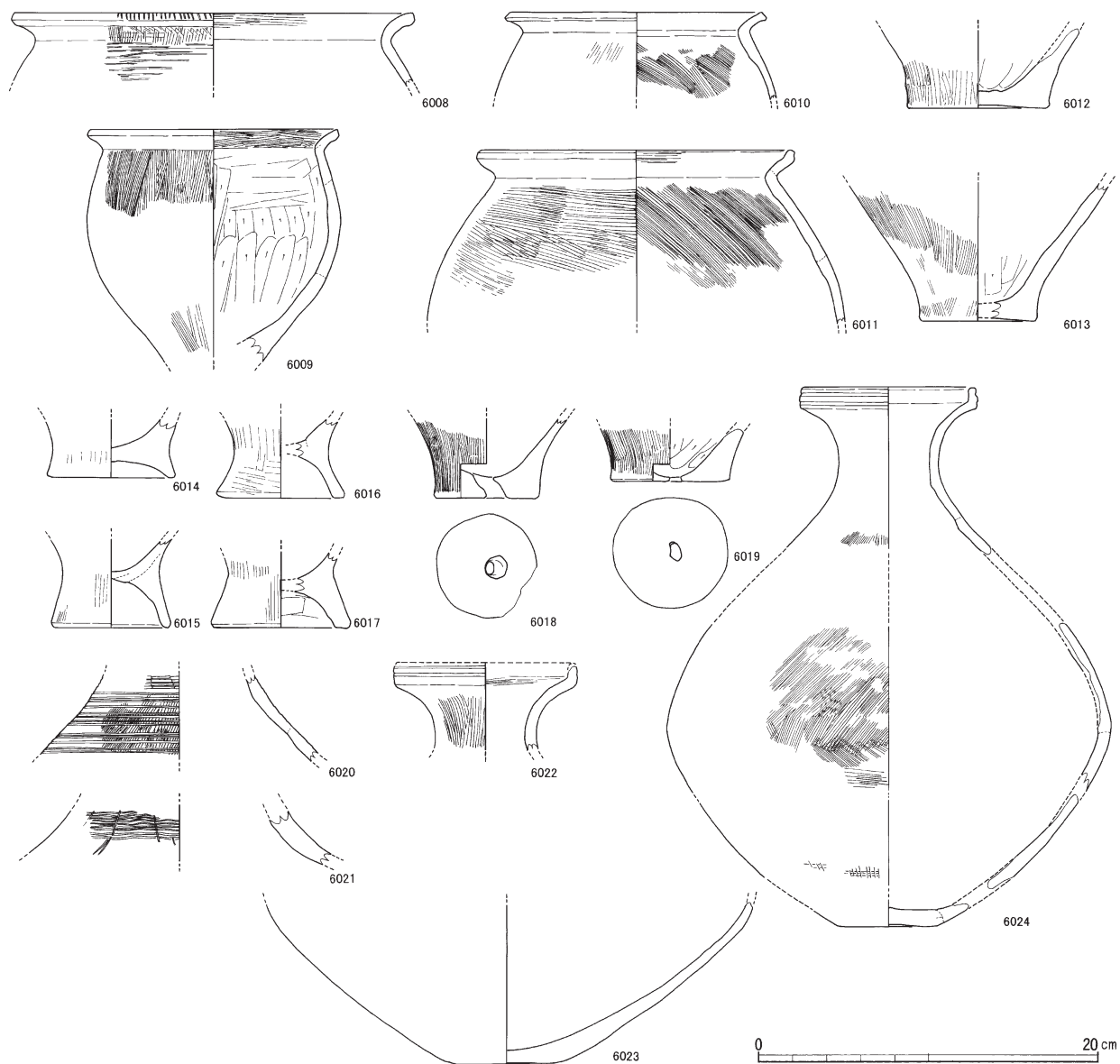


图28 SH998、SX1552 (1) (1 : 4)

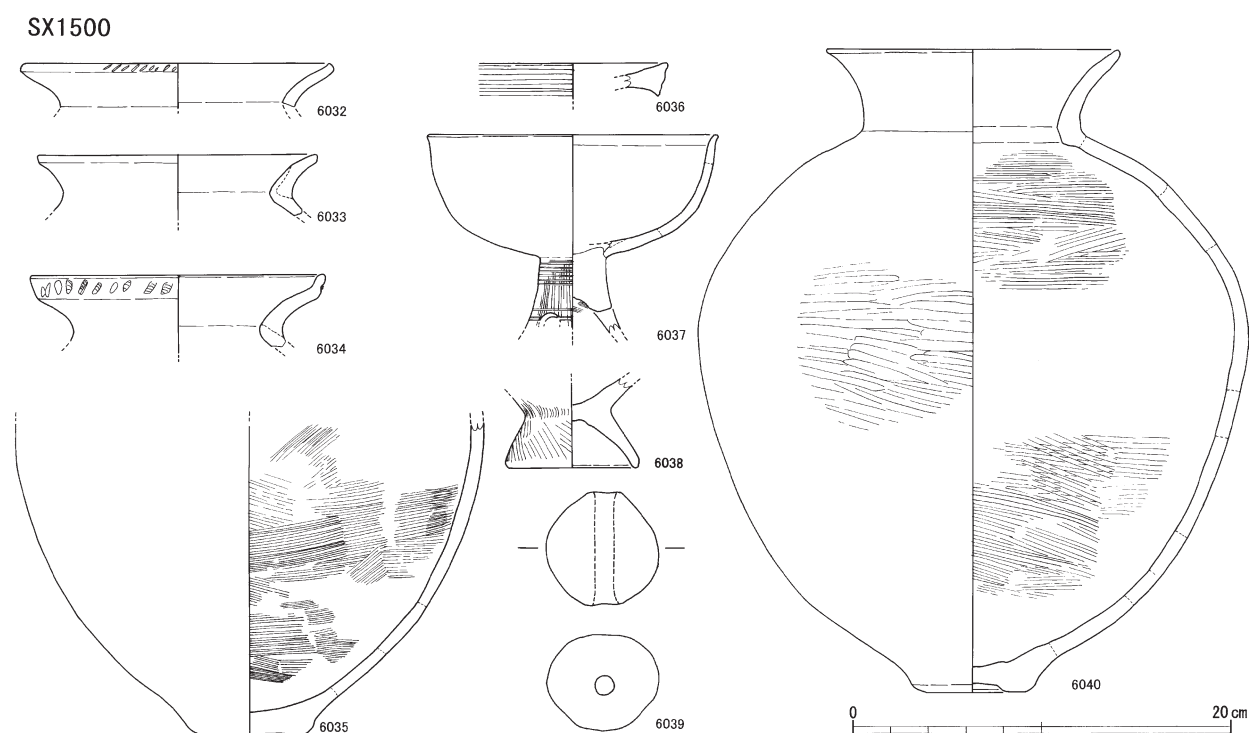
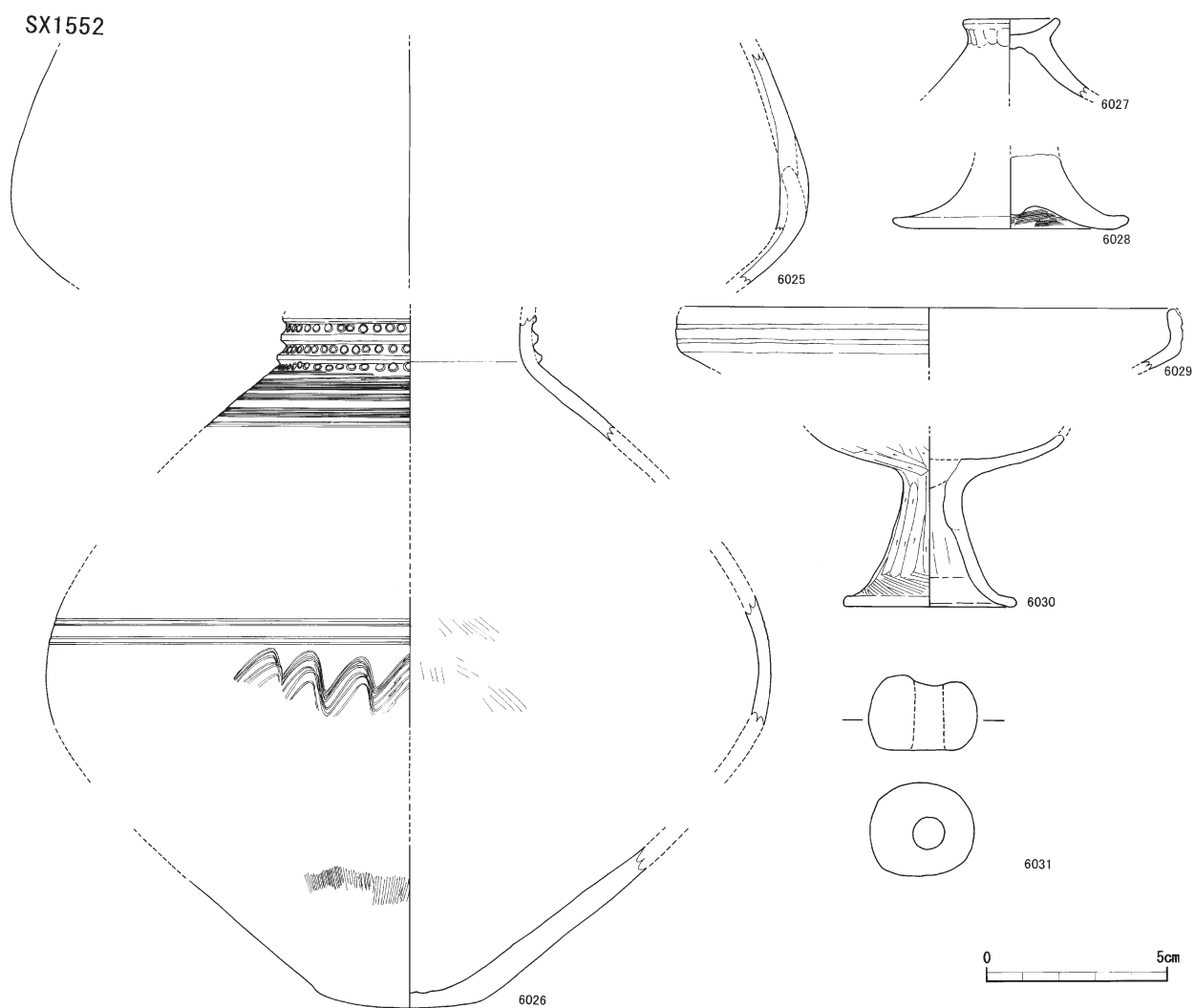


図29 SX1552 (2)・1500 (1 : 4、6031・6039は1 : 2)

SH1577

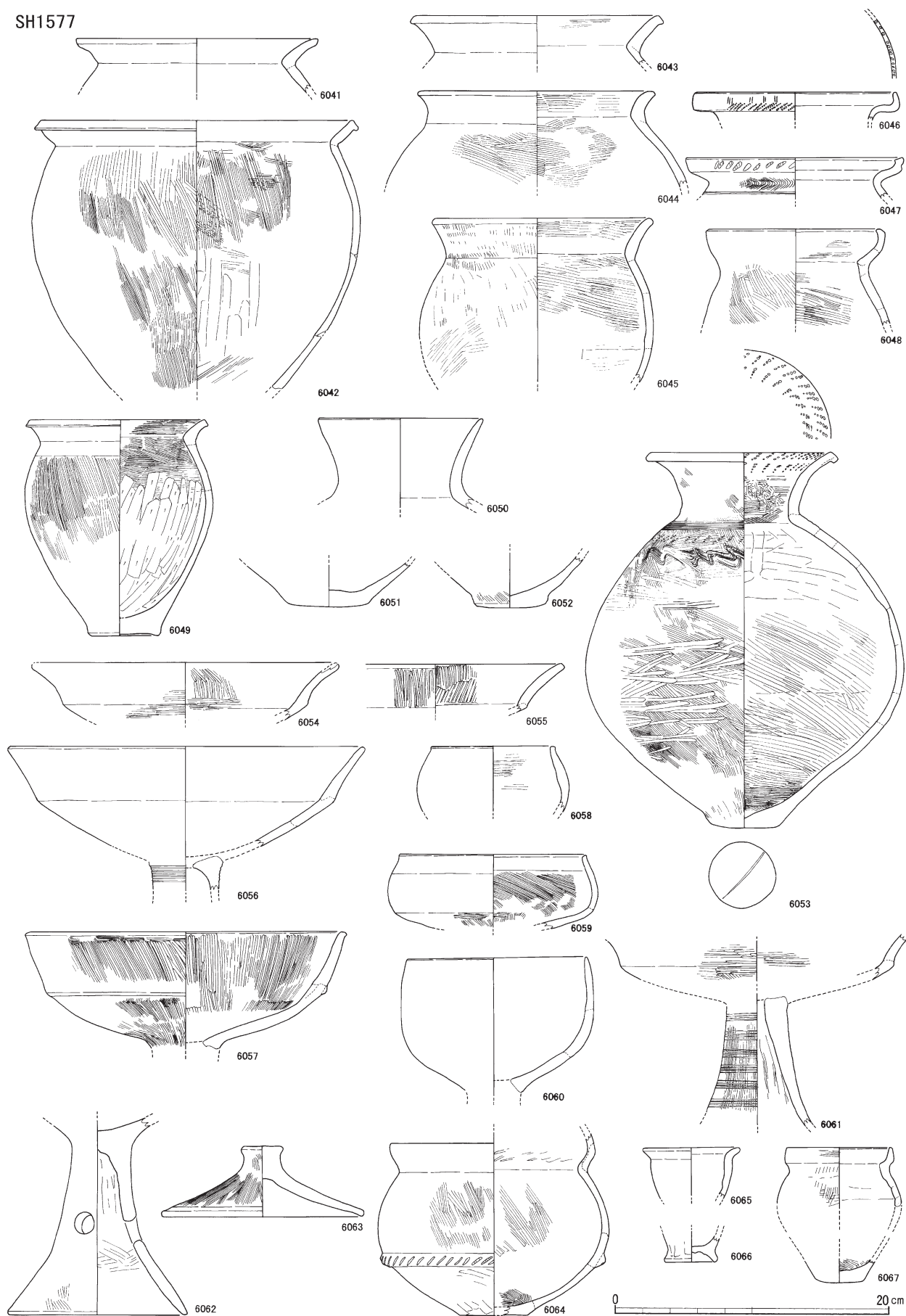
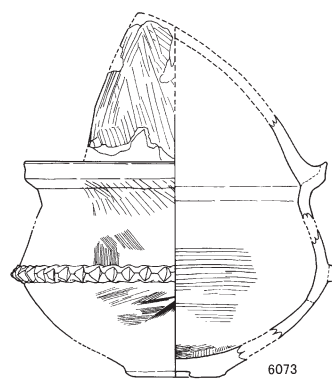
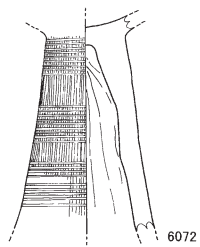
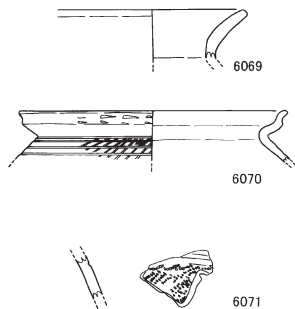
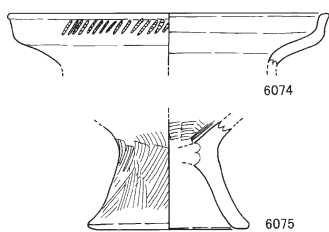


图30 SH1577 (1 : 4)

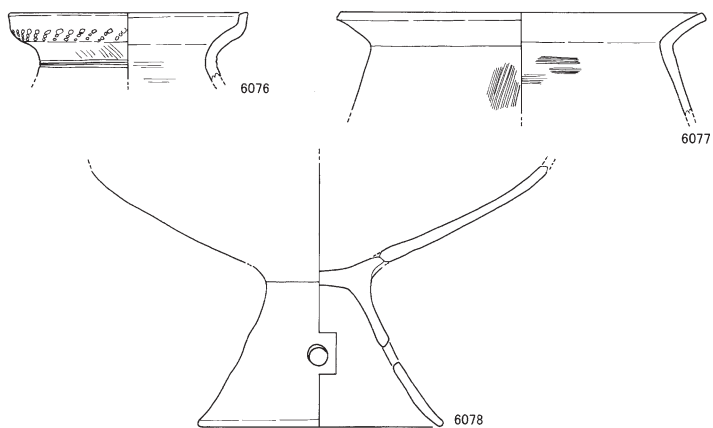
SX1520



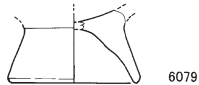
SD1514



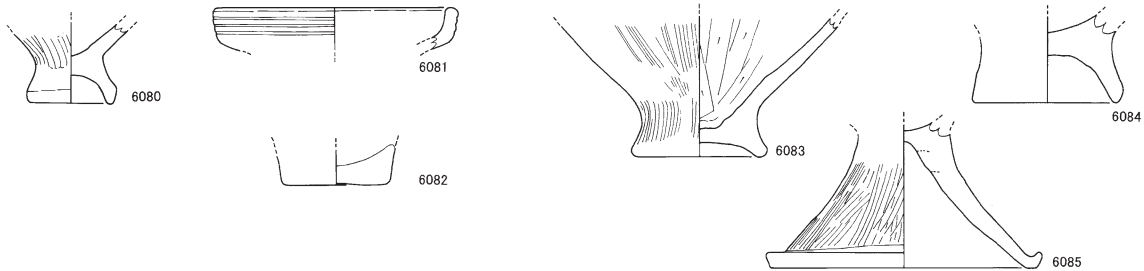
SK1516



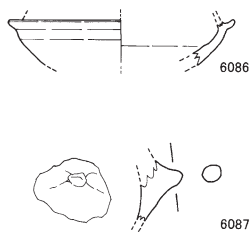
SK1518



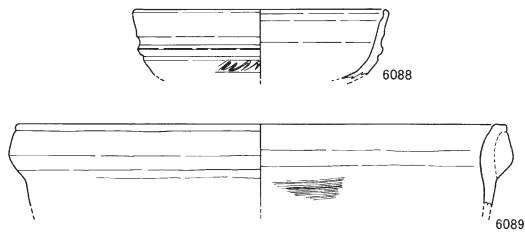
Pit



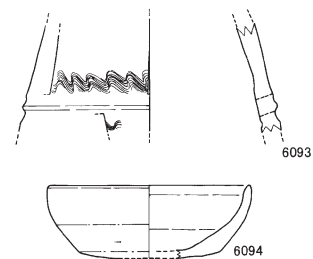
SH1569



SD1510



表土



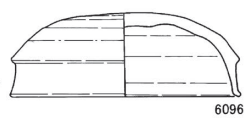
Pit



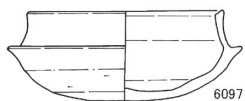
0 20 cm

图31 SX1520、SD1510·1514、SK1516·1518、Pit、SH1569、表土（1：4）

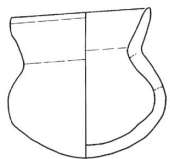
SX991



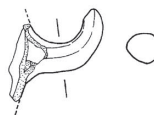
6096



6097



6107



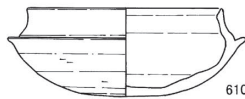
6108



6098



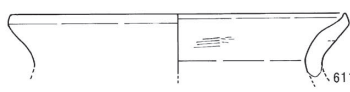
6099



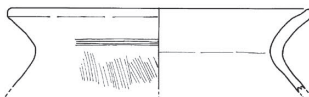
6100



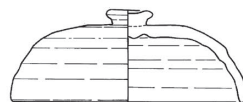
6109



6110



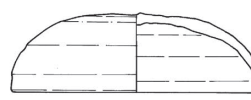
6111



6101



6102



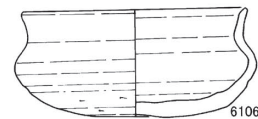
6103



6104



6105



6106



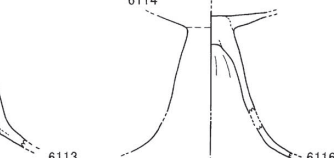
6112



6114



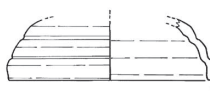
6115



6113

6116

SX1567



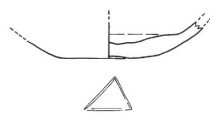
6117



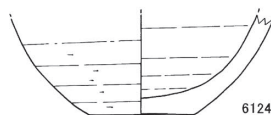
6119



6120



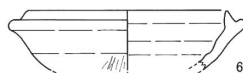
6121



6124



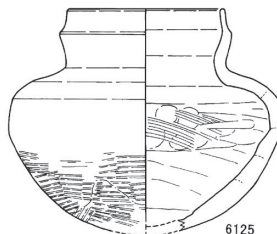
6118



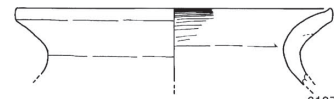
6122



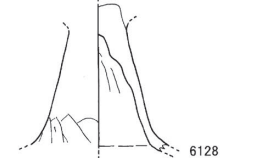
6123



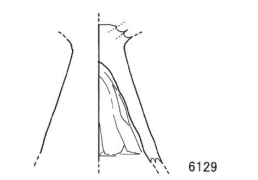
6125



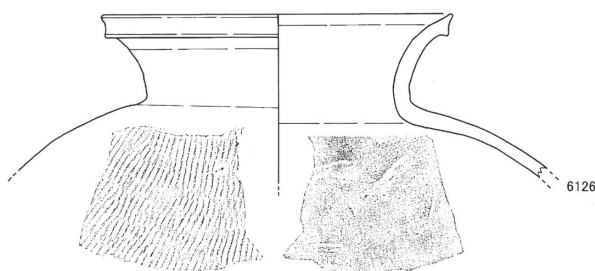
6127



6128



6129



6126

SD1557



6130



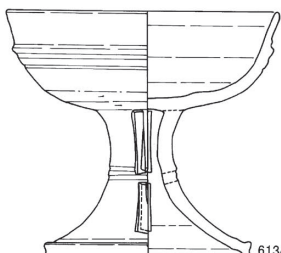
6131



6132



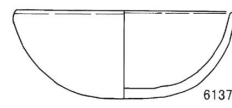
6133



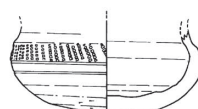
6134



6135



6137



6136



6138

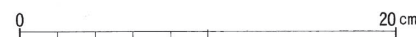


图32 SX991·1567、SD1557 (1 : 4)

SZ1507

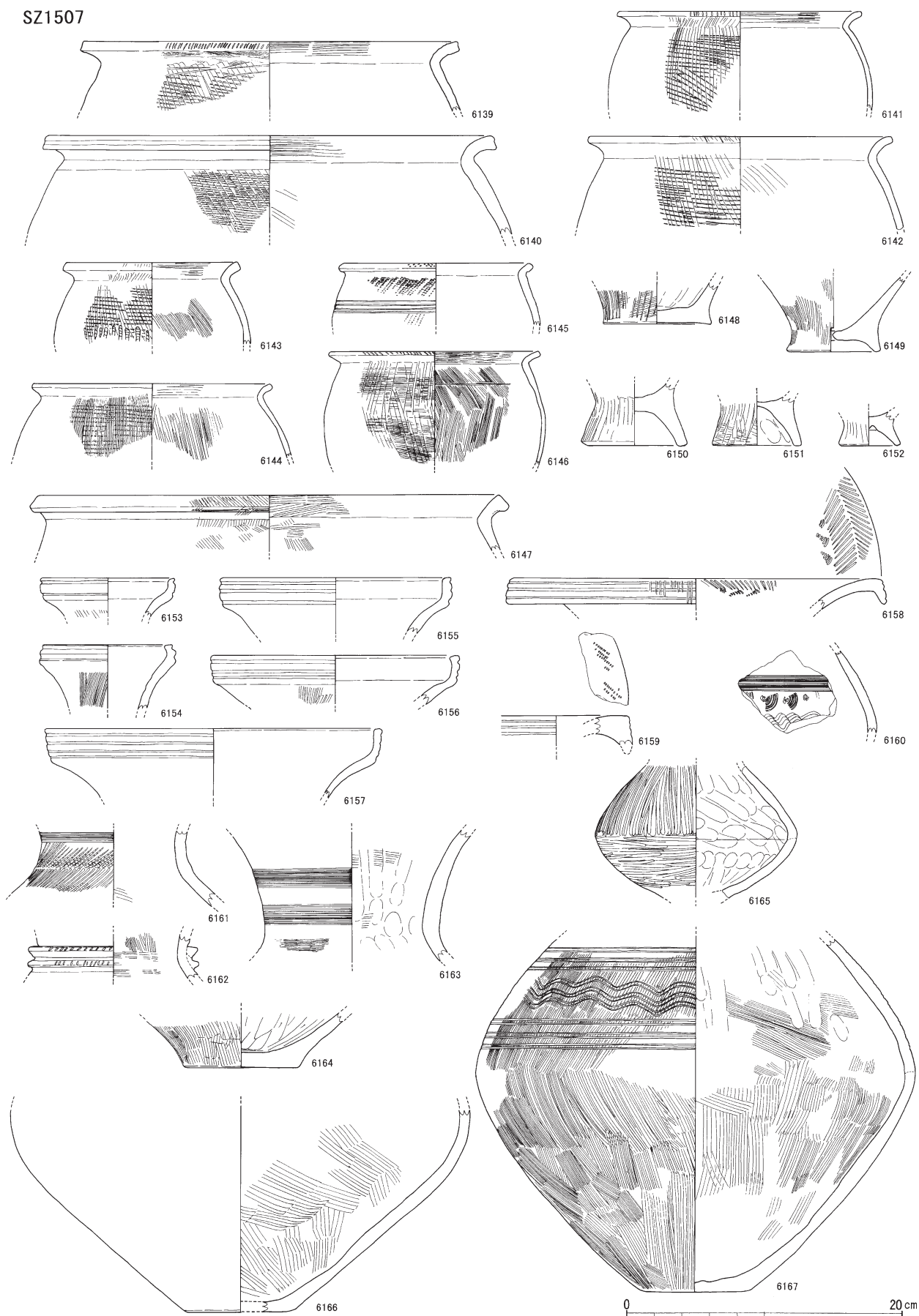
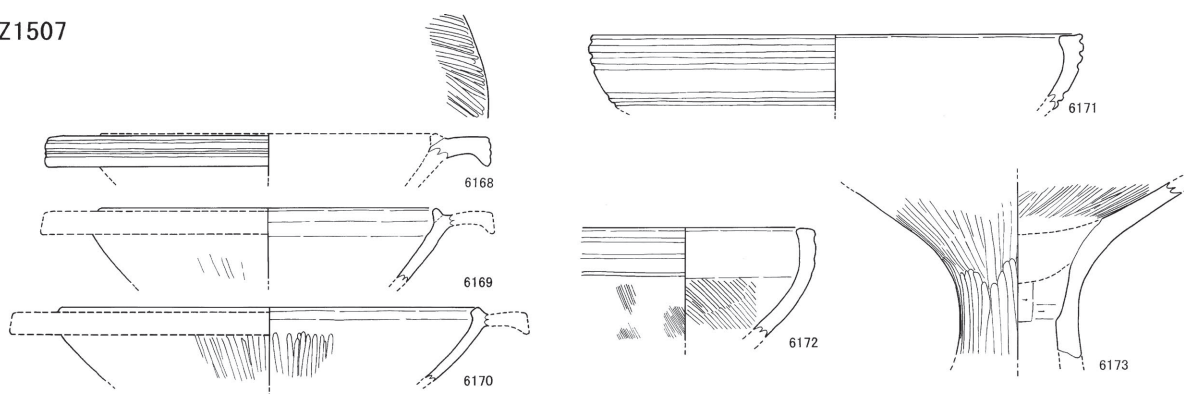


图33 SZ1507 (1) (1 : 4)

SZ1507



SZ1508

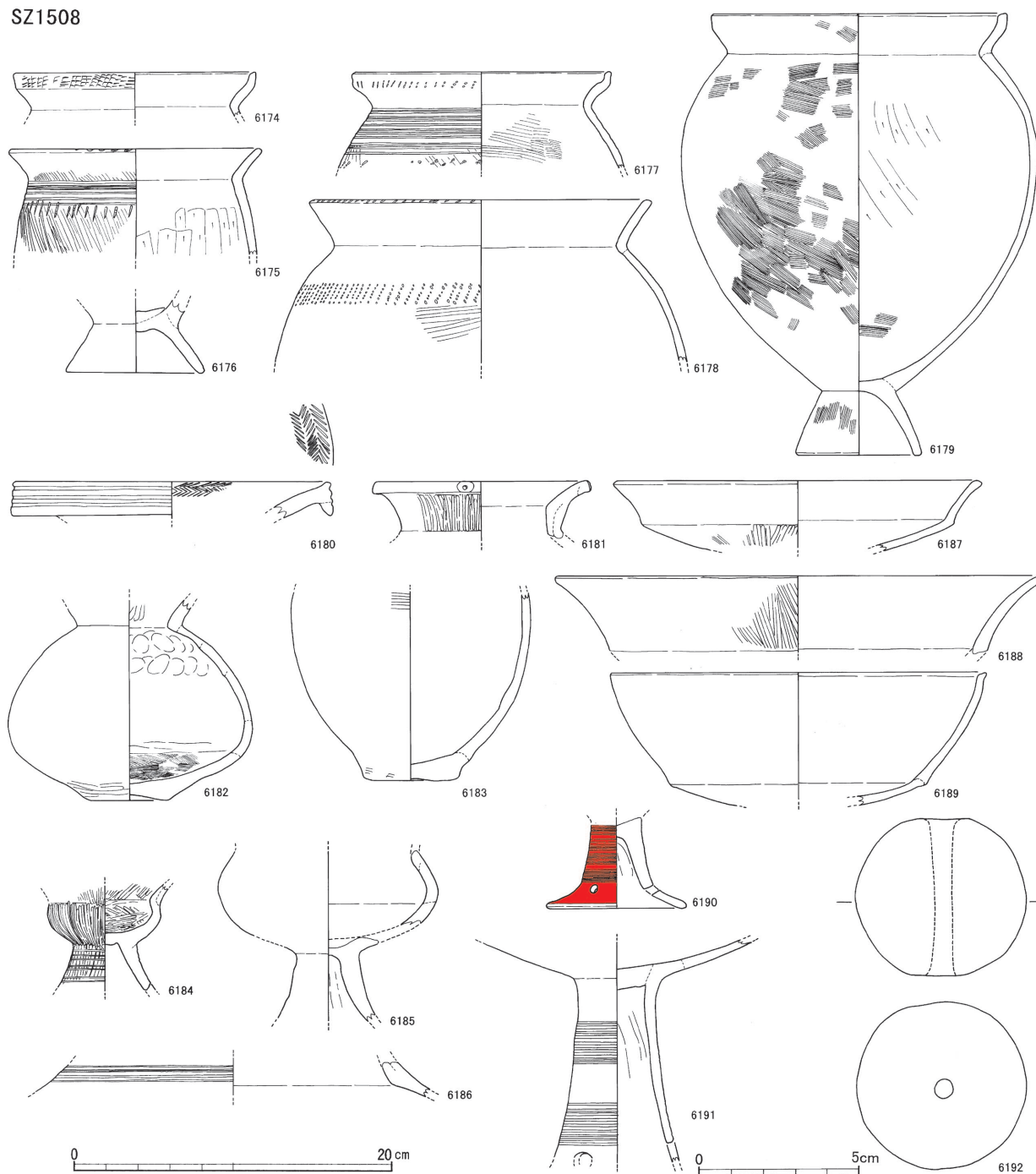
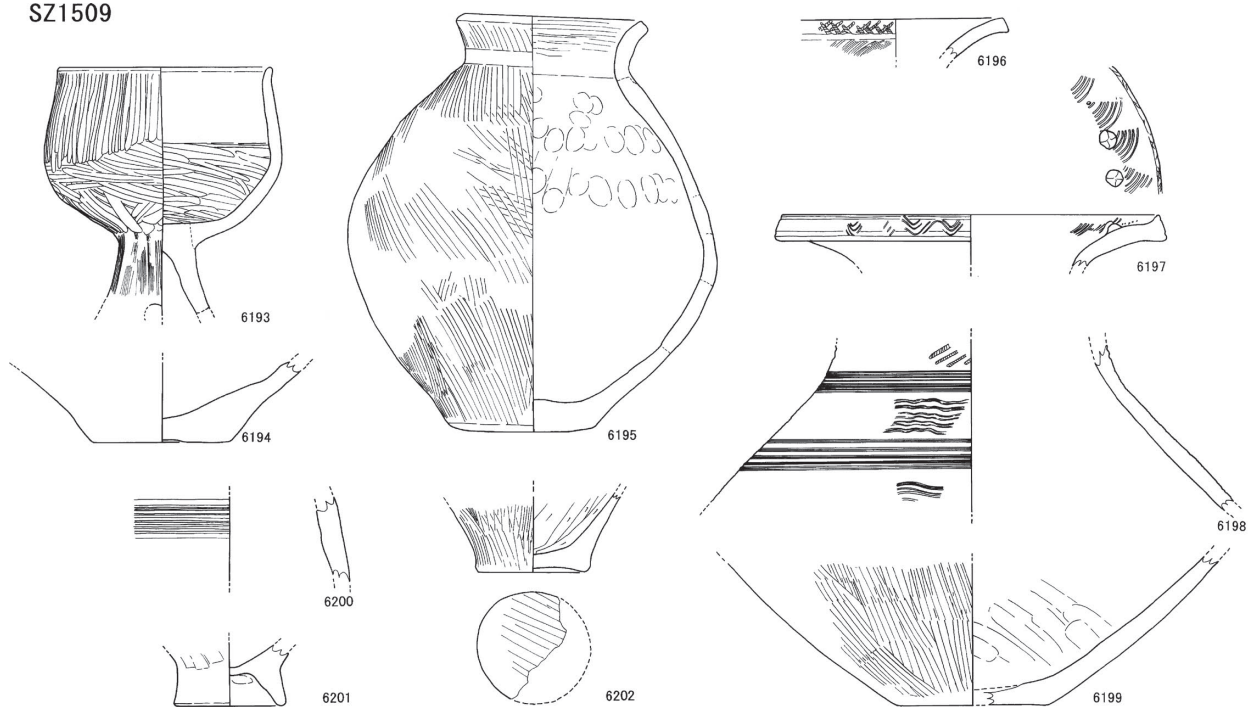
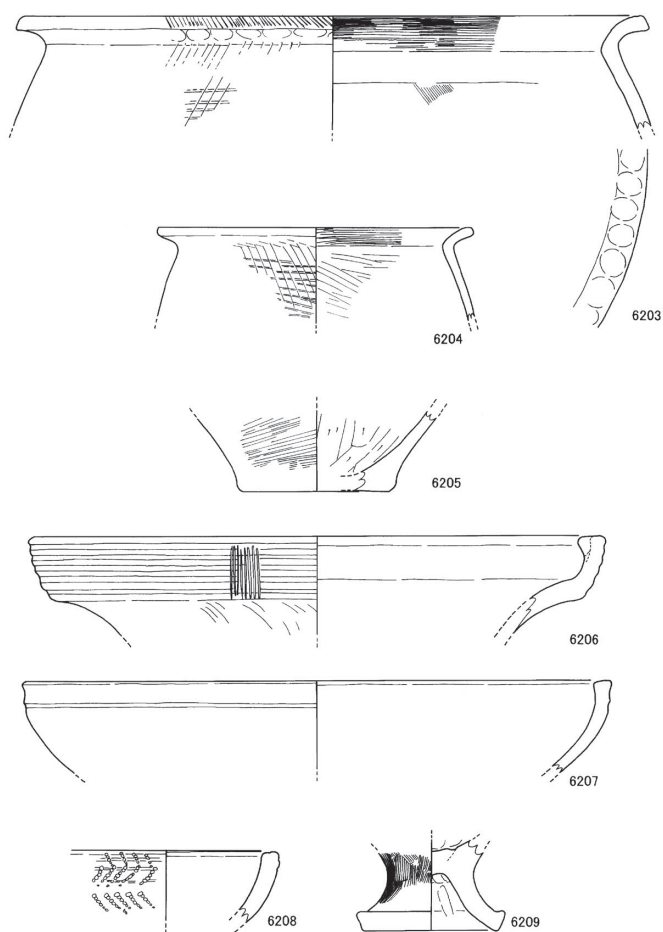


図34 SZ1507 (2)・1508 (1 : 4、6192は1 : 2)

SZ1509



SZ1515



SZ1545

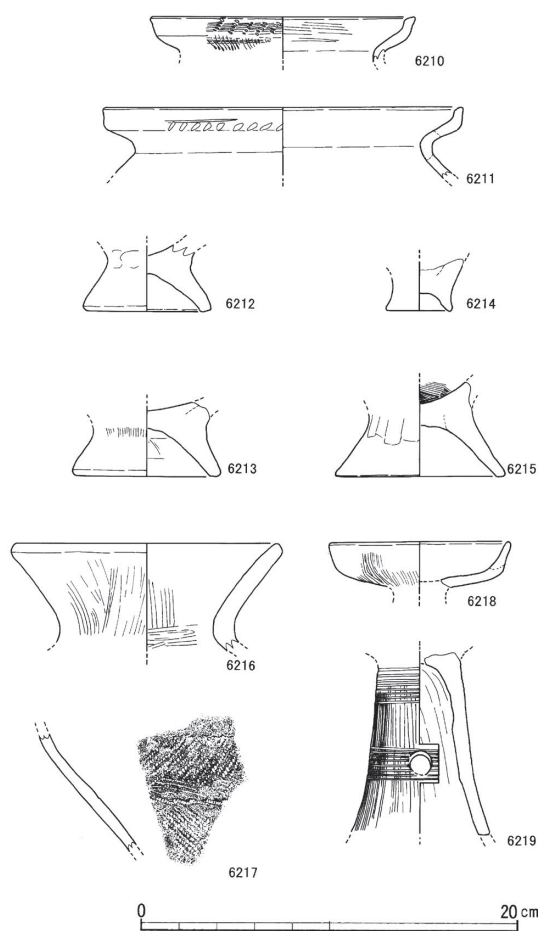


图35 SZ1509 · 1515 · 1545 (1 : 4)

SR578 II-b層

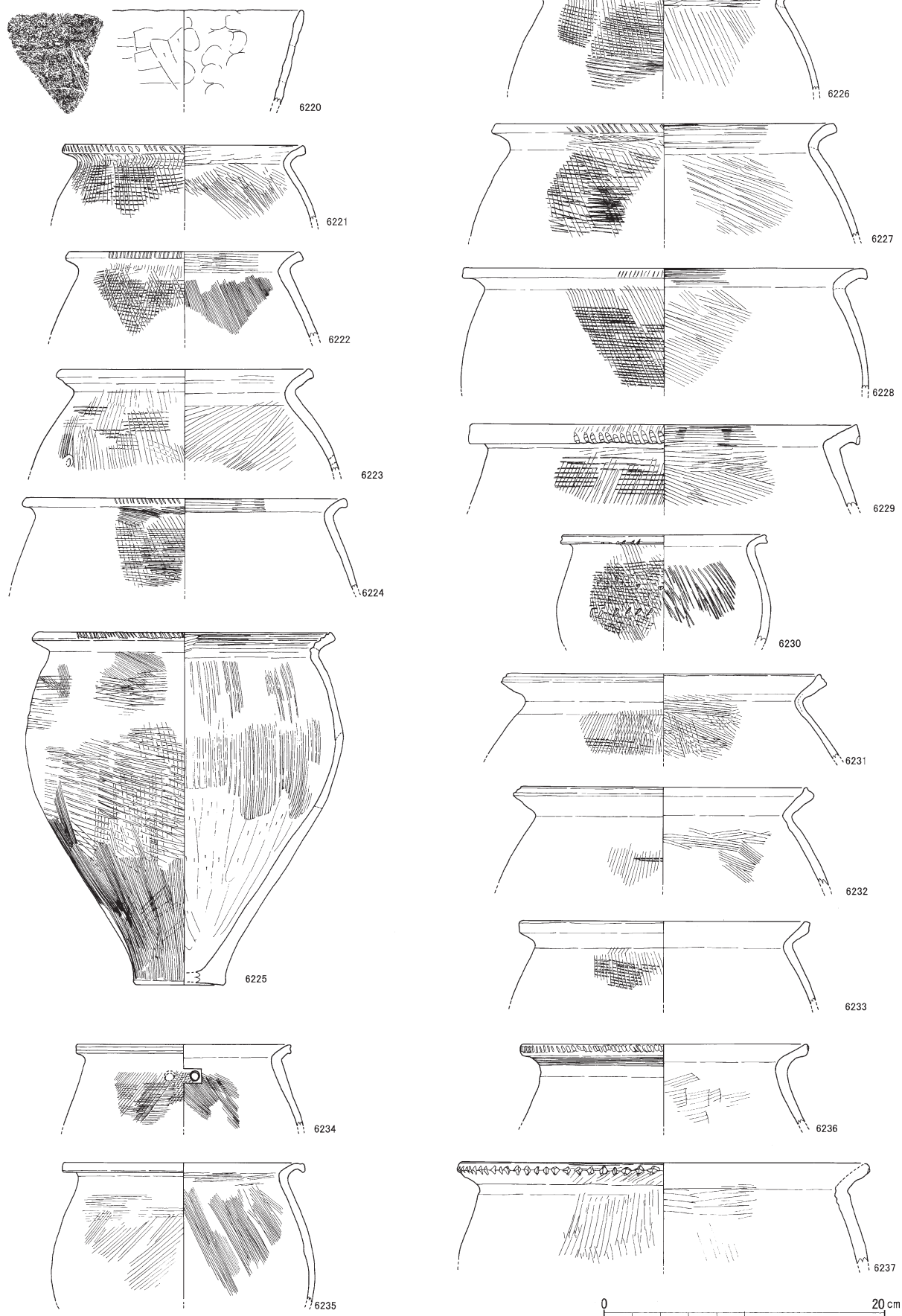


图36 SR578 II-b層 (1) (1 : 4)

SR578 II-b層

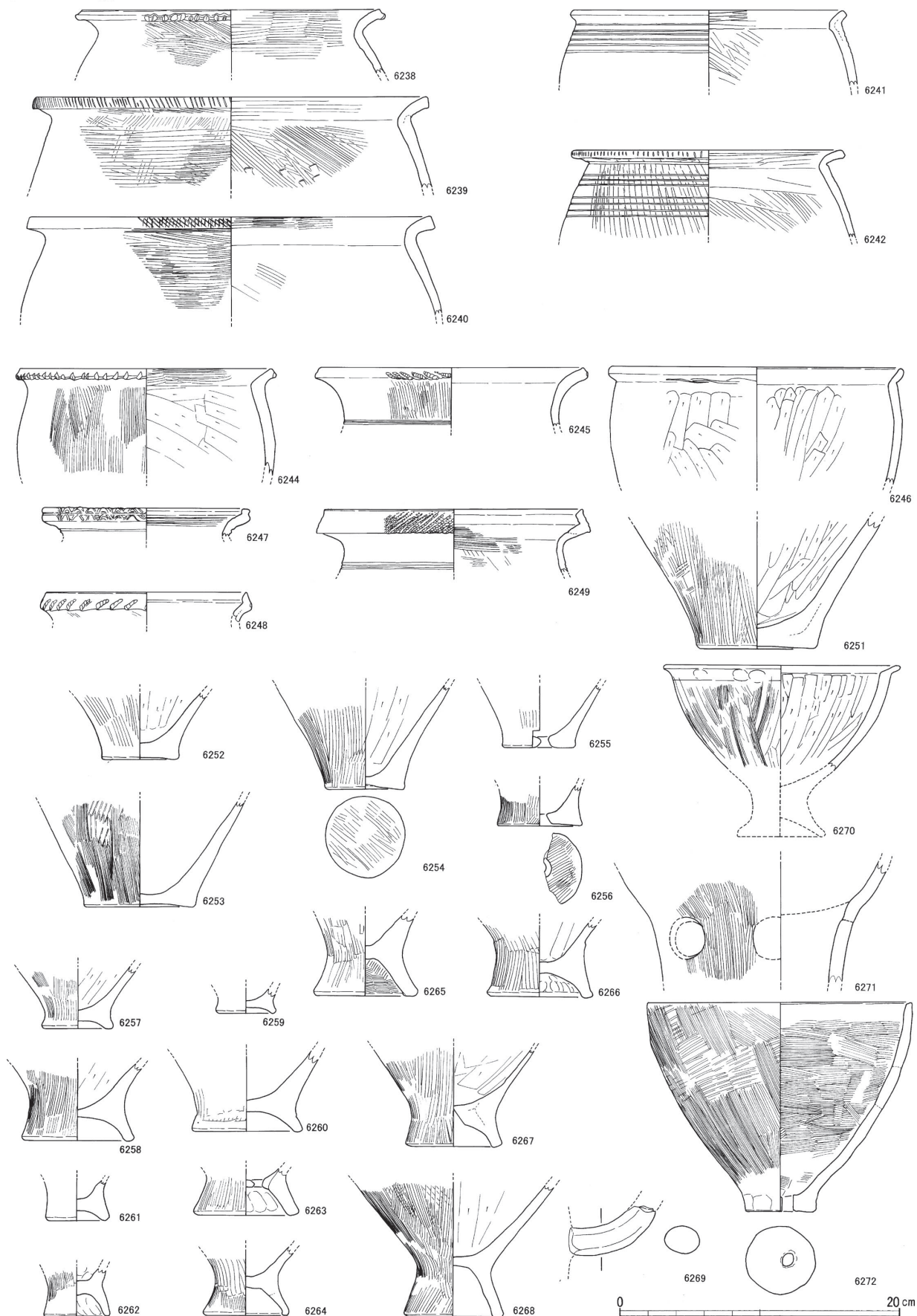


图37 SR578 II-b層 (2) (1 : 4)

SR578 II-b層

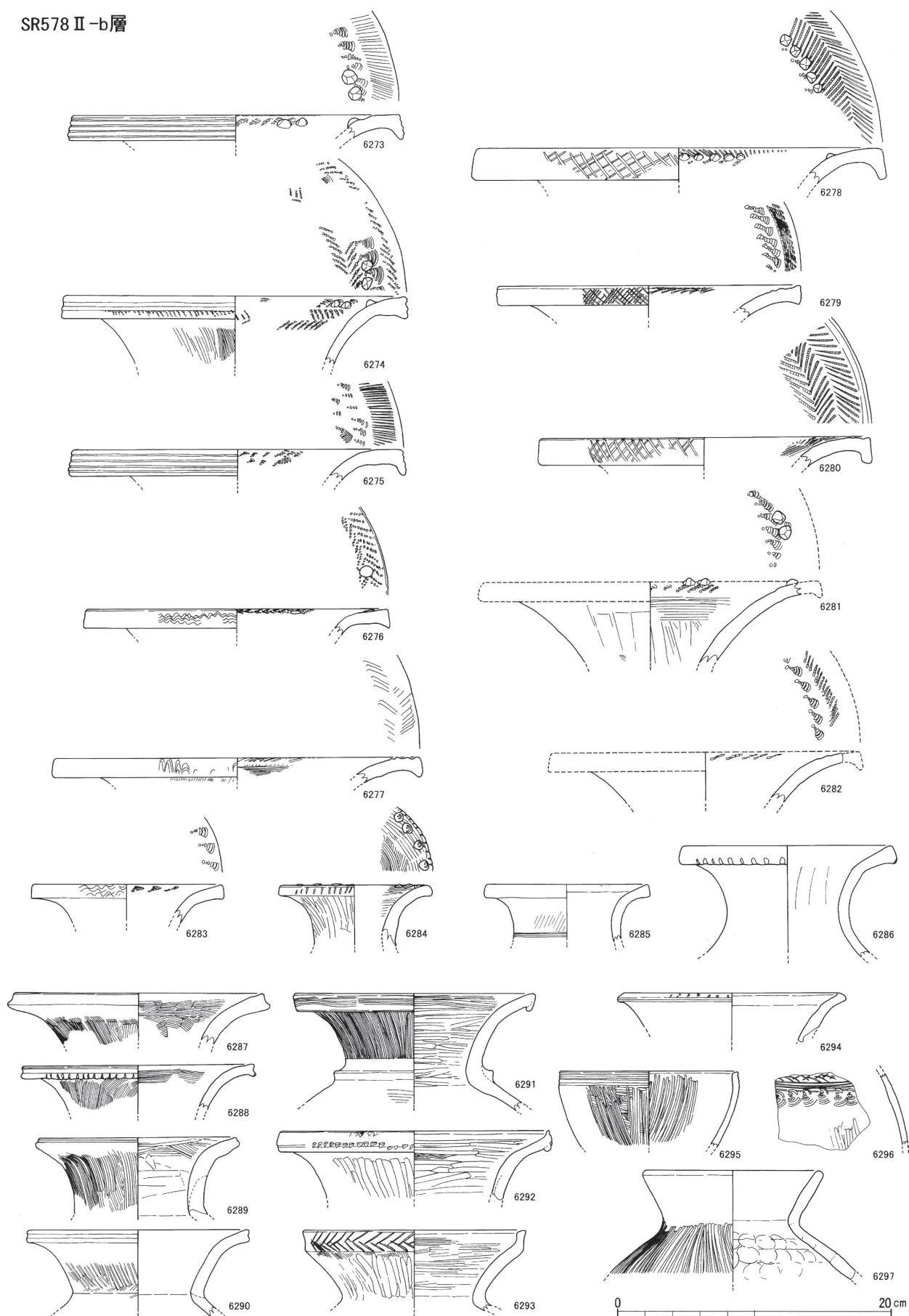


图38 SR578 II-b層 (3) (1 : 4)

SR578 II-b層

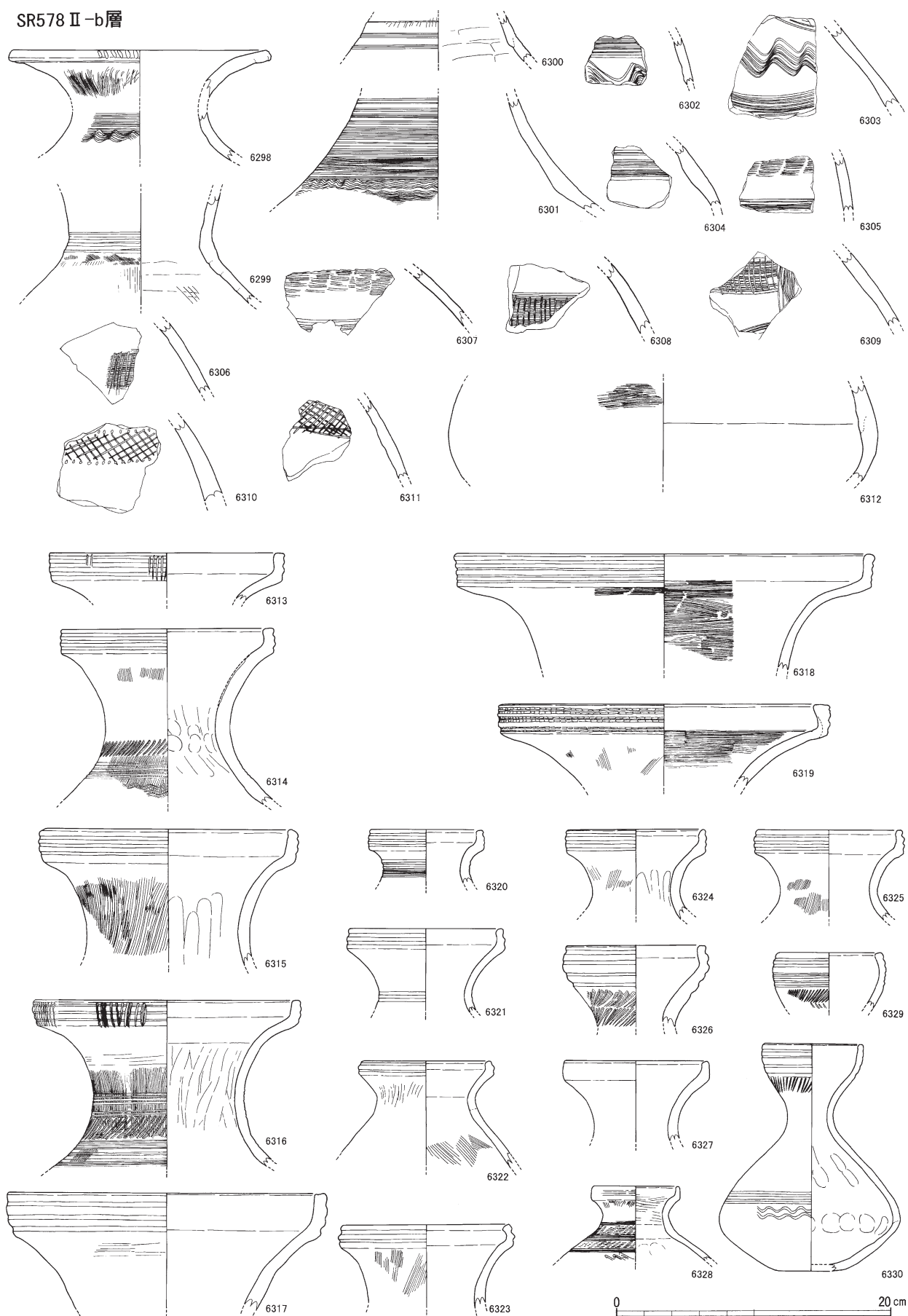


图39 SR578 II-b層 (4) (1 : 4)

SR578 II-b層

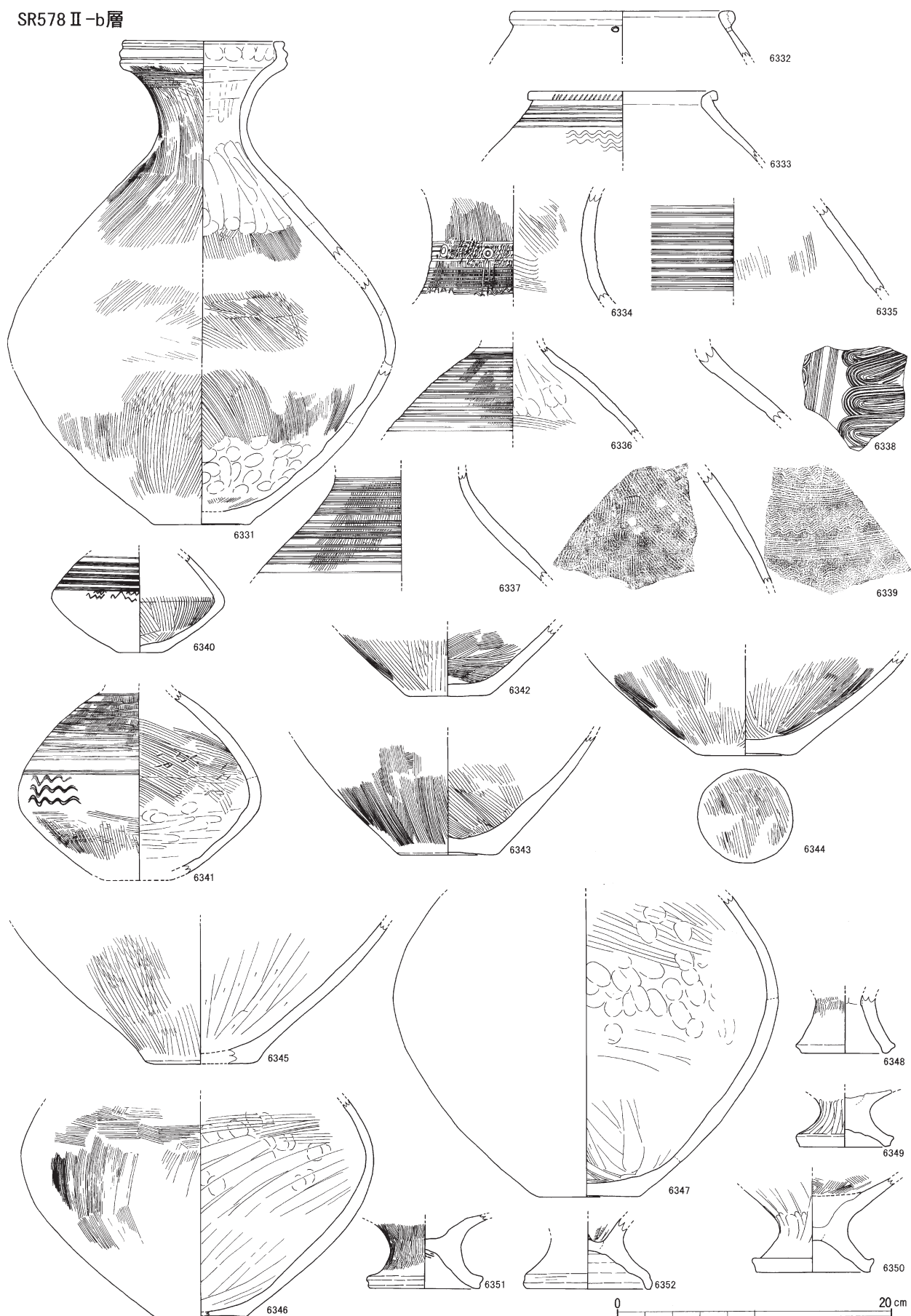


图40 SR578 II-b層 (5) (1 : 4)

SR578 II-b層

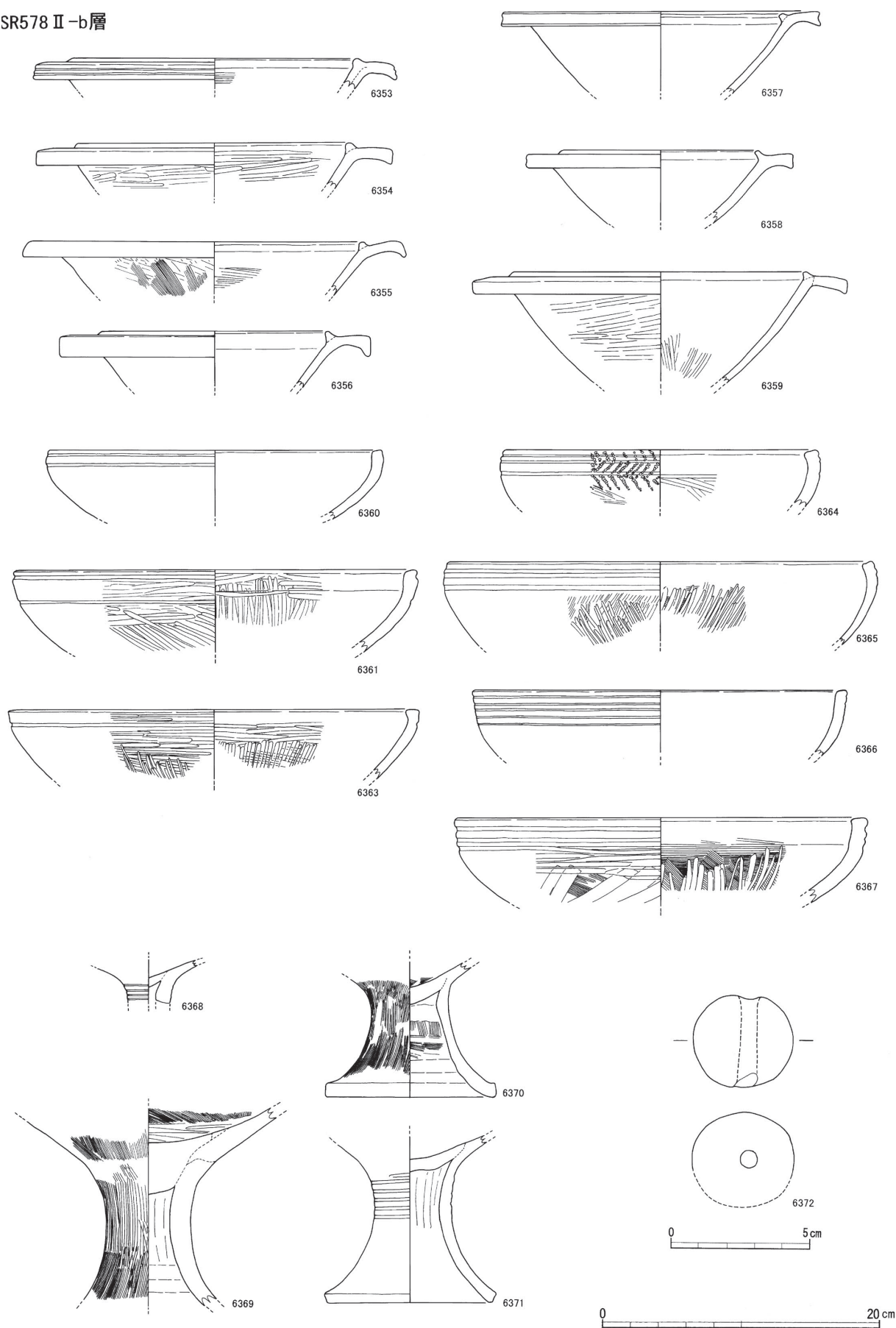


図41 SR578 II-b層 (6) (1 : 4、6372は1 : 2)

SR578 II-a層

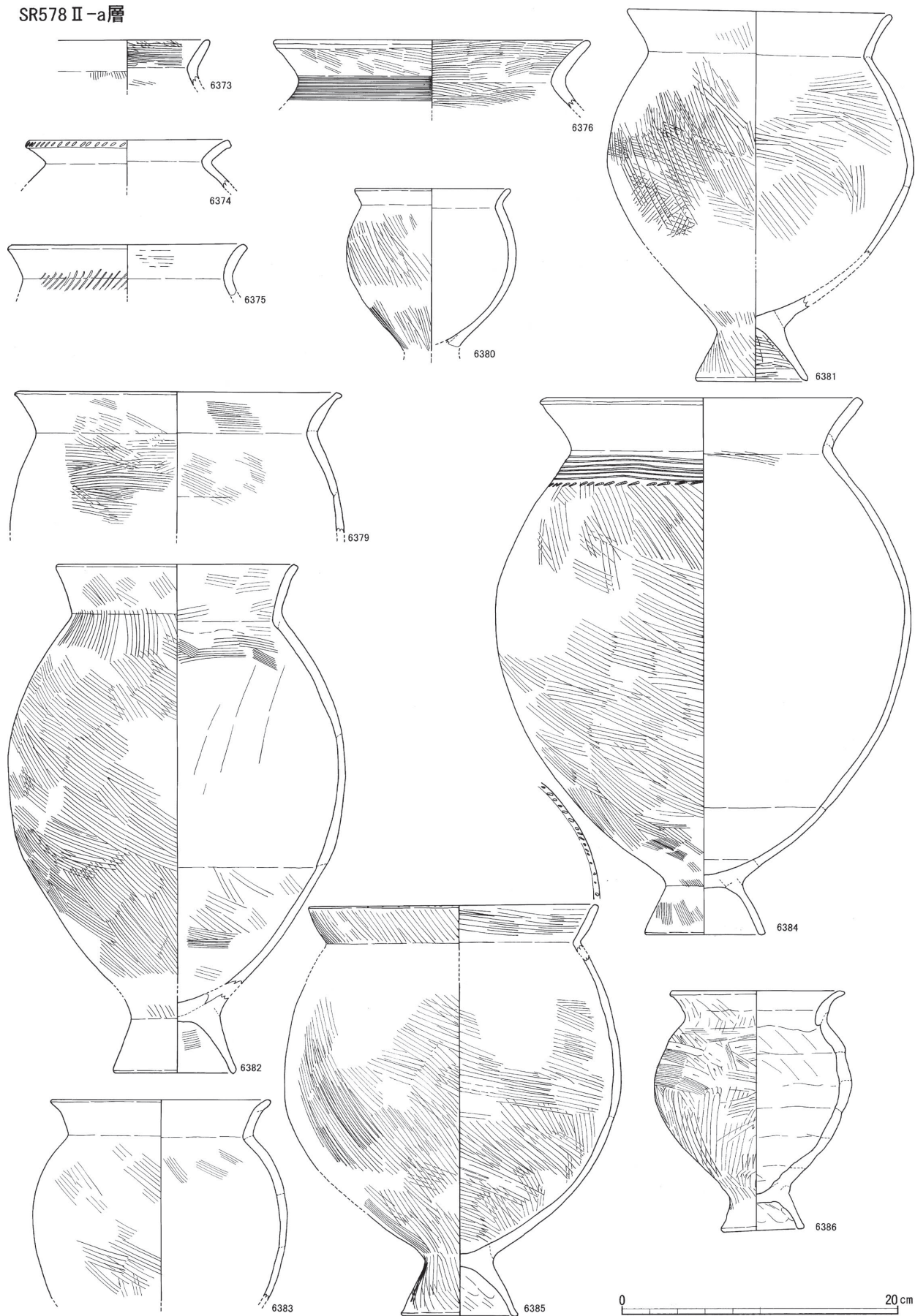


图42 SR578 II-a層 (1) (1 : 4)

SR578 II-a層

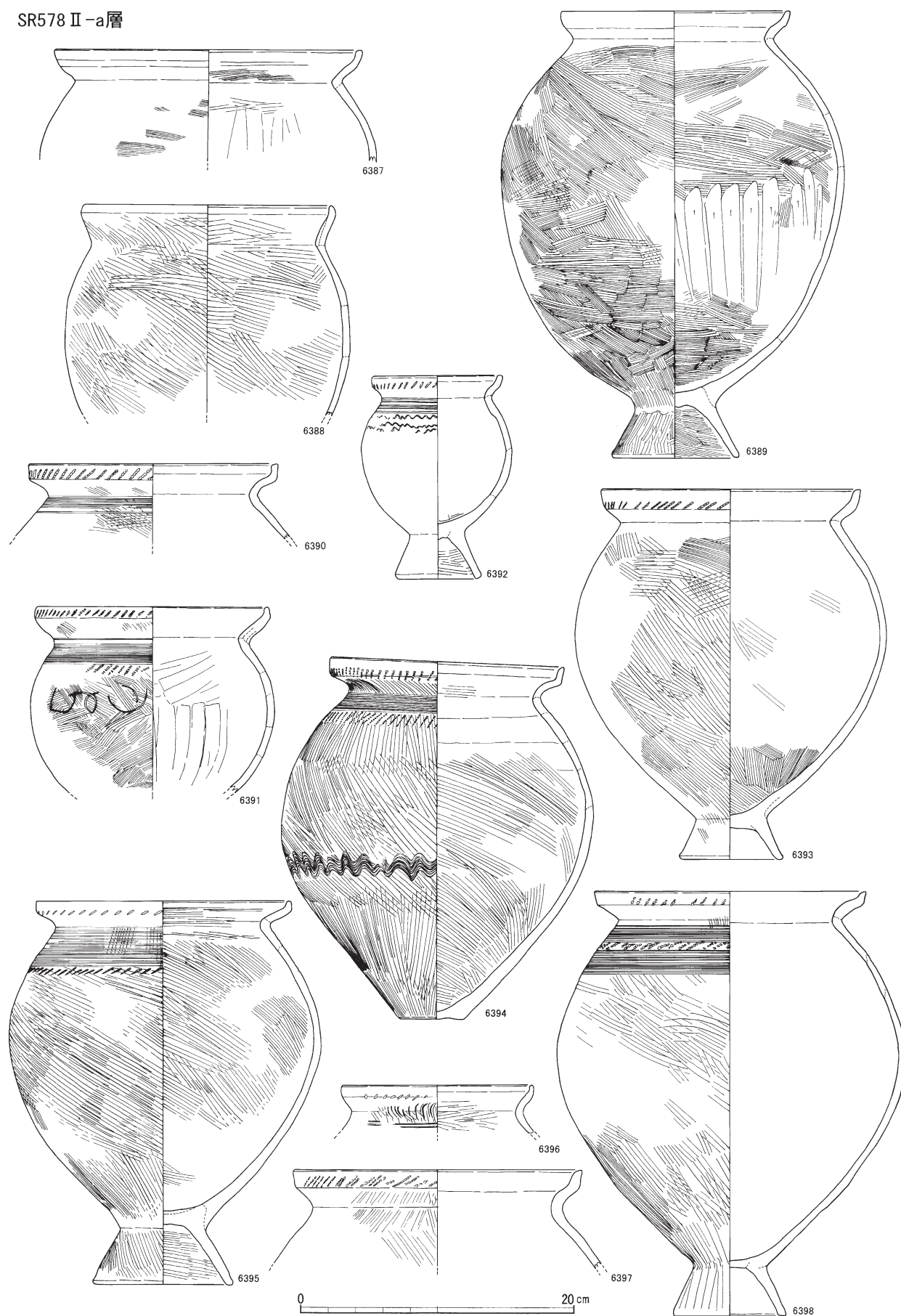


图43 SR578 II-a層 (2) (1 : 4)

SR578 II-a層

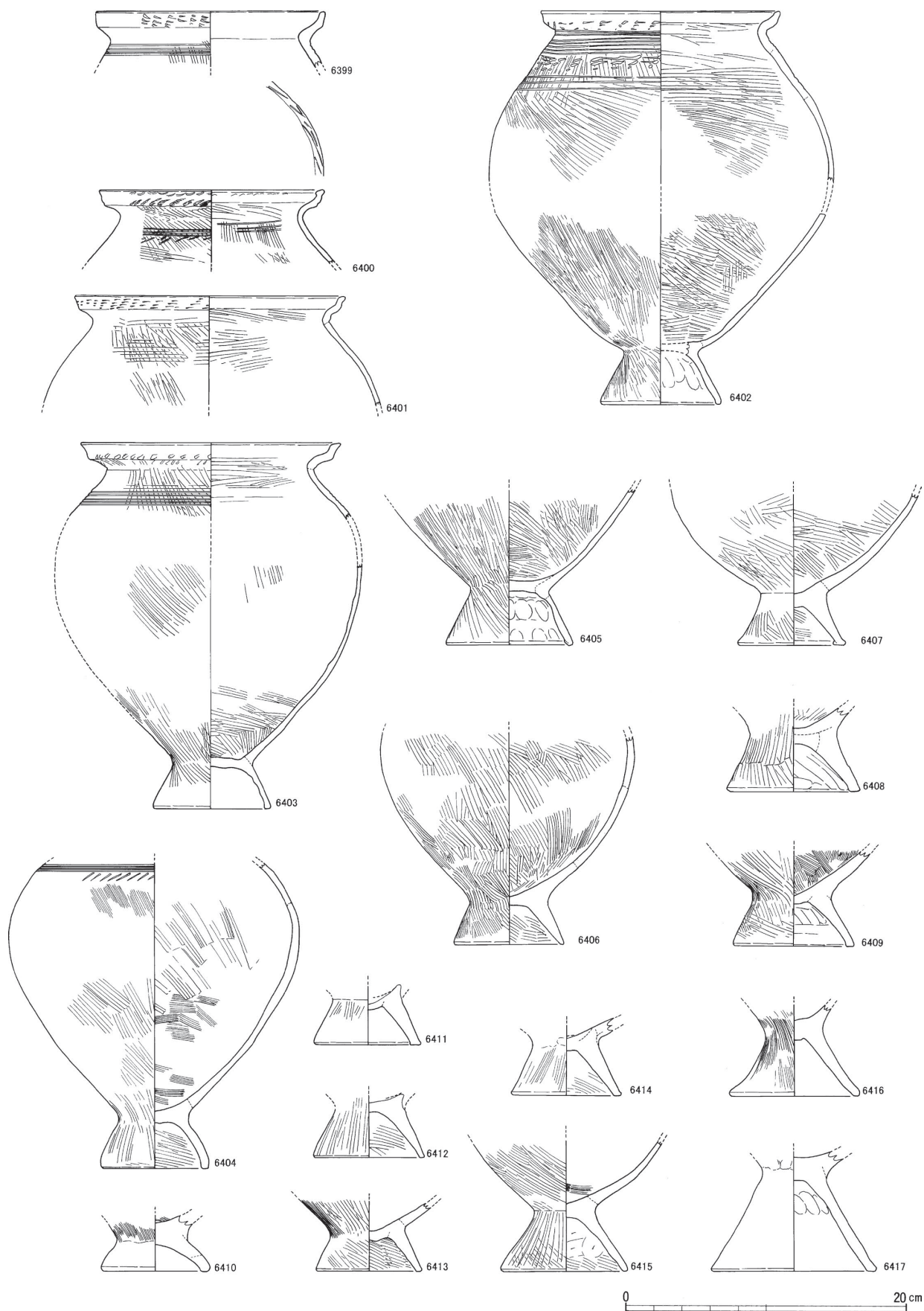


图44 SR578 II-a層 (3) (1 : 4)

SR578 II-a層

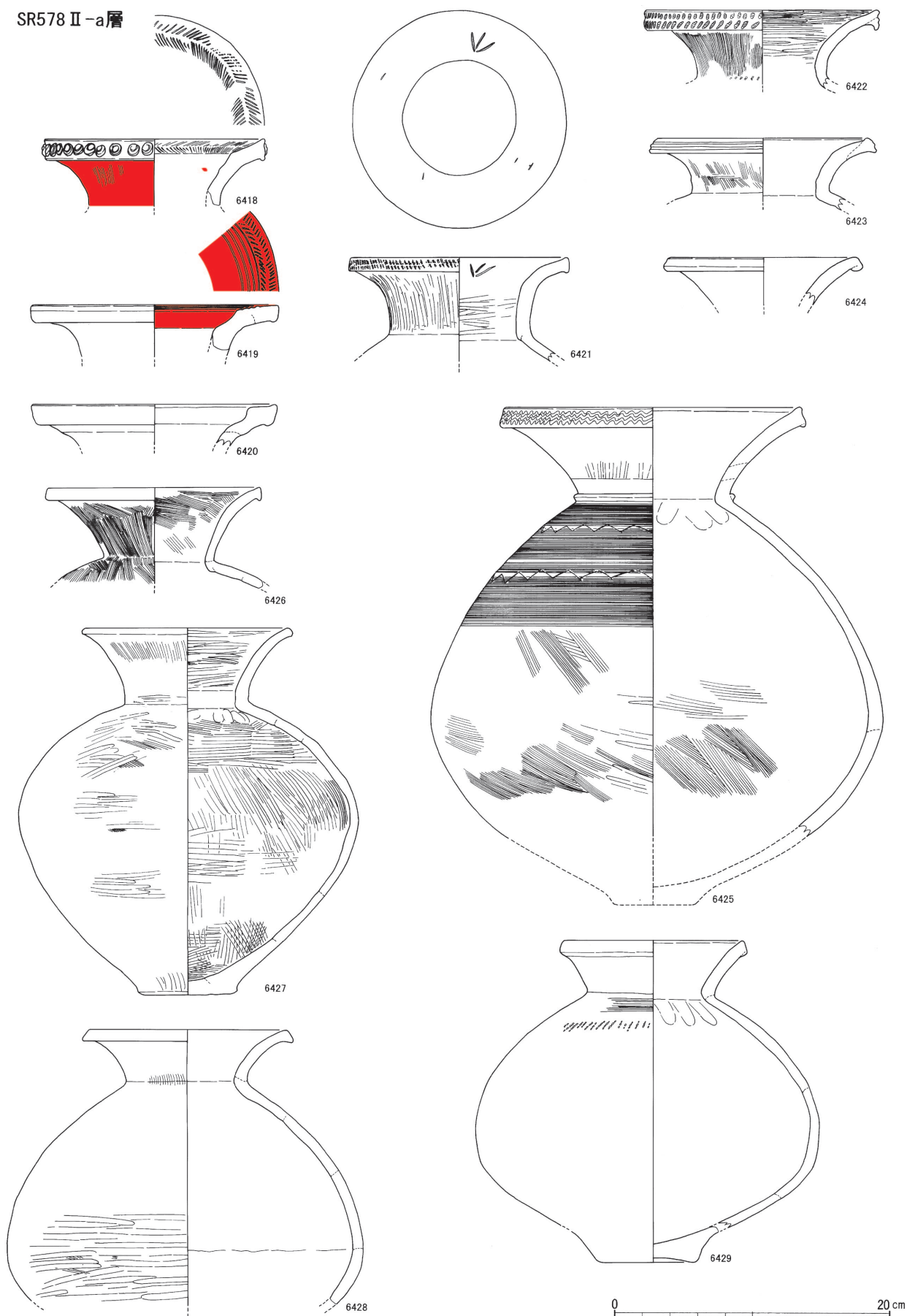


图45 SR578 II-a層 (4) (1 : 4)

SR578 II-a層

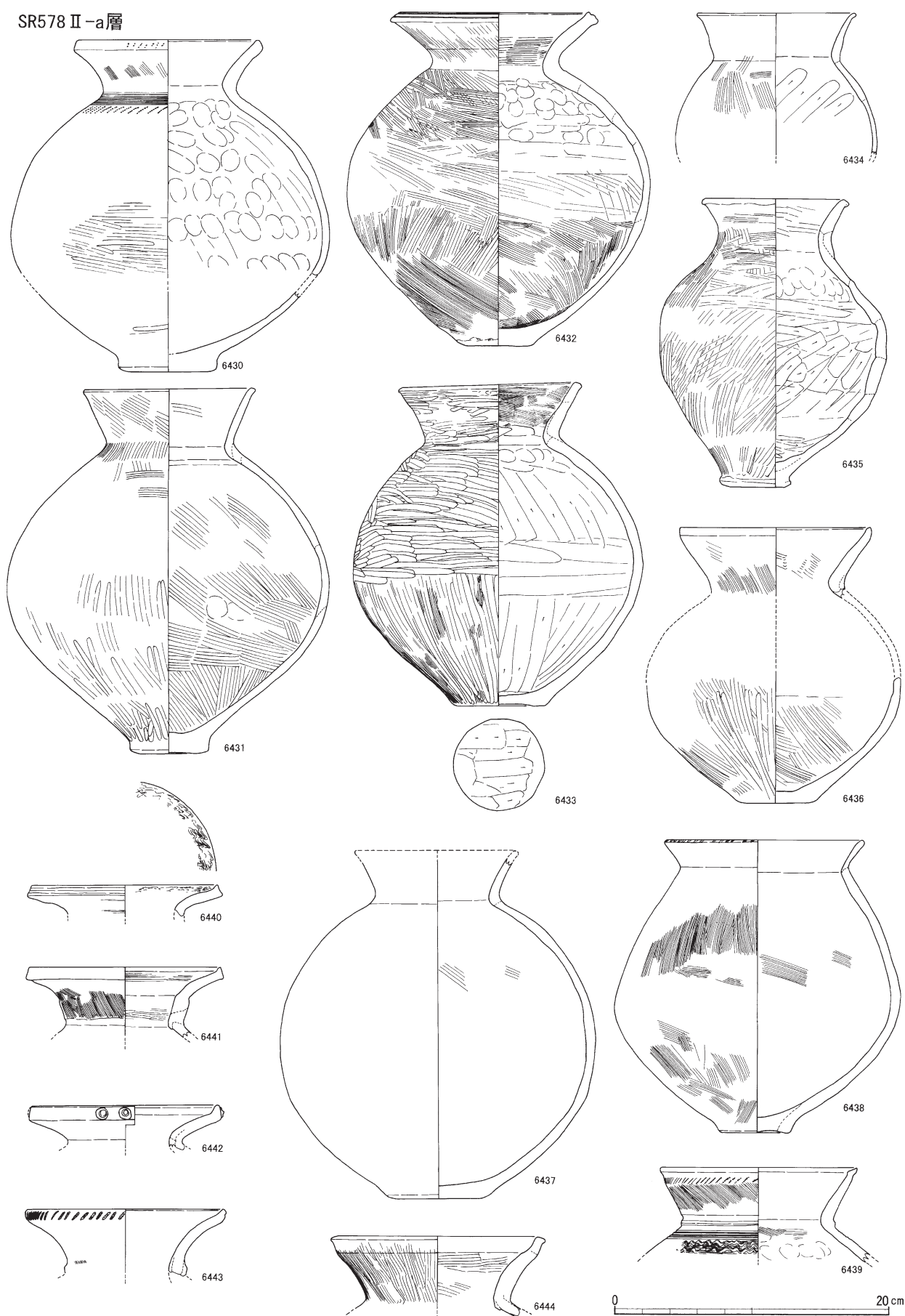


图46 SR578 II-a層 (5) (1 : 4)

SR578 II-a層

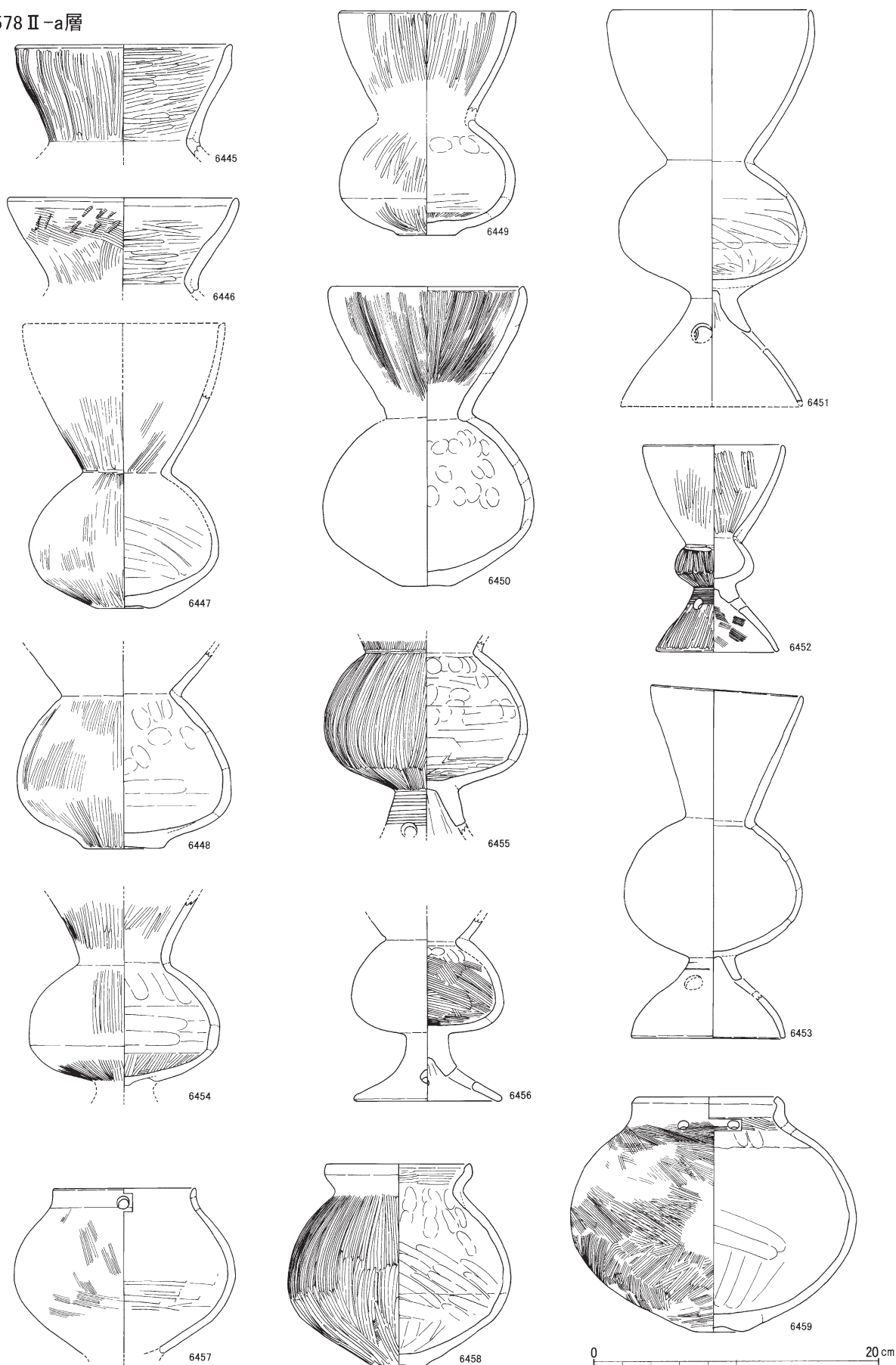


图47 SR578 II-a層 (6) (1 : 4)

SR578 II-a層

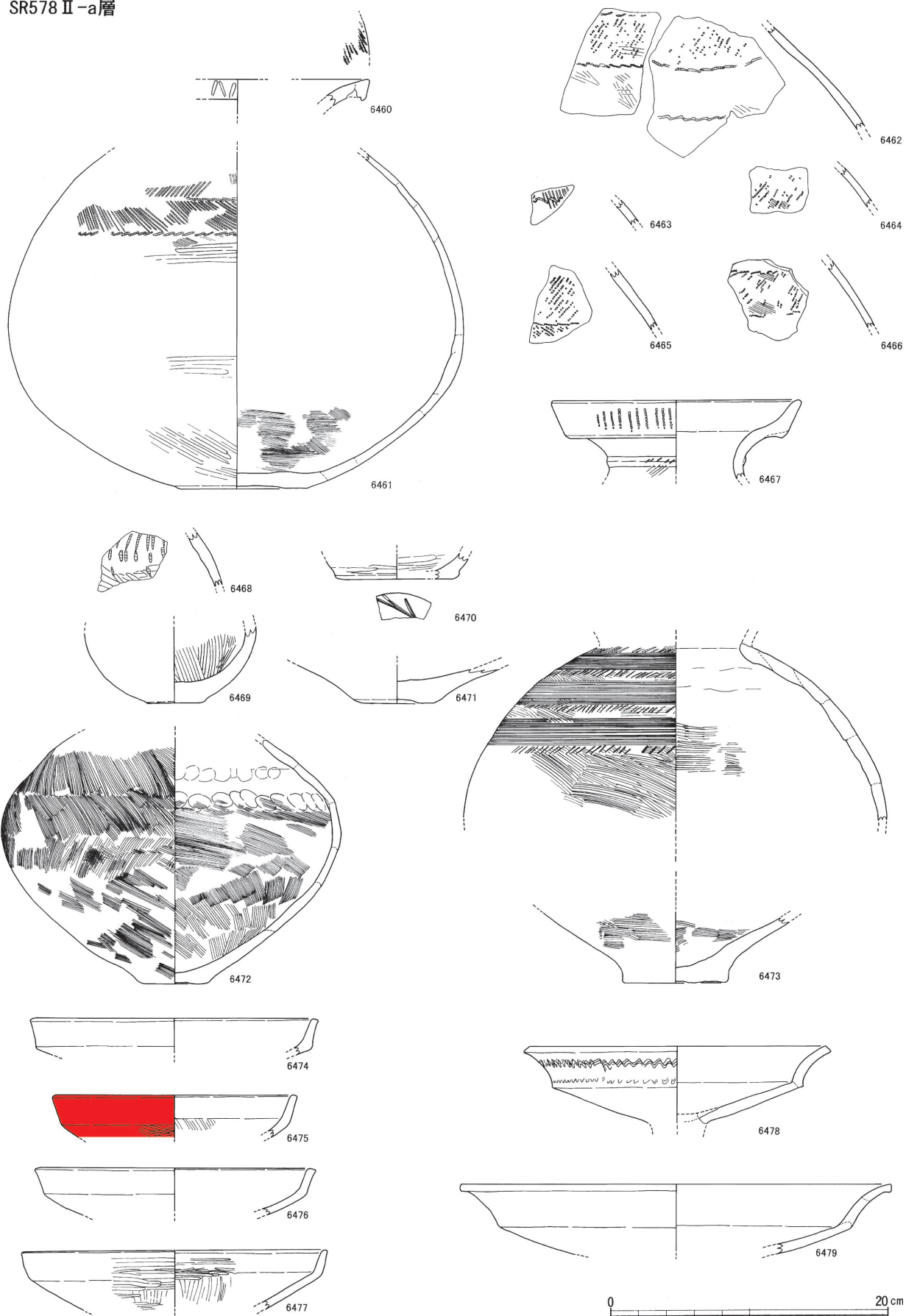


图48 SR578 II-a層 (7) (1 : 4)

SR578 II-a層

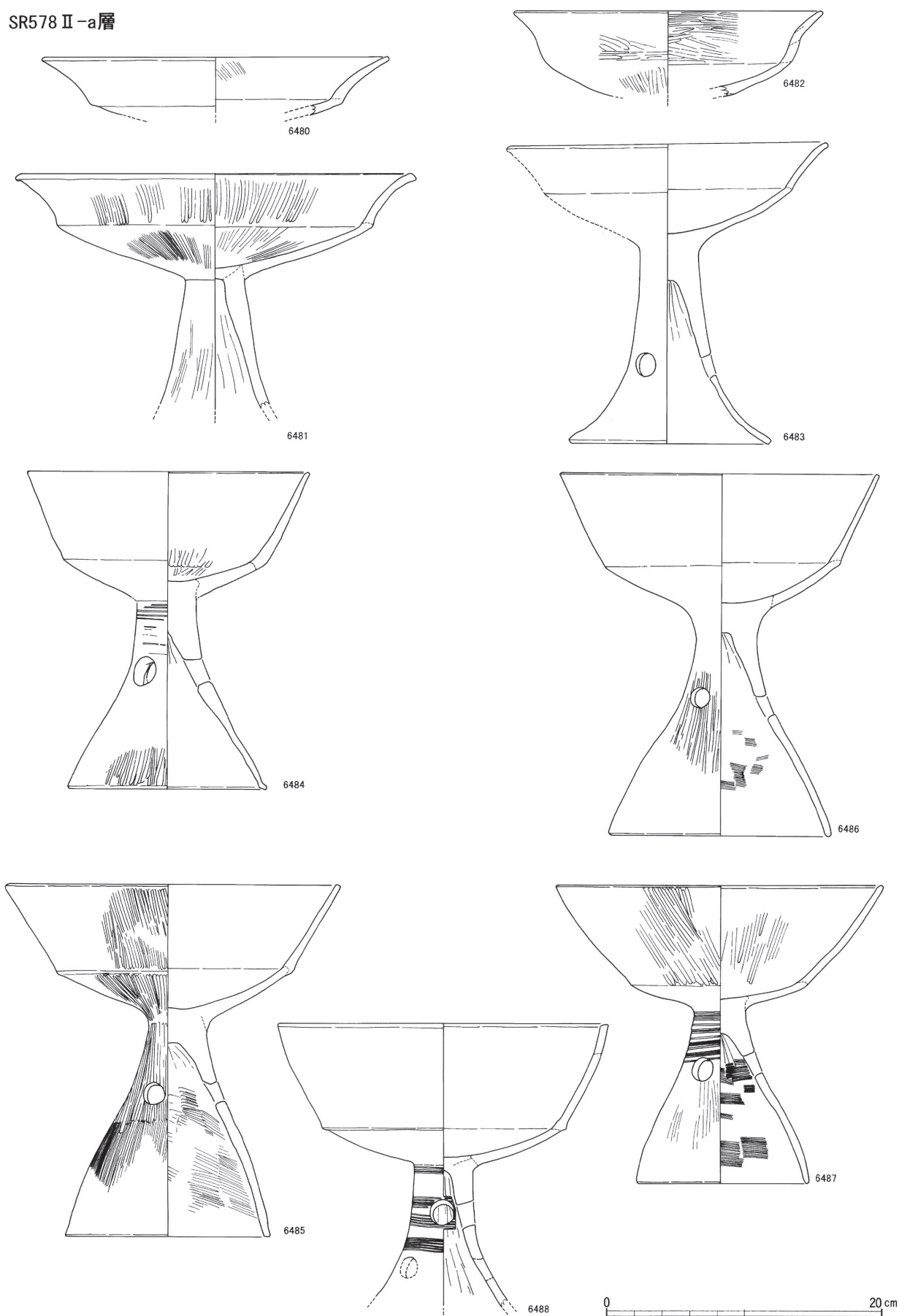


图49 SR578 II-a層 (8) (1 : 4)

SR578 II-a層

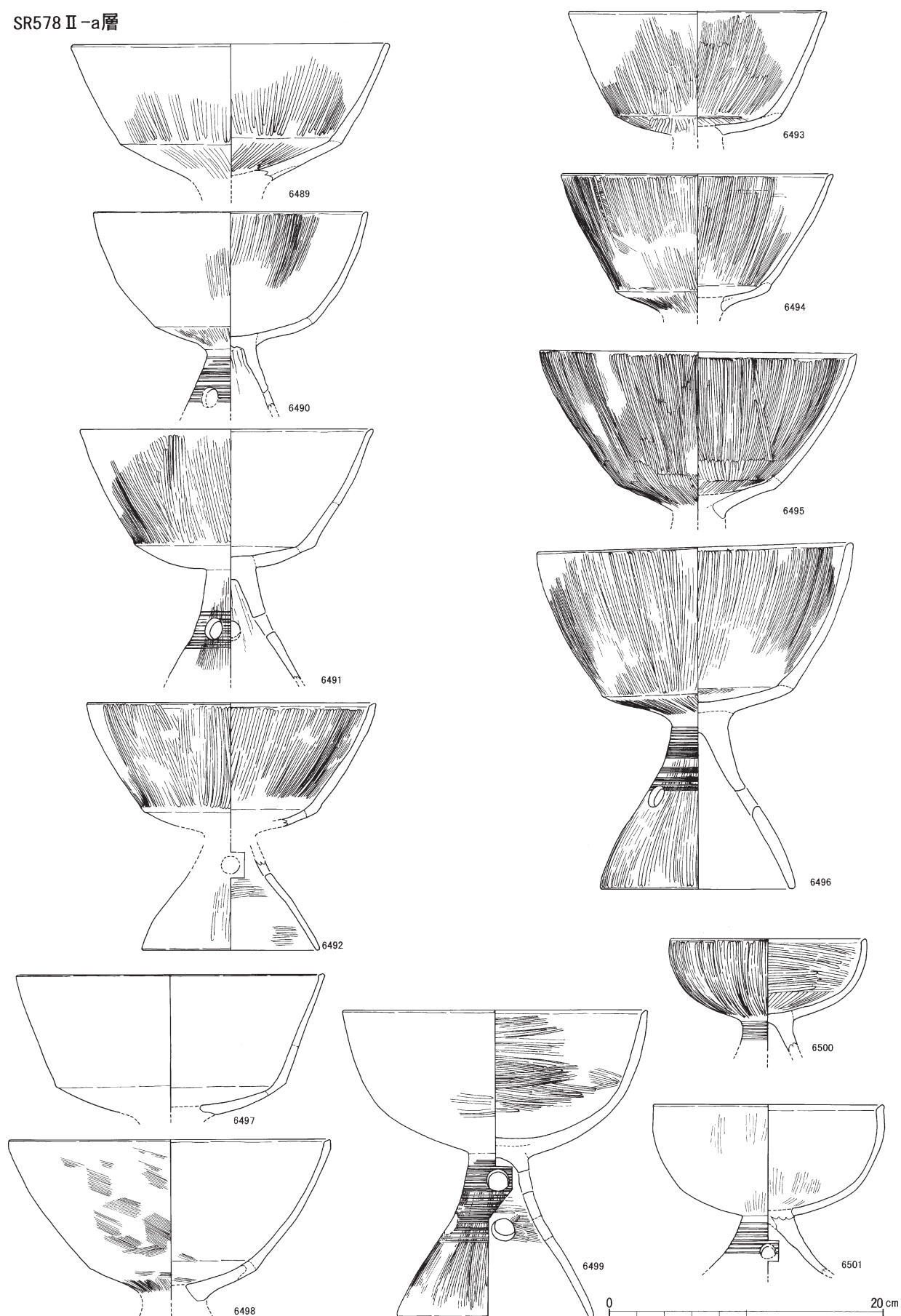


图50 SR578 II-a層 (9) (1 : 4)

SR578 II-a層

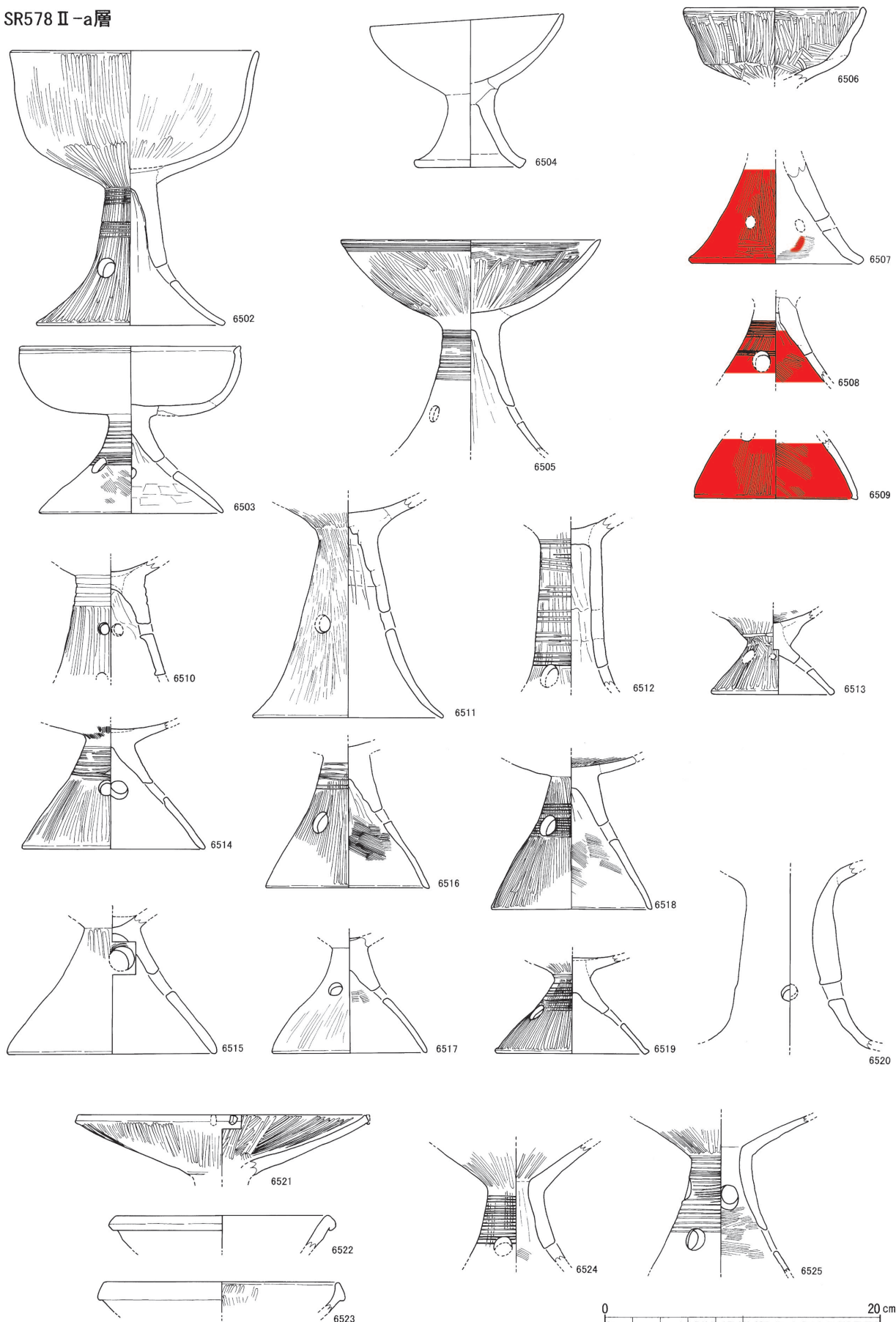


图51 SR578 II-a層 (10) (1 : 4)

SR578 II-a層

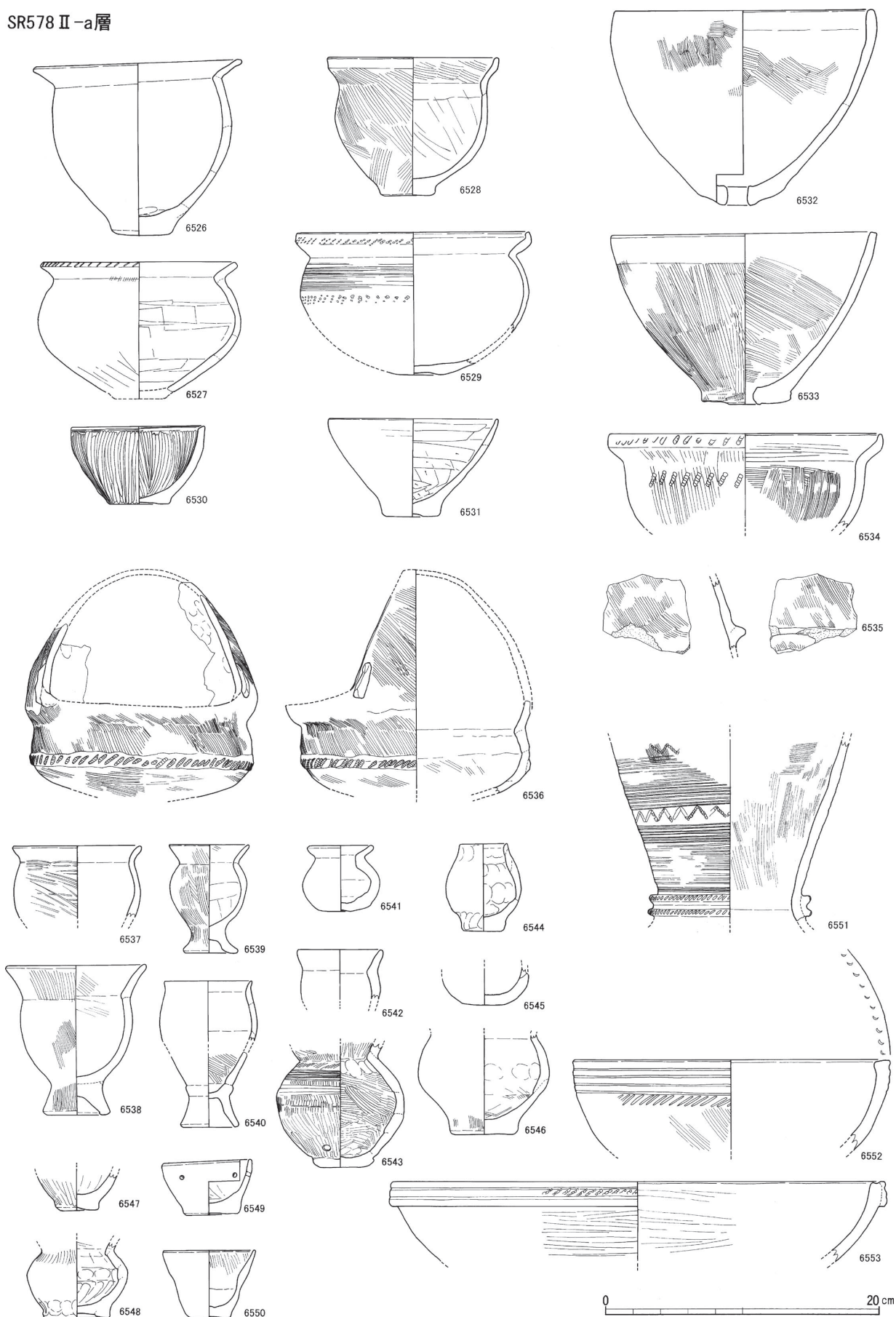


图52 SR578 II-a層 (11) (1 : 4)

SR578 I -c層

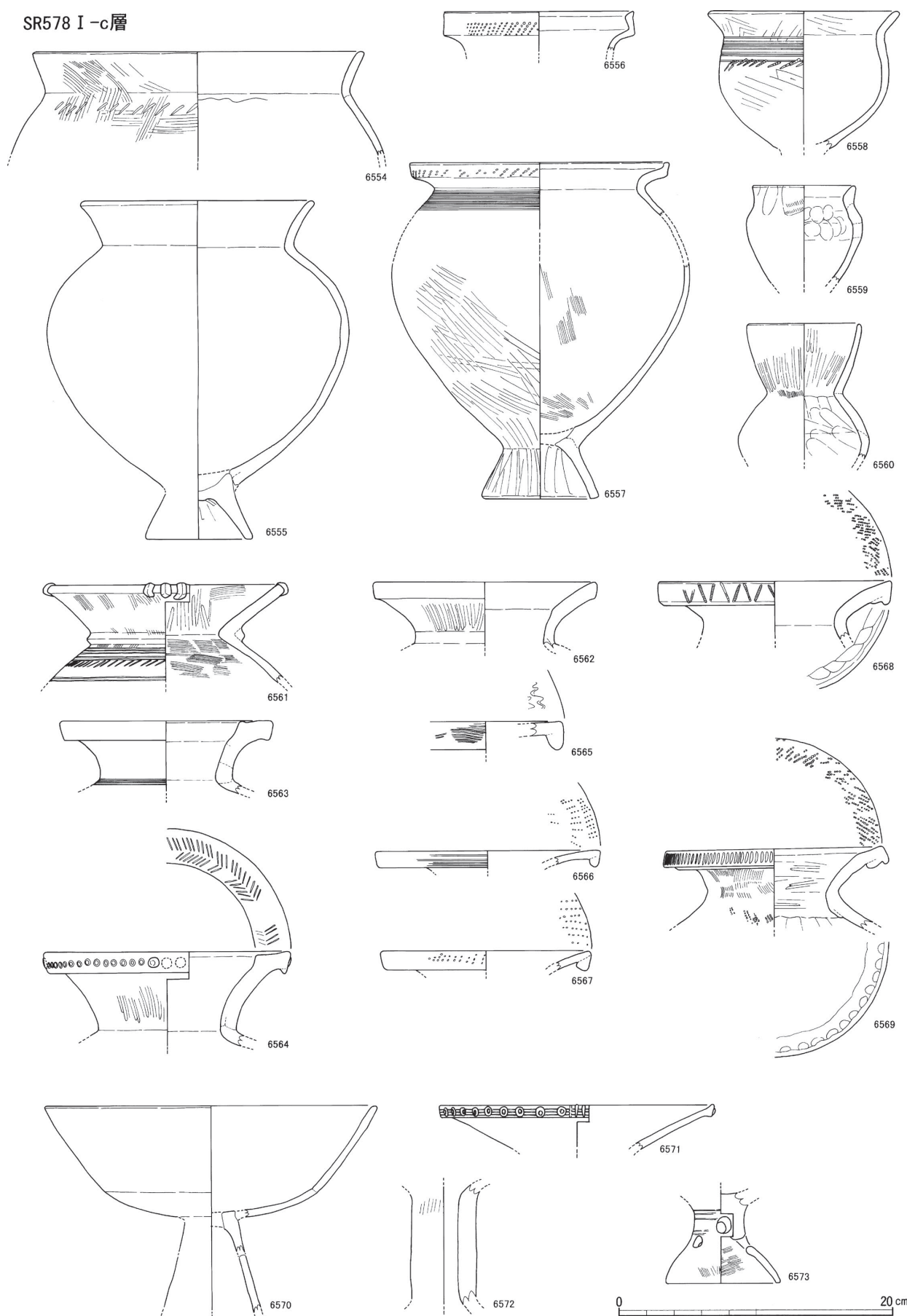
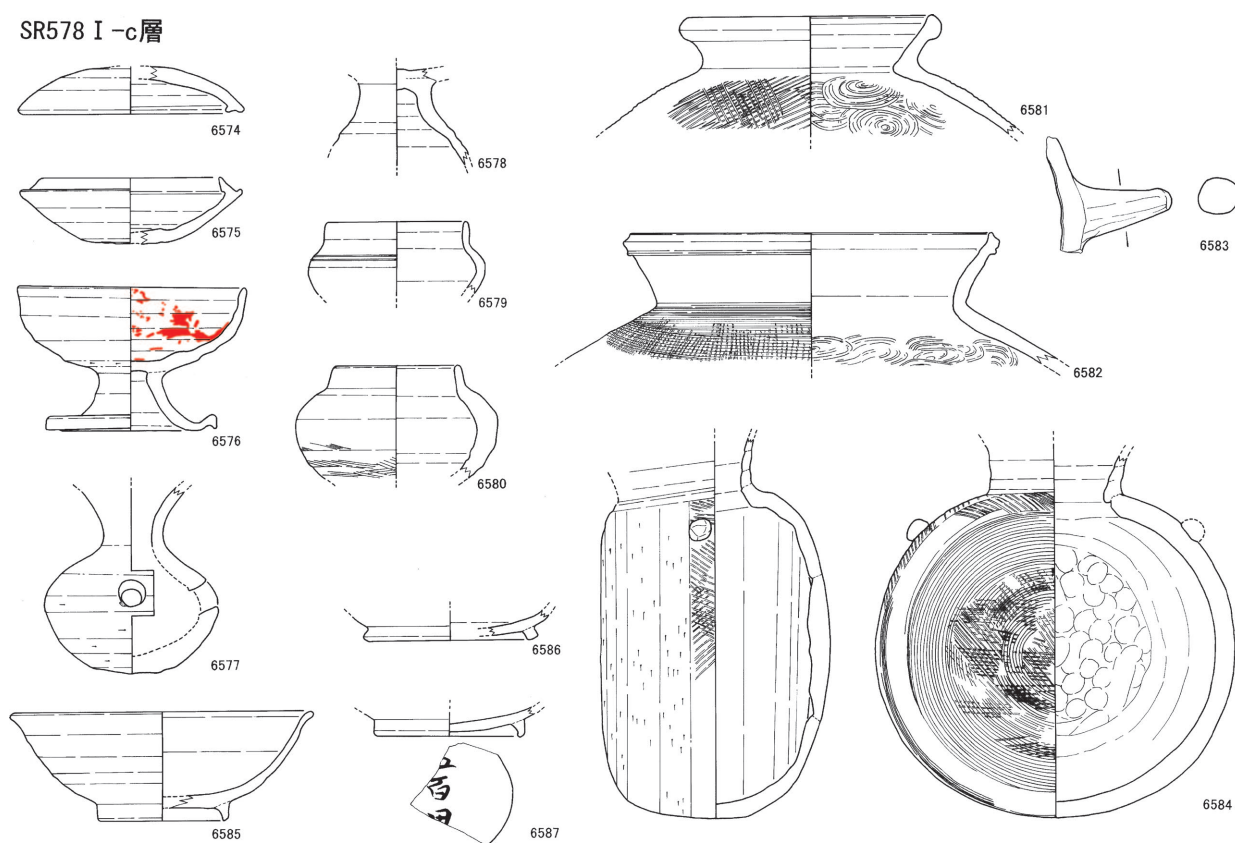


图53 SR578 I -c層 (1) (1 : 4)

SR578 I -c層



SR578 I -b層

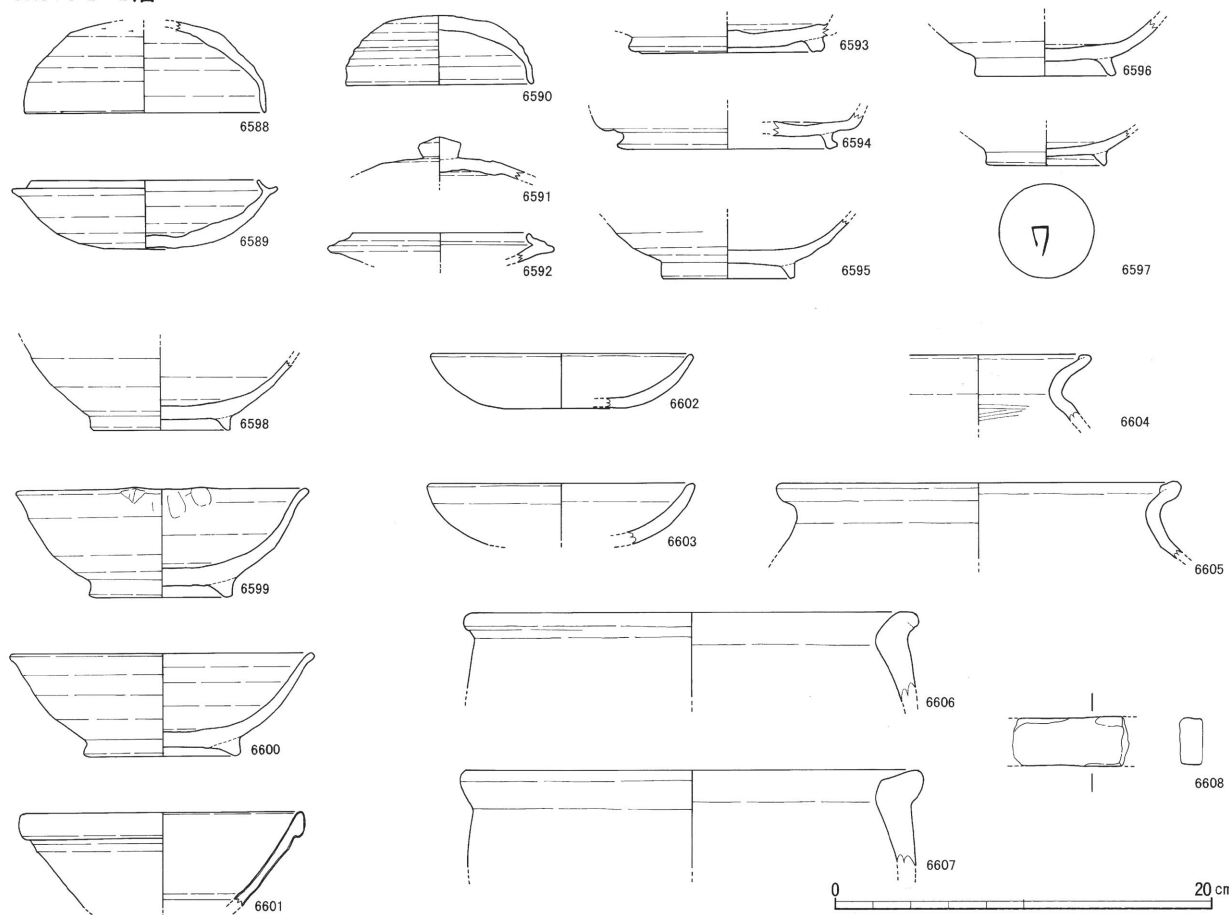
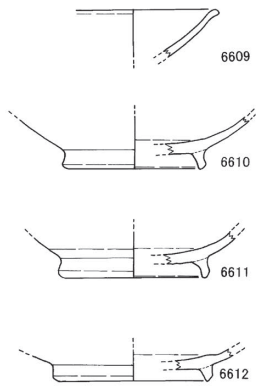
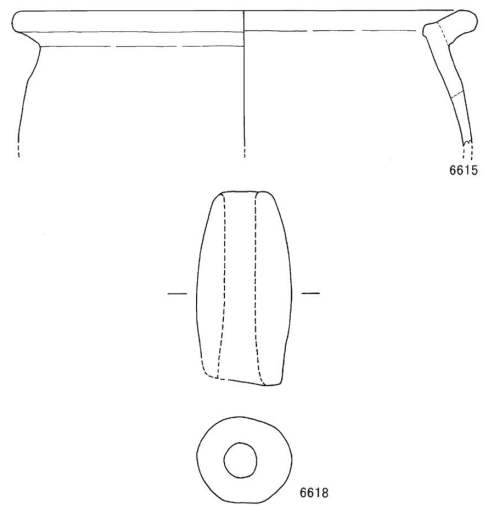
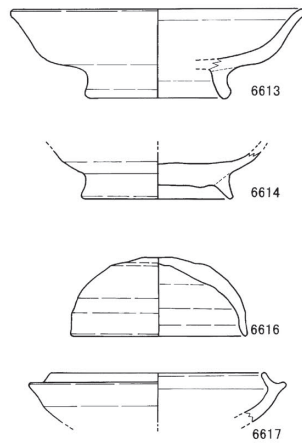


图54 SR578 I -c層 (2) · I -b層 (1 : 4)

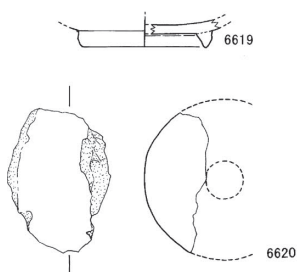
SB1579



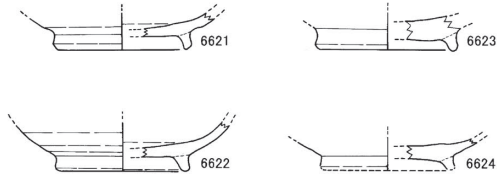
SE1503



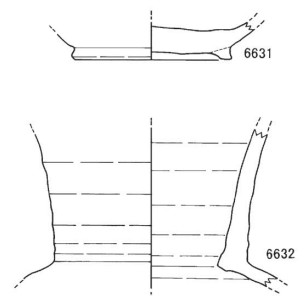
SK1501



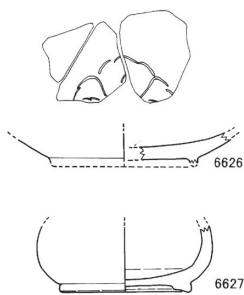
SK1512



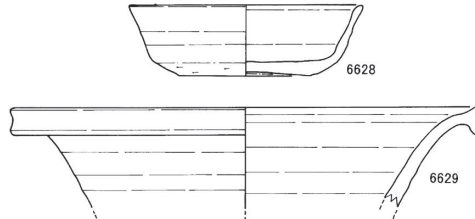
SD1502



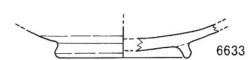
SK1530



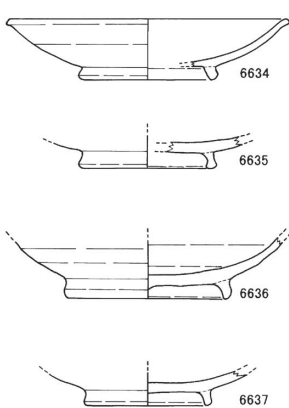
SK1539



SD1532



SD1525



SK1574

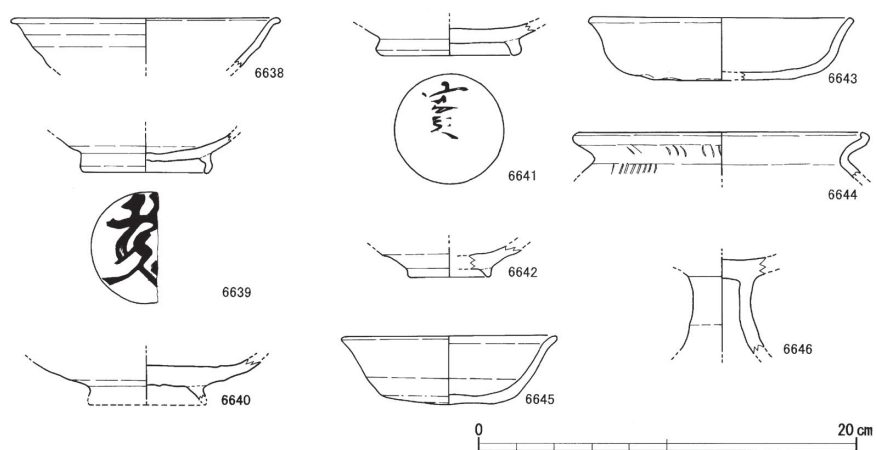
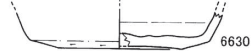
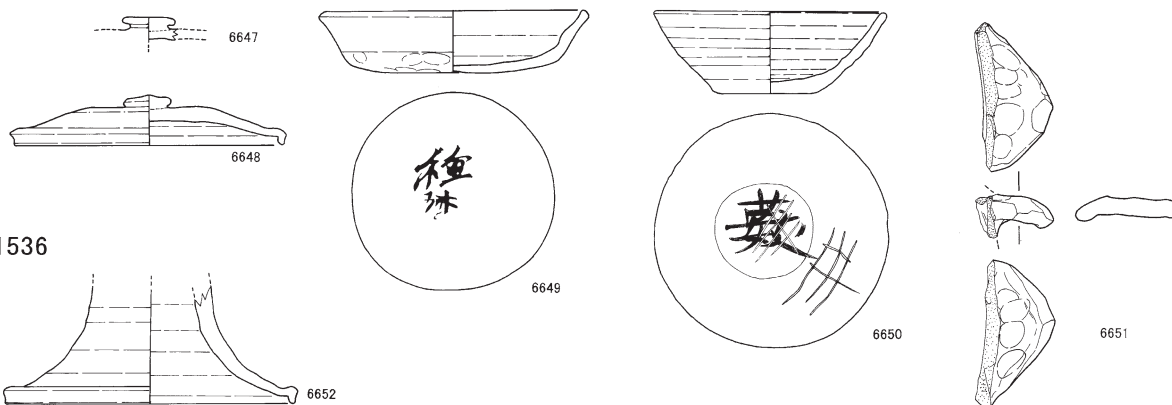
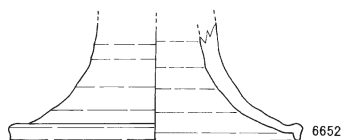


図55 SB1579、SE1503、SK1501・1512・1530・1539・1574、SD1502・1525・1532（1：4、6618は1：2）

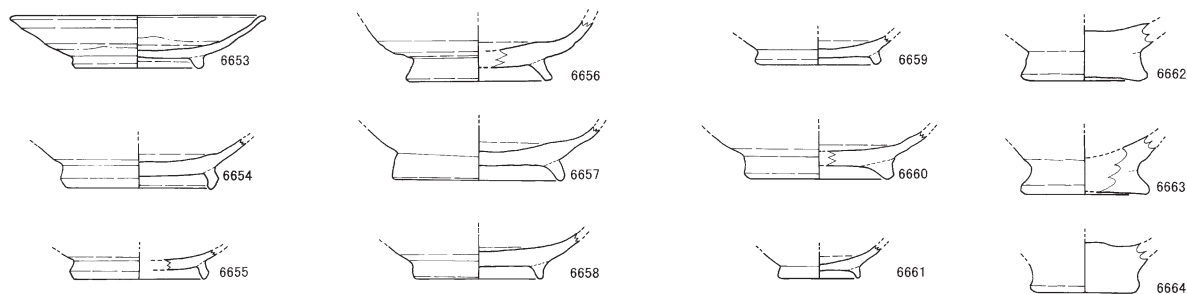
SD1533



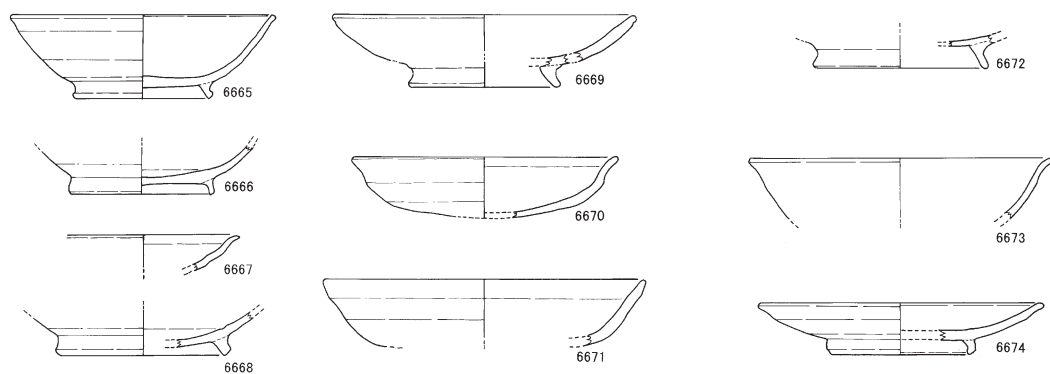
SD1536



SD1548



Pit



包含層

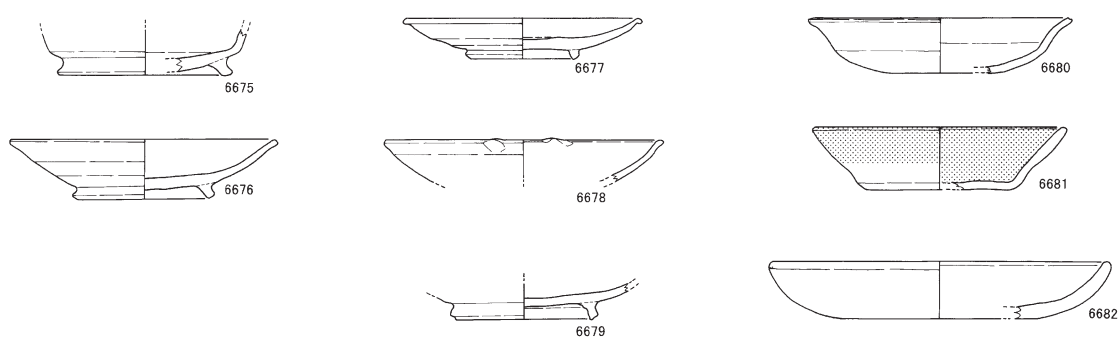
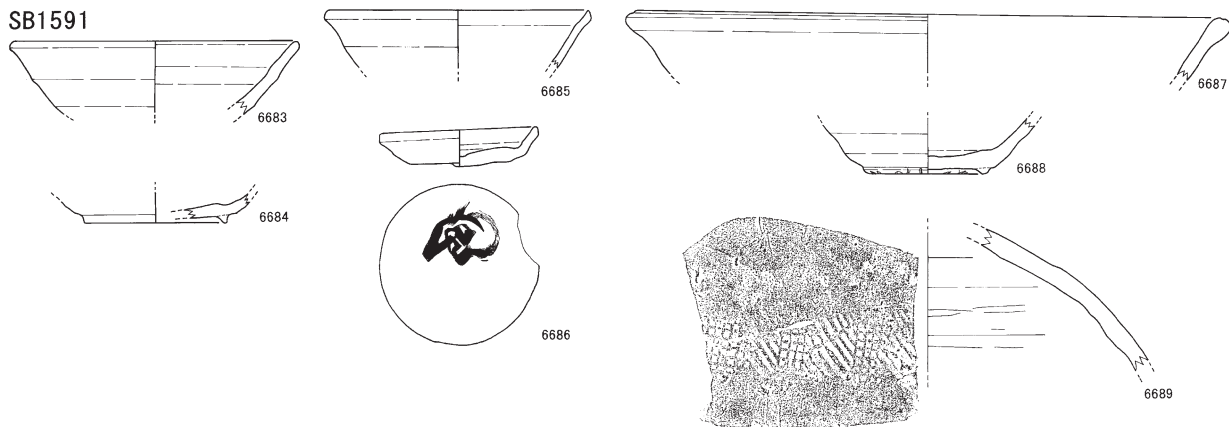
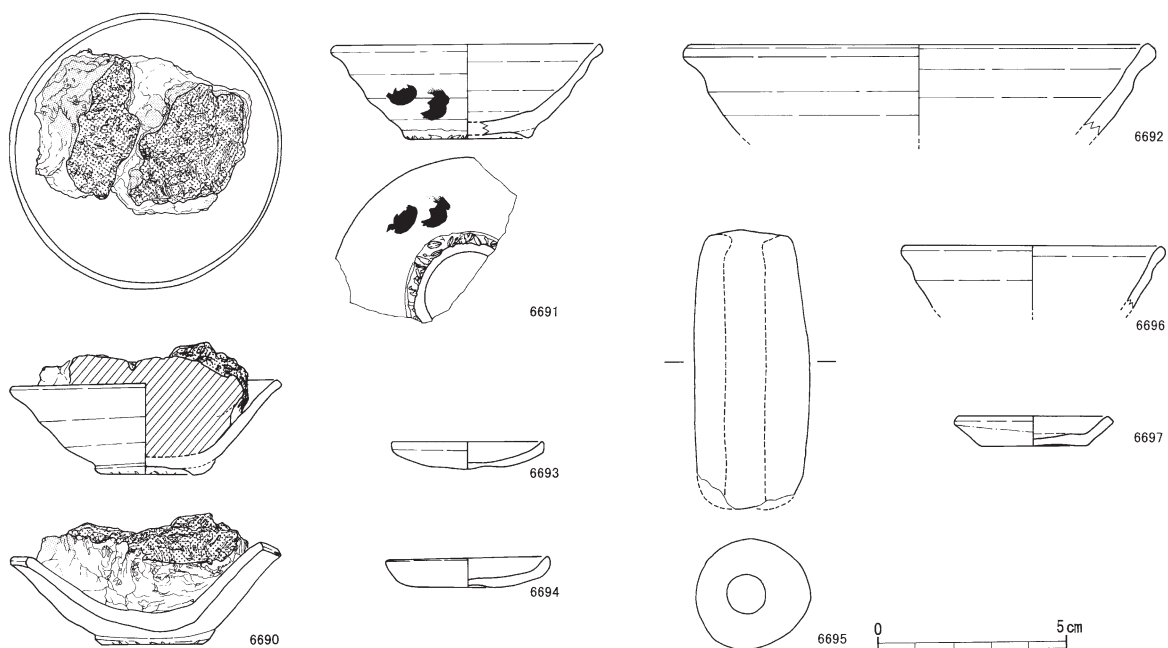


图56 SD1533 · 1536 · 1548、Pit、包含層 (1 : 4)

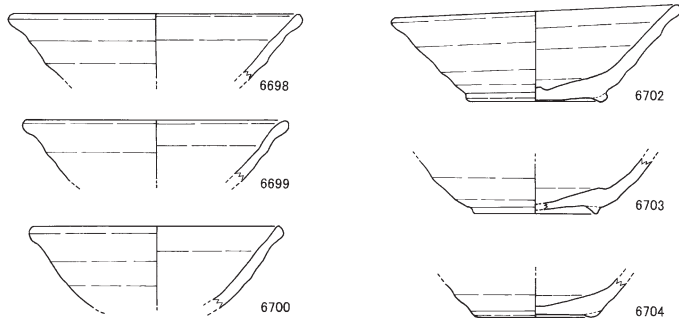
SB1591



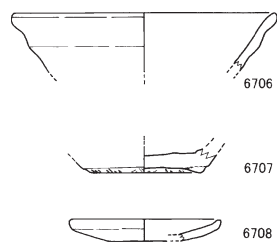
SB1593



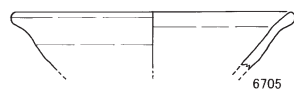
SB1594



SB1598



SB1596



SB1599

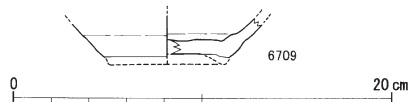


図57 SB1591・1593・1594・1596・1598・1599 (1 : 4、6695は1 : 2)

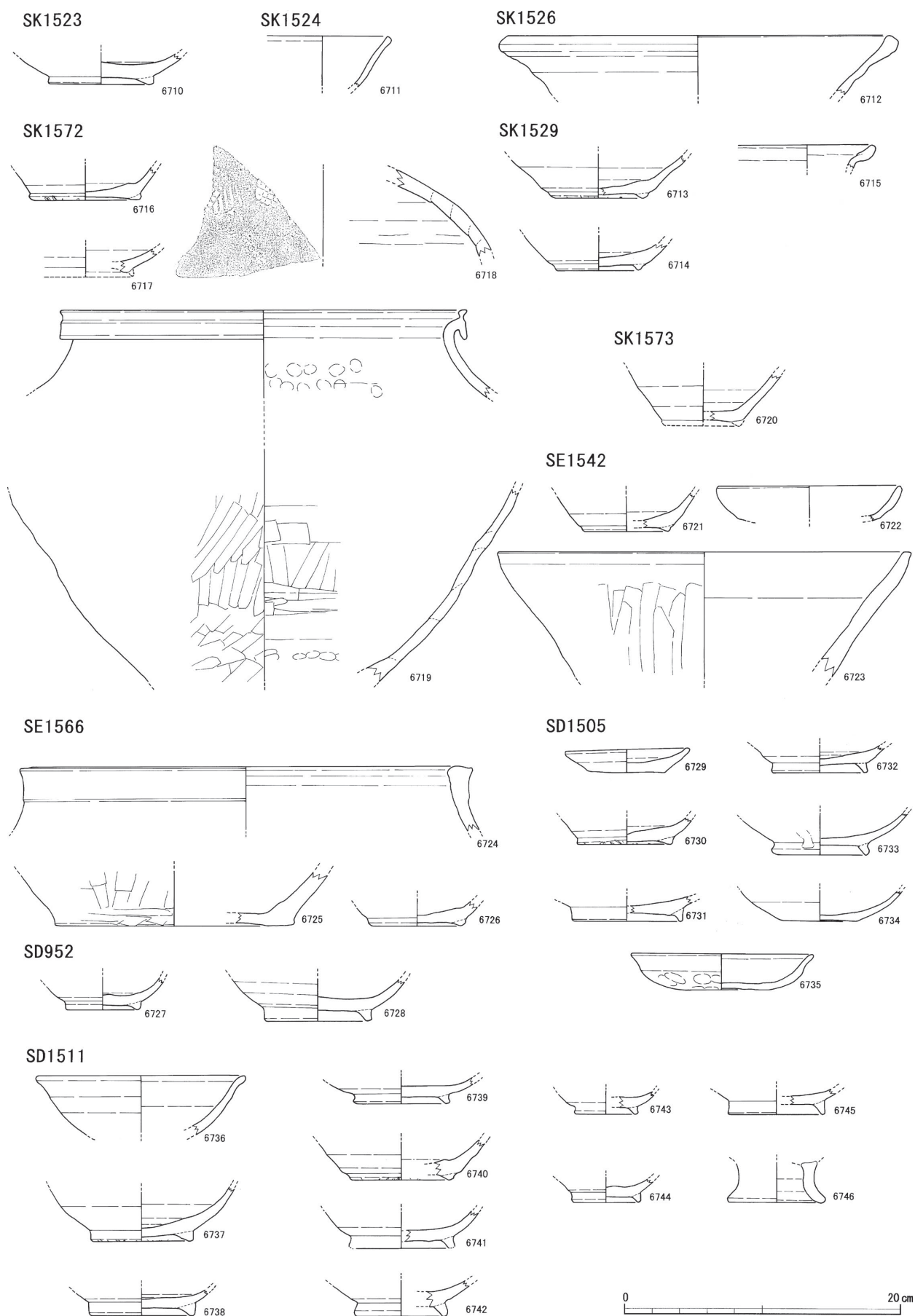


图58 SK1523 · 1524 · 1526 · 1529 · 1572 · 1573、SE1542 · 1566、SD952 · 1505 · 1511 (1 : 4)

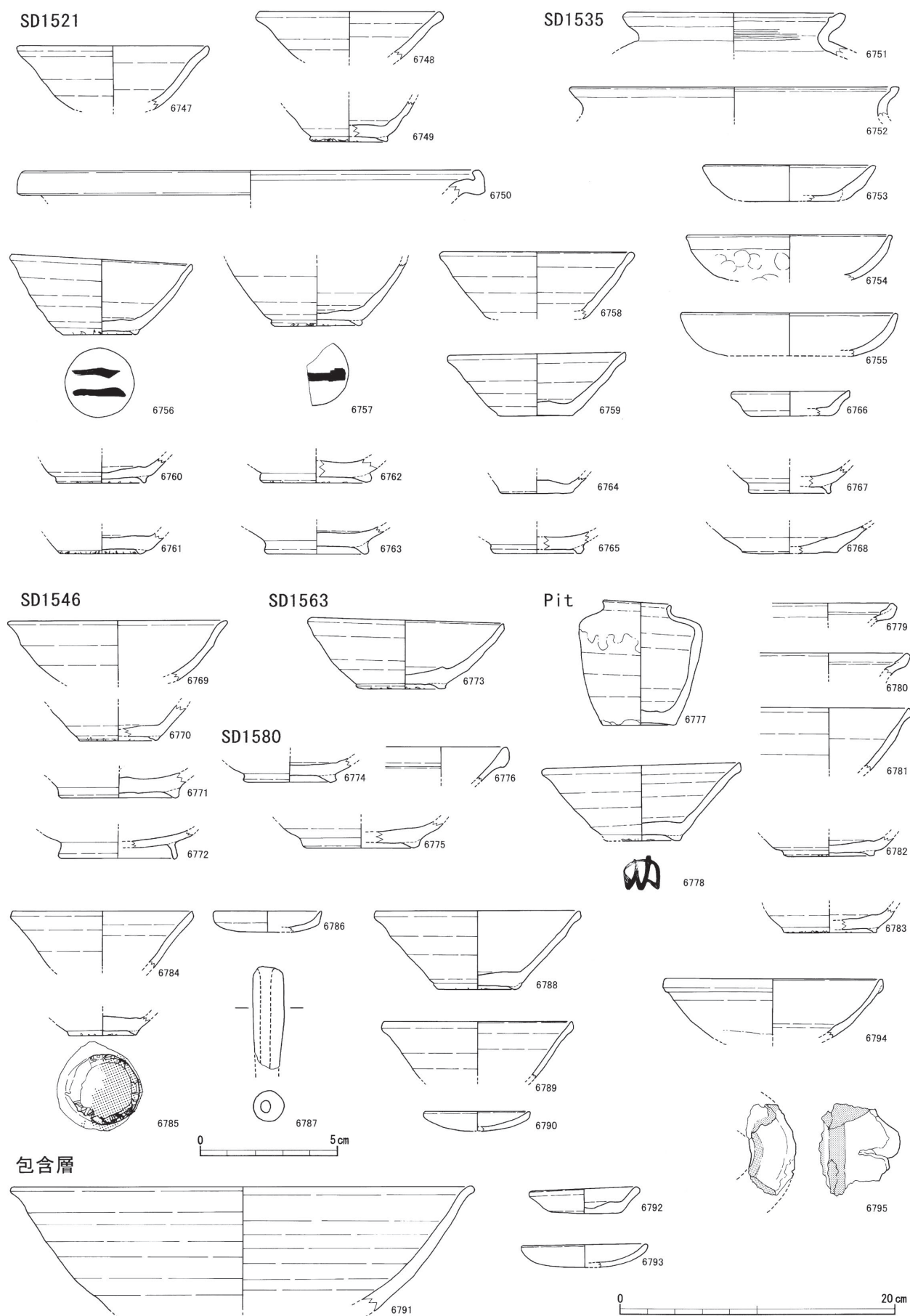


図59 SD1521・1535・1546・1563・1580、Pit、包含層（1：4、6787は1：2）

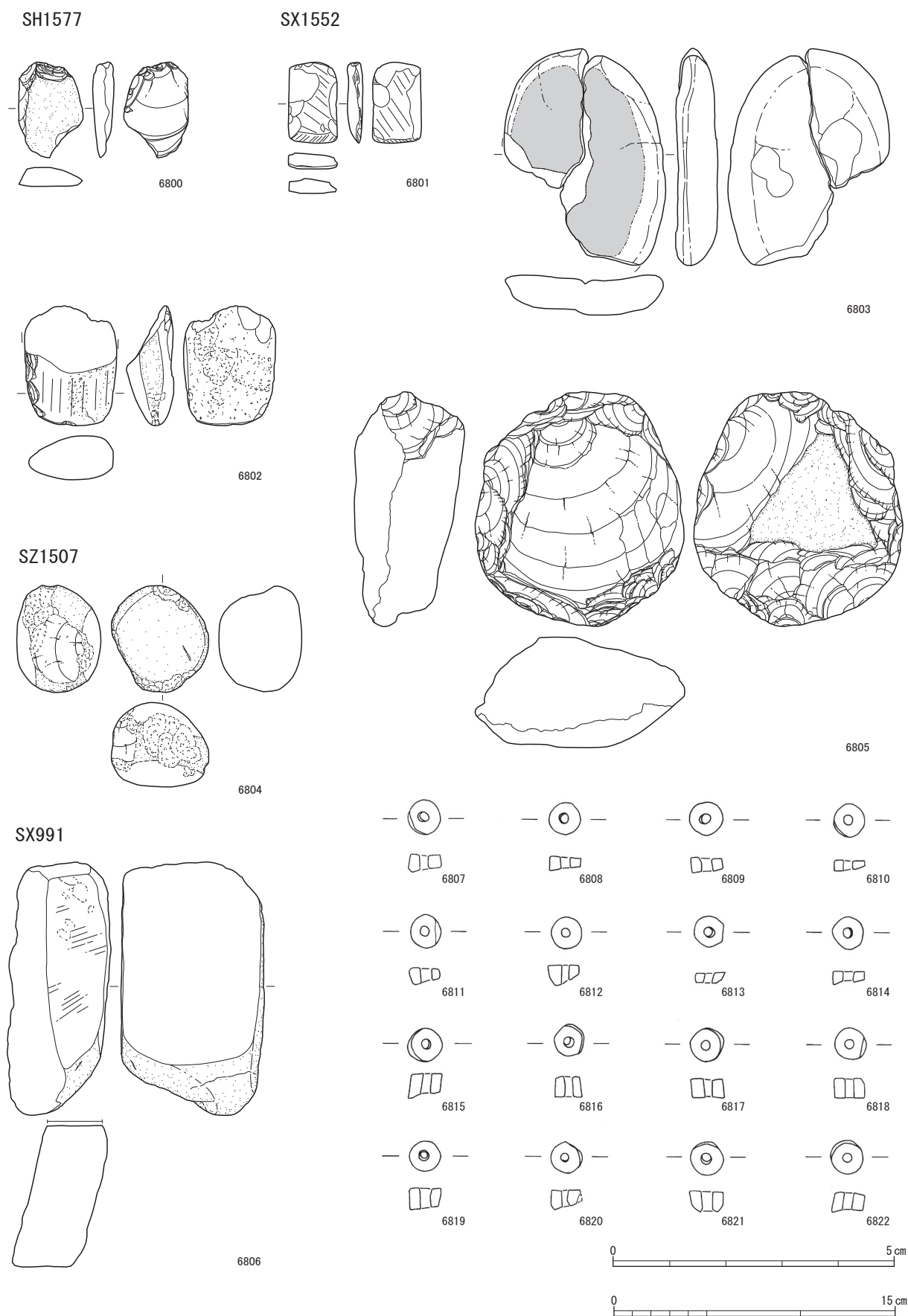


図60 SH1577、SX1552、SZ1507、SX991 (6800~6806は1 : 3、6807~6822は1 : 1)

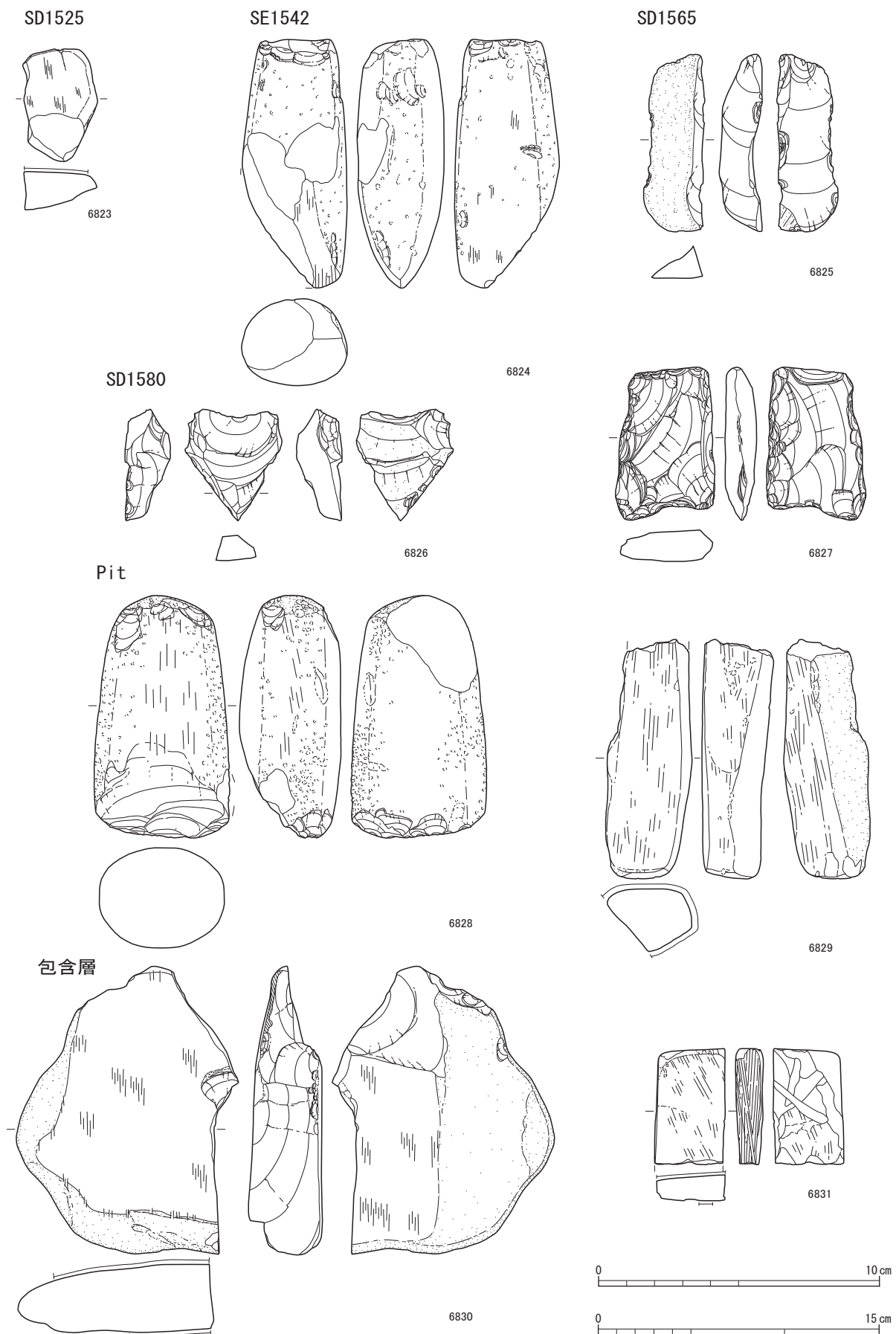
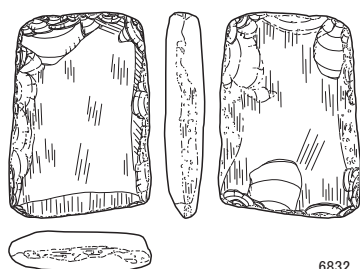
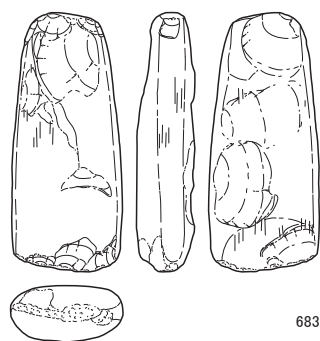


図61 SD1525・1580、SE1542、SD1565、Pit、包含層（6823・6824・6827～6831は1：3、6825・6826は1：2）

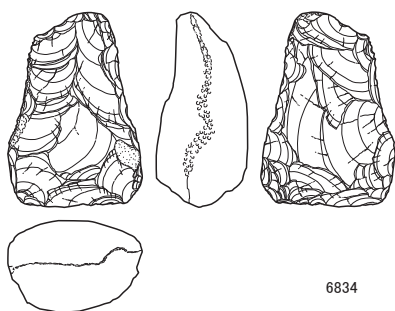
SR578



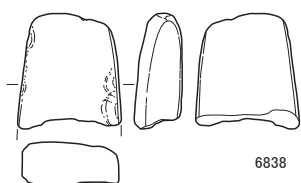
6832



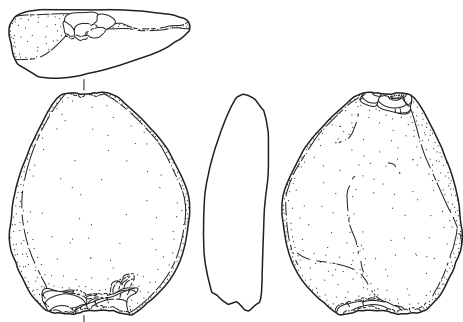
6833



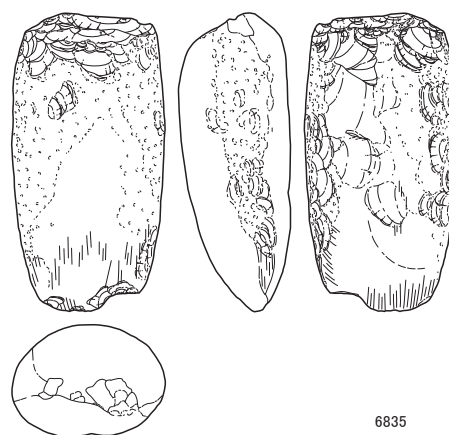
6834



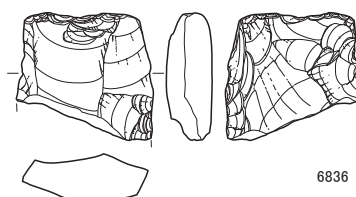
6838



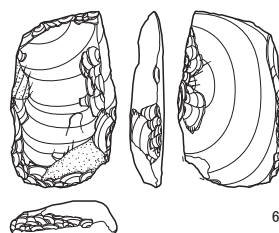
6839



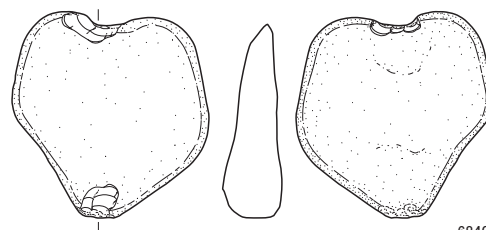
6835



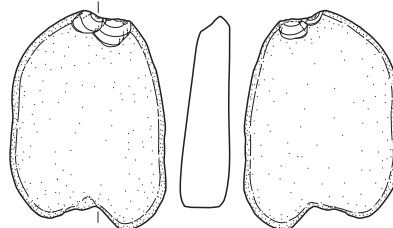
6836



6837



6840



6841



图62 SR578 (1) (1 : 3)

SR578



图63 SR578 (2) (1 : 3)

SR578

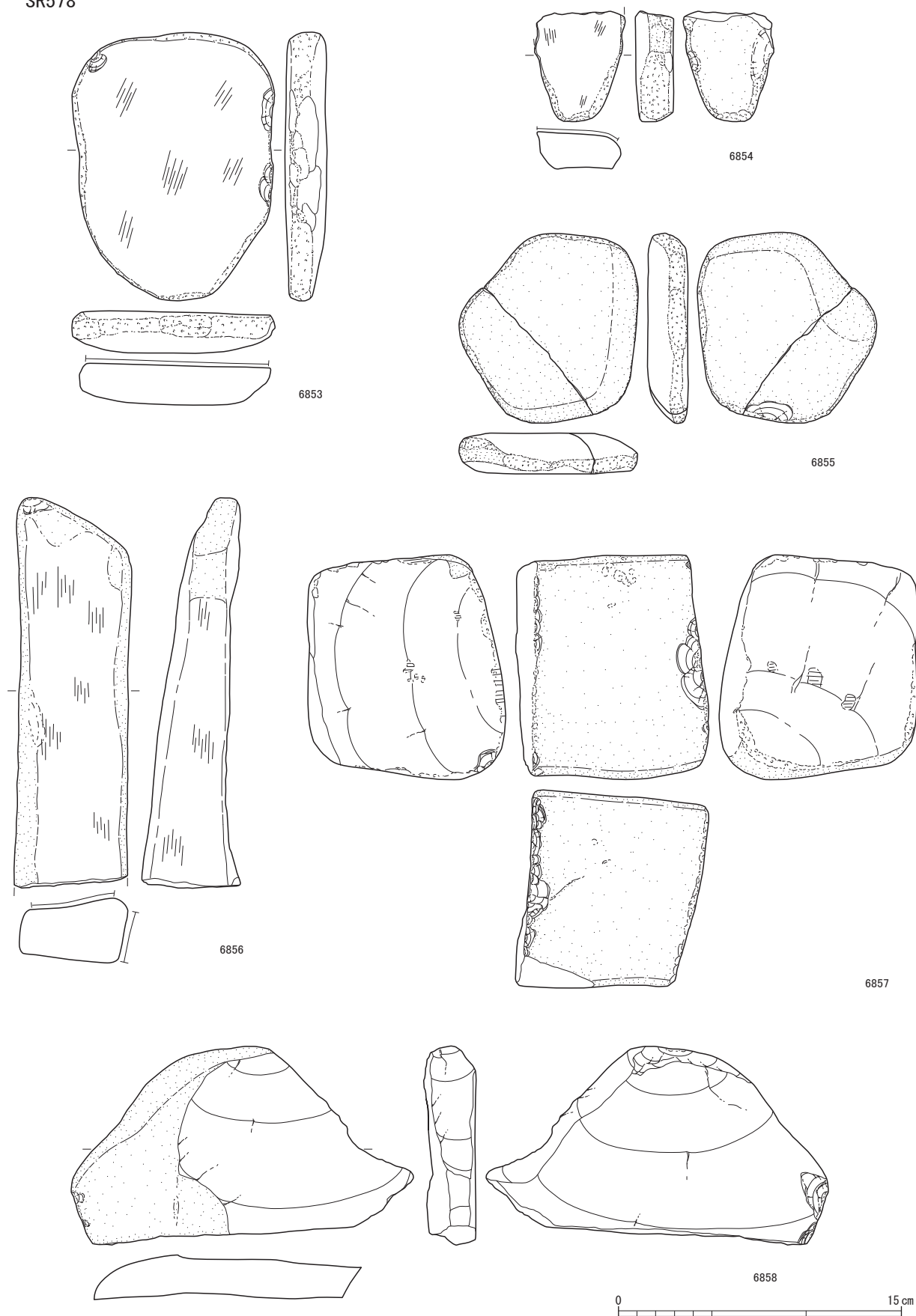


图64 SR578 (3) (1 : 3)

SZ1507

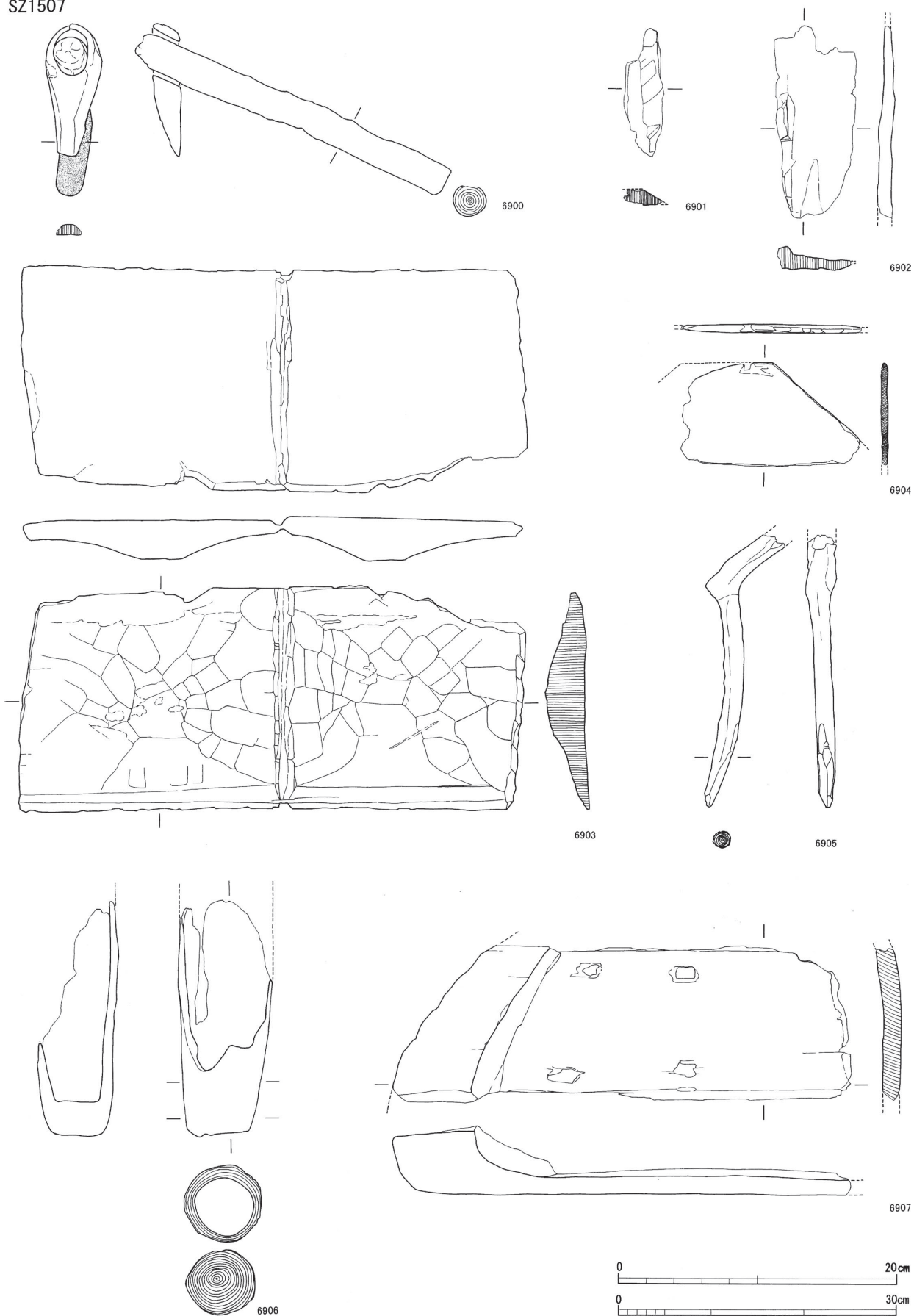


図65 SZ1507 (1) (6900~6904は1 : 6、6905~6907は1 : 4)

SZ1507

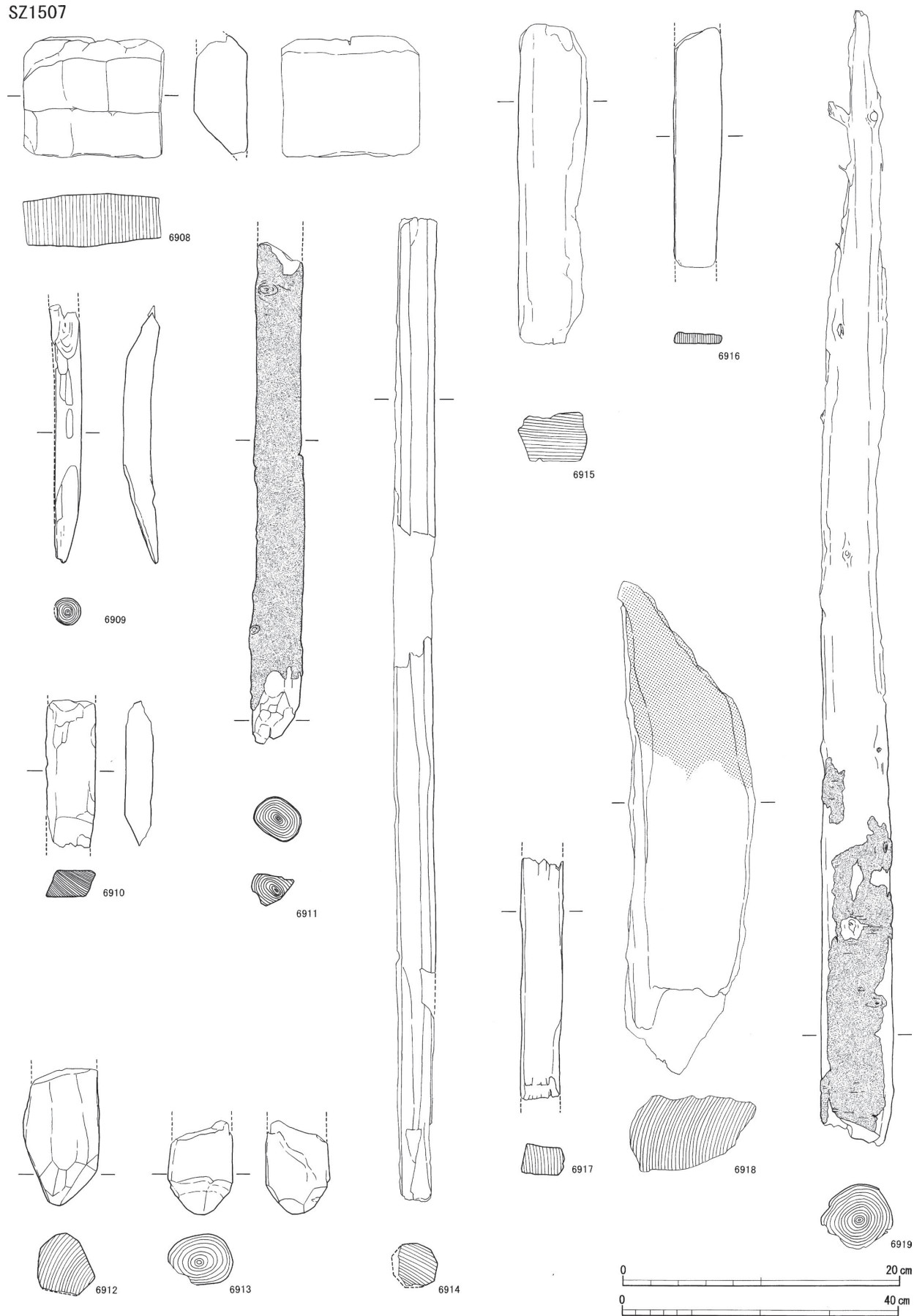


図66 SZ1507 (2) (6908~6918は 1 : 4、6919は 1 : 8)

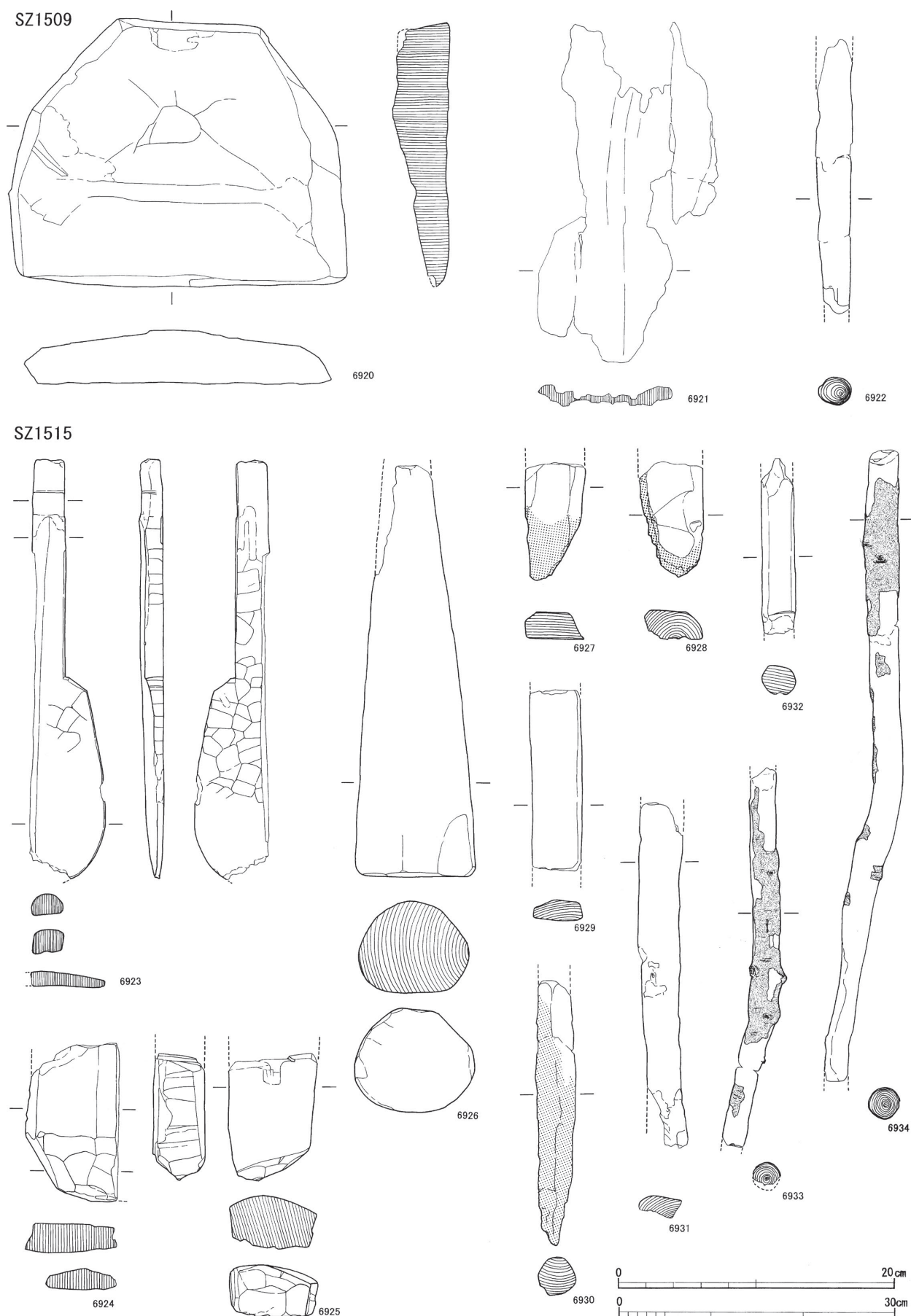
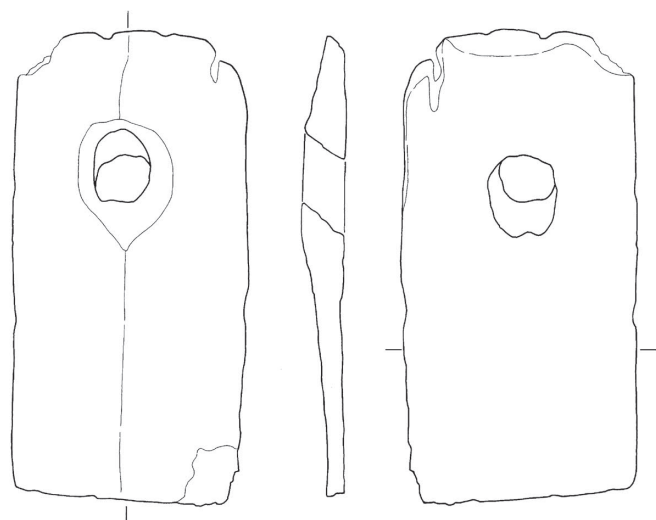
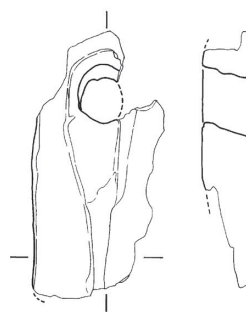


図67 S Z1509・1515 (6920・6921・6923・6931・6933・6934は 1 : 6、6922・6924~6930・6932は 1 : 4)

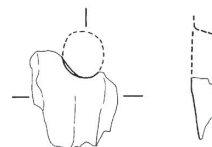
SR578



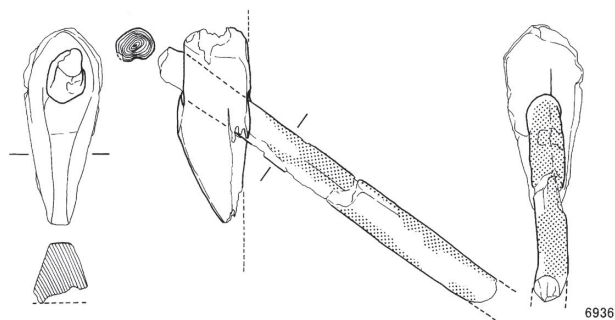
6935



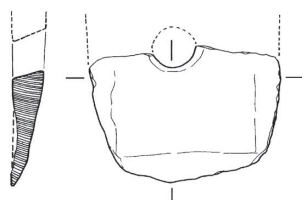
6937



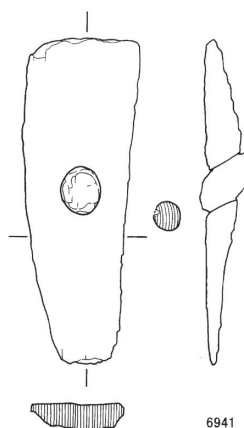
6938



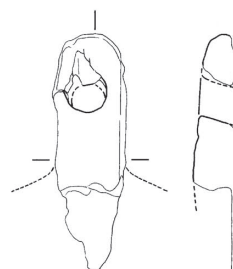
6936



6940



6941



6939

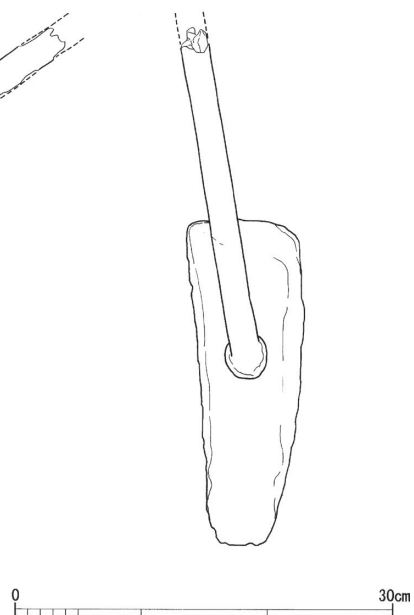


图68 SR578 (1) (1 : 6)

SR578

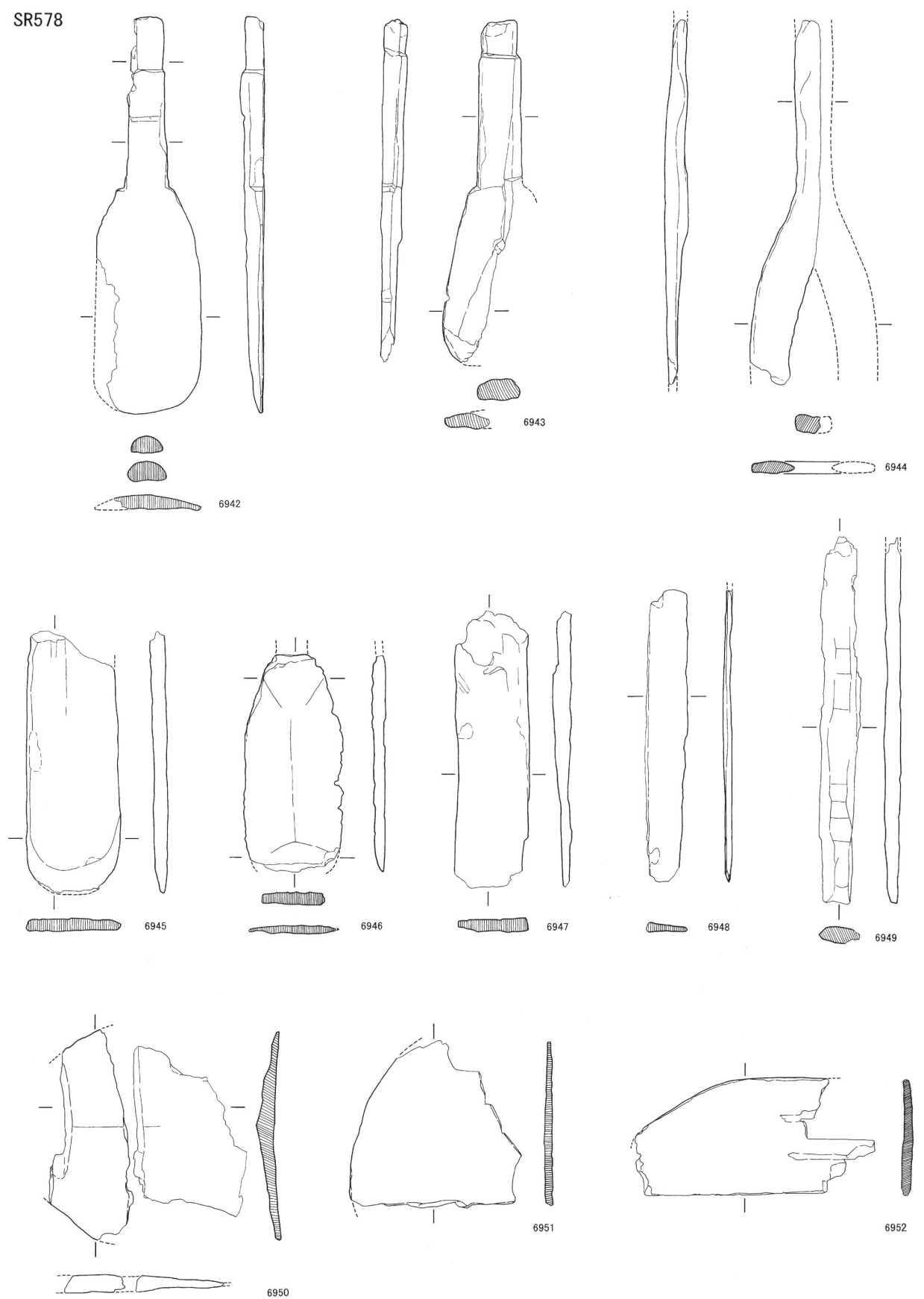


图69 SR578 (2) (1 : 6)

SR578

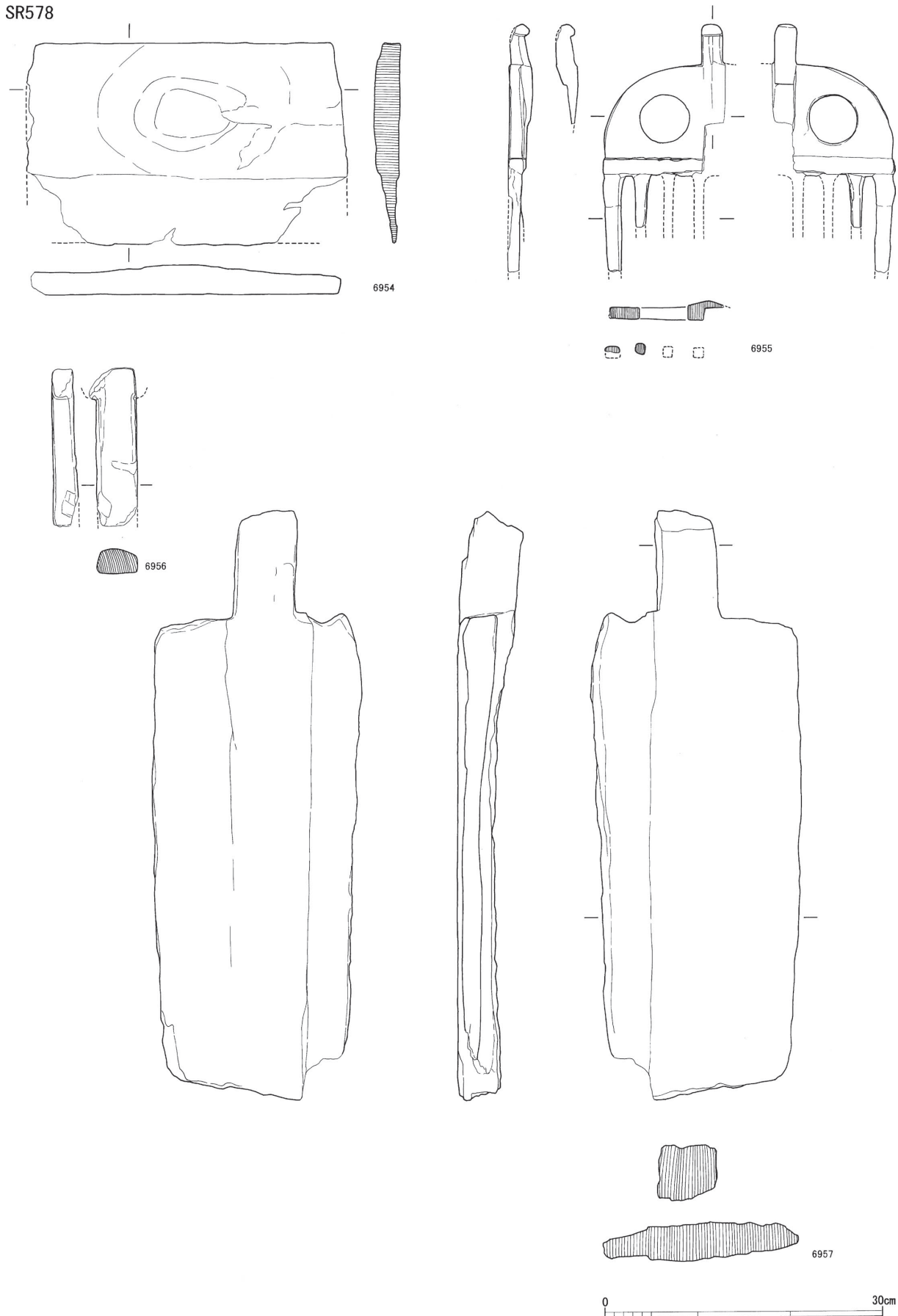


图70 SR578 (3) (1 : 6)

SR578

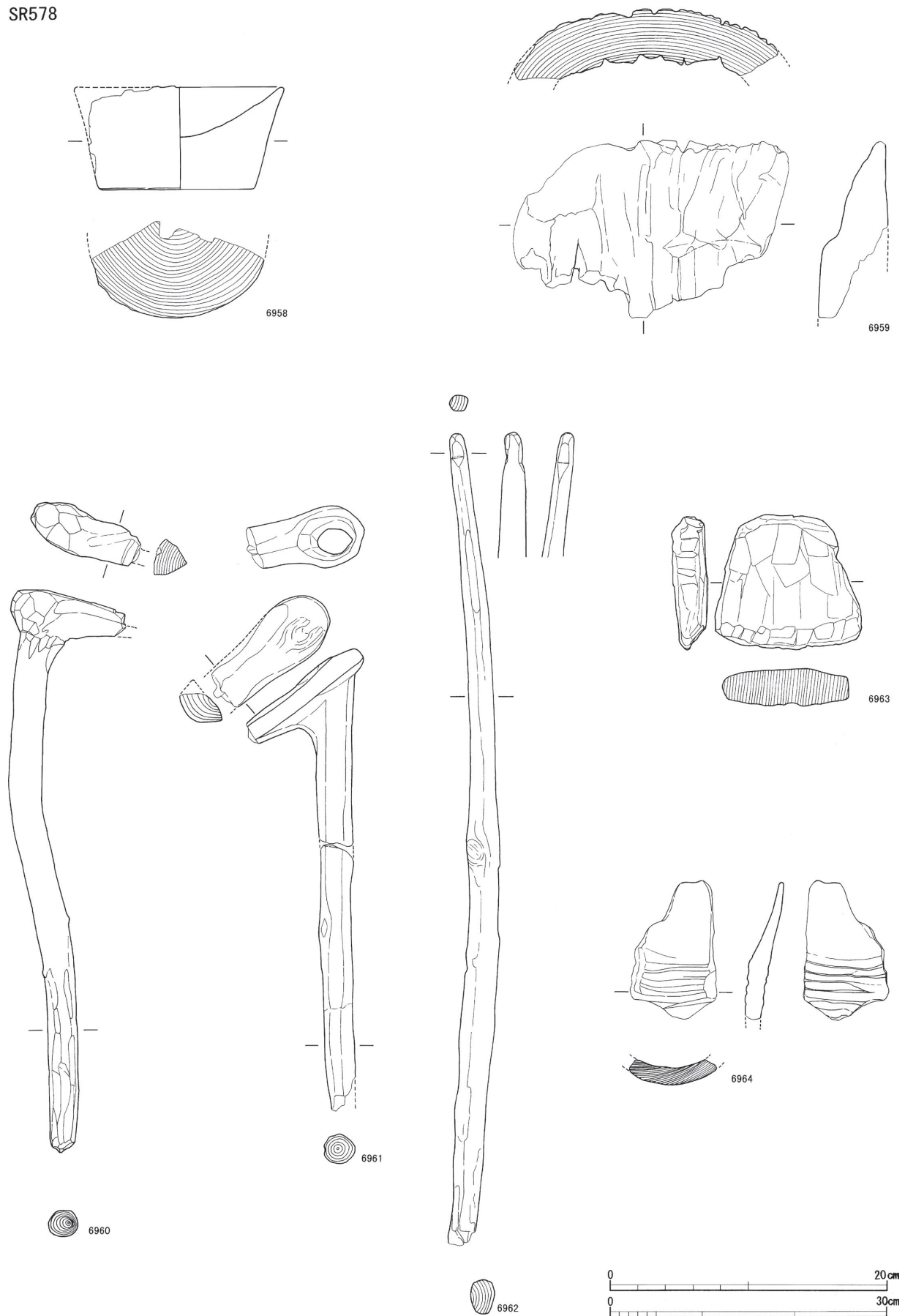


図71 SR578 (4) (6958・6960～6964は1：4、6959は1：6)

SR578

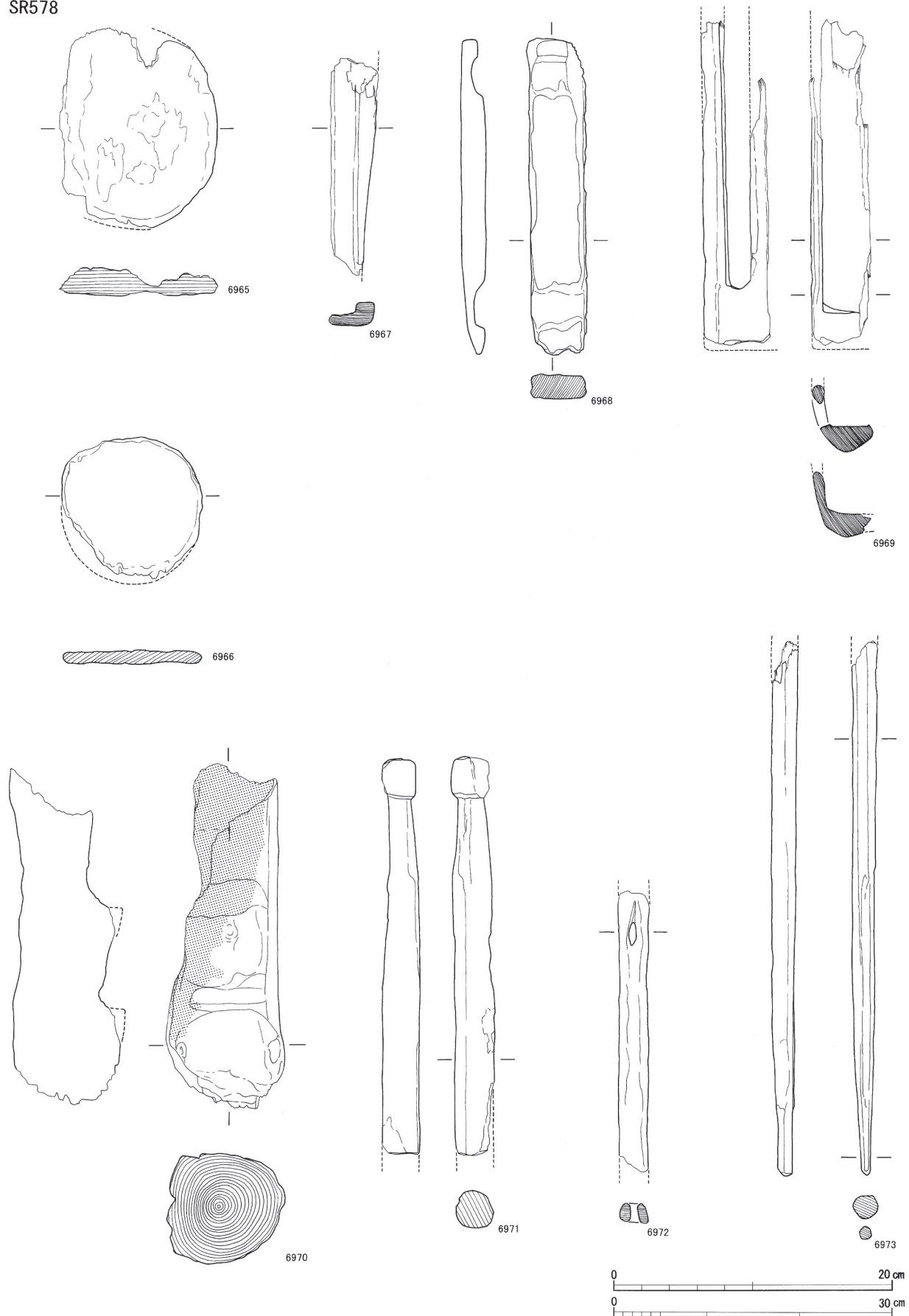


図72 SR578 (5) (6965~6968・6971~6973は1 : 4、6969・6970は1 : 6)

SR578

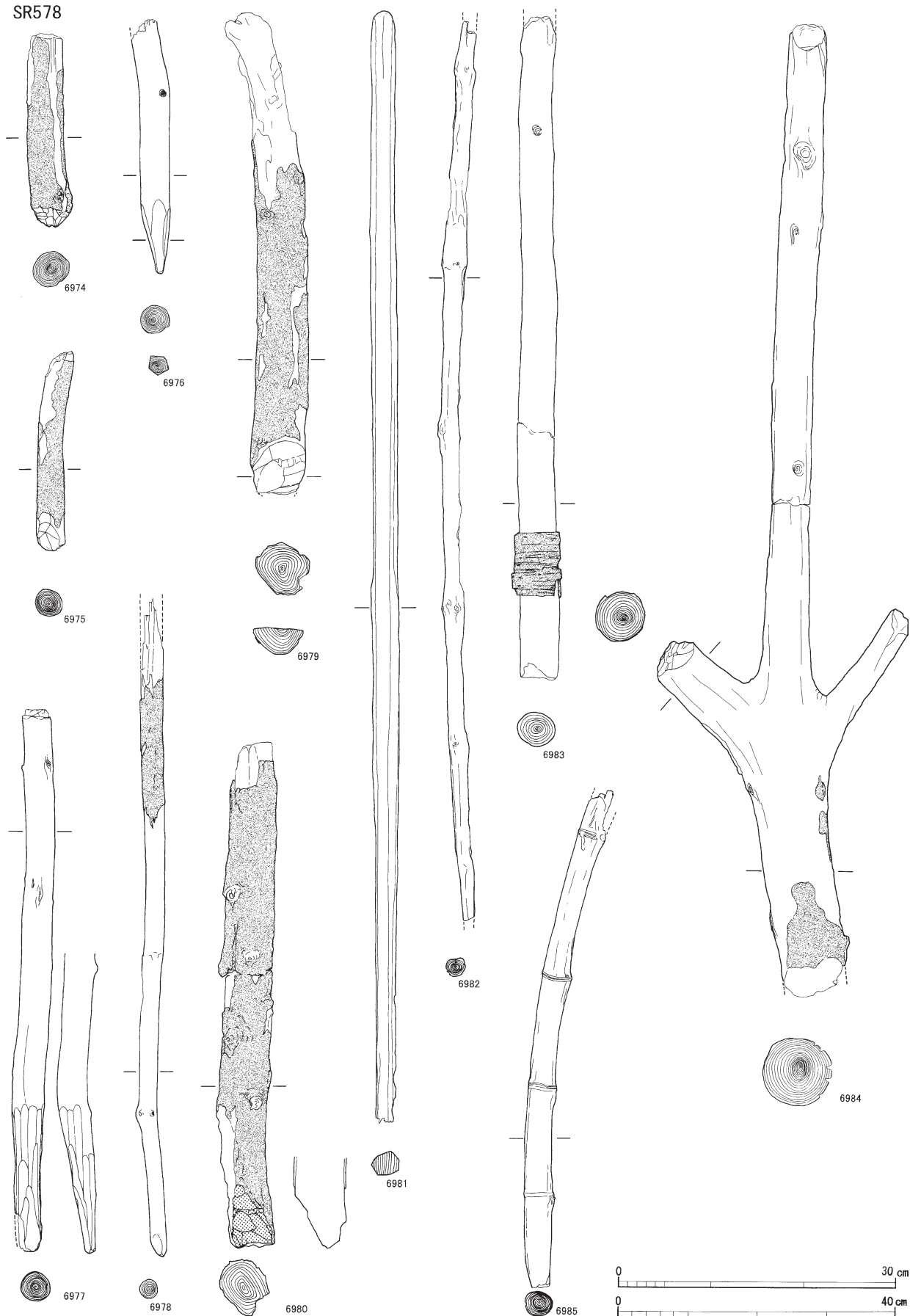


図73 SR578 (6) (6974~6980・6983~6985は1 : 6、6981・6982は1 : 8)

SR578

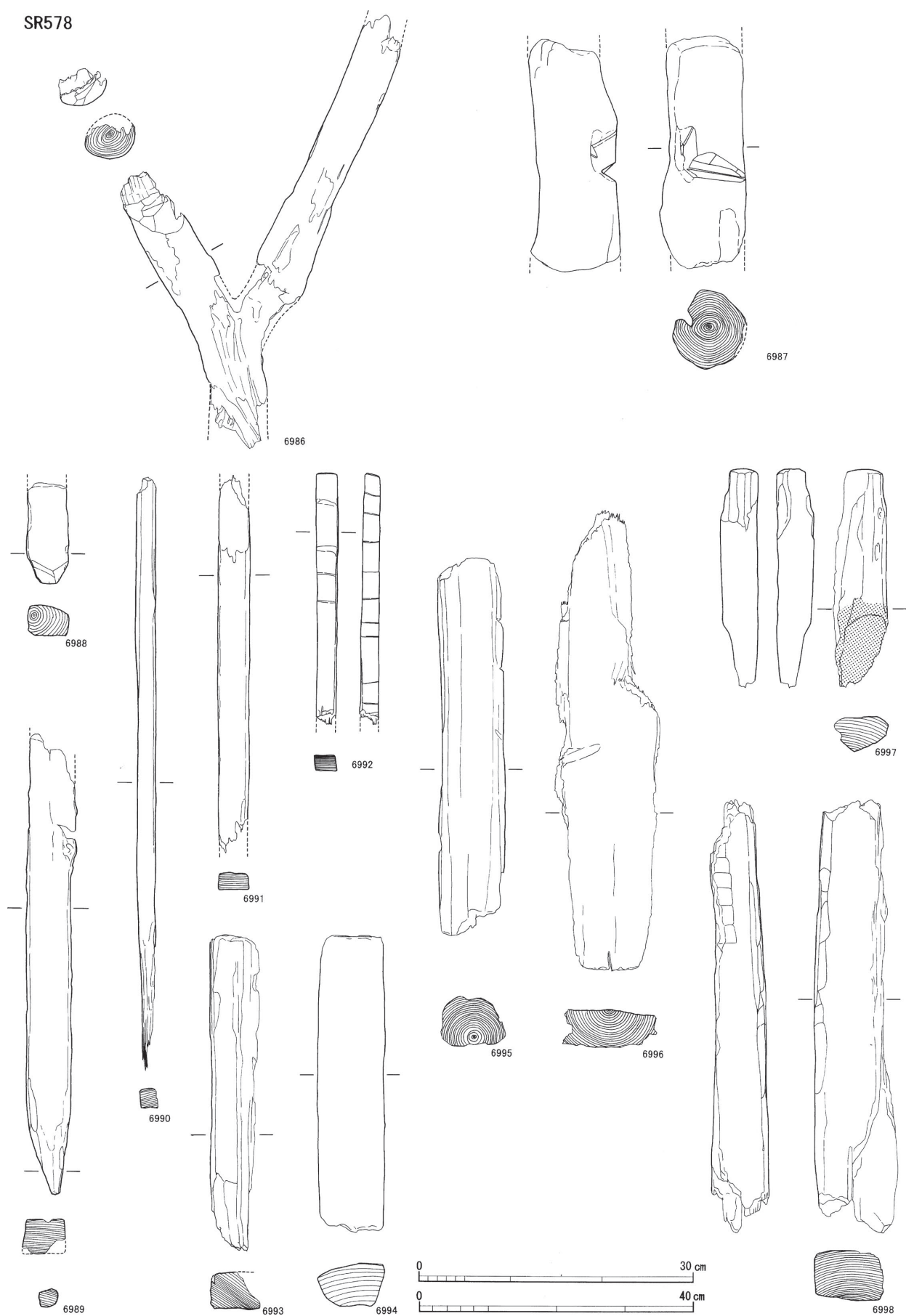


図74 SR578 (7) (6986~6995・6997は1 : 6、6996・6998は1 : 8)

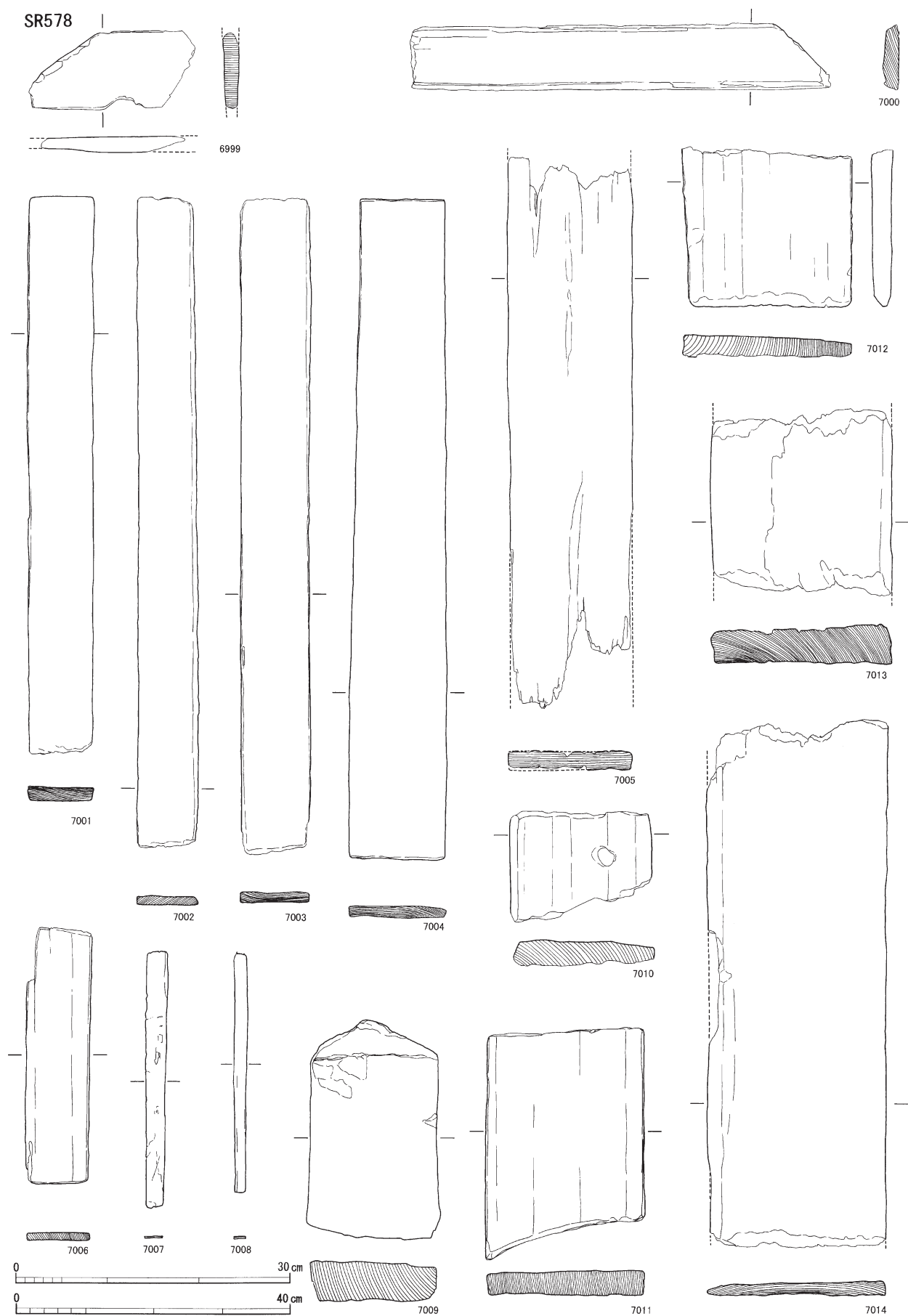


図75 SR578 (8) (6999・7000・7005～7011は1 : 6、7001～7004・7012～7014は1 : 8)

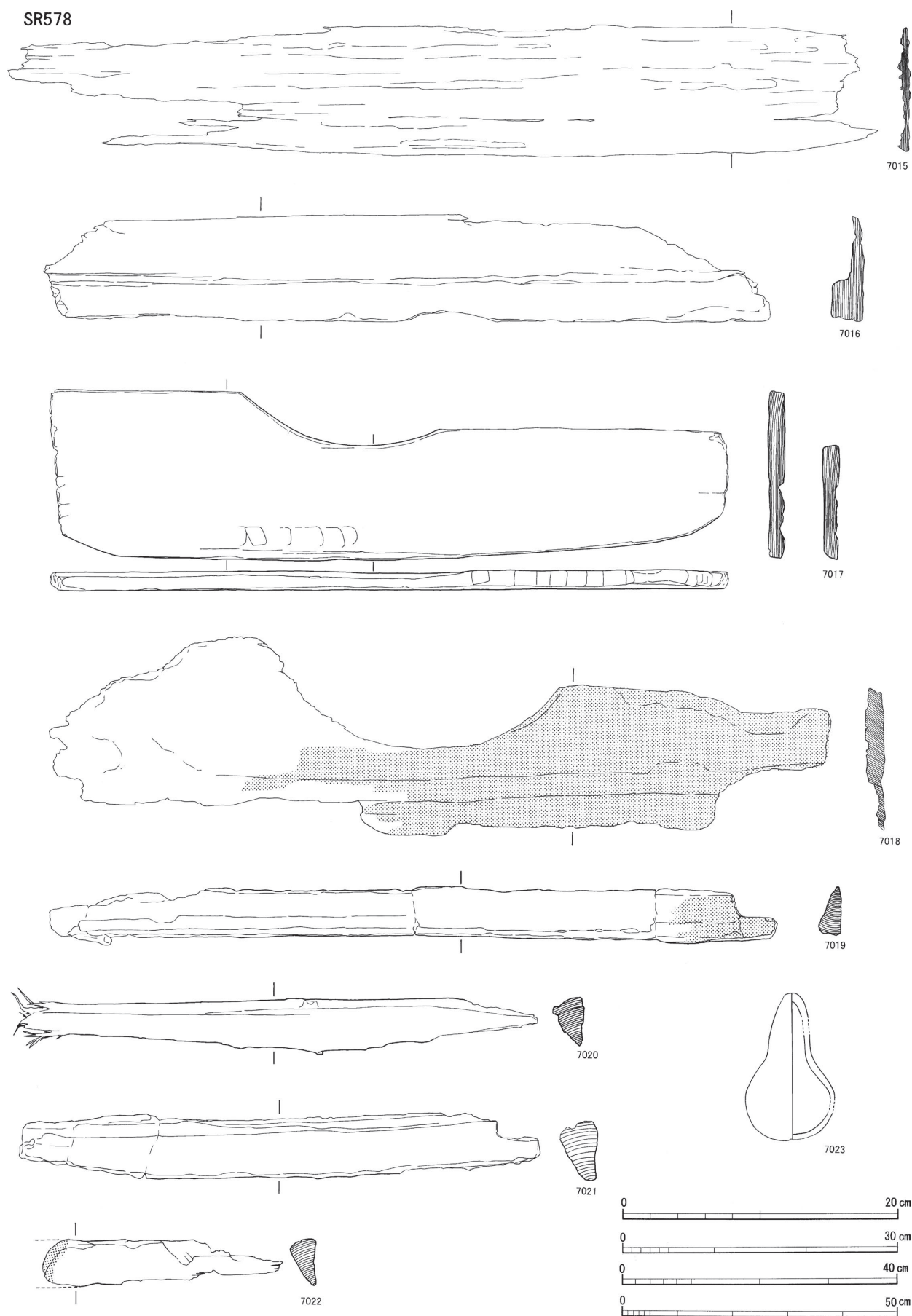


図76 SR578 (9) (7015・7016は1 : 8、7017~7019は1 : 10、7020~7022は1 : 6、7023は1 : 4)

SZ1513

SD1525

SE1542

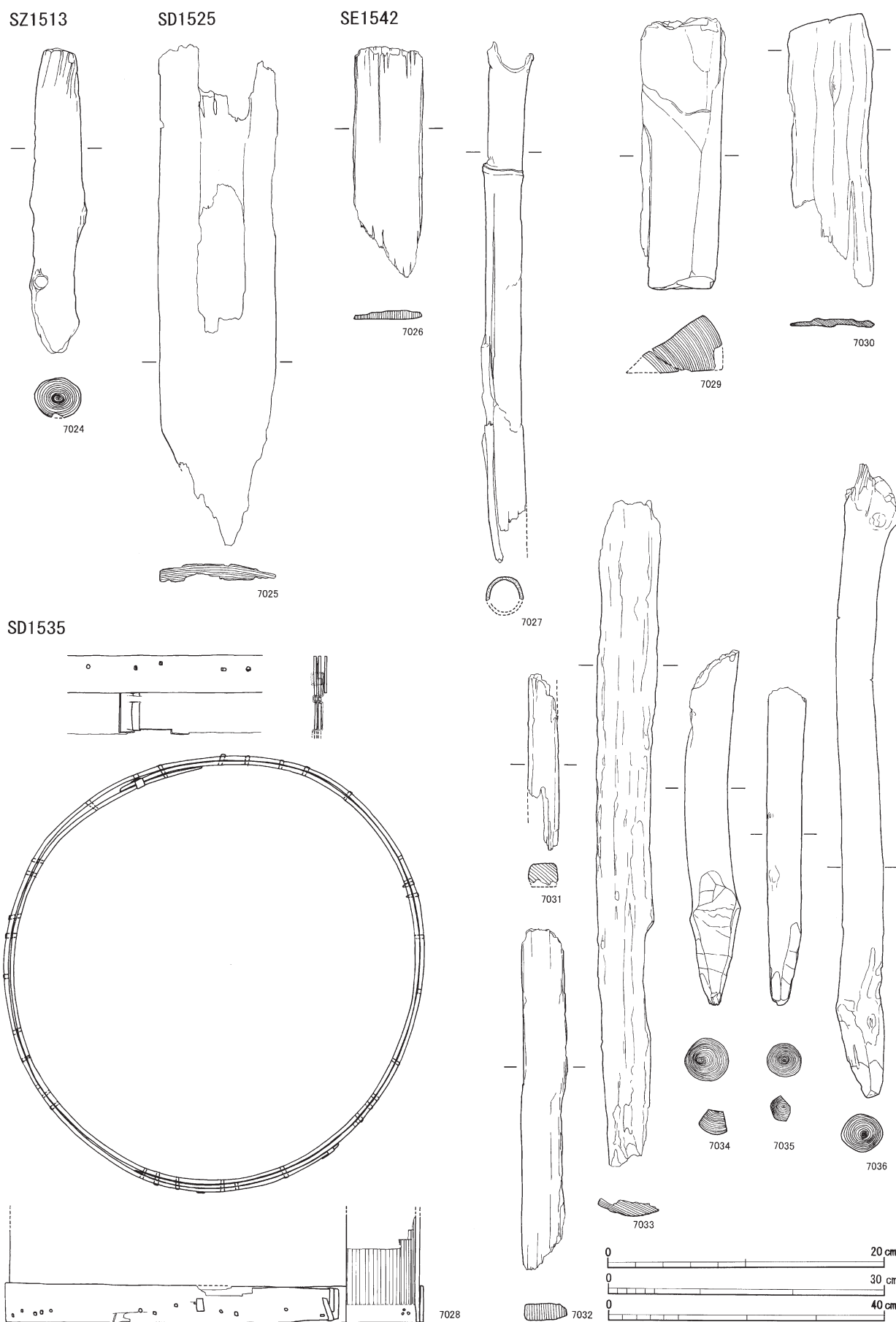
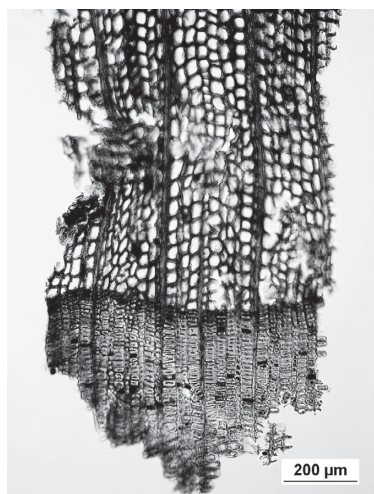
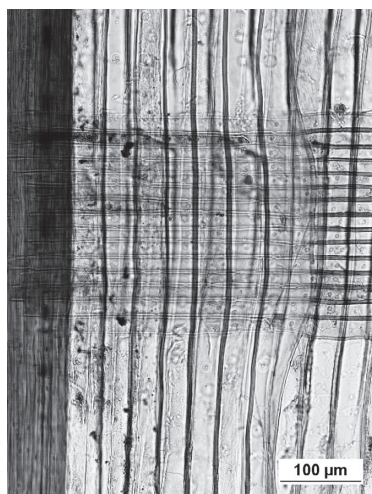


図77 SZ1513、SD1525・1535、SE1542 (7024・7026・7027・7029は1 : 4、7025は1 : 8、7028・7030～7036は1 : 6)

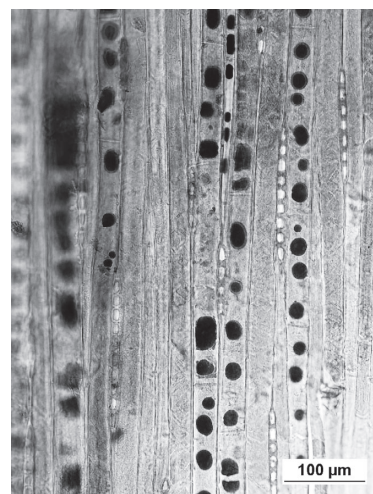


木口

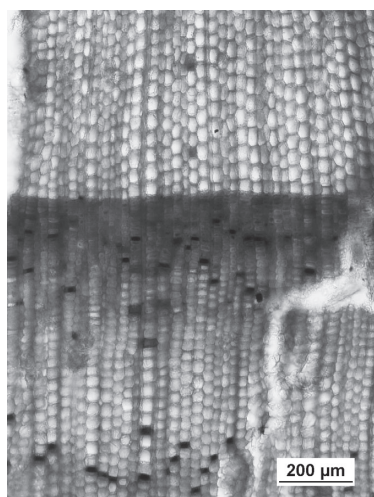
1. スギ科スギ属スギ



杅目



板目

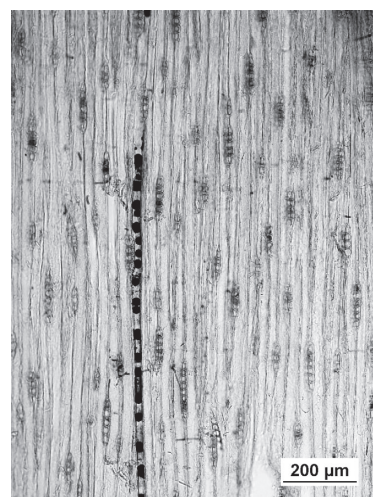


木口

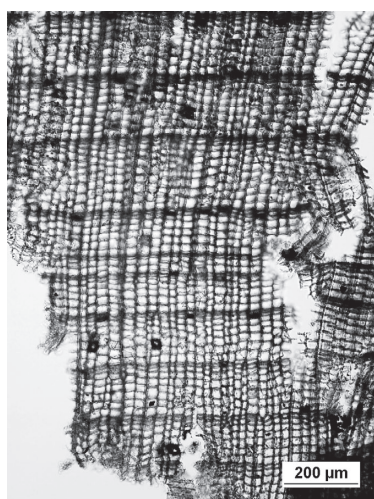
2. ヒノキ科アスナロ属



杅目



板目



木口

3. マキ科マキ属イヌマキ



杅目



板目

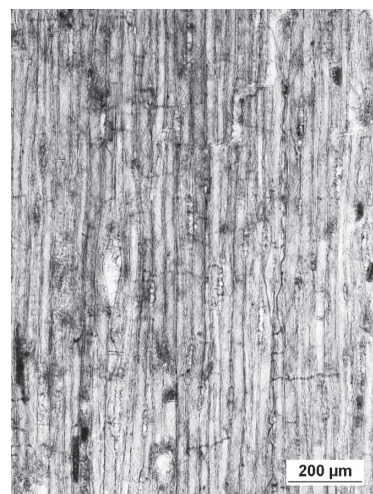
図78 樹種顕微鏡写真(1)



木口

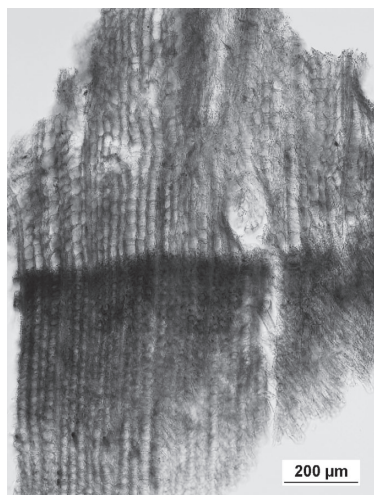


柱目



板目

4. マツ科マツ属 (二葉松類)



木口

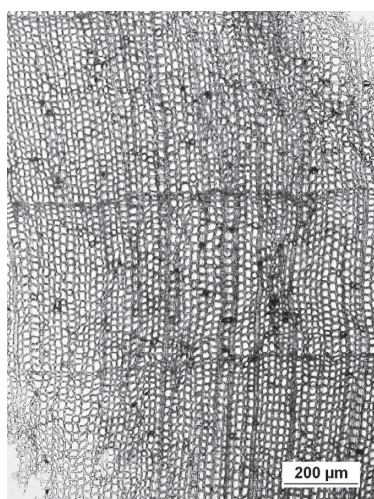


柱目



板目

5. マツ科モミ属



木口



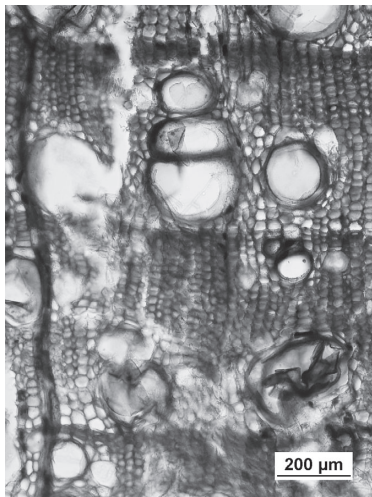
柱目



板目

6. イヌガヤ科イヌガヤ属イヌガヤ

図79 樹種顕微鏡写真 (2)



木口

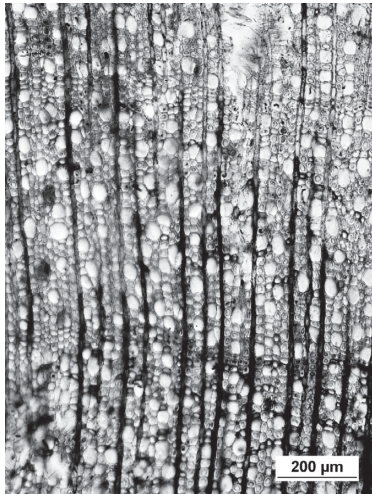


杅目



板目

7. クスノキ科クスノキ属クスノキ



木口

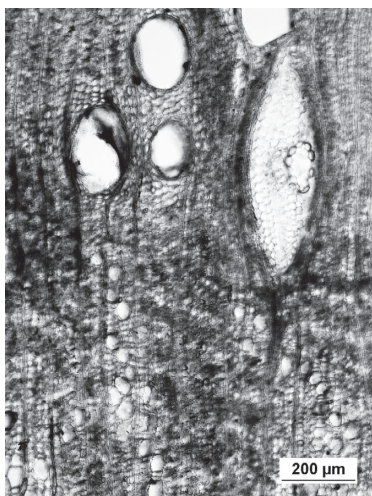


杅目

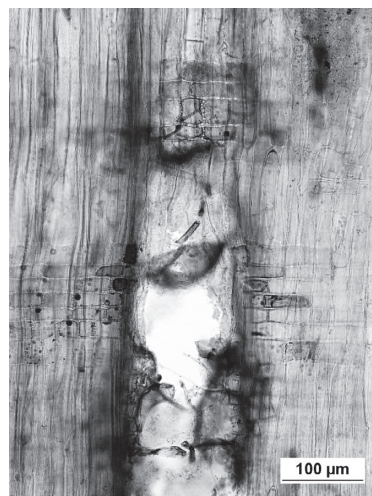


板目

8. ツバキ科サカキ属サカキ



木口



杅目



板目

9. ブナ科シイ属

図80 樹種顕微鏡写真 (3)



木口

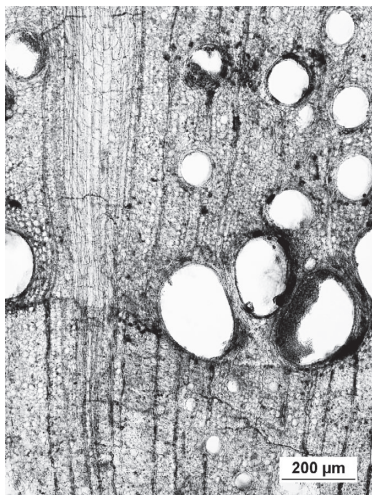


柱目



板目

10. ブナ科コナラ属アカガシ亜属



木口

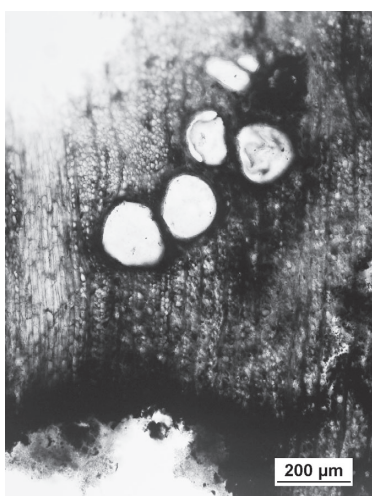


柱目



板目

11. ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節



木口



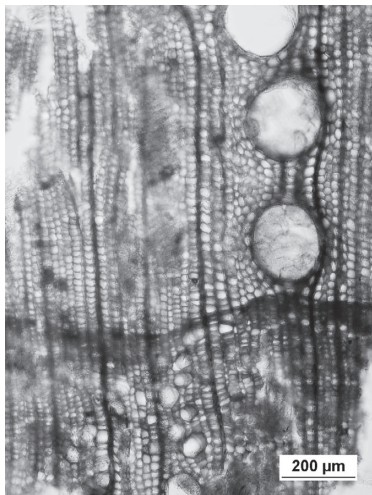
柱目



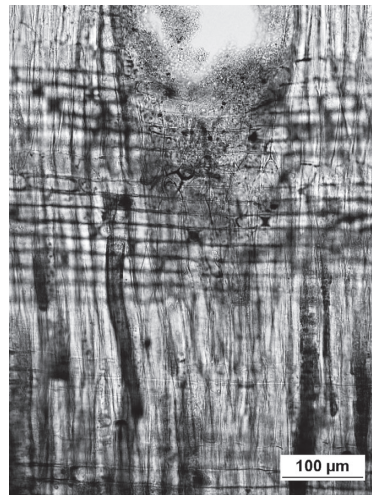
板目

12. ブナ科コナラ属コナラ亜属コナラ節

図81 樹種顕微鏡写真(4)



木口

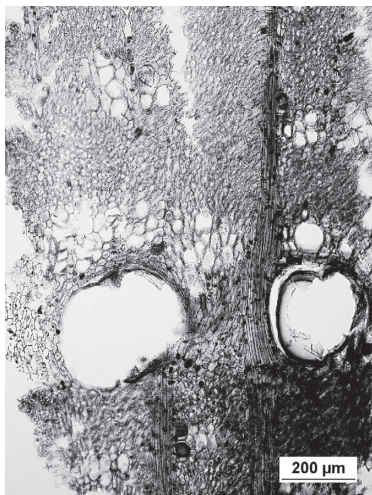


杅目



板目

13. ブナ科クリ属クリ



木口

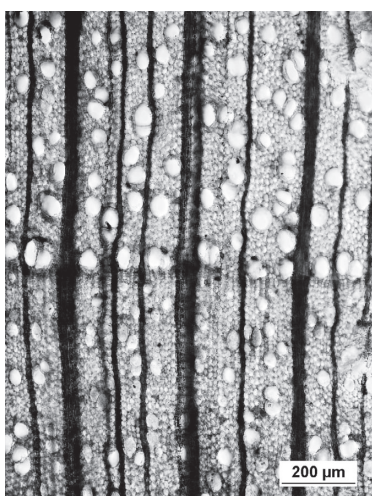


杅目



板目

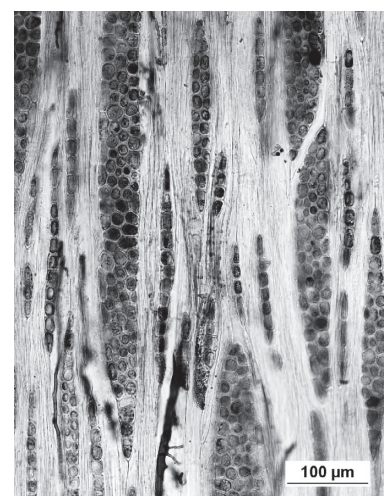
14. ニレ科ケヤキ属ケヤキ



木口



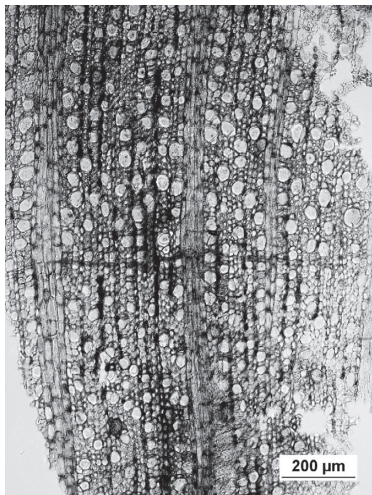
杅目



板目

15. バラ科サクラ属

図82 樹種顕微鏡写真 (5)



木口

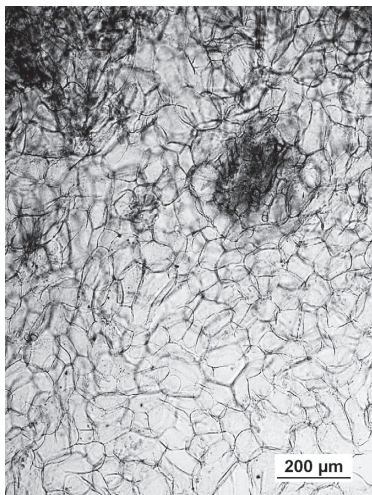


柱目



板目

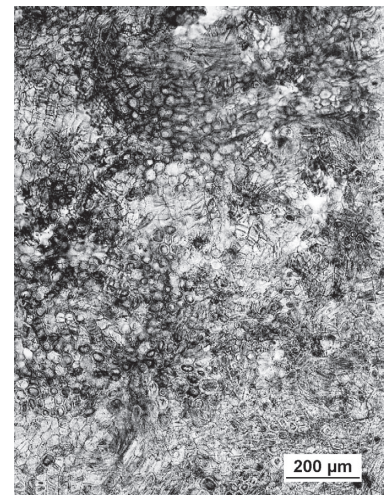
16. ツツジ科スノキ属シャシャンボ



横断面

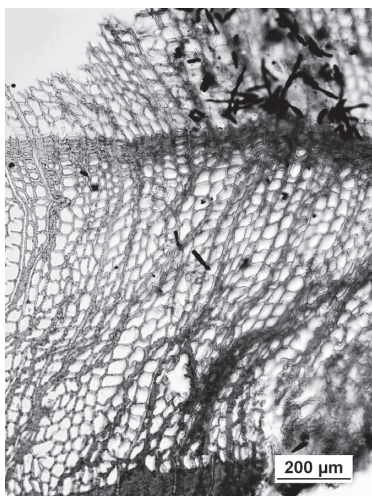


放射断面



接線断面

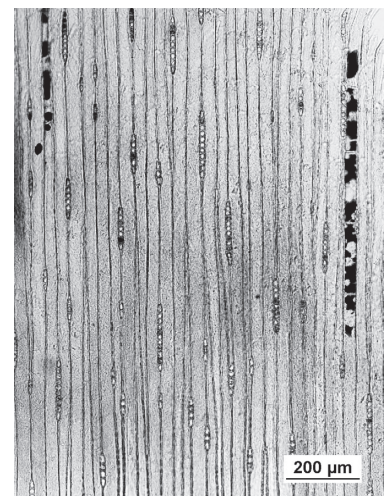
17. ウリ科ユウガオ属



木口



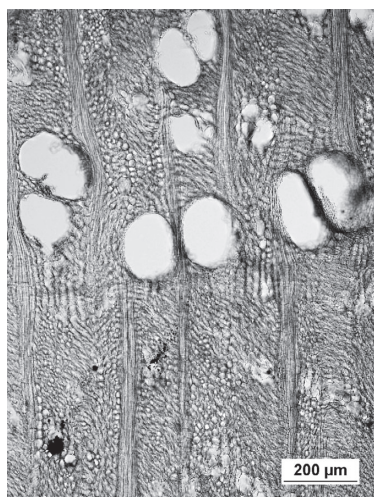
柱目



板目

18. ヒノキ科ヒノキ属

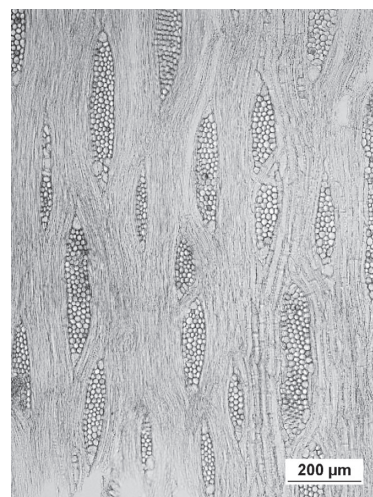
図83 樹種顕微鏡写真(6)



木口



杅目



板目

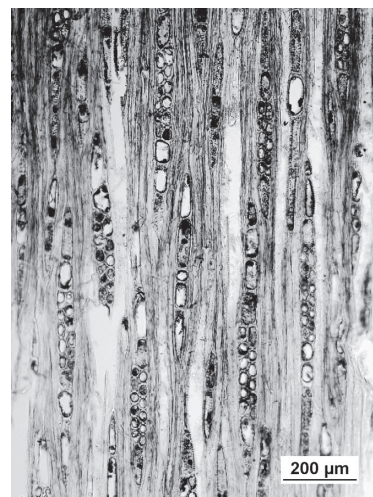
19. クワ科クワ属



木口

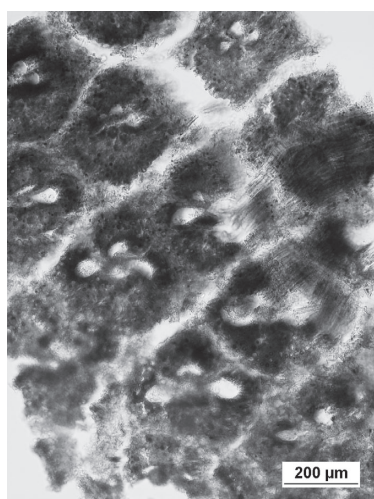


杅目



板目

20. シキミ科シキミ属シキミ



横断面



放射断面



接線断面

21. イネ科タケ亜科

図84 樹種顕微鏡写真 (7)

写真図版

図版 1



第11次調査区東半（北上空から）



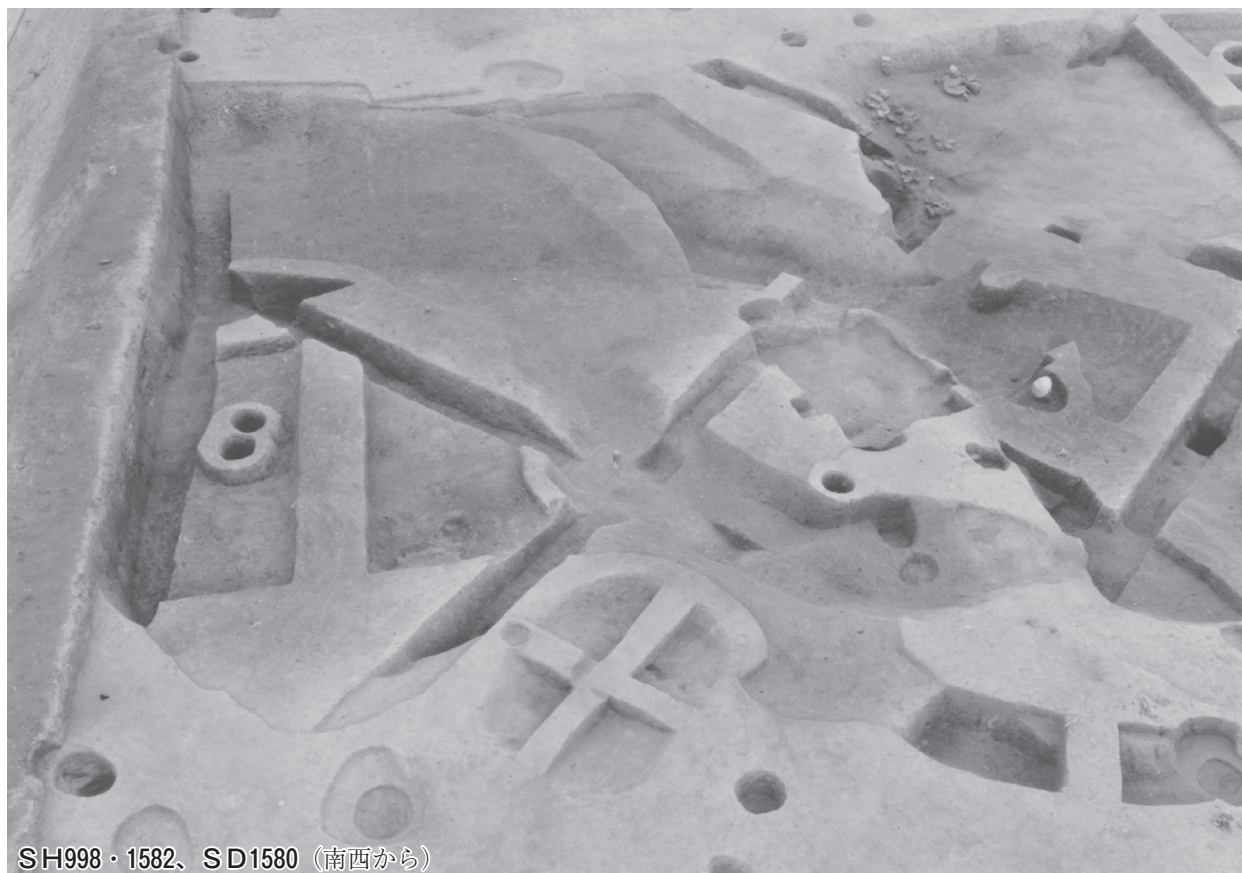
第11次調査区西半（北上空から）



第17次調査区全景（南上空から）



SH998 (北から)



SH998・1582、SD1580 (南西から)

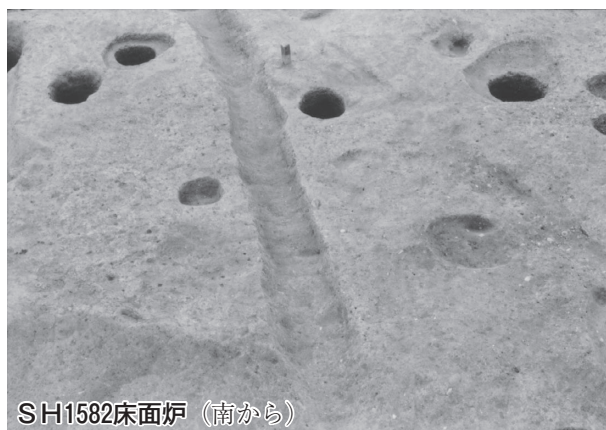
図版3



SH998・1582・1577 (南から)



SH1577遺物出土状況 (南から)



SH1582床面炉 (南から)



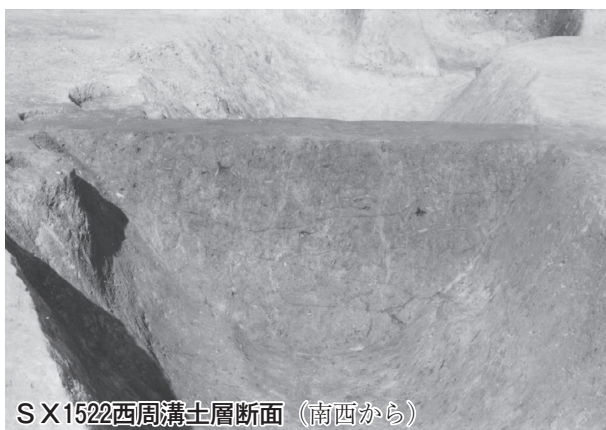
SH1584、SK1570・1572 (北から)



SX1522南周溝遺物出土状況（南から）



SX1522南周溝（南東から）



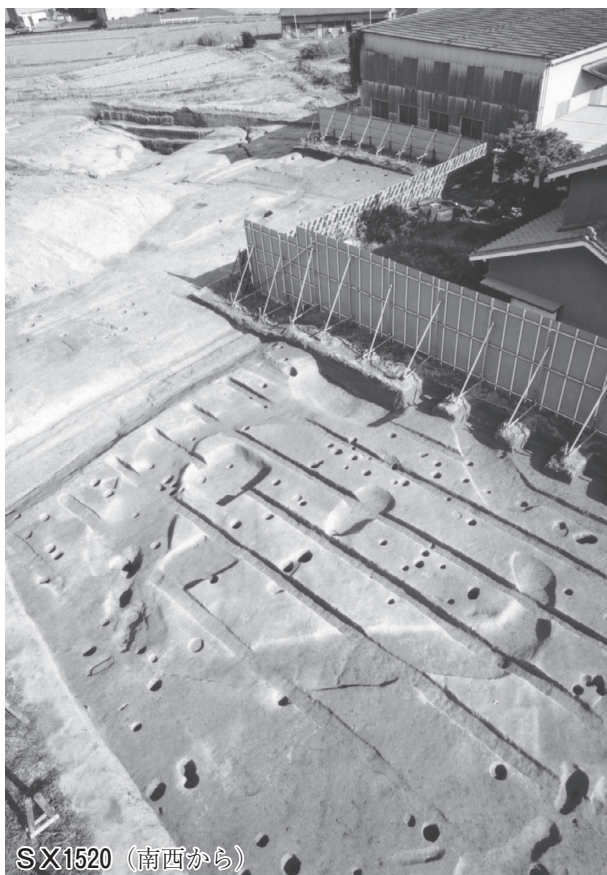
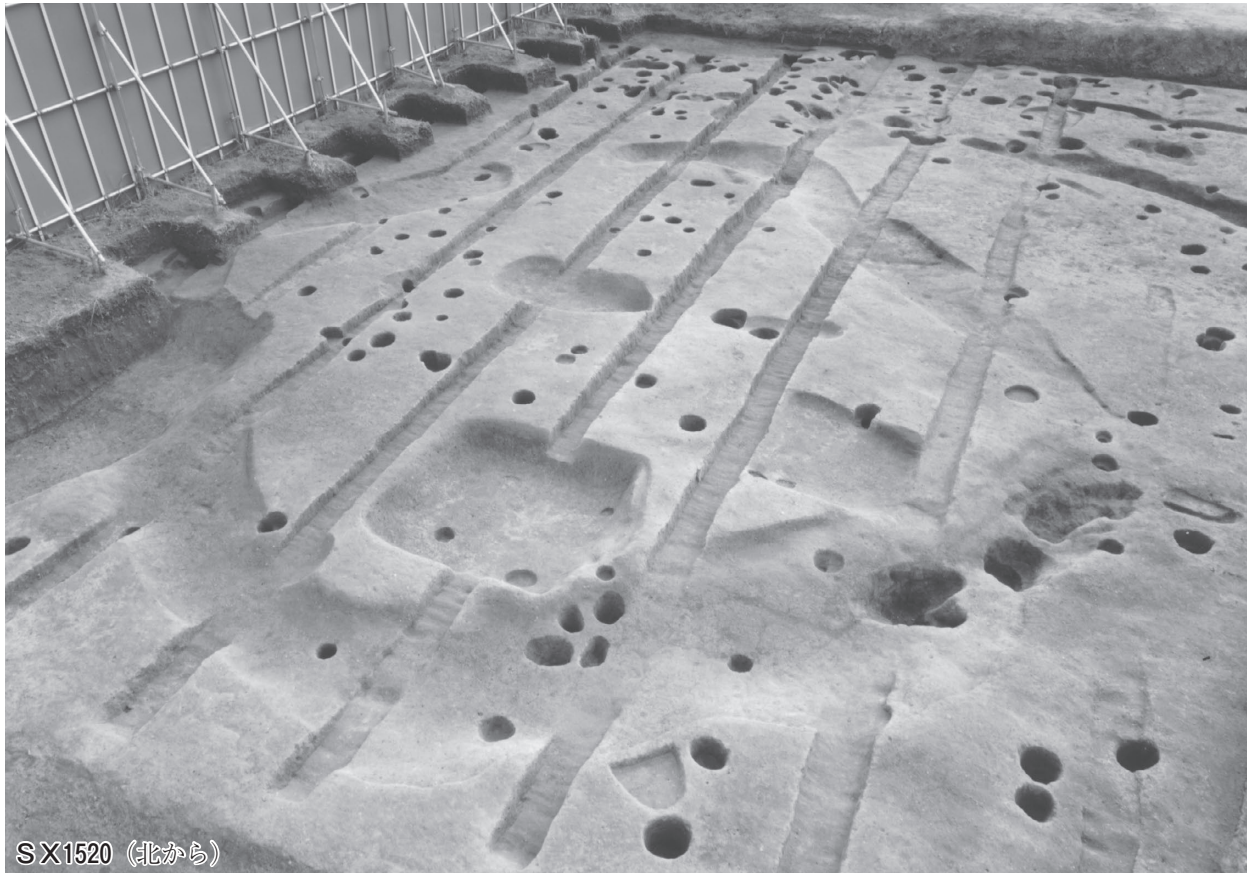
SX1522西周溝土層断面（南西から）



SX1522全景（南東から）

図版5





図版 7





S R578西半木製品出土状況（東から）



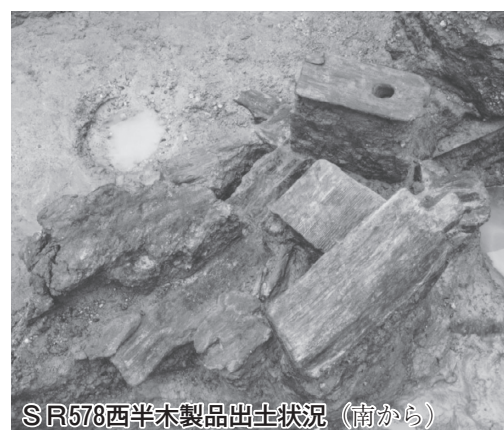
S R578西半木製品出土状況（西から）



S R578西半木製品出土状況（東から）



S R578西半木製品出土状況（北から）



S R578西半木製品出土状況（南から）

図版9





S R578東半木製品出土状況（西から）



S R578木製品出土状況（東から）



S R578東半木製品出土状況（南から）



S R578東半木製品出土状況（南から）

図版11



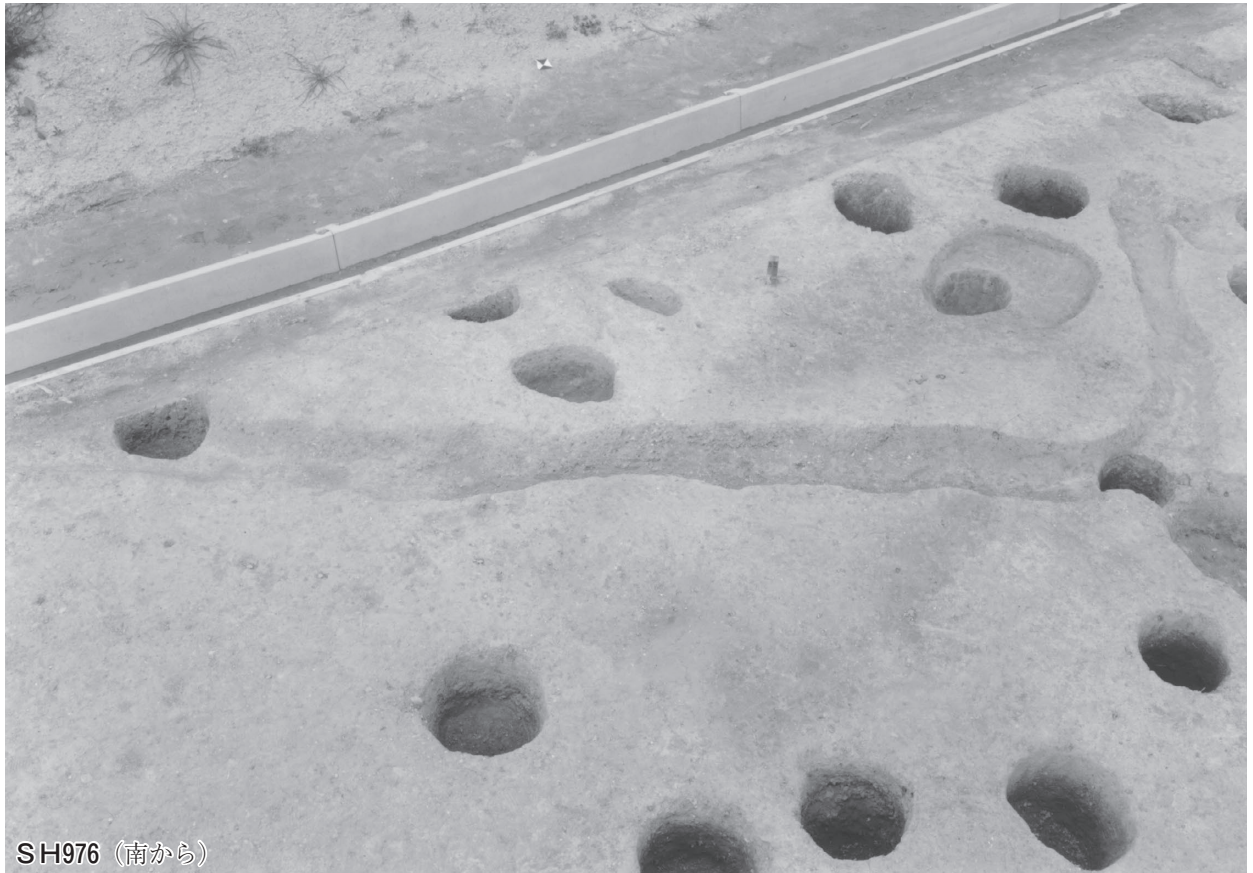


S Z1509木製品出土状況（西から）



S Z1515木製品出土状況（西から）

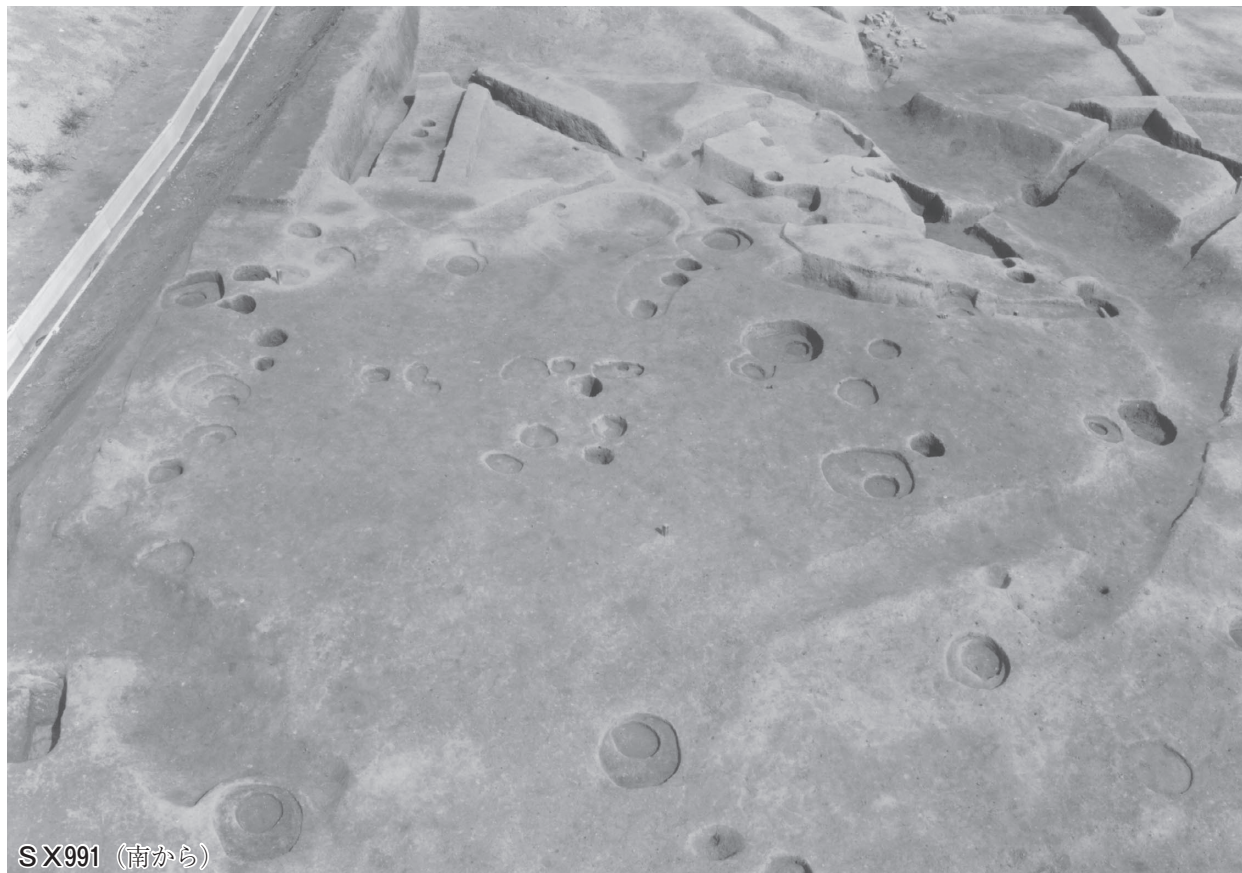
図版13



SH976 (南から)



SH1569 (西から)



SX991 (南から)



SX991遺物出土状況 (東から)

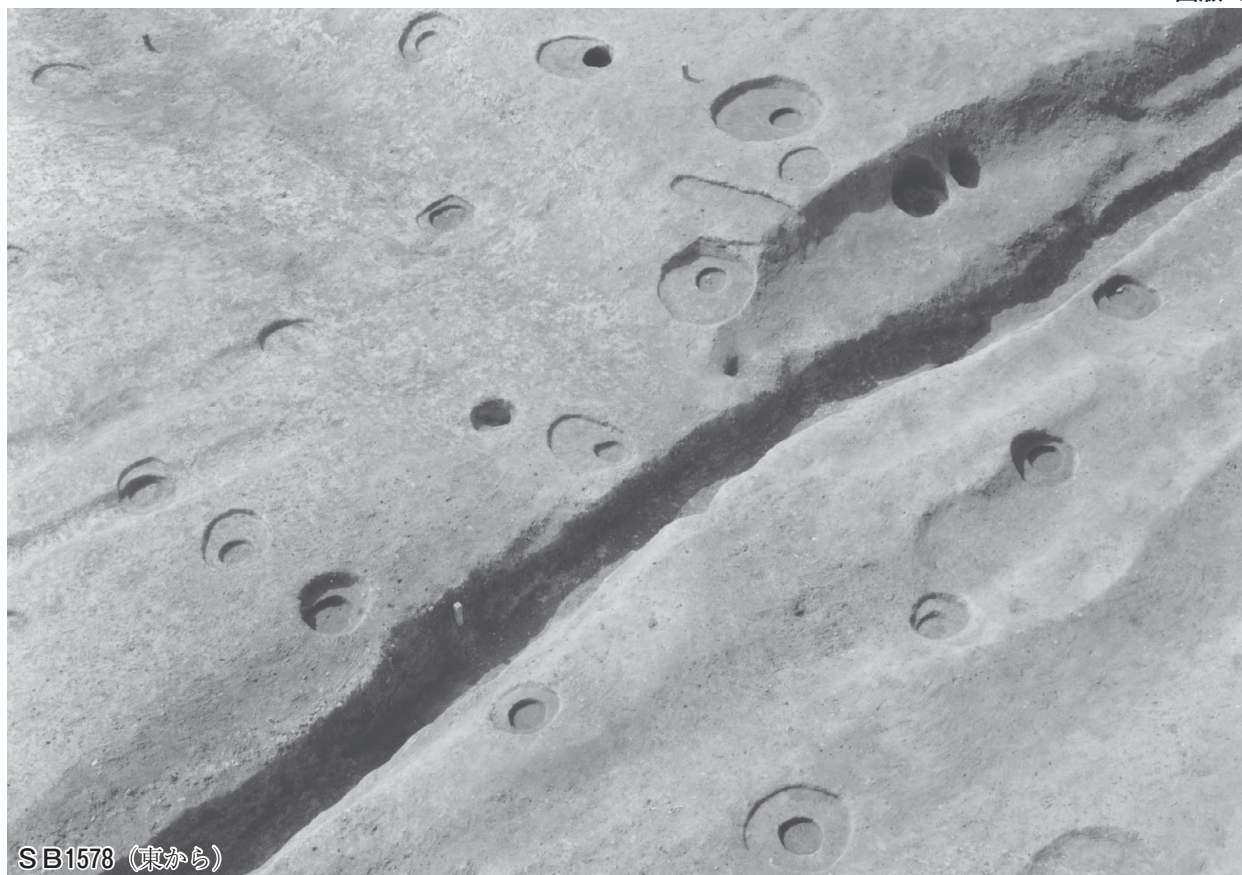
図版15



SX1567 (北西から)



SD1577遺物出土状況 (東から)



SB1578 (東から)



SB1579 (南東から)

図版17



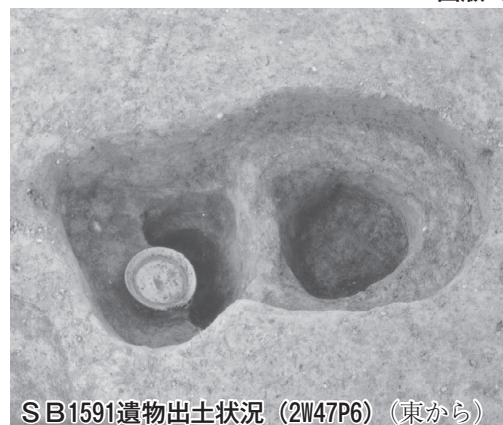


図版19

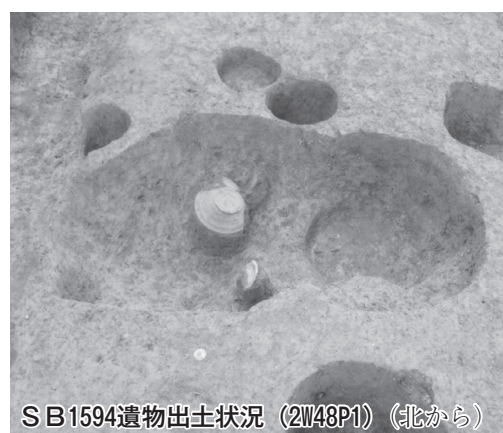




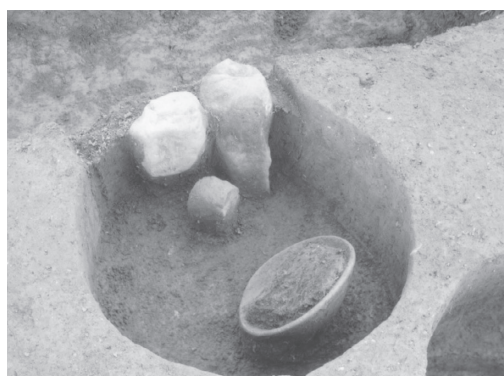
第17次調査区掘立柱建物群（南から）



S B1591遺物出土状況（2W47P6）（東から）



S B1594遺物出土状況（2W48P1）（北から）



S B1593遺物出土状況（2V48P5）上層（北から）



S B1593遺物出土状況（2V48P5）下層（北から）



2S50P3遺物出土状況（東から）

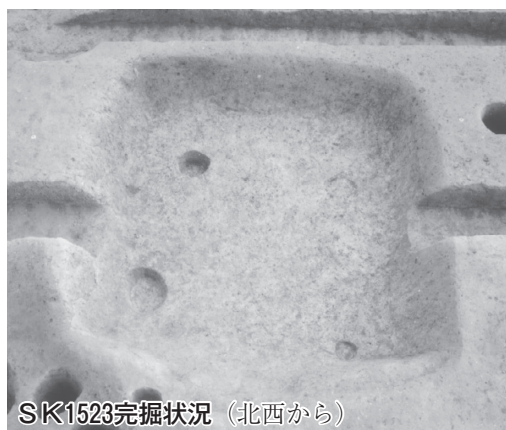
図版21



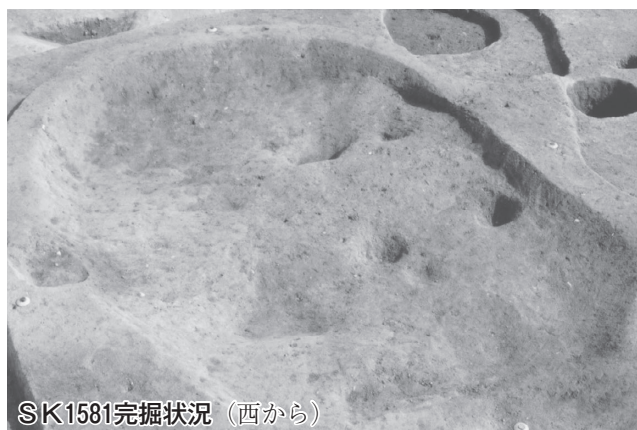
SK1523 (北西から)



SK1574完掘状況 (東から)



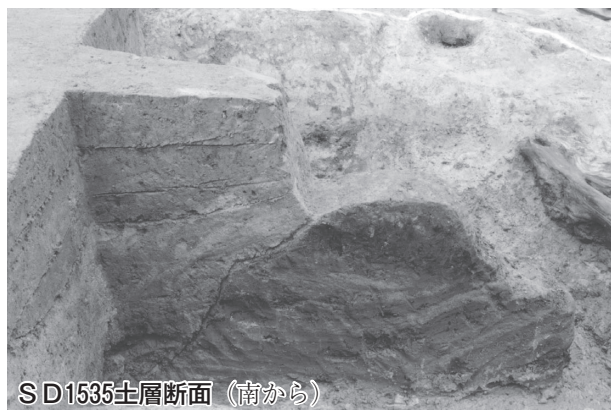
SK1523完掘状況 (北西から)



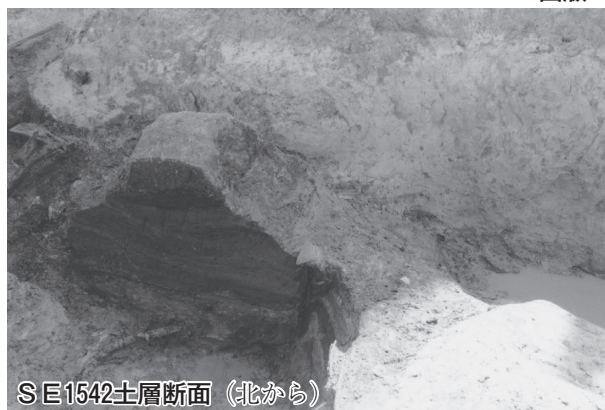
SK1581完掘状況 (西から)



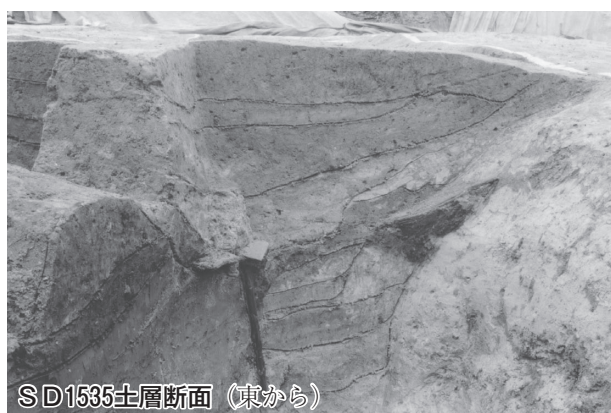
SE1566完掘状況 (西から)



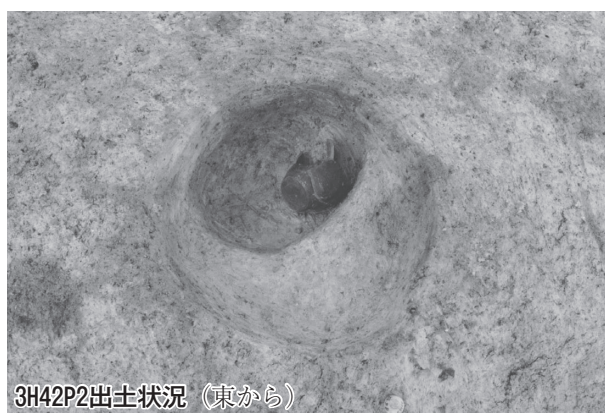
SD1535土層断面（南から）



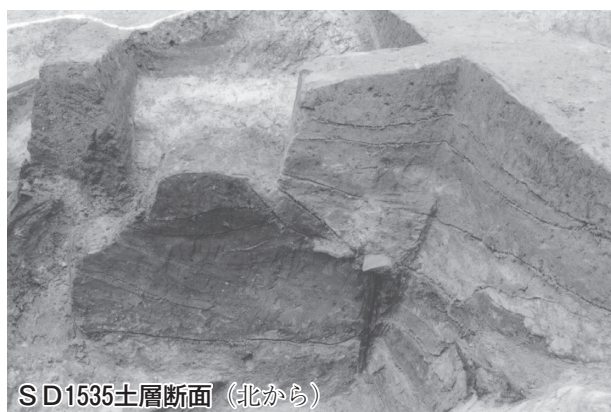
SE1542土層断面（北から）



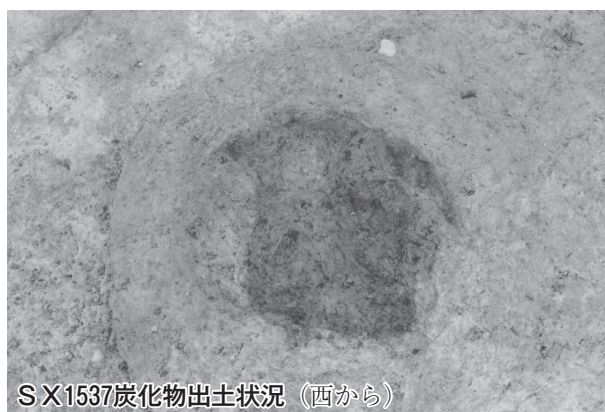
SD1535土層断面（東から）



3H42P2出土状況（東から）



SD1535土層断面（北から）



SX1537炭化物出土状況（西から）



SD1535・SE1542土層断面（西から）



SX1538完掘状況（西から）



6000



6009



6001



6028



6007



6030



6037



6053



6048



6057



6049



6060



6063



6073



6101



6096



6102



6097



6103



6100



6107



6106



6126



6118



6130



6120



6134



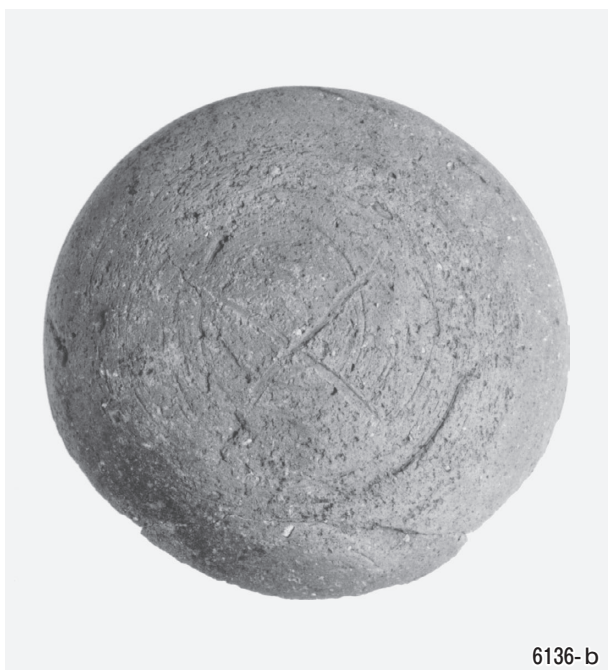
6125



6131



6137





6217



6225



6220



6314

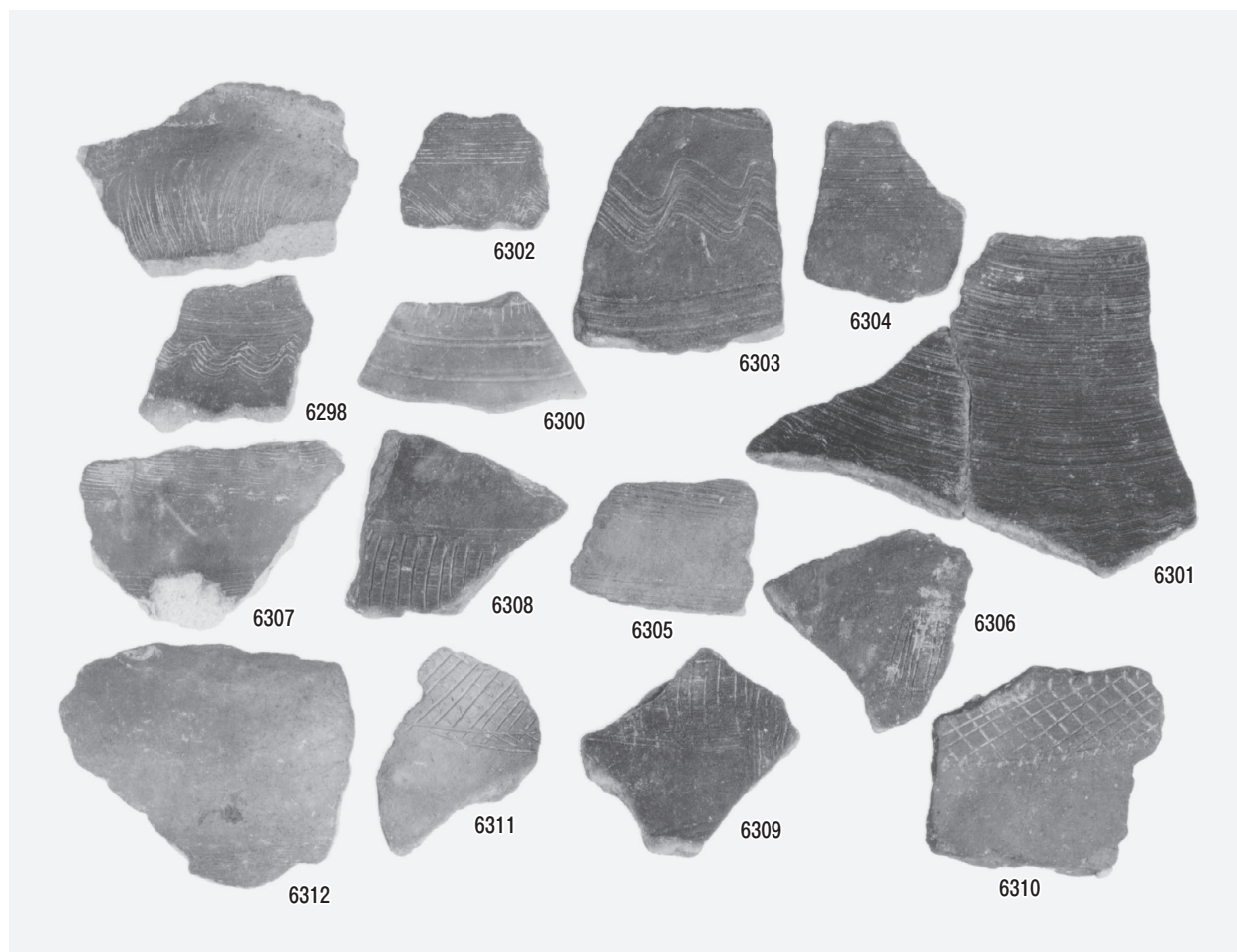
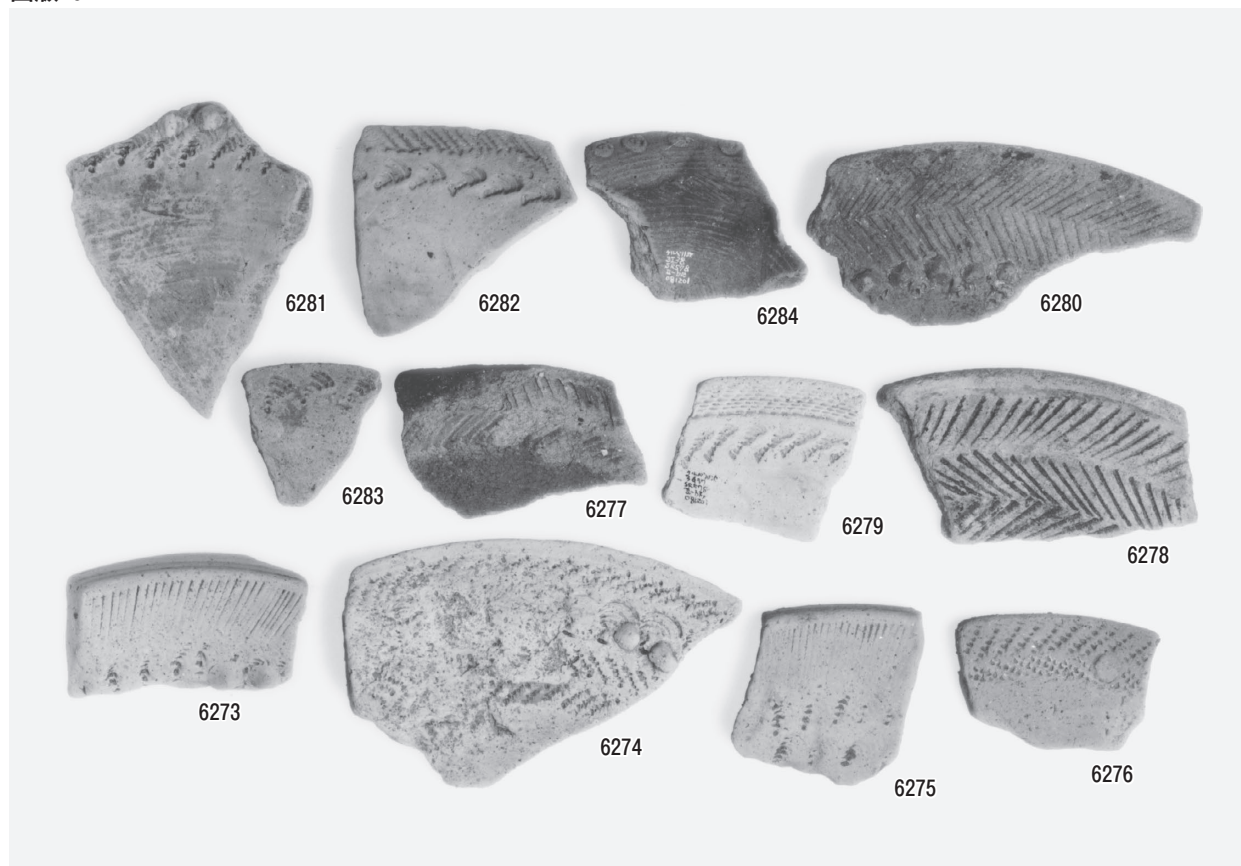


6272



6316

图版29



(6273 · 6274 · 6275 · 6276 · 6277 · 6278 · 6279 · 6280 · 6281 · 6282 · 6283 · 6284) · (6298 · 6300 · 6301 · 6302 · 6303 · 6304 · 6305 · 6306 · 6307 · 6308 · 6309 · 6310 · 6311 · 6312)



6328



6381



6331



6382



6338



6384







6424



6429



6425



6430



6427



6431





6452



6458



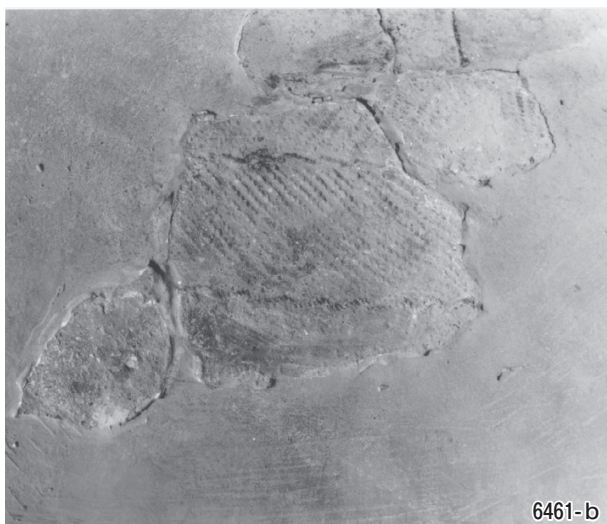
6453



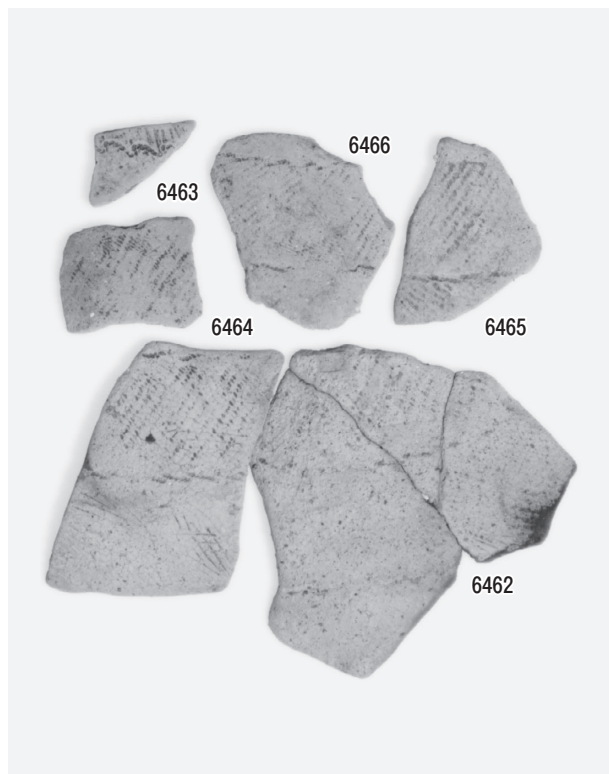
6459



6461-a



6461-b











6555



6569-a



6557



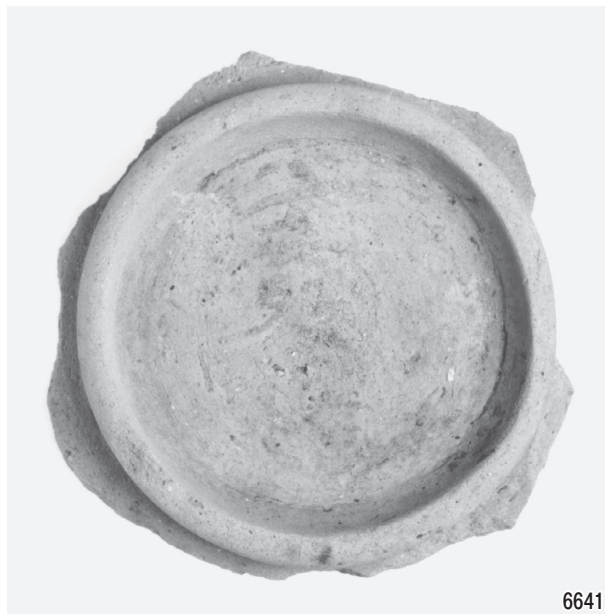
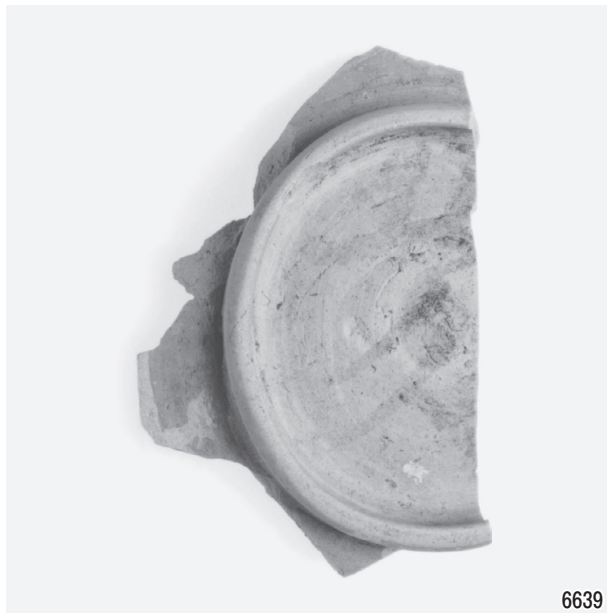
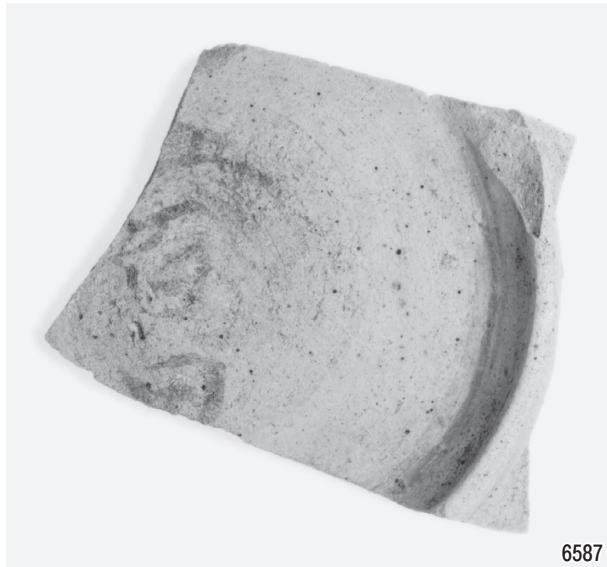
6569-b



6576



6584





6648



6650- a



6649- a



6650- b



6649- b



6653



6651



6665



6674

图版43



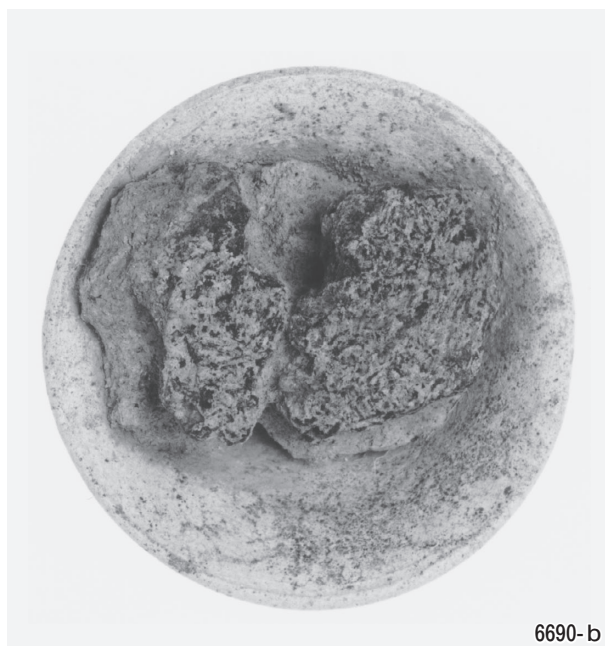
6686-a



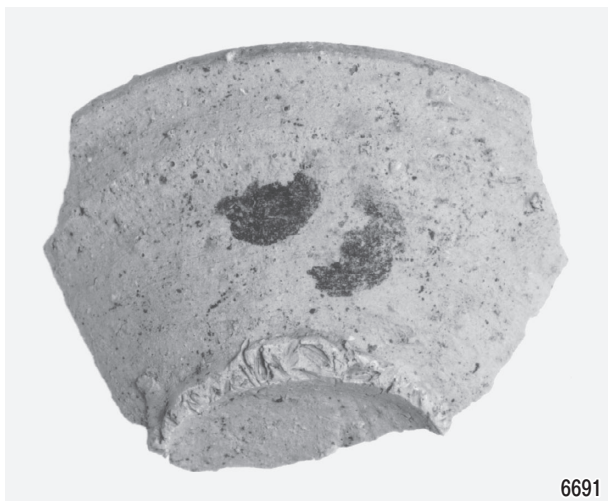
6690-a



6686-b



6690-b



6691



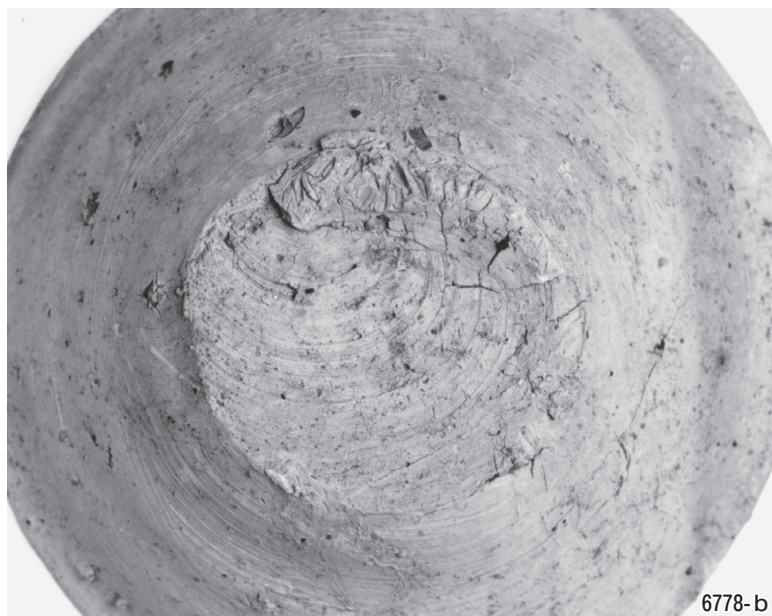
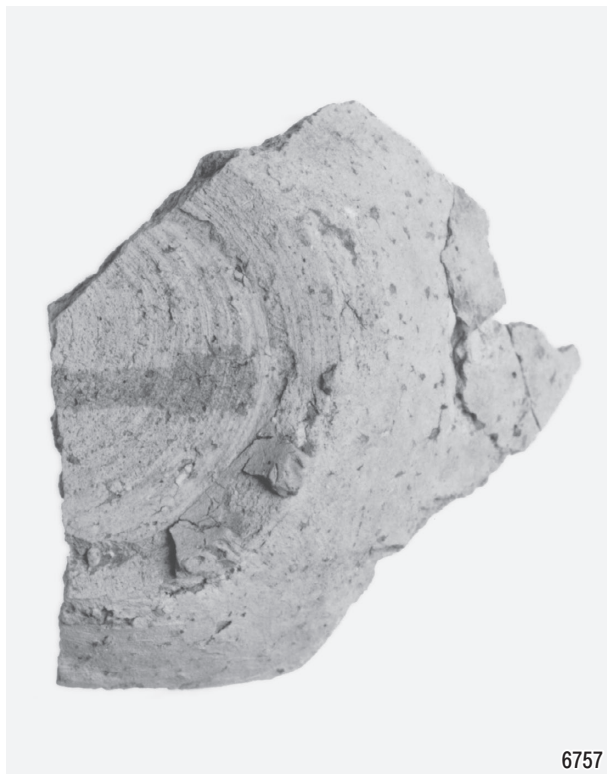
6702



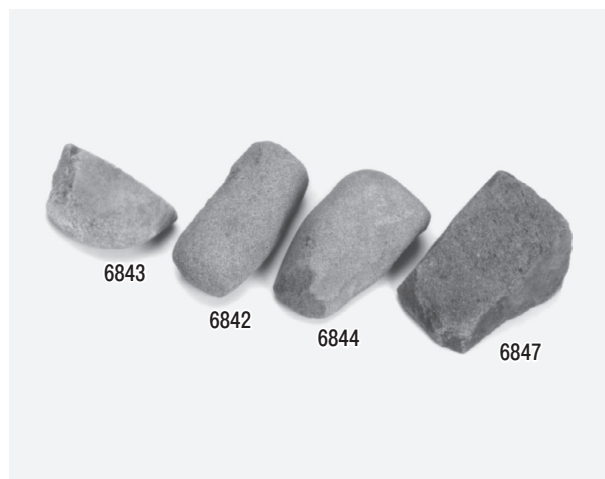
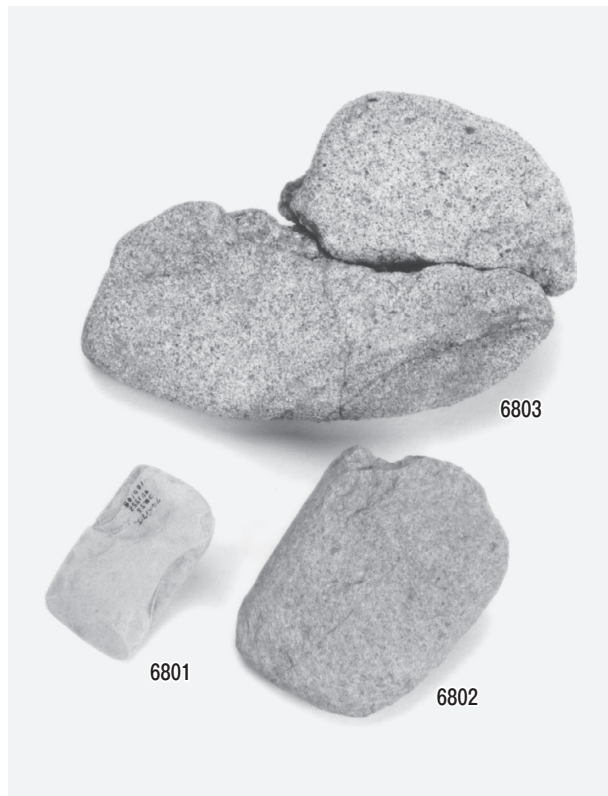
6735



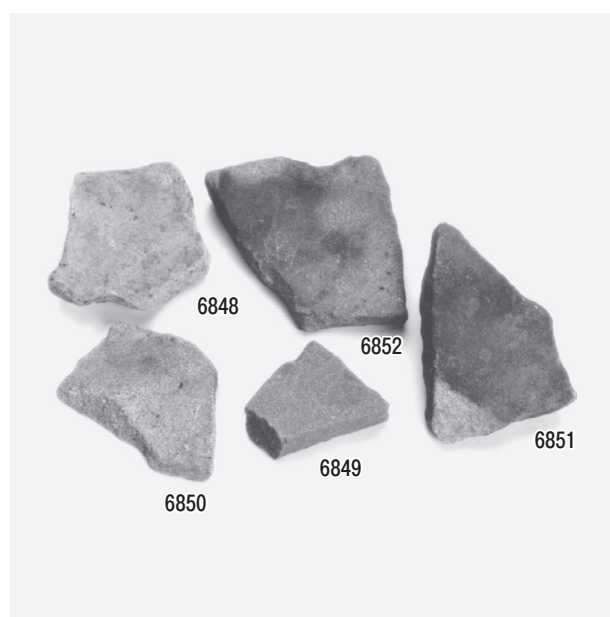
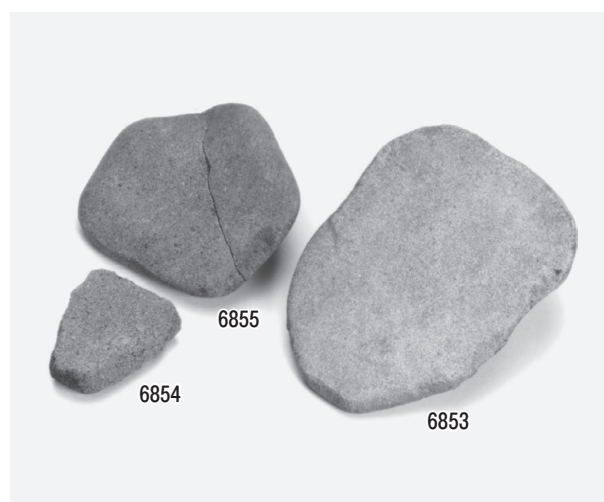
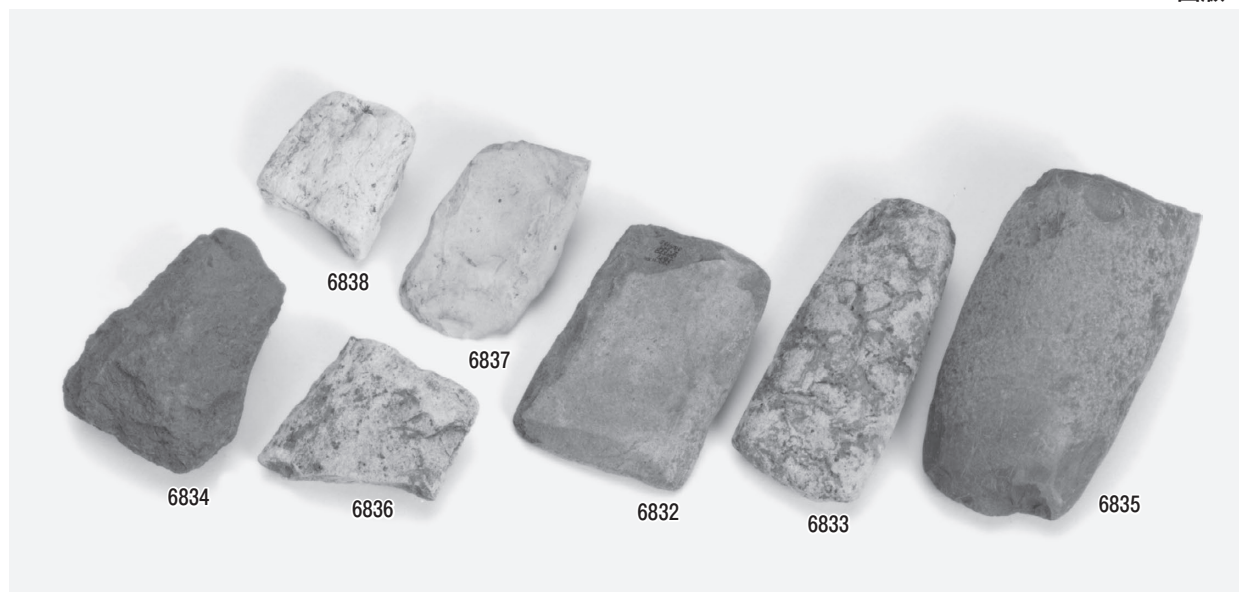
6756



図版45



(6801・6802・6803)・(6804・6805)・6806・(6824・6827・6828)・(6839・6840・6841)・(6842・6843・6844・6847)



(6832 · 6833 · 6834 · 6835 · 6836 · 6837 · 6838) · (6845 · 6846) · (6848 · 6849 · 6850 · 6851 · 6852) · (6853 · 6854 · 6855) · (6856 · 6857)



6900



6903-a



6904



6903-b



6905



6907



6906



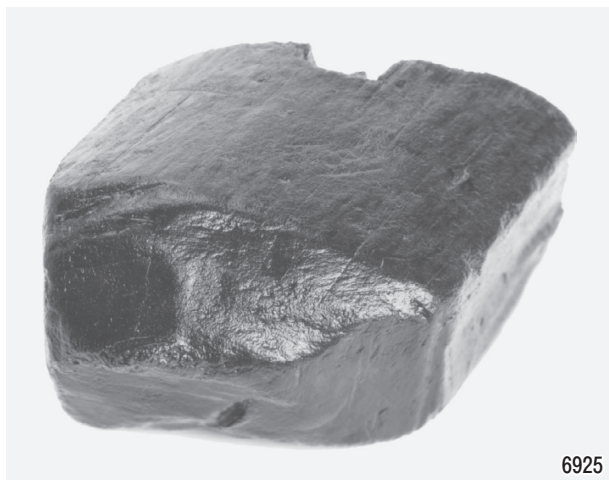
6920-a



6908



6920-b





6937



6939



6938



6940



6941-a



6941-b

图版51



6942



6943



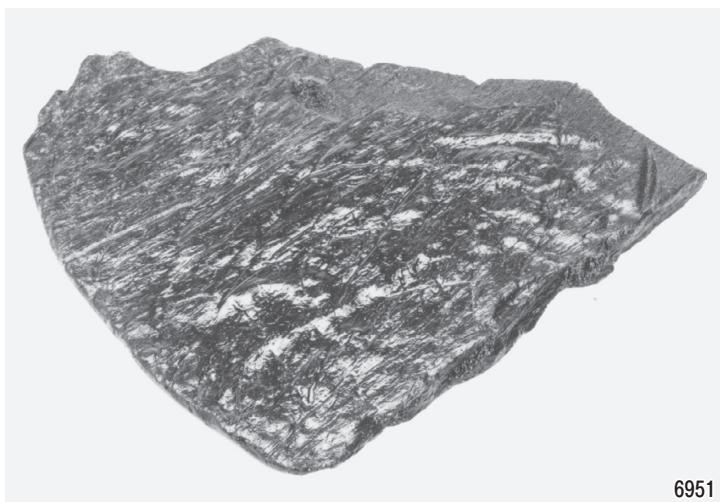
6944



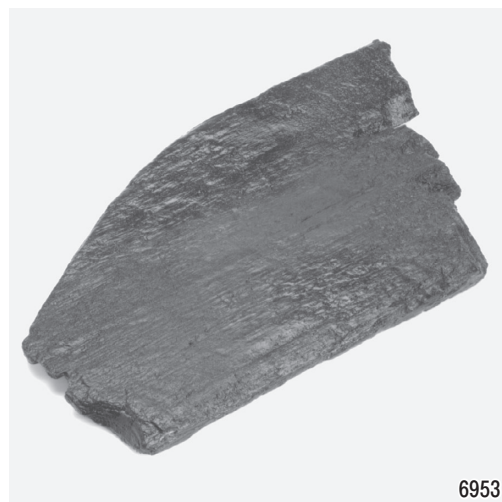
6945



6946



6951



6953



6954



6956



6955-a



6955-b







6969-a



6969-b



6970



6971



6972



6979



6980



6981



6984

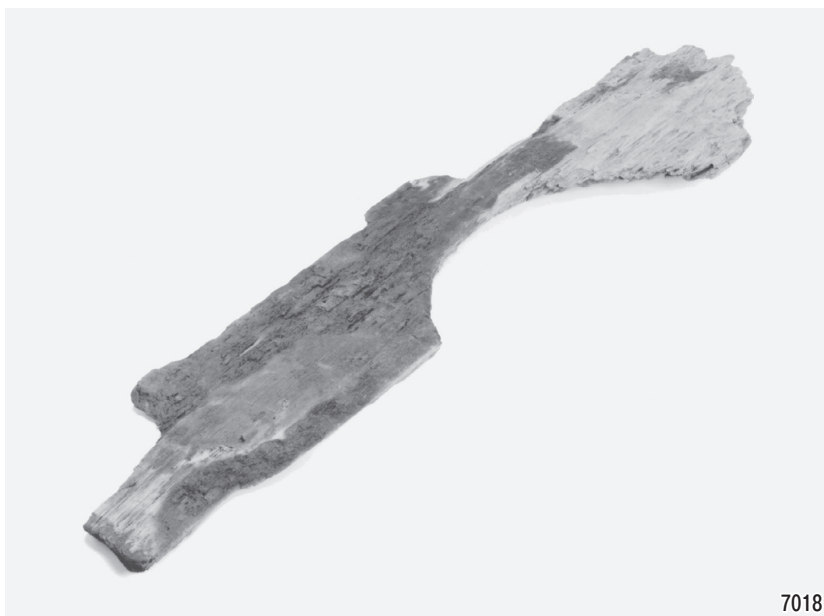


6986



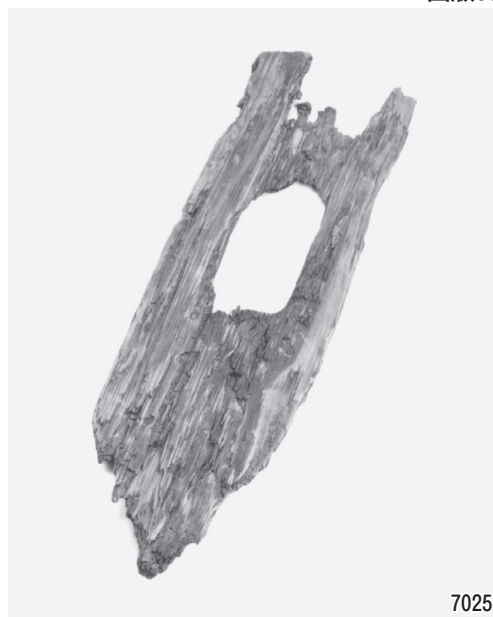
6998

图版57





7023



7025



7028



7034



7035

報告書抄録

ふりがな	くるべいせき6								
書名	久留倍遺跡6								
シリーズ名	四日市市埋蔵文化財発掘調査報告書								
シリーズ番号	47								
編集者名	編集：清水政宏 執筆：清水政宏・山本達也								
編集機関	四日市市教育委員会								
所在地	〒510-8601 三重県四日市市諏訪町1番5号 TEL059-354-8240								
発行年月日	2013年（平成25年）3月31日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査回数	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号						
くるべいせき 久留倍遺跡	よっかいちし 四日市市 おおやちよう 大矢知町 あざくるべ 字久留倍 あざやないだに ・字矢内谷	24202	74	35° 00′ 54″	136° 38′ 01″	第11次	20080714 ～20090123	2,217	久留倍官衙 遺跡史跡整 備事業
						第17次	20091214 ～20100331	1,326	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構			主な遺物		特記事項	
久留倍遺跡	集落 古墳	弥生 ～ 古墳	竪穴住居、方形周溝墓、 古墳、谷、貯木施設			弥生土器、土師器、須 恵器、石製品、木製品		弥生時代中期の方形周 溝墓を検出。また弥生 時代の土器や木製品が 大量に出土。	
		古代	掘立柱建物、井戸、溝			須恵器、土師器、灰釉 陶器			
		中世	掘立柱建物、井戸、溝、 火葬墓			山茶碗			

四日市市埋蔵文化財発掘調査報告書47

久留倍遺跡6

2013年（平成25年）3月

編集・発行 四日市市教育委員会

印刷 新日本法規出版株式会社